

(公財)北九州市芸術文化振興財団
委託調査

北九州芸術劇場
事業評価調査
[報告書]

15

2019年3月
ニッセイ基礎研究所

◎ はじめに

この報告書は、(公財)北九州市芸術文化振興財団から委託を受けて、ニッセイ基礎研究所が実施した「北九州芸術劇場 事業評価調査(その15)」の成果をとりまとめたものである。

近年、行財政改革や説明責任(アカウンタビリティ)への関心の高まりなどを背景に、政府や公共団体の施策や事業を評価する「政策評価」が広がっており、地方公共団体においても、政策評価から施策評価、事務事業評価という評価体系が定着している。しかし、文化施設や文化事業の評価には、その特性を踏まえた独自の評価体系や指標が必要であるという認識が広がり、各地で行われている評価も徐々に成熟したものとなりつつある。

北九州芸術劇場は、そうした動きに先立ち、2003年度の開館当初から独自の事業評価調査に継続的に取り組み、かつ、その成果を公開しており、公立文化施設の事業評価モデルとして全国から注目されている。

15年目にあたる2017年度調査では、継続調査として①劇場の運営データの分析、②主催事業および提携・協力事業公演の観客アンケート調査、③貸館利用に関するアンケート調査、④経済波及効果とパブリシティ効果の試算を実施した。その結果からは、これまでと同様に、北九州芸術劇場が着実に成果をあげ、北九州市の芸術文化の創造拠点・発信拠点として、鑑賞者や利用者から広く認知、支持されていることがうかがえる。

なお、事業評価調査は本年度を含め15年間継続してきたが、その間に劇場の運営環境や条件が変化したこともあり、事業実績やアンケート調査などの調査結果の特徴や傾向が見えにくくなりつつある。そこで、次年度以降の事業評価調査の内容や方法を再検討するとともに、調査結果をより明確に把握し説明できるよう、報告書の編集・作成方法について検討し、報告書とは別にレポートとして作成した。

末筆ではあるが、2003年度以降、15ヶ年にわたり、この貴重な調査の機会を与えていただいた(公財)北九州市芸術文化振興財団、劇場スタッフの方々、ならびに調査にご協力いただいた観客や利用者の方々に心より感謝申し上げるとともに、本調査の成果が今後の北九州芸術劇場の運営に有効に活用され、より一層、意義のある事業や活動が展開されることを願うものである。

2019年3月
ニッセイ基礎研究所
芸術文化プロジェクト室

◎ 目 次

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成	i
-----------------------------	---

[本編]

第1章 2017年度事業の概要と実績	3
第2章 観客の特性と観客からみた評価	19
第3章 貸館利用者からみた評価	28
第4章 経済波及効果とパブリシティ効果	33
第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果	39

[資料編]

資料Ⅰ 観客調査結果	資-1
資料Ⅱ 貸館利用者調査結果	資-55
資料Ⅲ 経済波及効果	資-87

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成

1. 調査研究の目的・内容

(1) 調査研究の目的

本調査研究は、2003年8月に開館した北九州芸術劇場について、毎年、事業や運営の評価に関する調査を行うとともに、その調査結果に基づいて、より良い劇場運営のあり方を検討することを目的としている。

15年目にあたる2017年度は、03年度あるいは04年度から継続して実施している、次の4つの調査(「継続調査」)

- ①劇場運営に関する基礎データの収集・分析
- ②公演に来場した観客を対象としたアンケート調査による公演事業に関する評価
- ③貸館利用者を対象としたアンケート調査による施設利用に関する評価
- ④北九州芸術劇場の経済波及効果とパブリシティ効果の算出

を実施した。

(2) 調査の内容

①劇場運営基礎データの収集・分析

事業数、公演回数、入場者・参加者数、施設稼働率など、劇場運営に関する基礎データを整理し、03年度から15年間の経年分析を行なった。

②公演に来場した観客に対するアンケート調査

北九州芸術劇場の自主事業と提携・協力事業公演の観客を対象に、以下の2つの視点に基づいたアンケート調査を実施した(詳細は、p.資-1～資-54参照)。

- 事業評価の基礎となる北九州芸術劇場の施設やサービス、公演内容等に関する観客の満足度、ニーズの把握
- 劇場運営の基礎となる観客の属性(年齢、性別、居住地)、北九州芸術劇場における鑑賞行動(情報入手経路、鑑賞の動機、北九州芸術劇場での鑑賞回数)、日頃の鑑賞行動(鑑賞頻度、鑑賞ジャンル等)など、観客特性の把握

③貸館利用者を対象としたアンケート調査の分析

貸館利用者を対象に05年度から実施している「施設利用に関するアンケート調査」の結果について、17年度分をとりまとめた(詳細は、p.資-55～資-83参照)。

④経済波及効果、パブリシティ効果の把握分析

産業連関表を用いて、劇場の事業や運営がもたらす経済波及効果を試算するとともに、雇用効果の把握を行なった(詳細は、p.資-85～資-97参照)。また、パブリシティ効果について、その概要を整理し、金額換算による規模を算出した(詳細は、p.資-99～資-106参照)。

2. 本報告書の構成

本報告書は、各調査結果の概要、ならびに事業評価の基本フレームと評価結果を整理した「本編」と、調査の詳細データ等を整理した「資料編」の二編から構成されており、それぞれの内

容は以下のとおりである。

(1) 本編

本編は、それぞれ次の内容からなる6つの章によって構成されている。

- 「第1章 2017年度事業の概要と実績」
劇場運営の基礎データならびに事業収支を整理した。
- 「第2章 観客の特性と観客からみた評価」
自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、①観客の属性、②公演や劇場に関する意見(公演やサービスへの満足度など)、③日頃の鑑賞行動について、整理・分析を行った。
- 「第3章 貸館利用者からみた評価」
貸館利用者に対するアンケート調査の結果から、①劇場の施設、運営や対応に関する満足度、②重視項目について、調査結果の整理・分析を行った。
- 「第4章 経済波及効果とパブリシティ効果」
産業連関表を用いた経済波及効果、雇用効果、新聞掲載記事の金額換算によるパブリシティ効果を算出した。
- 「第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果」
第1章から第4章までの調査結果を総合的に分析するため、次の評価フレームに沿って調査や評価の結果、改善のポイントなどを整理した。
 - A 劇場の設置目的:
鑑賞系事業、創造系事業、普及系事業、市民文化活動支援、地域への貢献
 - B 運営・管理: 場の提供・支援、施設のホスピタリティ・サービス、施設の維持管理
 - C 経営: 経営体制、リサーチ&マーケティング、経営努力

(2) 資料編

本編で整理・分析した調査の手法、結果などをとりまとめ、資料編として掲載した。

- 資料Ⅰ「観客調査結果」では、17年度の自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅱ「貸館利用者調査結果」では、09年度～17年度の9ヶ年の調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅲ「経済波及効果」では、17年度の経済波及効果の基本構造、事業ごとの最終需要と消費支出など、経済波及効果、雇用効果算出のための分析資料を掲載した。
- 資料Ⅳ「パブリシティ一覧」では、金額換算の基礎となった17年度の新聞記事データの一覧を掲載した。

◎ 調査研究体制

ニッセイ基礎研究所

吉本光宏(研究理事・芸術文化プロジェクト室長)

大澤寅雄(芸術文化プロジェクト室 主任研究員)

太田真奈美(社会研究部 研究アシスタント)

北九州芸術劇場
事業評価調査
[本編]

第1章 2017年度事業の概要と実績

本章ではまず、事業評価の基本となる北九州芸術劇場の事業の概要、入場者数や稼働率、収支状況など、2017年度の事業の実績について、過去データとともに整理した。

1. 事業の実績

まず、北九州芸術劇場の事業の基本方針と17年度の事業概要は次のとおりである。

(1) 事業の基本方針

北九州芸術劇場では、開館以来「創る」「育つ」「観る」の3つをキーワードにした事業展開が行われてきた。開館10周年の節目を経過し、新たな一步を踏み出すため、4つめのキーワードとして、14年度から「支える」が加わった。それぞれの目的や考え方、事業の内容は次のとおりである。

- **【創る】**: 北九州発のオリジナリティのある良質の作品づくりを通じて、地域資源の発掘と北九州市のシティブランド発信に取り組む。
- **【育つ】**: 『交流』と『育成』を柱に、舞台芸術の力を活用し、地域の未来を担う人材を育成する。
- **【観る】**: 幅広いラインナップの充実を図り、市民に良質な公演を提供する。また、新たな観客づくりや、にぎわいづくりに寄与する。
- **【支える】**: 市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を積極的に行う。

(2) 事業の内容と実績、入場者数

- 17年度もこうした4つのコンセプトに基づき、自主事業全体(学芸事業、支援事業、連携事業は含まず)で、35本の事業・302回の公演・アクティビティが行われた。今年度を含めた5カ年の第3期(13年度～17年度)の平均は37本の事業・320回の公演・アクティビティとなっており、第1期(03年度～07年度)と第2期(08年度～12年度)の推移を見ると、第3期の事業の本数が第1期と第2期に比べて多く、公演・アクティビティの回数は第1期を下回り、第2期を上回っている。17年度の公演事業での公演数は174回で、2014年度とともに過去15年間で最多となっている(図表1-1)。
- 17年度では32,416人が公演鑑賞やアクティビティに参加し(図表1-2)、自主事業で総席数の設定のある公演事業の入場率は、89.6%となった(図表1-3)。
- 03年度からの自主事業における入場者数と入場率の経年の推移を見ると、入場者数は年度によって増減が大きいものの、入場率では8割以上を維持しており、09年度以降は9割前後で推移し、過去15年間の累計で88.4%の入場率となっている(図表1-5)。

図表1-1 事業数・公演数の実績(03年度～17年度)

	創造事業		公演事業		提携・協力事業		オープニング 企画		演劇祭		公演事業 計		学芸事業 実施回数	支援事業		連携事業		総合計
	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数		事業数	公演数	事業数	公演数	
2003年度	3	35	15	35	5	8	2	2	2	9	27	89	219	—	—	—	—	308
2004年度	4	15	23	46	6	15	—	—	2	9	35	85	320	—	—	—	—	405
2005年度	6	45	24	42	6	13	—	—	2	7	38	107	297	—	—	—	—	404
2006年度	7	61	18	45	7	16	—	—	2	8	34	130	291	—	—	—	—	421
2007年度	5	24	22	49	11	28	—	—	3	8	41	109	283	—	—	—	—	392
第1期 平均	5	36	20	43	7	16	—	—	2	8	35	104	282	—	—	—	—	386
2008年度	8	41	15	33	5	12	—	—	1	28	29	114	279	—	—	—	—	393
2009年度	6	40	16	42	5	16	—	—	1	7	28	105	175	—	—	—	—	280
2010年度	5	21	17	39	9	25	—	—	1	17	32	102	178	—	—	—	—	280
2011年度	5	37	19	42	8	12	—	—	1	44	33	135	96	—	—	—	—	231
2012年度	5	22	18	43	9	20	—	—	6	17	38	102	203	—	—	—	—	305
第2期 平均	6	32	17	40	7	17	—	—	2	23	32	112	186	—	—	—	—	298
2013年度	4	21	17	46	9	30	—	—	7	22	37	119	200	—	—	—	—	319
2014年度	5	16	13	34	13	42	—	—	9	82	40	174	240	—	—	1	3	414
2015年度	5	20	20	48	9	24	—	—	7	50	41	142	135	5	75	3	14	278
2016年度	6	29	14	48	9	21	—	—	5	41	34	139	151	6	77	3	16	289
2017年度	5	45	16	75	10	27	—	—	4	27	35	174	127	4	90	3	15	302
第3期 平均	5	26	16	50	10	29	—	—	6	44	37	150	171	—	—	—	—	320
累計	79	472	267	667	121	309	2	2	53	376	522	1,826	3,194	15	242	10	48	5,021

※2008年度より演劇祭を「北九州演劇フェスティバル」として、2014年度より「北九州舞台芸術フェスティバル」「北九州芸術工業地帯」として開催。

図表1-2 入場者・参加者数の実績(03年度～17年度)

	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング 企画	演劇祭	公演事業 計	学芸事業	支援事業	連携事業	総合計
2003年度	13,350	22,079	7,382	1,592	987	45,390	2,404	—	—	47,794
2004年度	3,292	26,361	6,211	—	1,231	37,095	4,734	—	—	41,829
2005年度	9,332	21,294	6,642	—	2,779	40,047	6,327	—	—	46,374
2006年度	27,107	29,813	7,259	—	1,110	65,289	6,758	—	—	72,047
2007年度	5,224	32,378	11,869	—	1,724	51,195	6,200	—	—	57,395
第1期 平均	11,661	26,385	7,873	—	1,566	47,803	5,285	—	—	53,088
2008年度	12,320	18,164	3,895	—	1,689	36,068	10,577	—	—	46,645
2009年度	12,841	19,439	3,947	—	556	36,783	5,889	—	—	42,672
2010年度	3,124	24,229	6,427	—	1,799	35,579	5,404	—	—	40,983
2011年度	10,846	14,036	2,229	—	1,605	28,716	3,568	—	—	32,284
2012年度	3,847	18,517	2,996	—	4,098	29,458	5,900	—	—	35,358
第2期 平均	8,596	18,877	3,899	—	1,949	33,321	6,268	—	—	39,588
2013年度	3,208	20,319	11,202	—	3,583	38,312	6,554	—	—	44,866
2014年度	3,974	14,482	13,152	—	4,451	36,059	6,332	—	—	42,687
2015年度	2,723	26,296	9,918	—	6,459	45,396	6,377	9,774	1,463	49,162
2016年度	3,128	23,970	8,117	—	1,530	36,745	5,496	3,113	2,385	40,989
2017年度	3,641	14,447	10,585	—	998	29,671	2,988	2,560	1,255	32,416
第3期 平均	3,335	19,903	10,595	—	3,404	37,237	5,549	—	—	42,024
累計	117,957	325,824	111,831	1,592	34,599	591,803	85,508	15,447	5,399	673,501

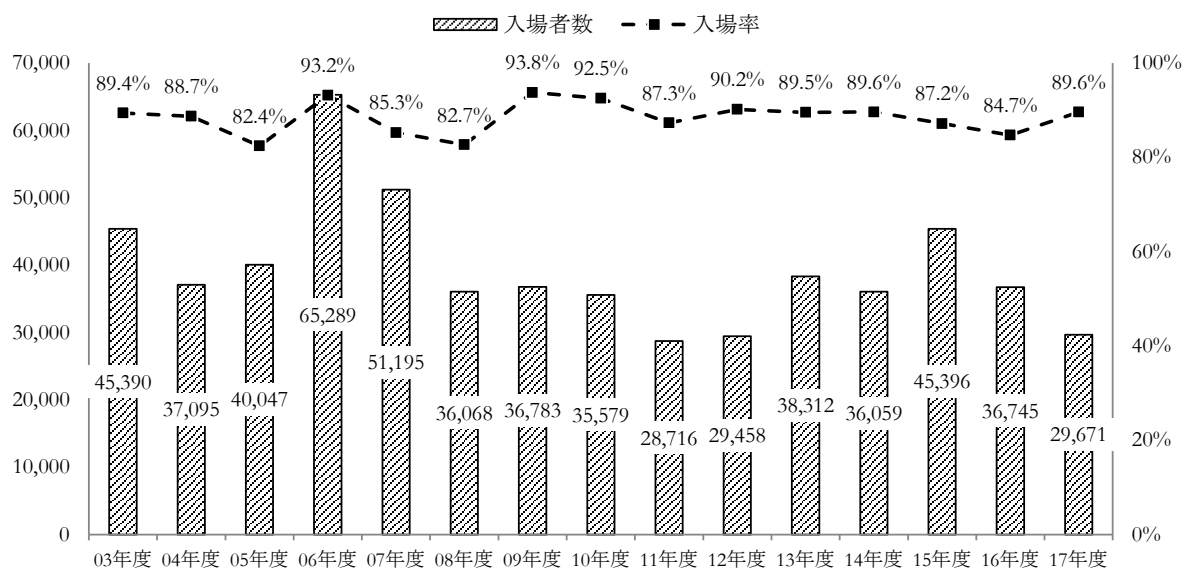
※2015年以降の総合計には支援事業、連携事業のうち再掲の事業は含めていない。

図表1-3 総席数・入場率の実績(03年度～17年度)

	公演事業の入 場者数の計 (再掲含む)	総席数の設定 のある公演事 業の入場者数 (実数:再掲除 く)	総席数	入場率
2003年度	45,390	45,390	50,756	89.4%
2004年度	37,095	37,095	41,808	88.7%
2005年度	40,047	40,047	48,575	82.4%
2006年度	65,289	65,289	70,065	93.2%
2007年度	51,195	51,195	60,036	85.3%
第1期 平均	47,803	47,803	54,248	88.1%
2008年度	36,068	34,379	41,580	82.7%
2009年度	36,783	36,783	39,225	93.8%
2010年度	35,579	35,579	38,447	92.5%
2011年度	28,716	28,716	32,885	87.3%
2012年度	29,458	25,537	28,316	90.2%
第2期 平均	33,321	32,199	36,091	89.2%
2013年度	38,312	33,657	37,585	89.5%
2014年度	36,059	30,678	34,225	89.6%
2015年度	45,396	38,781	44,494	87.2%
2016年度	36,745	35,866	42,333	84.7%
2017年度	29,671	22,301	24,886	89.6%
第3期 平均	37,237	32,257	36,705	87.9%
累計	591,803	561,293	635,216	88.4%

※2008年度および2012年度以降は、総座席数の設定をしていない公演を入場率の算出から除いている。

図表1-4 入場者数・入場率の推移(03年度～17年度)



- 以下、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業ごとに、事業の内容と実績をとりまとめた。(17年度事業の実績一覧を図表1-5に整理した。)

①創る:創造事業

- 「創る」に対応した創造事業では、
 - 大きな反響を呼び、北九州芸術劇場プロデュース公演シリーズ初の再演も行われた「彼の地」の新作、「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」
 - 北九州の街に長年暮らしてきた高齢者の方々の“記憶”をもとに物語を描く、6年目を迎えた「Re:北九州の記憶」

- 第一線で活躍するアーティストがワークショップを行い、市民のみなさんと一緒にワークショップを重ねた市民参加企画、合唱物語「わたしの青い鳥2017」
- 北九州市立美術館が所蔵する絵画をモチーフに演劇作品を製作した劇場と美術館のコラボレーション企画の第5弾、「10万年の寝言」
- 約30年に渡り、世界43カ国で国際的に活躍している舞踏カンパニー・山海塾による代表作「卵を立てることから一卵熱」リ・クリエーションといった事業が実施された。
- 「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」は北九州（8回）、東京（3回）、豊橋（2回）で計13回の公演が行われた。
- 合唱物語「わたしの青い鳥2017」では15回のコーラスワークショップが市民を対象に行われた。
- 17年度は5事業で45回の公演・ワークショップが行われ、入場者数は3,641人となっている。16年度と比べると、回数、入場者数ともに増加している（16年度の実績は6事業、29回、3,612人）。入場率では、16年度の87%から17年度では92%と増加している。
- 個別の入場率では「10万年の寝言」で93%、「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」の東京公演が92%、「卵を立てることから一卵熱」リ・クリエーションで92%となっている。「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」の豊橋公演が70%となっているが、それ以外の公演（貸切以外）の入場率は80%を超え、市民からの支持の高さがうかがえる（図表1-5）。

②育つ:学芸事業

- 「育つ」に対応した学芸事業では、
 - 初めて出会った仲間たちと一緒に2つの劇場体験コースの中で、劇場や演劇に触れる5日間のワークショップ、「夏休み！子どもの劇場体験2017」
 - 「アーティスト往来プログラム」として、演劇・ダンス分野から国内外の一線で活躍するアーティストを招き、地域、学校、劇場などで行う「ワークショップ」、「アウトリーチ」
 - 高校生に〔的〕を絞った取り組みを通して、演劇・パフォーマンスをより身近に感じただき、高校生が劇場を〔的〕にして集うきっかけを提供した「高校生〔的〕シアター」
 - 地域文化の振興を担う人材（市民、劇場・文化施設等のスタッフ、地域のアーティスト等）の育成や人的ネットワークの形成を目的に、舞台芸術分野の専門家を招いたレクチャーやワークショップなどを開催した「劇場塾2017」
- など、学芸事業全体では、創造参加も含め、11事業で127回のアクティビティが実施され、参加延人数・入場者数は2,988人となっている（図表1-5）。
- 16年度と比べると、アクティビティの回数は増加したが、参加者数は減少している（16年度の実績は121回、4,022人）。

③観る:公演事業

- 「観る」に対応した主催公演事業では、演劇界きってのロック野郎・古田新太など話題の出演者が贈るカルト・ミュージカル傑作中の傑作、「ロッキー・ホラー・ショー」をはじめ、英国ロイヤルシェイクスピアカンパニーの名誉アソシエートディレクターを務める世界的名匠ジョン・ケアードが斬新な解釈で取り組む「ハムレット」、多才に活躍するケラリーノ・サンドロヴィッチ率いるナイロン100℃の3年ぶりの新作書き下ろし公演「ちょっと、まってください」、山海塾などの人気の高い舞台芸術公演、世界中で愛されるおなじみの「ピノキオ」の物語をもとに作られた宮本亜門演出ミュージカル「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」など、幅広い観

客層を対象とした公演が実施された。

- 公演事業では16事業が上演され、公演数は75回、入場者数は14,447人となっている。16年度と比べると、公演数は増加し、入場者数は減少している(16年度の実績は48回、23,970人)。公演事業の入場率は90%と高い(図表1-5)。
- 提携等事業では、小劇場・現代演劇や落語など10事業が上演され、公演数は27回、入場者数は10,585人であった。16年度と比べると、公演数、入場者数ともに増加している(16年度の実績は21回、8,117人)。
- 創造事業、公演事業、提携等事業、フェスティバルを含めた公演事業全体の公演作品数は35本、公演数は174回、入場者数は29,671人である(再掲事業を含めた計)。16年度の年間入場者数と比べると、公演回数は増加しているが入場者数が減少している(16年度の実績は34本、139回、36,745人)。

④支える:地元劇団等の創造活動支援、多施設との連携、貸館事業

- 「支える」に対応した主催事業では、
 - 劇場や街なかを会場に、公演やワークショップなど、国内外で活躍するアーティストによる多彩なプログラムで開催された「ダンスダイブウィーク」
 - 地域文化の発展・表現活動の支援の一環として、創造工房・稽古場を作品上演の場として使用する「演カツ!!」
 - 「モノづくりの都市」として栄えてきた北九州の地域資源や生活文化を活用し、演劇、ダンス、音楽、アートのプログラムをまちなかで開催した「北九州芸術工業地帯」
 - スタッフ・役者を実際に担当し、作品上演までを短期集中で学びたい20名を大募集「シアターラボ」などを行った。
- 支援事業の入場者数は2,560人(前掲の「観る:公演事業」と「育つ:学芸事業」の入場者数の計に含まれる)、設定席数のある事業の入場者数は1,420人(前掲の「観る:公演事業」の入場者数の計に含まれる)。
- 上記の事業以外に、連携事業として、
 - 北九州市立美術館とのコラボレーション企画の第五弾として、劇場と美術館との合作ならではの特別企画「10万年の寝言」(前掲の「創る:創造事業」の再掲)
 - 北九州市立響ホールと連携し、一流の演奏家によるコンサートと楽しいトークを500円で提供する「ワンコインコンサート」
 - 到津の森公園と連携で開催したガイドツアーとダンスワークショップ「どっちが動物園!？」、ダンス公演「どこをどうぶつる」動物園ver.などを行った。
- また、「支える」では市民の文化活動の支援を貸館として行い、「提案する劇場」として、使用申込みから当日までのケア、催し内容へのアドバイス、施設の安全性や非常時対応の説明等、使用者が安心して催しを開催できるように総合的にサポートした。
- 貸館事業では、市主催事業、財団主催事業も含め、公演や講演など、計228事業が開催された。公演・講演数は320回、総来場者数は175,789人となっている。

図表1-5 北九州芸術劇場 自主事業実績一覧(17年度)

1 創造事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	北九州芸術劇場×北九州市立美術館分館vol.5 「10万年の寝言」	北九州市立 美術館分館	6/8～11	7	420	391	93%
2	北九州芸術劇場プロデュース/市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥2017」公演						
	公演	中劇場	6/25	1	438	370	84%
	コーラスワークショップ(対象:小学生～一般)	中劇場・ 小劇場	5/12～6/25	15	-	77	-
	アウトリーチ(対象:東筑紫学園高等学校 音楽類型)	東筑紫学園 高等学校	5/26	1	-	52	-
	北九州芸術劇場プロデュース/市民参加企画 小計			17	438	499	114%
3	北九州芸術劇場+市民共同創作劇「Re:北九州の記憶」						
	公演	小劇場	10/27(貸切)	1	90	50	56%
			10/28～29	3	310	270	87%
	〔関連企画〕「読む、記憶」「カンパン」	中央図書館 カフェテリア	9/27	1	-	28	-
	〔関連企画〕「読む、記憶」「昭和12年7月31日」	北九州文学 サロン	11/18	2	-	29	-
	北九州芸術劇場+市民共同創作劇「Re:北九州の記憶」 小計			7	400	377	94%
4	北九州芸術劇場プロデュース「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」						
	北九州公演	小劇場	2/17～25	8	992	895	90%
	東京公演	あうるすぽっと	3/2～4	3	837	774	92%
	豊橋公演	穂の国とよはし芸術劇 場PLATアートスペー ス	3/10～11	2	360	252	70%
	北九州芸術劇場プロデュース「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」 小計			13	2,189	1,921	88%
5	山海塾「卵を立てることから一卵塾」リ・クリエーション	中劇場	3/25	1	492	453	92%
創造事業 小計				45	3,939	3,641	92%

2 公演事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	ハムレット	大ホール	5/13・14	2	2,562	2,483	97%
2	春のめざめ	中劇場	6/4	1	677	648	96%
3	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2017—海外編—						
	「Mr.バンクの魔法のガラクタ～石・棒・折れた骨～」 “Sticks Stones Broken Bones”	創造工房	7/15・16	4	216	182	84%
	「アナのはじめての冒険」"One Morning I Left ..."	小劇場	7/22・23	2	224	206	92%
	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2017—海外編— 小計			6	440	388	88%
4	子どものためのシェイクスピア「リア王」	中劇場	7/28	1	446	317	71%
5	「とおのもののけやしき」	小劇場	8/12	2	210	191	91%
6	親子のためのファミリー・ミュージカル「ピノキオ～または白雪姫の悲劇」						
	公演	中劇場	8/22	1	645	578	90%
	関連企画 ミュージカル・ワークショップ 「ピノキオを一緒に歌おう！」(対象:小～中学生)	創造工房	8/21	1	-	27	-
	親子のためのファミリー・ミュージカル「ピノキオ～または白雪姫の悲劇」 小計			2	645	605	-
7	MUM&GYPSY 10th Anniversary Tour 「クラゲノココロ モモノパノラマ ヒダリメノヒダ」 「ハハハかえりの合図、まっけた食卓、そこ、きつと-----」	小劇場	9/2・3	3	360	343	95%

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
8	ダンスダイブウィーク						
	北九州芸術劇場×小倉昭和館連携「昭和館で、ダンスに魅せられて」ダンスパフォーマンス&ダンス映画上映	小倉昭和館	9/15	1	-	80	-
	「ギミック」クリエーション	創造工房	8/28～9/17	17	-	8	-
	井手茂太振付・演出作品「ギミック」公演	小劇場	9/18	1	119	112	94%
	即興公演「ダンスと音楽、その瞬間・宇宙」	小劇場	9/23・24	2	182	173	95%
	夕暮れダンス化計画	紫川湖畔広場、紫江S前、水上ステージ、水環境館、小倉昭和館、餃子のたっちゃん、小倉魚町二番街	9/10～24	6	-	500	-
	DDWワークショップ第1弾 森川弘和ワークショップ(対象:一般)	創造工房	4/21	1	-	10	-
	DDWワークショップ第2弾 Opto「小尻健太&湯浅永麻ダンスワークショップ」ーダンサーのためのワークショップ(対象:バレエ経験5年以上の方)	創造工房・会議室	8/3～4	2	-	15	-
9	ーオープングラス(対象:一般)	創造工房	8/3	1	-	14	-
	ダンスダイブウィーク 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)			31	301	912 285	95%
	「ロマン派症候群」						
	ロマン派症候群 地域交流プログラム アウトリーチ(対象:高校生)	東筑紫学園高等学校	10/6	1	-	26	-
10	公演	中劇場	10/8	1	523	329	63%
	「ロマン派症候群」 小計			2	523	355	-
	バットシェバ舞踊団/オハッド・ナハリ「LAST WORKーラスト・ワーク」						
	公演	中劇場	10/31	1	513	382	74%
11	関連企画 バットシェバ舞踊団ダンサーによる《GAGAワークショップ》(対象:一般)	小劇場	10/31	1	-	50	-
	バットシェバ舞踊団/オハッド・ナハリ「LAST WORKーラスト・ワーク」 小計			2	513	432	-
	公共ホール現代ダンス活性化事業 田畑真希ダンス公演「Mockup Hurricane」						
	公演	小劇場	11/19	1	86	74	86%
12	体験ダンスワークショップ(対象:小学生～一般)	創造工房	11/2	1	-	23	-
	創作ダンスワークショップ(対象:小学生～一般)		11/3～4 11/15～19	7	-	12	-
				9	86	109	-
12	「ロッキー・ホラー・ショー」	大ホール	12/9・10	3	3,561	3,438	97%
13	穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース「荒れ野」	小劇場	12/9・10	2	300	272	91%
14	ナイロン100℃ 44th SESSION「ちょっと、まってください」	中劇場	12/16・17	3	1,695	1,320	78%
15	かがみのかなたはたなかのなかに	中劇場	1/27・28	2	1,192	1,038	
16	アンチゴース	大ホール舞台上	2/24～26	4	1,660	1,596	96%
公演事業(北九州舞台芸術フェスティバルを除く) 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				75	15,171	14,447 13,682	90%

〈北九州舞台芸術フェスティバル「北九州芸術工業地帯」〉

1	演劇的工場夜景ツアー「ひかりとけむり」	「がんりう」船上	4/22・23 5/12・19・20	5	275	203	74%
2	写真家、浅田政志とつくる「ドラマチックロケーション！@スペースワールド」	スペースワールド	11/10	1	-	10	-
3	モノレール演劇「はなれても、燈～聖なる夜のひみつのツアー～」	北九州モノレール	12/22～24	4	432	383	89%
4	関連企画「ぶらり♪まちなか劇さんぽ」(5劇団による公演)	小倉北区内店舗等	3/10～18	17	486	402	83%
北九州舞台芸術フェスティバル 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				27	1,193	998 988	83%

公演事業 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				102	16,364	15,445 14,670	90%
--	--	--	--	-----	--------	------------------	-----

※客席数を定めていないプログラムは、入場率の算定には含めていない。

3 提携等事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	平成28年度劇トツ優勝団体劇団公演 劇団ヒロシ軍第14回公演 十周年記念公演「誰かのための立ち位置」	小劇場	7/15・16	3	393	279	71%
2	飛ぶ劇場 30th anniversary!「生態系カズン」	小劇場	9/8～10	5	530	488	92%
3	関数ドミノ	中劇場	10/21・22	2	1,274	1,170	92%
4	ゴジゲン 第14回公演「くれなずめ」	小劇場	11/11・12	3	360	281	78%
5	空晴 「遠くの花火」「もう一回の、乾杯。」	小劇場	11/25・26	3	318	221	69%
6	イキウメ「散歩する侵略者」	中劇場	12/3	1	576	528	92%
7	南河内万歳一座「びっくり仰天街」	小劇場	12/16・17	2	212	179	84%
8	【協力公演】市川海老蔵 古典への誘い	大ホール	10/23	2	-	2,391	-
9	【協力公演】「この熱き私の激情」	中劇場	11/25・26	2	-	453	-
10	【協力公演】パルコ・プロデュース「すべての四月のために」	大ホール	12/22～24	4	-	4,595	-
提携事業 小計				27	3,663	10,585 3,146	86%

小計(創造・公演・提携等事業)(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				174	23,966	29,671 21,457	90%
--	--	--	--	-----	--------	------------------	-----

4 学芸事業

	事 業 名	会 場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数
1	北九州芸術劇場×北九州市立美術館分館vol.5 「10万の寝言」<再掲:創造事業(1)参照>	北九州市立美術館分館	6/8～11	7	一般	391	391
2	シアターラボ2018 「誰にでも書ける、あなたにしか書けない戯曲講座」	創造工房	7/23	1	一般	23	23
	本格的戯曲講座	創造工房・会議室	8/19・9/3・9/21・10/23・11/4・12/3・21	7		3	20
	[演出講座]	大ホール楽屋	2/4	1		13	13
	[稽古]	創造工房	2/26～3/11	12		21	21
	[公演]「ドッブラー効果の求め方」	創造工房	3/10・11	3		147	147
	シアターラボ2018 小計			24		207	224
3	北九州芸術劇場 創造工房「演カツ!!」						
	『演出家3人による「俳優に必要なこと」ワークショップ』	創造工房	6/25	3	一般	26	77
	稽古場公演 演劇ユニットそめごころ 5周年記念 第8回本公演「オイル」	創造工房	11/10～12	5	一般	118	118
	北九州芸術劇場 創造工房「演カツ!!」 小計			8		144	195
4	全国4館連携フォーラム事業 音楽がヒラク未来 ～音楽で越境する～						
	ワークショップ	小劇場・創造工房	6/14・15	2	公共ホール職員、アーティスト地方公共団体文化行政担当者、学生など	31	62
	コンサート	小劇場	6/15	1		97	97
	全国4館連携フォーラム事業 音楽がヒラク未来 ～音楽で越境する～ 小計			3		128	159
5	夏休み!子どもの劇場体験2017	小劇場・創造工房他	7/26～30	5	小学生	30	150
6	子どもの体験企画						
	①げきじょうおばけ屋敷2017「ゆうれい劇場のなぞ」	中劇場	8/10～13	20	一般	467	467
	②「親子で一緒に劇場でピクニックダンス!」1～2歳児の回	創造工房	8/13	1	一般	28	28
	0歳児の回	大ホールボワイエ	8/13	1	一般	16	16
	「親子で一緒に劇場でピクニックダンス!」インリーチ保育を学ぶ学生のためのコンタクト・インプロダンスワークショップ	創造工房他	5/19	1	西南女学院大学大学生他	14	14
	子どもの体験企画 小計			23		525	525

	事業名	会場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数
7	高校生[的]シアター						
	戯曲講座	創造工房・会議室	6/17, 7/1・15・22	4	高校生	7	10
	高校生のための演劇塾2017	大ホール・小劇場 創造工房	8/7	(1)	高校生	台風接近により中止	
			8/8・9	2		84	100
	高校生のための演劇塾2017～モギテク～	創造工房	8/26・27	2	高校生	18	20
	柴幸男ワークショップ～街からつくる～	創造工房	11/4・5	2	高校生	8	15
	田上豊ワークショップ～テキストからつくる～	創造工房	12/16・17	2	高校生	8	15
	高校生[的]チケット 大ホール・中劇場の公演…1,500円 小劇場の公演…1,000円	大ホール・中劇場・小劇場	対象公演	公演チケットの高校生価格の設定			
高校生[的]シアター 小計				12		125	160
8	劇場塾2017						
	劇場塾2017 地域文化コーディネータークラス	創造工房	11/22・23	2	一般・学生・ホール関係者等	14	26
	劇場基礎クラス	小劇場	11/28・29	2		16	32
	オープンレクチャーvol.1 「古典芸能入門～現代から紐解く古典の魅力」	創造工房	12/23	1		42	42
	オープンレクチャーvol.2「老いと演劇 -OiBokkeShiの試み-」 ①レクチャー「聴いて・見て学ぶ」	小劇場	12/26	1		41	41
	②ワークショップ「体験して考える」			1		38	38
	劇場塾2016 小計				7		151
9	アーティスト往来プログラム						
	講師:有門正太郎、守田慎之介 北九州市子ども・若者応援センターYELL インリーチ	ウェルとばた	8/23	1	YELL職員	4	4
	北九州市子ども・若者応援センターYELL ワークショップ	コムシティ	10/18・25	2	YELL利用者	9	18
	講師:有門正太郎 アウトリーチ	竹末小学校	9/26・27	2	小学生	33	66
	アウトリーチ	千代中学校	1/26・29・30	6	中学生	104	204
	アウトリーチ	河内小学校	2/8・9	2	小学生	17	33
	アウトリーチ	高見中学校	3/13・14	4	中学生	74	147
	講師:北村成美 アウトリーチ	松ヶ江小学校	12/11・12	2	小学生	16	32
	講師:セレノグラフィカ アウトリーチ	小池特別支援学校	2/13・15	4	小学生	38	76
	レインボードロップス [ワークショップ]	大手町練習場	2/14	1	一般	31	31
	講師:守田慎之介 アウトリーチ	槻田小学校	10/5・6・10	6	小学生	97	194
	アウトリーチ	中原小学校	11/13・14	4	小学生	52	104
	アーティスト往来プログラム 小計				34		475
10	地域のアートレパートリー創造事業						
	ワークショップ	東筑紫学園 高等学校	12/15	1	東筑紫学園 高校生	22	22
	特別授業		1/16・2/20	2		32	32
	特別授業		2/6	インフルエンザの流行により中止			
地域のアートレパートリー創造事業 小計				3		54	54
11	地域のアートレパートリー創造事業						
	北九州芸術劇場×ギラヴァンツ北九州「ギラダンス」稽古	創造工房	8/6	台風のため中止			
	集まれリパダン!! プロジェクト「踏み出せリパダン!!」 ワークショップ	小劇場	3/21	1	一般 RWK従業員	42	42
学芸事業(創造・公演(アウトリーチ&ワークショップ等)を除く) ※27年度実施分は含めず				127		2,272	2,988

5 支援事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	対象及び 設定席数	入場者数	入場率
1	シアターラボ2018〈再掲:4学芸事業(2)参照〉						-
	「誰にでも書ける、あなたにしか書けない戯曲講座」	創造工房	7/23	1	一般	23	-
	本格的戯曲講座	創造工房・会議室	8/19・9/3・9/21・ 10/23・11/4・ 12/3・21	7		20	-
	〔演出講座〕	大ホール楽屋	2/4	1		13	-
	〔稽古〕	創造工房	2/26～3/11	12		252	-
	〔公演〕「ドブラー効果の求め方」	創造工房	3/10・11	3		147	89%
	シアターラボ2018 小計			24		455	-
2	北九州芸術劇場 創造工房「演カツ!!」〈再掲:4学芸事業(3)参照〉						
	『演出家3人による「俳優に必要なこと」ワークショップ』	創造工房	6/25	3	一般	77	-
	稽古場公演 演劇ユニットそめごころ 5周年記念 第8回本公演「オイル」	創造工房	11/10～12	5	一般	118	79%
	北九州芸術劇場 創造工房「演カツ!!」 小計			8		195	-
3	ダンスダイブウィーク〈再掲:2公演事業(8)参照〉	市内各所・小劇場など	9/10～22	31	一般	912	95%
4	平成29年度北九州舞台芸術フェスティバル 「北九州芸術工業地帯」〈再掲:2公演事業参照〉	市内各所	4月～3月	27	一般	998	83%
支援事業 小計 (※設定席数の上段は2015年度に実施した事業を除く入場者数。入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				90	1,683	2,560 1,420	84%

6 連携事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	北九州芸術劇場×北九州市立美術館分館vol.5 「10万年の寝言」〈再掲:創造事業(1)参照〉	北九州市立 美術館分館	6/8～11	7	420	391	93%
2	北九州芸術劇場ワンコインコンサート						
	チリンとドラム〜歌とコントラバスのコンサート〜	小劇場	10/4	1	163	160	98%
	カルテット・スピリタス サクソフォン四重奏コンサート	大ホール	3/7	1	584	519	89%
	ワンコインコンサート 小計			2	747	679	91%
3	北九州芸術劇場×到津の森公園 連携事業「どこをどうぶつる」						
	〔関連企画〕「どこをどうまわる？」動物園内ガイドツアー	到津の森公園 (小倉北区)	10/14・15	2	-	12	-
	「どっちが動物園!？」ダンスワークショップ			2	-	8	-
	〔公演〕「どこをどうぶつる」動物園ver.			2	173	165	95%
	北九州芸術劇場×到津の森公園×響ホール 3館連携事業 小計			6	173	185	-
連携事業 小計 (※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				15	1,340	1,255 1,235	92%

総 合 計	※再掲の事業(支援事業は全て)は総計には含まず ※学芸事業は延人数ではなく参加者・入場者実数で計上 ※入場率は設定席数のない事業を除いて算出			302	24,886	32,416 22,301	90%
--------------	--	--	--	------------	---------------	--------------------------------	------------

⑤利用者数、利用件数

- 観客だけではなく、主催事業の出演者や関係者、貸館事業の利用者などを含めた北九州芸術劇場の利用者数、利用件数は図表1-6のとおりで、17年度には自主事業、貸館事業合わせて1,641件の利用があり、利用者数は約28万人となっている。そのうち、自主事業での利用件数は545件、利用者数は約3万5,000人。貸館事業での利用件数は1,096件、利用者数は約24万2,000人である。
- 前年度と比べて、自主事業、貸館事業ともに利用件数に大きな変化はないが、利用者数で自主事業が減少し、貸館事業が増加している。自主事業での利用者数は過去15年間で最少となっている。

図表1-6 利用者数、利用件数(03年度～17年度)

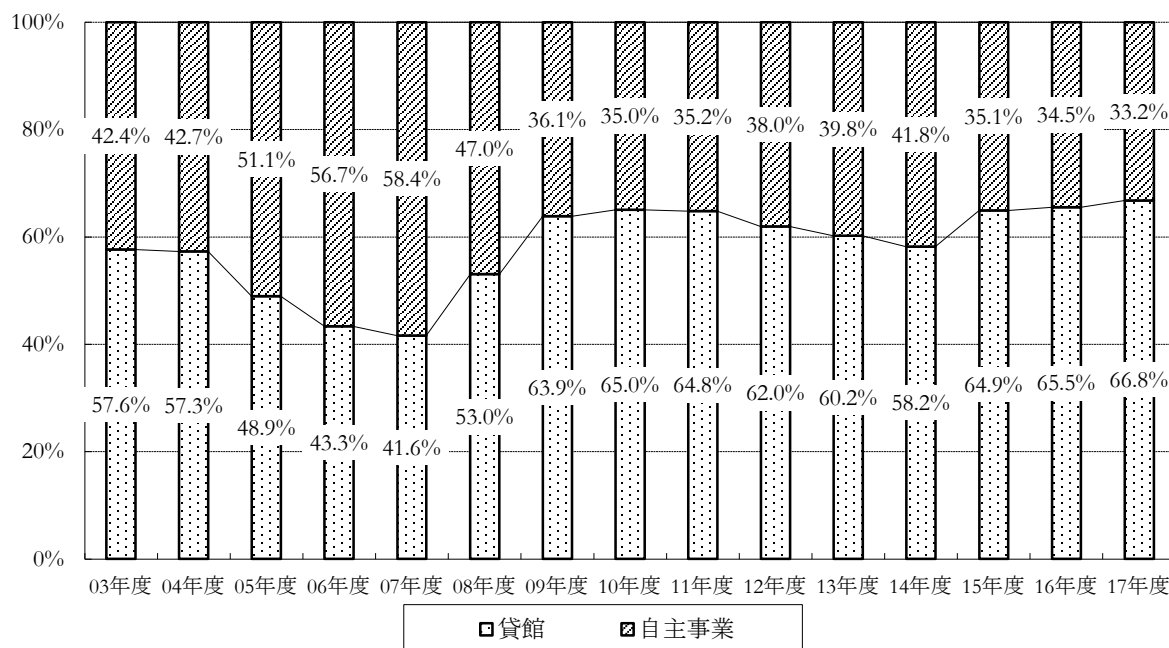
	大ホール						中劇場					
	自主事業		貸館事業		合計		自主事業		貸館事業		合計	
	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数
2003年度	23,937	66	93,100	205	117,037	271	22,890	143	41,524	145	64,414	288
2004年度	22,445	87	175,273	482	197,718	569	29,970	242	71,901	325	101,871	567
2005年度	13,034	102	160,673	467	173,707	569	33,153	289	55,644	229	88,797	518
2006年度	26,027	139	134,966	382	160,993	521	29,814	298	55,050	244	84,864	542
2007年度	34,015	186	132,444	381	166,459	567	29,182	325	58,491	237	87,673	562
第1期 平均	23,892	116	139,291	383	163,183	499	29,002	259	56,522	236	85,524	495
2008年度	17,877	134	133,686	365	151,563	499	17,699	217	77,324	327	95,023	544
2009年度	7,625	64	138,611	415	146,236	479	22,087	213	86,166	369	108,253	582
2010年度	21,429	104	155,767	441	177,196	545	16,140	159	88,614	367	104,754	526
2011年度	2,979	25	163,922	503	166,901	528	20,838	230	70,958	319	91,796	549
2012年度	10,696	80	139,621	470	150,317	550	18,158	197	75,782	340	93,940	537
第2期 平均	12,121	81	146,321	439	158,443	520	18,984	203	79,769	344	98,753	548
2013年度	23,017	131	131,814	452	154,831	583	15,696	158	83,956	379	99,652	537
2014年度	19,526	110	121,017	383	140,543	493	10,645	175	69,397	325	80,042	500
2015年度	25,106	139	133,240	450	158,346	589	19,581	177	81,557	424	101,138	601
2016年度	30,999	120	129,465	443	160,464	563	10,753	99	75,534	366	86,287	465
2017年度	11,962	69	148,154	470	160,116	539	11,455	135	78,566	397	90,021	532
第3期 平均	22,122	114	132,738	440	154,860	553	13,626	149	77,802	378	91,428	527
累計	290,674	1,556	2,091,753	6,309	2,382,427	7,865	308,061	3,057	1,070,464	4,793	1,378,525	7,850

	小劇場						利用者数・利用件数の計					
	自主事業		貸館事業		合計		自主事業		貸館事業		合計	
	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数
2003年度	7,402	121	10,769	99	18,171	220	54,229	330	145,393	449	199,622	779
2004年度	16,996	404	13,626	176	30,622	580	69,411	733	260,800	983	330,211	1,716
2005年度	14,592	471	10,478	130	25,070	601	60,779	862	226,795	826	287,574	1,688
2006年度	15,651	573	8,853	146	24,504	719	71,492	1,010	198,869	772	270,361	1,782
2007年度	17,837	564	10,772	148	28,609	712	81,034	1,075	201,707	766	282,741	1,841
第1期 平均	14,496	427	10,900	140	25,395	566	67,389	802	206,713	759	274,102	1,561
2008年度	14,661	462	17,281	226	31,942	688	50,237	813	228,291	918	278,528	1,731
2009年度	12,873	318	18,186	267	31,059	585	42,585	595	242,963	1,051	285,548	1,646
2010年度	12,457	316	16,967	269	29,424	585	50,026	579	261,348	1,077	311,374	1,656
2011年度	11,947	337	19,011	268	30,958	605	35,764	592	253,891	1,090	289,655	1,682
2012年度	12,954	368	18,014	241	30,968	609	41,808	645	233,417	1,051	275,225	1,696
第2期 平均	12,978	360	17,892	254	30,870	614	44,084	645	243,982	1,037	288,066	1,682
2013年度	15,563	399	13,088	210	28,651	609	54,276	688	228,858	1,041	283,134	1,729
2014年度	12,726	359	16,140	189	28,866	548	42,897	644	206,554	897	249,451	1,541
2015年度	10,555	324	19,839	310	30,394	634	55,242	640	234,636	1,184	289,878	1,824
2016年度	12,419	359	17,893	289	30,312	648	54,171	578	222,892	1,098	277,063	1,676
2017年度	11,128	341	15,770	229	26,898	570	34,545	545	242,490	1,096	277,035	1,641
第3期 平均	12,478	356	16,546	245	29,024	602	48,226	619	227,086	1,063	275,312	1,682
累計	199,761	5,716	226,687	3,197	426,448	8,913	798,496	10,329	3,388,904	14,299	4,187,400	24,628

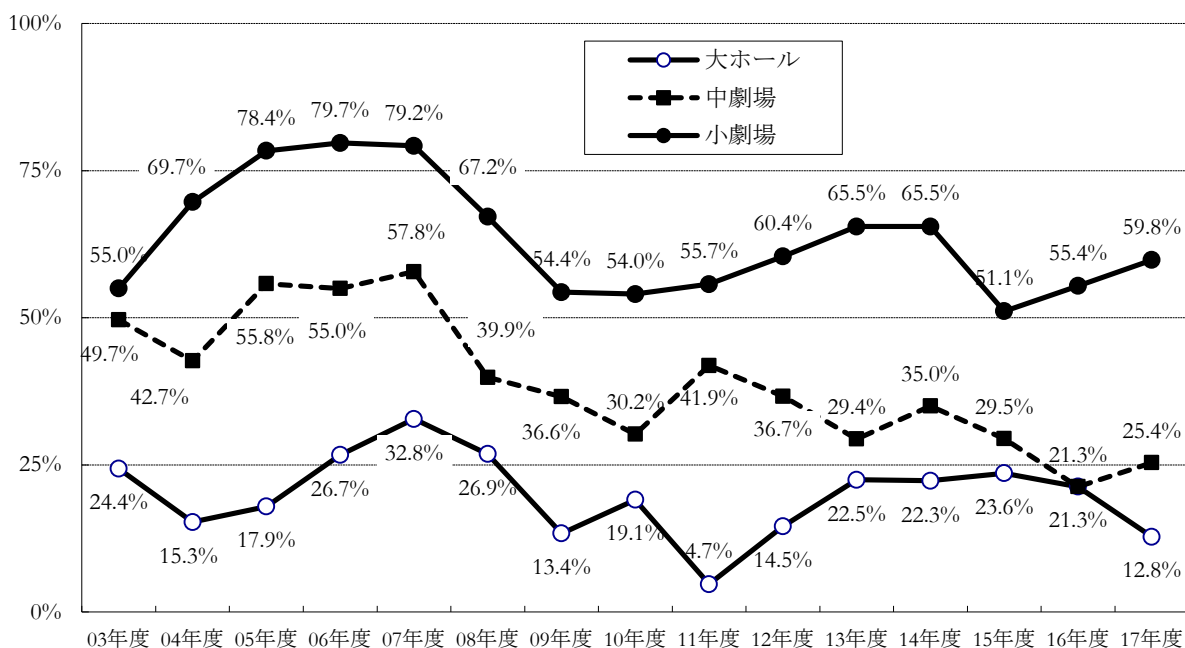
- 自主事業と貸館事業の比率を利用件数ベースでみると、17年度は、自主事業が33.2%、貸館事業が66.8%と、貸館事業の利用割合が3分の2となっている。また、貸館事業の割合は過去15年で最多となっている(図表1-7)。

- ホールの規模別にみると、例年は大ホールで貸館事業での利用が多く、中劇場と小劇場で自主事業の利用が多くなっているが、17年度の自主事業の利用は大ホールは12.8%、中劇場は25.4%、小劇場が59.8%となっている(図表1-8)。
- 小劇場の自主事業比率が高いのは、創造事業・創造参加の場として、中劇場では幅広い観客層を対象とした人気の高い公演事業に活用しているためと考えられる。また、2013年度以降の第3期からは、自主事業が劇場から地域に出て展開する企画が増加しており、その分、劇場は貸館事業に利用されることが増加していると考えられる。

図表1-7 自主事業・貸館事業比率 [件数ベース] (03年度～17年度)



図表1-8 ホール別の自主事業比率 [件数ベース] (03年度～17年度)



(3) 施設稼働率

- 北九州芸術劇場の17年度の施設稼働率は、大ホールが80.5%、中劇場が72.0%、小劇場が84.4%である(図表1-9)。
- 3つのホールの稼働率は、開館年の03年度を除き、約70～80%で推移しており、2017年度の(一財)地域創造の悉皆調査結果(2015年9月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70.3%)と比較して高い水準にある。
- 施設の稼働率について第1期、第2期、第3期を比較すると、第3期は大ホール、中劇場、小劇場ともに稼働率が第1期と第2期を上回っている。ただし、限られたスタッフ体制のもとでの施設利用の安全性を考慮すると、稼働率が100%に近づくことが望ましいわけではない。

図表1-9 北九州芸術劇場の稼働率(03年度～17年度)

	大ホール			中劇場			小劇場		
	公演日数	利用対象日数	稼働率	公演日数	利用対象日数	稼働率	公演日数	利用対象日数	稼働率
2003年度	99	103	96.1%	100	107	93.5%	83	86	96.5%
2004年度	219	277	79.1%	207	283	73.1%	220	304	72.4%
2005年度	223	281	79.4%	189	276	68.5%	222	297	74.7%
2006年度	202	285	70.9%	199	282	70.6%	254	306	83.0%
2007年度	220	290	75.9%	205	289	70.9%	257	300	85.7%
第1期 平均	193	247	80.3%	180	247	75.3%	207	259	82.5%
2008年度	192	257	74.7%	203	260	78.1%	249	295	84.4%
2009年度	194	262	74.0%	212	260	81.5%	221	282	78.4%
2010年度	215	261	82.4%	197	267	73.8%	225	285	78.9%
2011年度	211	274	77.0%	202	273	74.0%	234	299	78.3%
2012年度	217	264	82.2%	204	276	73.9%	237	298	79.5%
第2期 平均	206	264	78.1%	204	267	76.3%	233	292	79.9%
2013年度	226	252	89.7%	204	244	83.6%	229	278	82.4%
2014年度	192	228	84.2%	188	231	81.4%	208	245	84.9%
2015年度	228	289	78.9%	225	288	78.1%	244	288	84.7%
2016年度	218	284	76.8%	177	253	70.0%	246	287	85.7%
2017年度	206	256	80.5%	206	286	72.0%	217	257	84.4%
第2期 平均	214	262	82.0%	200	260	77.0%	229	271	84.4%
累計	3,062	3,863	79.3%	2,918	3,875	75.3%	3,346	4,107	81.5%

注) 稼働率は「公演日数/利用対象日数」、利用対象日数は保守点検日を除いたもの

2. 事業費の内訳と収支

次に、北九州芸術劇場の事業費の財源内訳と収支について、過去13ケ年と同様の分析を行った。

(1) 事業費の財源と事業支出の内訳

- 北九州芸術劇場の17年度の事業費は約2億円となっている。前年度(約2億9,000万円)に比べて3割の減少となっている。
- 財源内訳をみると、チケット収入が約8,000万円で全体の39.4%、市の補助金が約5,200万円で25.8%、文化庁と(一財)地域創造などによる外部資金が約7,100万円で34.8%となっている。事業費の財源のうちチケット収入と外部資金で事業費のおよそ4分の3(74.2%)をカバーしている(図表1-10)。外部資金の割合は、過去15年で最多となっている(図表1-11)。
- 事業費の財源について第1期、第2期、第3期を比較すると、第3期は第1期、第2期に比べて財源全体が減少している中で、チケット収入の割合は第1期と同様に50%以上を維持し、外部資金の割合を増加させている。
- 全国平均の試算値^{*}と比較すると、17年度のチケット収入の割合は平均を上回っている。全国平均の試算値での「設置者からの補助金・委託費」(52.7%)が、北九州芸術劇場におけ

る03～17年度累計のチケット収入の割合(51.5%)とほぼ同じ比率となっている。

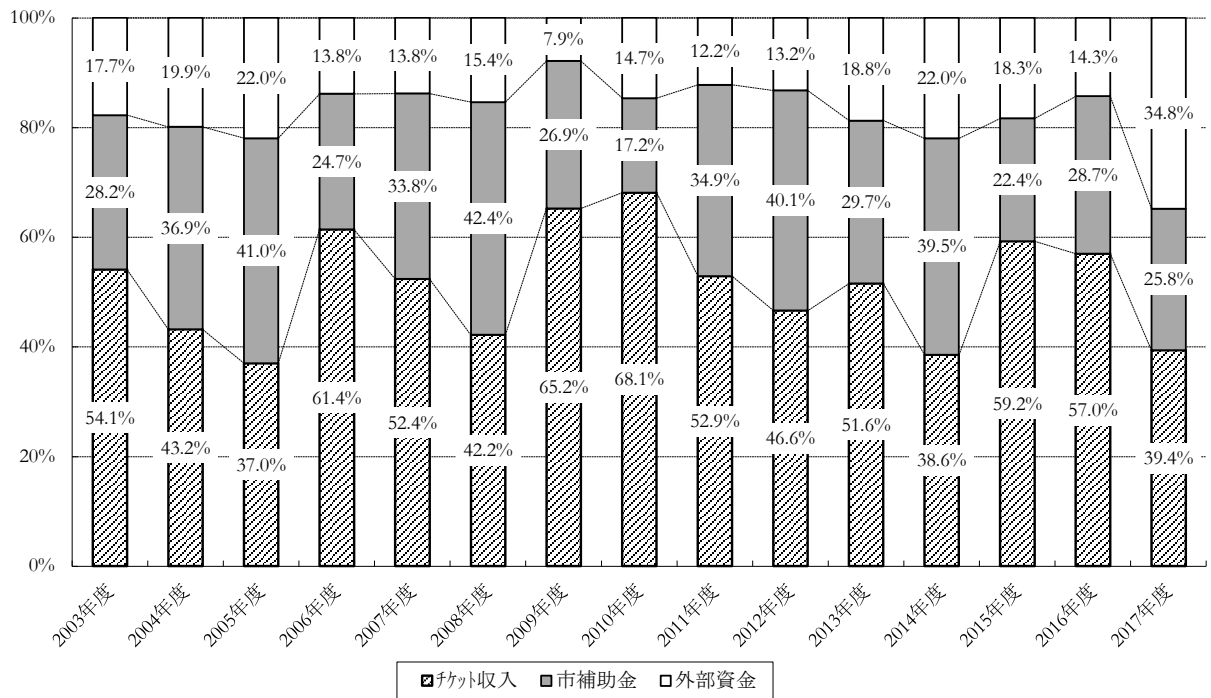
※(一財)地域創造の悉皆調査結果(2015年)から、指定管理施設の事業費の財源内訳の平均金額を試算すると、「設置者からの収入」が67.0%、「事業収入」が11.7%、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金」が2.1%である。

※指定管理施設の平成25年度決算金額平均値の「収入」欄から、それぞれの内訳比率を算出したため、「設置者からの収入」には人件費や運営管理費の財源でもある指定管理料が含まれている。

図表1-10 事業費の財源内訳(03年度～17年度)

上段:金額(千円)／下段:割合(%)								
	チケット収入	市補助金	外部資金	(内訳)				計
				文化庁	地域創造	その他助成金	協賛金	
2003年度	215,389 54.1%	112,225 28.2%	70,700 17.7%	49,000 12.3%	10,000 2.5%	11,700 2.9%	0 0.0%	398,314 100.0%
2004年度	145,429 43.2%	124,198 36.9%	67,000 19.9%	49,000 14.6%	18,000 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	336,627 100.0%
2005年度	110,060 37.0%	121,965 41.0%	65,295 22.0%	45,795 15.4%	19,500 6.6%	0 0.0%	0 0.0%	297,320 100.0%
2006年度	263,901 61.4%	106,363 24.7%	59,517 13.8%	45,800 10.7%	13,717 3.2%	0 0.0%	0 0.0%	429,781 100.0%
2007年度	197,355 52.4%	127,456 33.8%	52,051 13.8%	36,600 9.7%	15,451 4.1%	0 0.0%	0 0.0%	376,862 100.0%
第1期 累計	932,134 50.7%	592,207 32.2%	314,563 17.1%	226,195 12.3%	76,668 4.2%	11,700 0.6%	0 0.0%	1,838,904 100.0%
2008年度	135,979 42.2%	136,854 42.4%	49,579 15.4%	27,400 8.5%	22,179 6.9%	0 0.0%	0 0.0%	322,412 100.0%
2009年度	202,004 65.2%	83,331 26.9%	24,432 7.9%	18,000 5.8%	6,432 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	309,767 100.0%
2010年度	149,051 68.1%	37,726 17.2%	32,072 14.7%	11,000 5.0%	10,572 4.8%	0 0.0%	10,500 4.8%	218,849 100.0%
2011年度	123,355 52.9%	81,302 34.9%	28,509 12.2%	26,902 11.5%	1,607 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	233,166 100.0%
2012年度	99,616 46.6%	85,741 40.1%	28,262 13.2%	25,349 11.9%	2,165 1.0%	748 0.4%	0 0.0%	213,619 100.0%
第2期 累計	710,005 54.7%	424,954 32.7%	162,854 12.5%	108,651 8.4%	42,955 3.3%	748 0.1%	10,500 0.8%	1,297,813 100.0%
2013年度	111,886 51.6%	64,354 29.7%	40,693 18.8%	33,965 15.7%	6,728 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	216,933 100.0%
2014年度	68,803 38.6%	70,401 39.5%	39,222 22.0%	30,552 17.1%	8,670 4.9%	0 0.0%	0 0.0%	178,426 100.0%
2015年度	153,107 59.2%	58,001 22.4%	47,376 18.3%	36,236 14.0%	7,707 3.0%	3,433 1.3%	0 0.0%	258,484 100.0%
2016年度	164,939 57.0%	83,014 28.7%	41,384 14.3%	37,012 12.8%	3,651 1.3%	721 0.2%	0 0.0%	289,337 100.0%
2017年度	80,032 39.4%	52,420 25.8%	70,786 34.8%	62,534 30.8%	6,851 3.4%	1,401 0.7%	0 0.0%	203,238 100.0%
第3期 累計	578,767 50.5%	328,190 28.6%	239,461 20.9%	200,299 17.5%	33,607 2.9%	5,555 0.5%	0 0.0%	1,146,418 100.0%
累計	2,055,967 51.5%	1,262,337 31.6%	675,494 16.9%	498,133 12.5%	149,579 3.7%	17,282 0.4%	10,500 0.3%	3,993,798 100.0%

図表1-11 事業費の比率(03年度～17年度)



(2) 事業収支

- 17年度の事業費について、収入の予算額と決算額の差異は事業収入で1,030万円の減収、補助金等収入は約3,750万円の減収となっている。17年度は事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。
- 劇場の運営、事業の実施にあたって、経費節減の努力を行っていることとともに、積極的な営業努力を行なっていることがうかがえる。

図表1-12 事業収入、補助金等収入の予算額・決算額(03年度～17年度)

上段:金額(千円)／下段:割合(%)

	事業収入			補助金等収入		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	194,300 48.6%	215,389 54.1%	21,089 —	205,700 51.4%	182,925 45.9%	22,775 —
2004年度	146,346 41.1%	145,429 43.2%	917 —	209,300 58.9%	191,198 56.8%	18,102 —
2005年度	130,500 37.3%	110,060 37.0%	20,440 —	219,500 62.7%	187,260 63.0%	32,240 —
2006年度	265,709 53.9%	263,901 61.4%	1,808 —	227,531 46.1%	165,880 38.6%	61,651 —
2007年度	212,173 50.2%	197,355 52.4%	14,818 —	210,800 49.8%	179,507 47.6%	31,293 —
第1期 累計	949,028 46.9%	932,134 50.7%	16,894 —	1,072,831 53.1%	906,770 49.3%	166,061 —
2008年度	269,172 54.1%	135,979 42.2%	133,193 —	228,412 45.9%	186,433 57.8%	41,979 —
2009年度	157,949 44.7%	202,004 65.2%	44,055 —	195,470 55.3%	107,763 34.8%	87,707 —
2010年度	110,503 43.9%	149,051 68.1%	38,548 —	141,200 56.1%	69,798 31.9%	71,402 —
2011年度	140,284 45.8%	123,355 52.9%	16,929 —	166,136 54.2%	109,811 47.1%	56,325 —
2012年度	101,983 38.6%	99,616 46.6%	2,367 —	162,000 61.4%	114,003 53.4%	47,997 —
第2期 累計	779,891 46.6%	710,005 54.7%	69,886 —	893,218 53.4%	587,808 45.3%	305,410 —
2013年度	84,322 36.7%	111,886 51.6%	27,564 —	145,632 63.3%	105,047 48.4%	40,585 —
2014年度	46,545 27.2%	68,803 43.5%	22,258 —	124,423 72.8%	89,336 56.5%	35,087 —
2015年度	155,232 56.2%	153,107 59.2%	2,125 —	120,780 43.8%	105,377 40.8%	15,403 —
2016年度	225,012 60.5%	164,939 57.0%	60,073 —	147,154 39.5%	124,398 43.0%	22,756 —
2017年度	90,332 36.0%	80,032 39.4%	10,300 —	160,689 64.0%	123,206 60.6%	37,483 —
第3期 累計	601,443 46.3%	578,767 51.4%	22,676 —	698,678 53.7%	547,364 48.6%	151,314 —
累計	2,105,350 45.5%	2,055,967 51.7%	49,383 —	2,517,573 54.5%	1,917,544 48.3%	600,029 —

補助金等収入における市補助金と外部資金の内訳(千円)

	市補助金			外部資金		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	135,000	112,225	22,775	70,700	70,700	0
2004年度	135,000	124,198	10,802	74,300	67,000	7,300
2005年度	151,000	121,965	29,035	68,500	65,295	3,205
2006年度	145,000	106,363	38,637	82,531	59,517	23,014
2007年度	149,000	127,456	21,544	61,800	52,051	9,749
第1期 平均	143,000	118,441	24,559	71,566	62,913	8,654
2008年度	149,000	136,854	12,146	79,412	49,579	29,833
2009年度	135,000	83,331	51,669	60,470	24,432	36,038
2010年度	108,000	37,726	70,274	33,200	32,072	1,128
2011年度	128,000	81,302	46,698	38,136	28,509	9,627
2012年度	128,000	85,741	42,259	34,000	28,262	5,738
第2期 平均	129,600	84,991	44,609	49,044	32,571	16,473
2013年度	111,000	64,354	46,646	34,632	40,693	6,061
2014年度	89,284	50,114	39,170	35,139	39,222	4,083
2015年度	82,588	58,001	24,587	38,192	47,376	9,184
2016年度	99,989	83,014	16,975	47,165	41,384	5,781
2017年度	94,576	52,420	42,156	66,113	70,786	4,673
第3期 平均	95,487	61,581	33,907	44,248	47,892	3,644
累計	1,840,437	1,325,064	515,373	824,290	716,878	107,412

第2章 観客の特性と観客からみた評価

本章では、開館以来継続的に実施している、主催事業および提携・協力事業の公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、2017年度の観客の特性や、観客からみた北九州芸術劇場に対する評価を整理、分析した。

1. 観客調査の実施要領

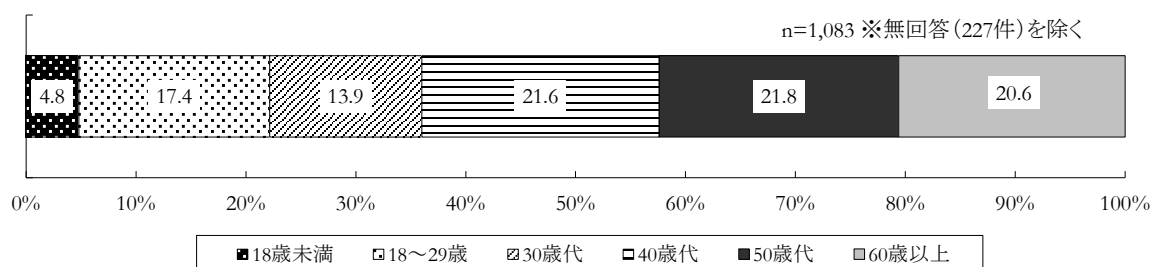
- 調査の対象: 2017年度に実施した主催事業および提携・協力事業公演 32公演
- 配布・回収方法: 各公演初日の開演時に配布、終演時に回収
- 実施時期: 2017年5月13日～2018年3月25日
- 有効回答数(回収率): 1,310件、回収率: 13.0% (配布数: 9,991件)

2. 観客調査の結果概要

(1) 観客(アンケート回答者)の属性(p.資-10～19)

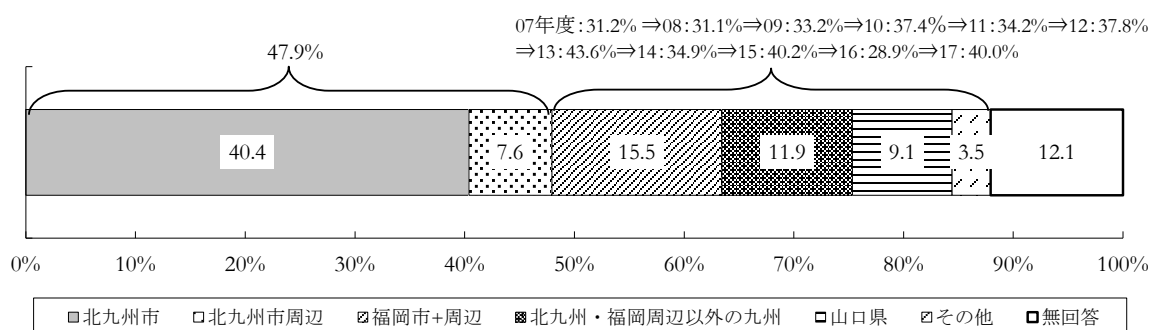
- 観客は、女性が80.3%、男性が19.7%と女性が多い。いずれのジャンルも男性に比べて女性の割合が高い。
- 平均年齢は44.3歳。年齢層に大きな偏りはなく、幅広い年齢層が来場している(図表2-1)。平均年齢に関しては、03年度が45.5歳で、04年から13年度までは40.2歳～43.4歳の範囲で40歳台前半を維持できているが、14年度が44.8歳、15年度が45.6歳、16年度は開館以降で初めて50歳を超えて最も高い平均年齢となった。

図表2-1 年齢層(17年度)



- 居住地域は、北九州市周辺を含めた市域からの来場者が47.9%(うち北九州市内が40.4%)で、福岡市域や福岡県以外の九州各県、山口県、その他からの17年度の来場者は40.0%である(図表2-2)。

図表2-2 居住地域(17年度)

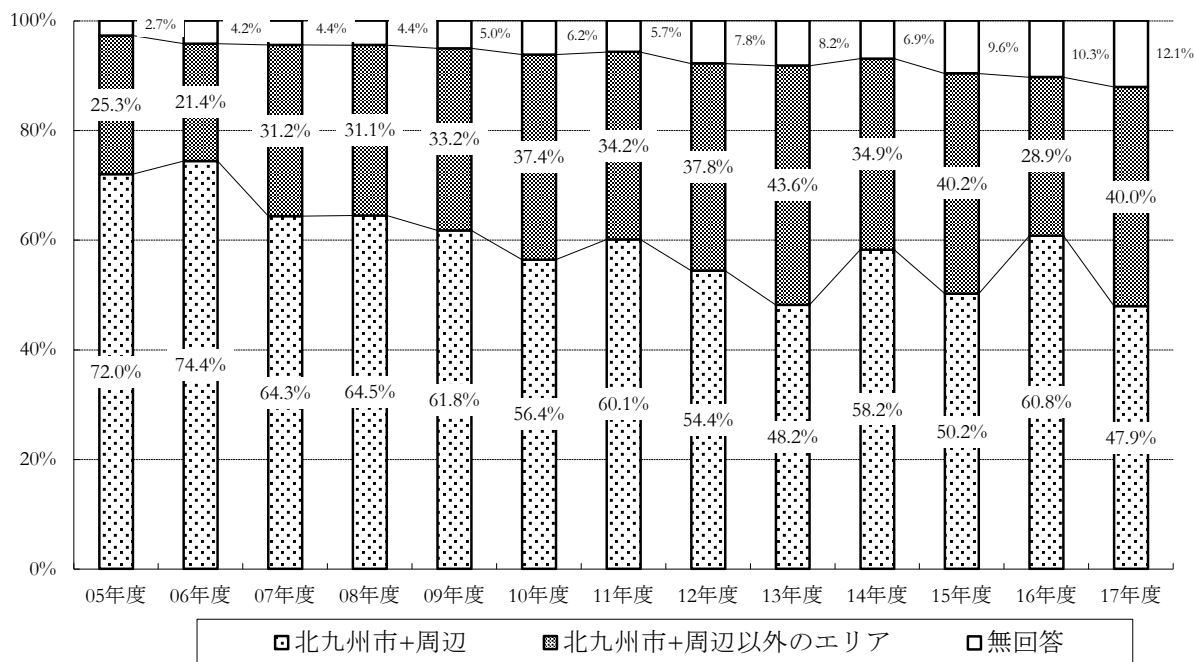


- 観客の居住地域の経年推移を見ると、07年度以降は増減があるものの、北九州市と周辺

以外のエリア（福岡市と周辺、北九州・福岡周辺以外の九州、山口県など）の割合が3割を超え、北九州市+周辺が減少する傾向にあった（図表2-3）。

- 福岡県以外の九州について具体的な県名をみると、大分県（51件）、熊本県（25件）、佐賀県（18件）、長崎県（14件）、宮崎県（9件）、鹿児島県（5件）等の記載がある。九州・山口以外では、広島県（19件）、東京都（5件）の回答もある。

図表2-3 居住地域の経年推移（05年度～17年度）



- チケットクラブには回答者の約5分の1（21.8%）が入会している。入会していない場合、今後入会意向があるのは9.7%である。

（2）北九州芸術劇場での公演鑑賞の状況

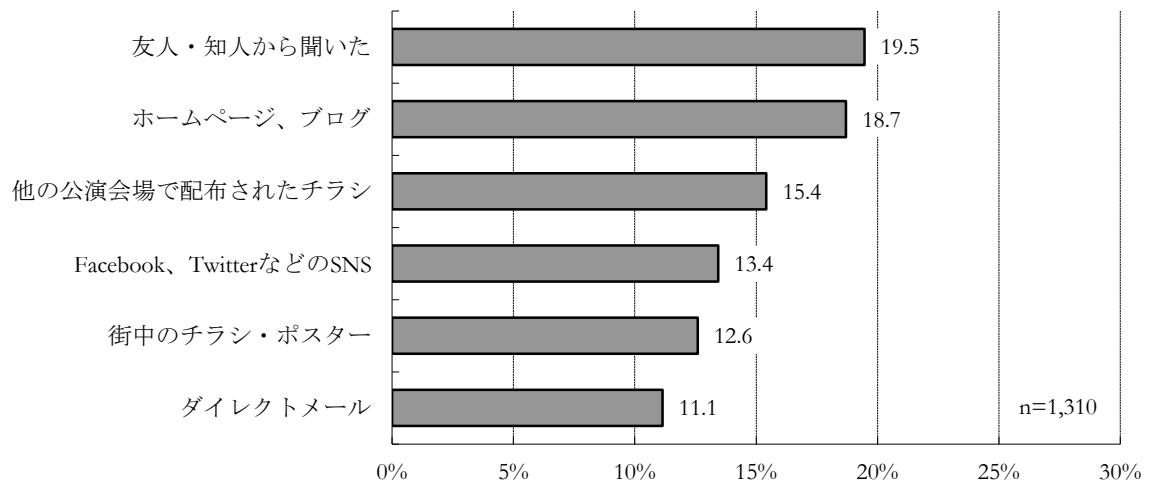
① 来場公演のジャンル（p.資-22～23）

- 回答者が来場した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が約5割（54.5%）を占める。
※アンケート配布公演32公演のうち21公演が「小劇場・現代演劇」であることによる。
- 年齢別に来場公演のジャンルをみると、60歳以上では「音楽劇」が最も高い割合（46.6%）となっているが、それ以外の年代では「小劇場・現代演劇」の割合が高く、特に、18歳～29歳で高い（65.4%）。
- 北九州芸術劇場の来館経験別に見た「小劇場・現代演劇」の来場の割合は、「11回以上」の回答者の62.9%、「今日が初めて」の回答者の51.7%となっている。

② 公演情報の入手経路（p.資-24～25）

- 公演情報の入手経路は、全体では「友人・知人から聞いた」（19.5%）で最も高く、続いて「ホームページ・ブログ」（18.7%）、「他の公演会場で配布されたチラシ」が15.4%、「Facebook、TwitterなどのSNS」（13.4%）となっている（図表2-4）。

図表2-4 公演情報の入手経路(17年度)



- 公演情報の入手経路を、年齢別、北九州芸術劇場での鑑賞経験別に見る(図表2-5)。まず年齢別では、18～29歳では「Facebook、TwitterなどのSNS」、50歳代は「他の公演会場で配布されたチラシ」、60歳以上は「友人・知人から聞いた」、それ以外の世代は「ホームページ、ブログ」が最も高い。
- また、北九州芸術劇場での鑑賞経験別に見ると、北九州芸術劇場での鑑賞経験が2回以下のグループでは、「友人・知人から聞いた」が最も高く、3回から10回のグループは「ホームページ、ブログ」、11回以上のグループでは「他の公演会場で配布されたチラシ」が最も高くなっている。
- 鑑賞経験が少ないほど、「友人・知人から聞いた」の割合が多く、多いほど「ダイレクトメール」の割合は多くなっている。

図表2-5 年齢別、北九州芸術劇場での鑑賞経験別 公演情報の入手経路(17年度)

n=1,310 (単位: %)

		友人・知人から聞いた	ホームページ、ブログ	他の公演会場で配布されたチラシ	Facebook、TwitterなどのSNS	街中のチラシ・ポスター	ダイレクトメール
全体		19.5	18.7	15.4	13.4	12.6	11.1
年齢層	18歳未満	25.0	26.9	21.2	25.0	13.5	1.9
	18～29歳	23.4	20.7	9.0	28.2	14.4	1.6
	30歳代	14.7	28.0	12.7	20.7	13.3	6.0
	40歳代	19.7	25.6	14.1	12.4	10.7	15.8
	50歳代	18.2	20.8	22.5	7.2	9.3	14.4
	60歳以上	20.2	6.3	16.6	2.2	14.3	14.8
鑑賞経験	今日が初めて	31.8	15.9	5.3	17.9	8.9	2.3
	1～2回	28.0	9.6	7.0	13.4	12.7	2.5
	3～5回	14.1	18.3	11.7	12.7	15.5	7.5
	6～10回	12.7	29.5	18.5	11.0	14.5	17.9
	11回以上	9.5	24.8	36.1	11.6	14.3	22.8

③公演に来た理由(p.資-26～27)

- 公演に来た理由は、「出演者等が好きだから」(54.1%)、「公演内容が面白そうだったから」

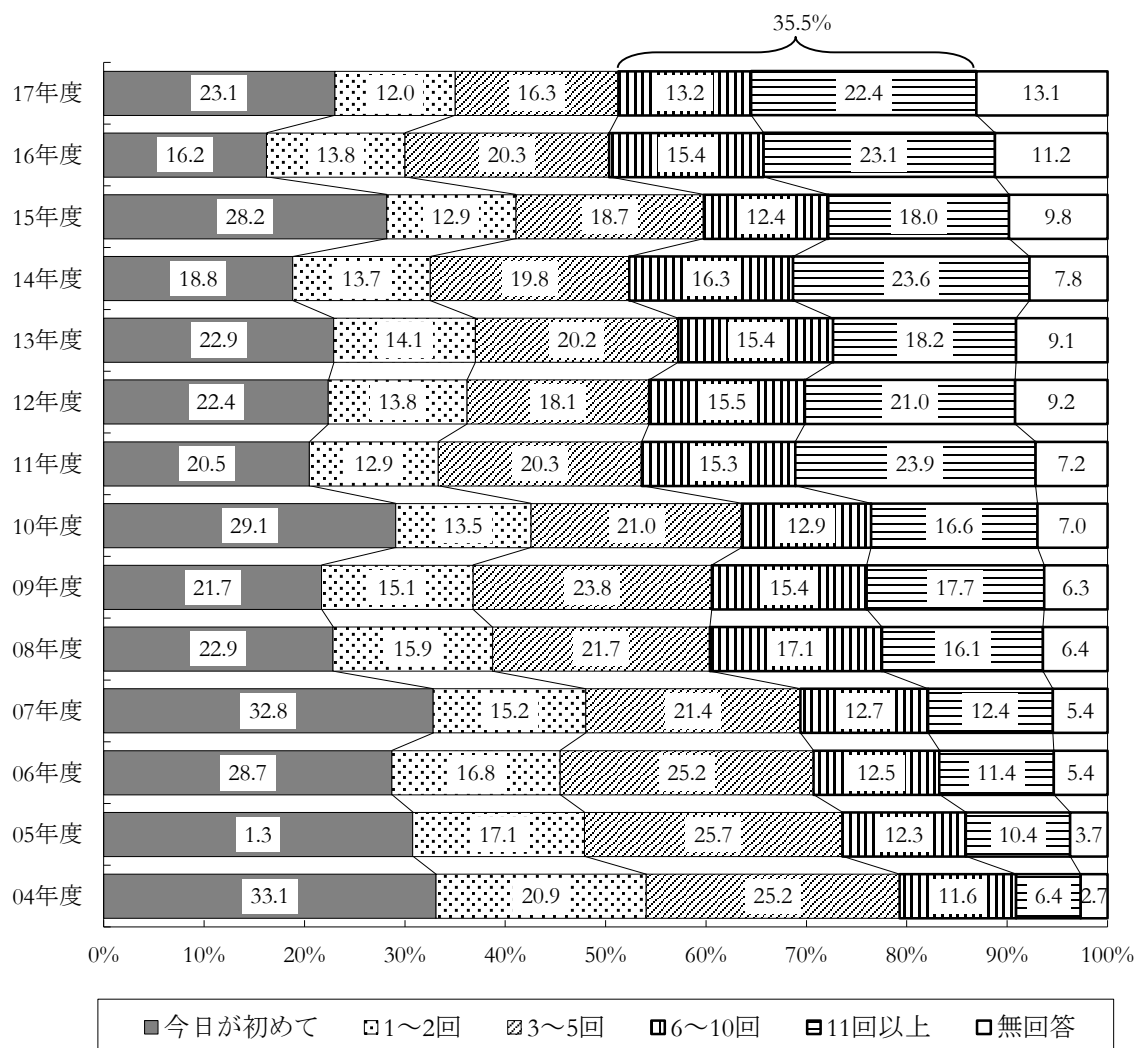
(53.7%)への回答が多い。18歳未満と60歳以上では「公演内容が面白そうだったから」の割合が最も高く、18歳から50歳代までは、「出演者等が好きだから」の割合が最も高い。

- 過去調査と比較して、「公演内容が面白そうだったから」が「出演者等が好きだから」を上回ったのは03年度と14年度の2回となっている。

④北九州芸術劇場での鑑賞経験(p.資-46～47)

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験は「今日が初めて」が23.1%と最も高いが、「今日が初めて」から「11回以上」まで大差はなく、来場者の鑑賞経験は幅広い。

図表2-6 北九州芸術劇場での鑑賞経験(04年度～17年度)



- 観客の北九州芸術劇場での鑑賞経験が多様であるのは04年度調査からの特徴であるが、年々劇場での鑑賞経験の多い観客(来場経験が6回以上)が増えており、17年度は約3分の1(35.5%)となっている(図表2-6)。6回以上の鑑賞経験者の割合が高いのは、年齢別では40歳代以上である。

⑤公演前後の飲食やショッピング(p.資-28～29)

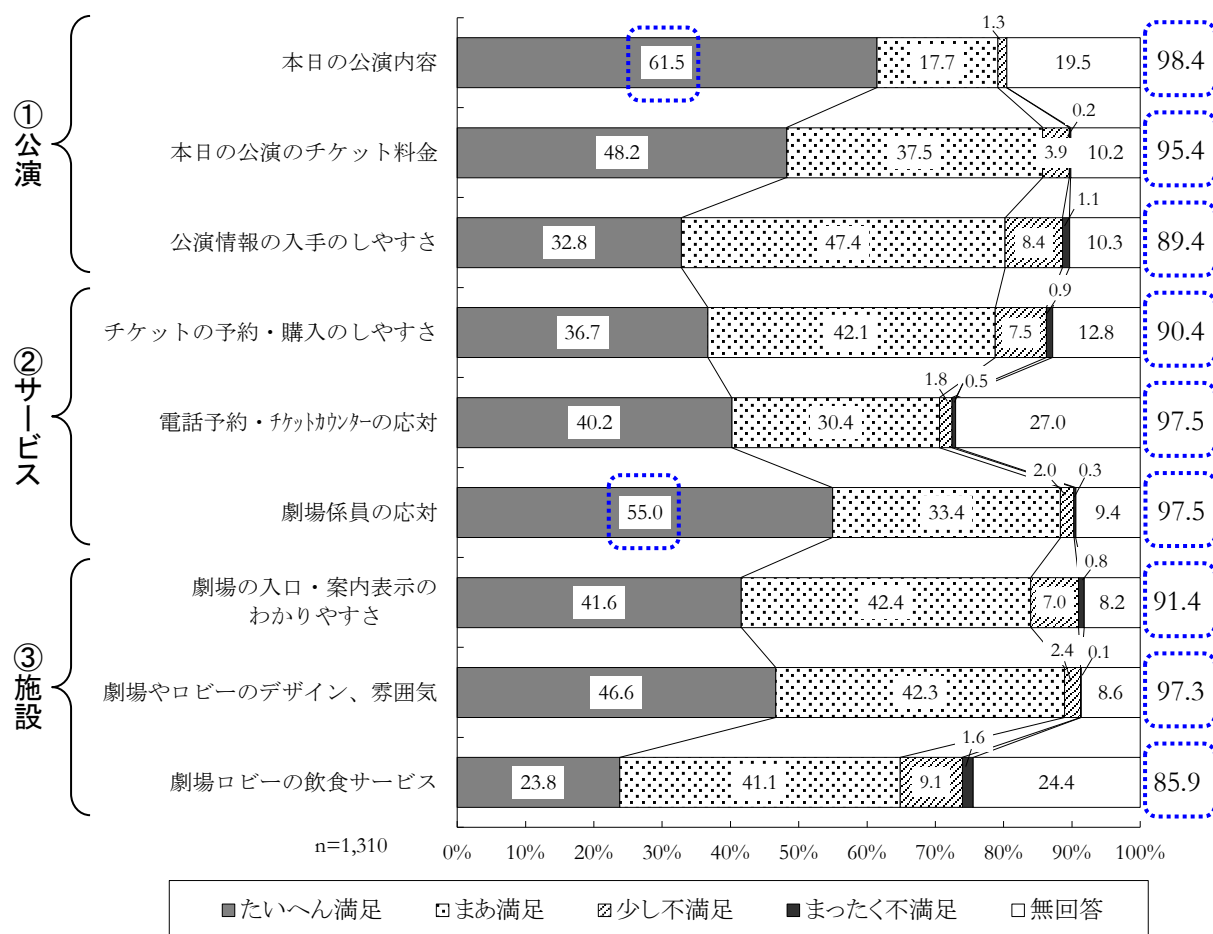
- 来場者の50.4%が公演前後に飲食あるいはショッピングをしており、平均金額は、飲食の場合が約1,530円(飲食をしている回答者の割合:全体の40.7%)、ショッピングの場合が約3,845円(ショッピングをしている回答者の割合:全体の24.1%)である。

(3) 公演や劇場に対する満足度(p.資-30～38)

- 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)が90%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「チケットの予約・購入のしやすさ」、「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場係員の応対」、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の7項目である(図表2-7)。

図表2-7 公演や劇場に対する満足度(17年度)

[満足層の割合]



※満足層の割合:「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

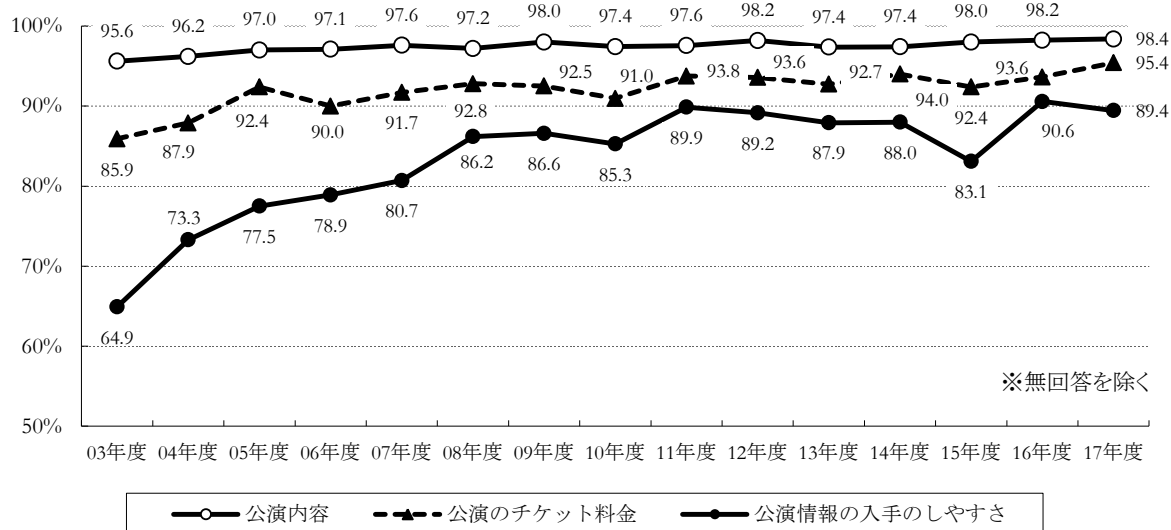
- 特に、「本日の公演内容」、「劇場係員の応対」の2項目については、「たいへん満足」の割合も、それぞれ61.5%、55.0%と高い評価となっている。
- 年齢層が高いほど満足層の割合が低くなる傾向は「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」で顕著である。
- 無回答が多い「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場ロビーの飲食サービス」については、利用したことがない人が多いと考えられる。
- 次に、満足度に関する9項目を、①公演、②サービス、③施設の3つに分けて、満足層の割合の経年変化を見る(図表2-8～2-10)。

①公演について(図表2-8)

- 「公演内容」については、03年度から継続して満足層の割合が顕著に高く、観客からの評価は極めて高い。17年度は開館以降で最も高い割合(98.4%)となっている。

- 「公演のチケット料金」も05年度以降、90%以上の高い満足度を維持している。「公演内容」への満足度の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも大きく関わっていると考えられる。17年度は開館以降で最も高い割合(95.4%)となっている。
- 開館当初満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、増減はあるものの満足度は向上し、15年度の満足層の割合が前年度に比べて減少したが16年度に再び向上した。

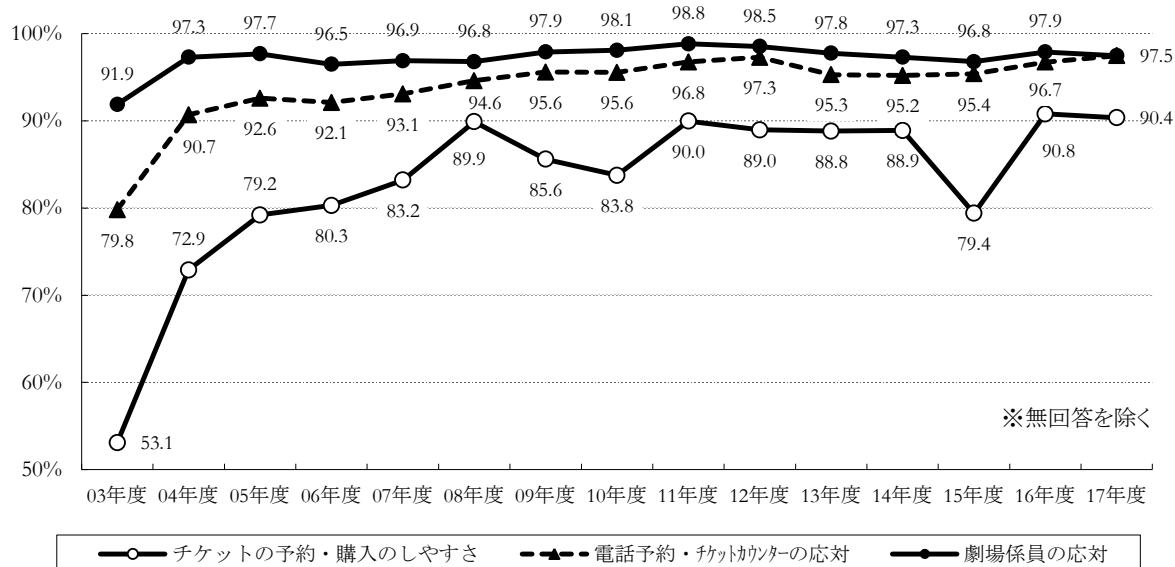
図表2-8 公演関連項目に関する満足層の割合(03年度～17年度)



②サービスについて(図表2-9)

- 「劇場係員の応対」は開館当初から、「電話予約・チケットカウンターの応対」は04年度から満足層の割合が90%を超えており、そのまま高い満足度を維持している。「電話予約・チケットカウンターの応対」の17年度は開館以降で最も高い割合(97.5%)となっている。
- 開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、満足度の伸びが大きい。ホームページからのオンラインチケット購入が可能となった11年度には90.0%まで伸びた。15年度は前年度から減少し79.4%となったが、16年度は再び向上し、開館以降で最も高い割合(90.8%)となっている。

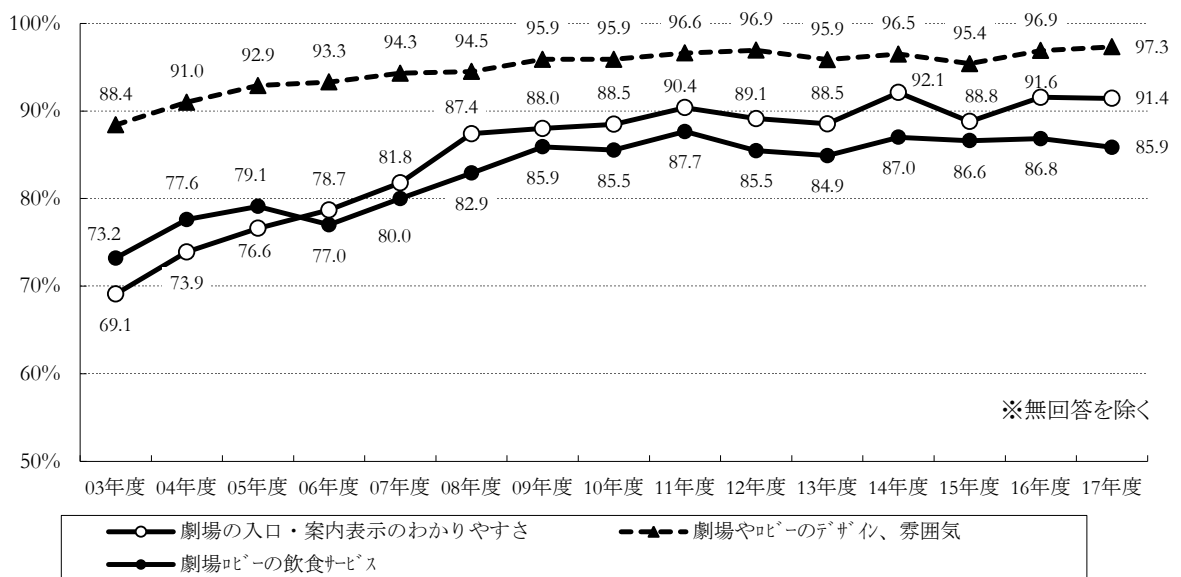
図表2-9 サービス関連項目に関する満足層の割合(03年度～17年度)



③施設について(図表2-10)

- 施設に関わる3項目のうち、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は、開館当初から満足層の割合が高く、そのまま高い水準を維持している。17年度は開館以降で最も高い割合(97.3%)となっている。
- 一方、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、複合施設である故の動線の複雑さもあり、開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かったが、年々満足度が高まっており、17年度は91.4%となっている。これは、観客が慣れてきたこともあるが、案内表示の増設や既存サイン文字の大型化、駐車場エレベーター入口での音声案内など劇場側の工夫や努力の成果が大きいといえよう。

図表2-10 施設関連項目に関する満足層の割合(03年度～17年度)

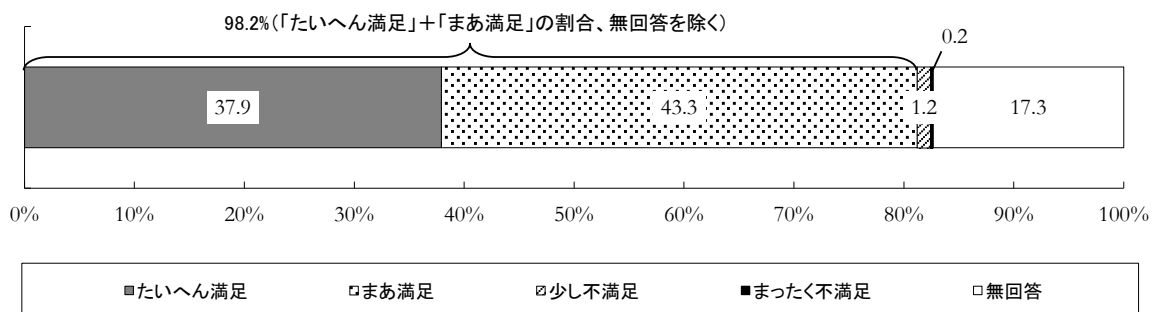


- ①公演、②サービス、③施設、いずれについても、すでに満足度が高い項目は高さを堅持している。

④総合的な満足度について

- 劇場に関する総合的な満足度は、満足層の割合が98.2%(無回答を除く)。全体では、「たいへん満足」の割合が37.9%、「まあ満足」の割合が43.3%となっている(図表2-11)。

図表2-11 総合的な満足度(17年度)



(4) 劇場の運営方針について(p.資-39～42)

- 北九州芸術劇場の基本方針の「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」については、いずれも

95%以上が賛同している(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く)(図表2-12)。

※2014年度から運営方針のキーワードに「支える」が加わり、16年度からアンケート調査に含めている。

- 「観る」については、「ぜひやってほしい」が77.6%と高い割合となっている(本アンケートが鑑賞者を対象としたアンケートであることには留意が必要である)。「創る」、「育つ」、「支える」については、「観る」と比べると低いとはいえ、「ぜひやってほしい」がいずれも約50%と約半数を占めている。
- 「創る」、「育つ」、「支える」は29歳以下で「ぜひやってほしい」への割合が7割から8割程度(無回答を除いた回答)と高い。

図表2-12 運営方針への賛同度(16年度)

n=1,310

運営方針	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	賛同する人の割合	賛同しない人の割合
観る	77.6%	14.0%	1.0%	0.1%	7.3%	98.8%	1.2%
創る	54.7%	33.5%	2.7%	0.2%	9.0%	96.9%	3.1%
育つ	55.8%	32.4%	2.8%	0.2%	8.8%	96.7%	3.3%
支える	53.7%	33.8%	3.0%	0.2%	9.3%	96.5%	3.5%

※賛同する人の割合:「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

(5) 日頃の鑑賞活動について

①日頃コンサートや演劇に出かける頻度(p.資-44～45)

- 日頃コンサートや演劇に出かける頻度は、「年に3～4回程度」(20.5%)、「年に1～2回程度」(18.2%)、「年に5～9回」(15.3%)となっており、日頃の舞台芸術の鑑賞頻度は多様である。
- 北九州芸術劇場で11回以上の鑑賞経験がある場合、月1回以上コンサートや演劇に出かける割合は53.4%を占める。北九州芸術劇場での鑑賞が初めてのグループでは、年に2回以下の頻度の割合が51.7%を占めている。

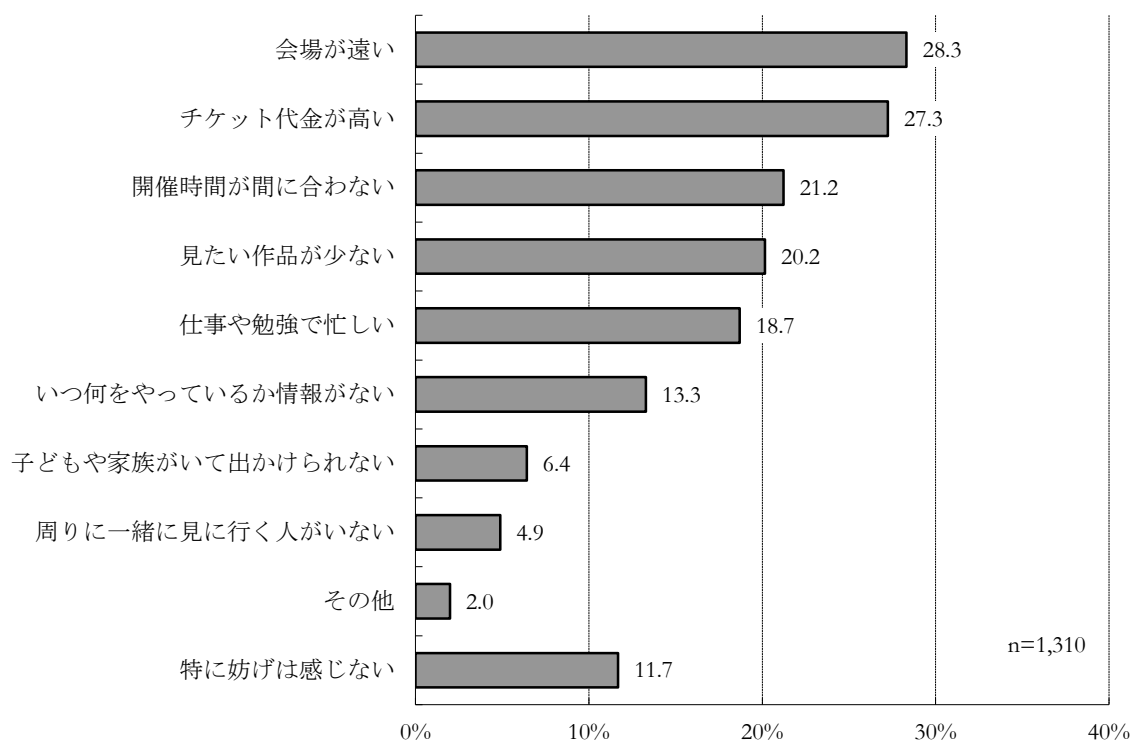
②来場の妨げになっていること(p.資-48～49)

- 来場の妨げになっていることは、「会場が遠い」(28.3%)、「チケット代金が高い」(27.3%)、「開催時間が間に合わない」(21.2%)、「見たい作品が少ない」(20.2%)となっている。(図表2-13)。

※2015年度から設問を加えた。

- 40歳代と60歳以上のグループで「チケット代金が高い」の割合が最も高く、18歳未満は「仕事や勉強で忙しい」の割合が最も高い。

図表2-13 来場の妨げになっていること(17年度)



第3章 貸館利用者からみた評価

1. 利用者調査の実施要領

- 調査の対象:2017年度の貸館利用者(団体)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 配布件数:228件
- 有効回答数(回収率): 155件(68.0%)

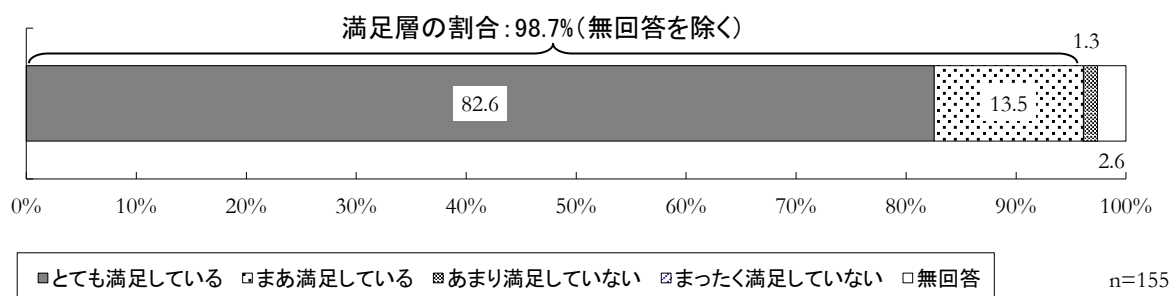
2. 利用者調査の結果概要

※本調査は、統計的な分析を目的とした調査ではなく、有効回答数も少ないため、アンケート結果の記述にあたっては、割合(%)とともに回答数を併記している。

(1) 劇場の使いごちに関する総合的な満足度(p.資-62)

- 劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足」が82.6%(128件)、「まあ満足」が13.5%(21件)で、満足層の割合(「とても満足」+「まあ満足」と回答した割合、無回答を除く)は98.7%と大変高い。

図表3-1 総合的な満足度(17年度)



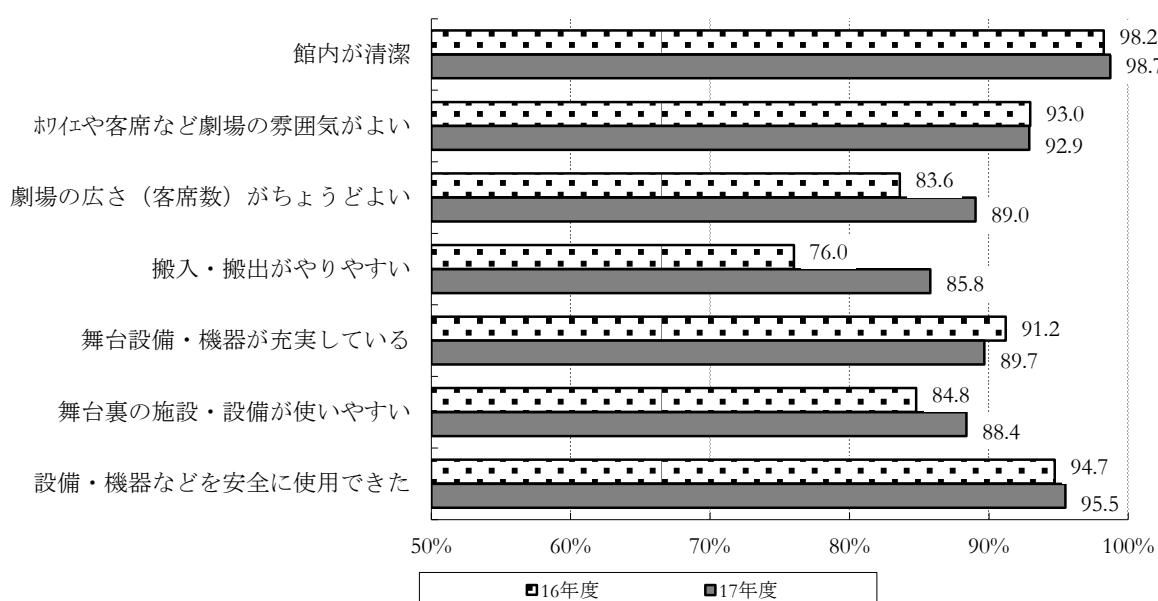
(2) 施設に関する意見(p.資-63～67)

- 施設に関する7項目については、全ての項目で肯定的な評価をしている割合(「はい」+「どちらかといえば『はい』」、無回答を除く)が95%以上と大変高い。特に「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」は100%となっている。
 - また、「はい」という積極的な評価の割合も高く、特に「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「設備・機器などを安全に使用できた」の3項目は、「はい」が90%以上である(図表3-2)。施設に関する評価は大変高い。(p.資-65～67)。
 - 17年度は、16年度と比べて「館内が清潔」、「劇場の広さ(客席数)がちょうどよい」、「搬入・搬出がやりやすい」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」、「設備・機器などを安全にしようできた」で「はい」への回答が増加している(図表3-3)。
- ※搬入・搬出については、複合施設である故の制限、駐車場からの動線の難しさ等が、意見記述欄にも課題として記入されることが多いが、打合せ時に説明・案内を周知する、施設側(リバーウォーク北九州)と協議・調整する等の対策を講じている。

図表3-2 施設(ハード)に関する意見(17年度)

	「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答	「はい」+ど ちらかとい えば「はい」 (除無回答)
n=155(単位: %)						
館内が清潔	98.7	1.3	0.0	0.0	0.0	100.0
ホワイヤ客席など劇場の雰囲気がい	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0	100.0
劇場の広さ(客席数)がちょうどよい	89.0	7.7	1.9	1.3	0.0	96.8
搬入・搬出がやりやすい	85.8	12.3	0.6	0.6	0.6	98.7
舞台設備・機器が充実している	89.7	9.7	0.6	0.0	0.0	99.4
舞台裏の施設・設備が使いやすい	88.4	11.6	0.0	0.0	0.0	100.0
設備・機器などを安全に使用できた	95.5	3.9	0.0	0.6	0.0	99.4

図表3-3 施設(ハード)に関する意見「はい」の回答割合比較(16年度・17年度)



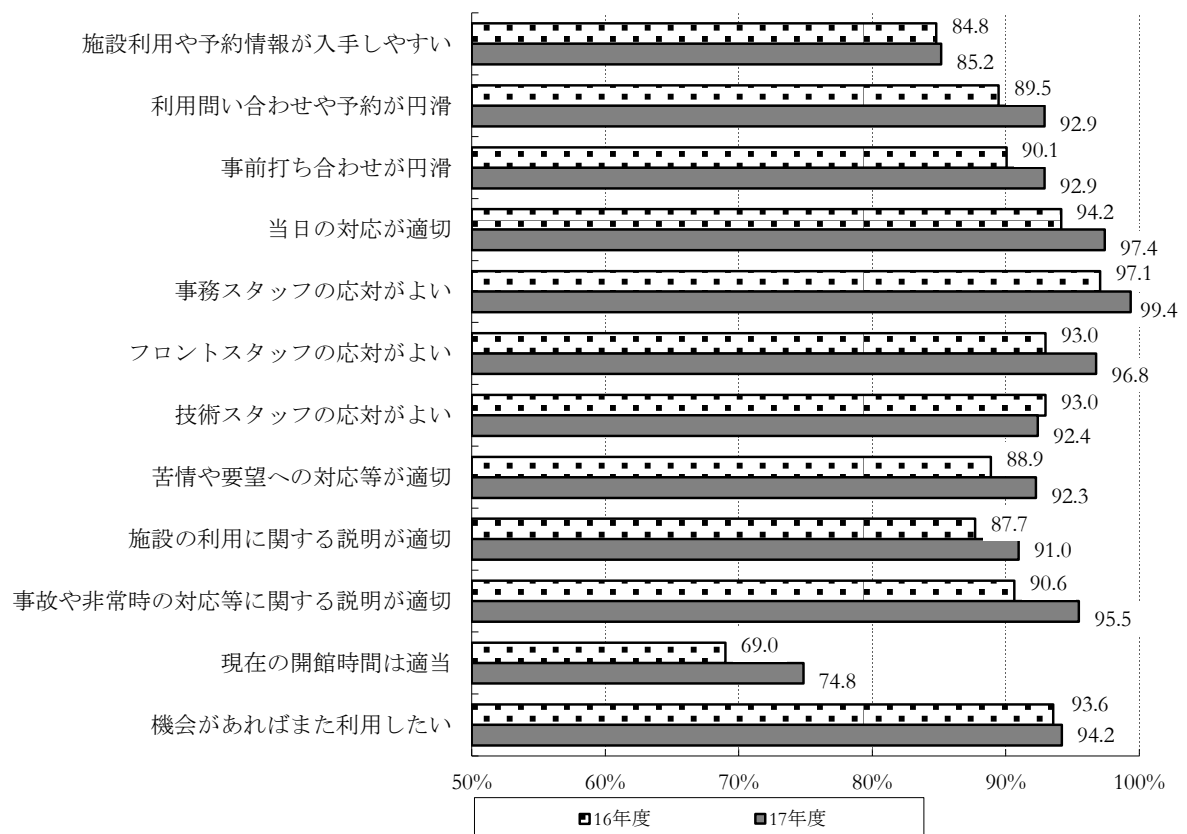
(3) 運営や応対に関する意見(p.資-68～73)

- 運営、応対に関する12項目についても、「現在の開館時間は適当」以外の11項目で、肯定的な評価をしている割合が95%以上と高くなっている。また、「はい」という積極的に評価する割合も高い(図表3-4)。
- 「はい」という積極的な評価の割合については、「当日の対応が適切」、「事務スタッフの対応がよい」、「フロントスタッフの対応がよい」が09年度以降9年間連続で9割以上が「はい」と回答している(p.資-71)。
- 17年度は、16年度と比べて、ほとんどの項目で「はい」への回答割合が高くなっている一方で、「技術スタッフの対応がよい」では回答割合が若干下がっている(図表3-5)。
- 「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると「はい」の割合が低い。これは管理規則で10時から22時と定められており、より長い開館時間を求める意見や、仕込み等のために柔軟な利用時間の設定を求める意見があがっている。ただし、過去の推移を見ると、管理規則に対する利用者側の理解が浸透してきていることがうかがえる。

図表3-4 運営や対応(ソフト)に関する意見(17年度)

n=155(単位: %)	「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答	「はい」+ど ちらかとい えば「はい」 (除無回答)
施設利用や予約情報が入手しやすい	85.2	11.6	0.6	0.0	2.6	99.3
利用問い合わせや予約が円滑	92.9	3.2	0.6	0.0	3.2	99.3
事前打ち合わせが円滑	92.9	3.2	1.3	0.0	2.6	98.7
当日の対応が適切	97.4	0.6	0.6	0.0	1.3	99.3
事務スタッフの対応がよい	99.4	0.6	0.0	0.0	0.0	100.0
フロントスタッフの対応がよい	96.8	1.9	0.6	0.0	0.6	99.4
技術スタッフの対応がよい	92.4	3.8	0.6	0.0	3.2	99.3
苦情や要望への対応等が適切	92.3	3.9	0.6	0.0	3.2	99.3
施設の利用に関する説明が適切	91.0	5.8	0.0	0.0	3.2	100.0
事故や非常時の対応等に関する説明が適切	95.5	3.2	0.0	0.0	1.3	100.0
現在の開館時間は適当	74.8	15.5	5.2	3.9	0.6	90.9
機会があればまた利用したい	94.2	4.5	0.6	0.0	0.6	99.4

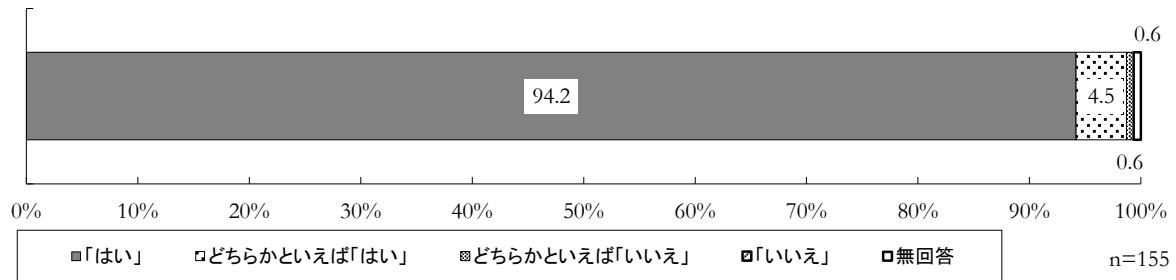
図表3-5 運営や対応(ソフト)に関する意見 「はい」の回答割合比較(16年度・17年度)



(4) 今後の利用の意向(p.資-73)

- 「機会があればまた利用したい」については、「はい」が94.2%(146件)と高い割合を占めており、「どちらかといえば『いいえ』」は0.6%(1件)、「いいえ」は0件であった。利用者の今後の利用意向は大変高い。
- 今後の利用意向の高さは、貸館事業全体への満足度の高さを示しているものであると考えられる。

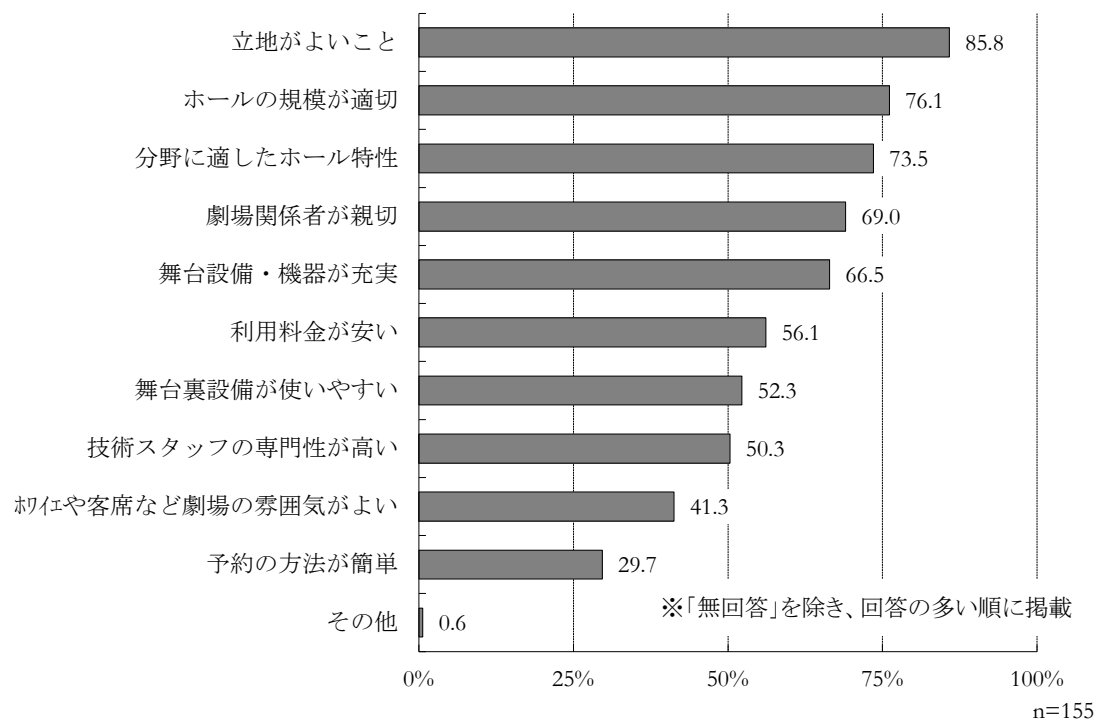
図表3-6 今後の利用の意向(17年度)



(5) 利用の際、重視すること(p.資-74~76)

- 利用の際重視することとしては、「立地がよいこと」(85.8%・133件)と「ホールの規模が適切」(76.1%・118件)とへの回答が多い。
- そのほか、「分野に適したホール特性」、「劇場関係者が親切」、「舞台設備・機器が充実」も65%以上の回答となっている。

図表3-7 利用の際、重視すること(17年度)



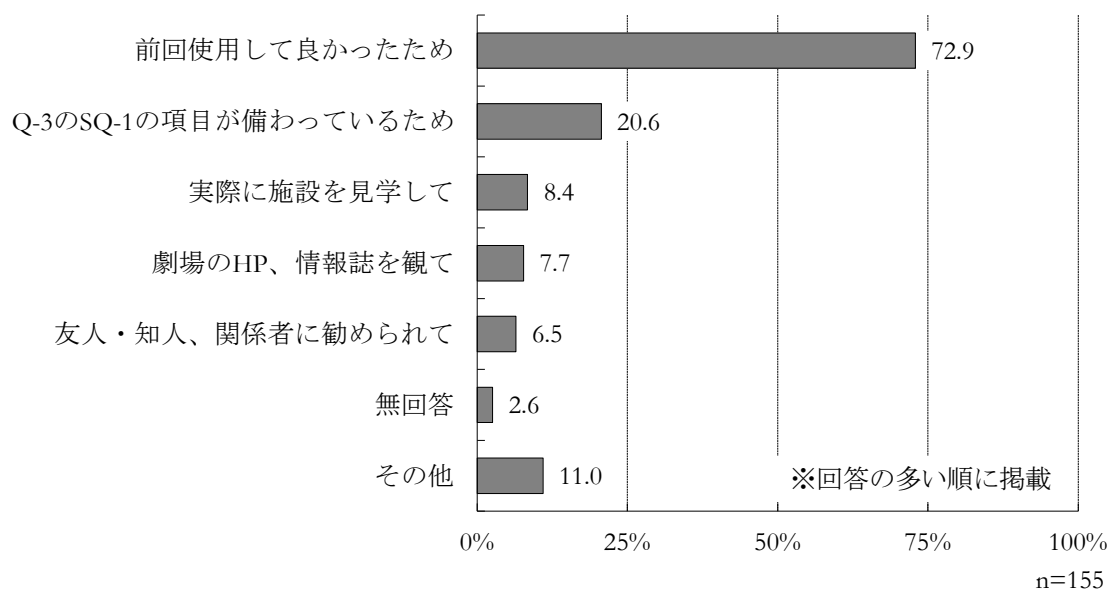
- 最も重視することは、「立地が良いこと」(30.3%・47件)が最も多く、次いで「ホールの規模が適切」(21.9%・34件)、「分野に適したホール特性」(26.5%・41件)となっている。

(6) 利用のきっかけ(p.資-77)

- 利用のきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、72.9%(113件)を占めている。利用者の劇場への満足度は高く、そのため、リピーターの利用が多いことがうかがえる。
- 次いで、「Q-3のSQ-1(利用の際、重視する)の項目が備わっているため」(20.6%・32件)となっており、「立地がよいこと」や「ホールの規模が適切」といった上位項目が劇場利用のき

かけになっていると考えられる。

図表3-8 利用のきっかけ(17年度)



第4章 経済波及効果とパブリシティ効果

劇場の経営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、昨年度調査と同様、経済波及効果について、産業連関表を用いた分析を行うとともに、パブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

1. 経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要（直接的経済効果）、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

17年度も例年どおり、産業連関表に基づいた経済波及効果に加え、雇用効果を試算した。

(1) 北九州芸術劇場の経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出（最終需要）は、
 - ①劇場の管理運営に関する支出
 - ②劇場の主催事業に関する支出
 - ③劇場の主催事業の観客の消費支出
 - ④貸館事業の主催者の事業支出
 - ⑤貸館事業の観客の消費支出の5つに分類することができる（図表4-1参照）。
- 今回の調査では、①、②については劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演あたりの支出の20%もしくは30%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアからの集客や、同じような消費活動を行っているとは考えにくいため、⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。
- また、これらの計算結果のうち、北九州市内の経済波及効果と福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて、北九州芸術劇場がどのぐらいの雇用効果を有しているかを試算した。

(2) 分野別の最終需要と経済波及効果、雇用効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表4-1に示したとおりである。なお、本文中および図表に表記されている個別の項目の数値は100万円未満を四捨五入しているため、小計、合計、誘発係数には四捨五入による誤差が生じている箇所がある。
- ①劇場の管理運営、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出にともなう最終需要の金額は、それぞれ6億5,500万円、2億300万円、1億7,500万円、合計で10億3,300万円となっている。そのうち、70.8%にあたる約7億3,200万円が北九州市内での最終需要である。
- これら最終需要に伴う経済波及効果は、①が8億7,600万円、②が3億1,900万円、③が2億6,500万円、合計で14億6,000万円である。そのうち、64.9%にあたる9億4,700万円が北九州

市内での経済波及効果である。生産誘発係数は、全体で1.41、北九州市内で1.29である。

- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館事業の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみ)は、約5億3,200万円～5億6,600万円、生産誘発係数は1.39である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約19億9,200万円～20億2,600万円で生産誘発係数は1.38、北九州市内に限ってみると、約14億7,900万円～15億1,300万円で生産誘発係数は1.30となっている。
- また、これら経済波及効果の結果から試算した雇用効果は、就業者数(労働量)では136～139人、雇用者数(有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む)で121～124人で、対事業所サービス、対個人サービス、商業などの分野を中心に雇用効果が現れている。

図表4-1 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果(17年度)

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億5,500万円 (5億8,100万円)	8億7,600万円 (7億5,200万円)	1.34 (1.29)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	2億300万円 (6,100万円)	3億1,900万円 (8,000万円)	1.57 (1.30)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	1億7,500万円 (8,900万円)	2億6,500万円 (1億1,500万円)	1.51 (1.29)
	小計	10億3,300万円 (7億3,200万円)	14億6,000万円 (9億4,700万円)	1.41 (1.29)
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	5,300万円 ～8,000万円	6,800万円 ～1億300万円	1.29
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	3億5,500万円	4億6,300万円	1.30
	小計(参考値)	4億900万円 ～4億3,500万円	5億3,200万円 ～5億6,600万円	1.39
	合計(参考値)	14億4,200万円 ～14億6,900万円 (11億4,000万円 ～11億6,700万円)	19億9,200万円 ～20億2,600万円 (14億7,900万円 ～15億1,300万円)	1.38 (1.30)
		雇用効果		
		(北九州市内)		
		136～139人(就業者ベース)		
		121～124人(雇用者ベース)		

※下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館事業については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。

※図表に表記されている数値は100万円未満を四捨五入しているため、誤差が生じている箇所がある。

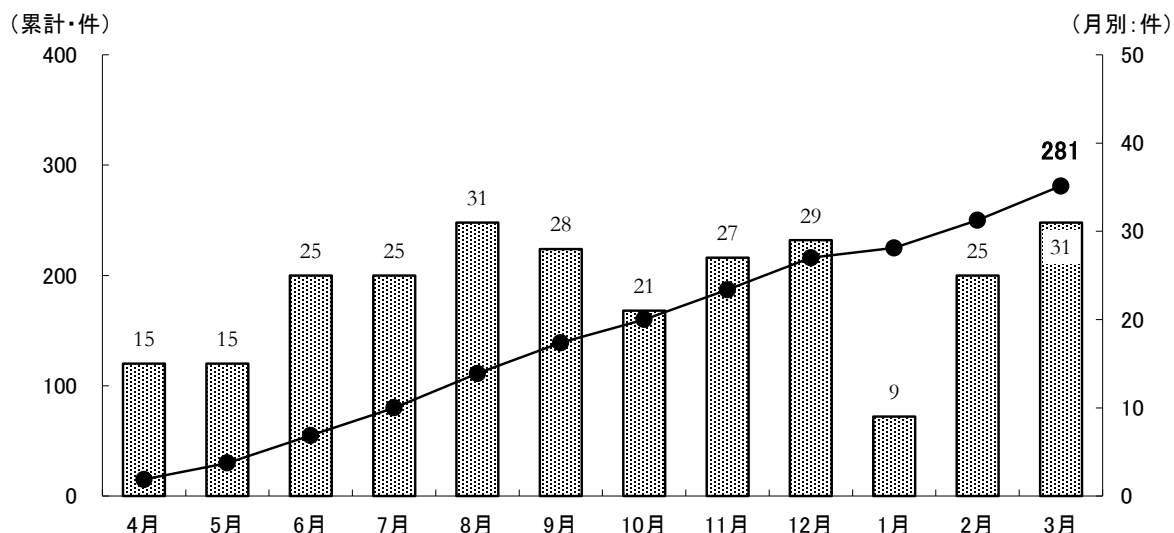
2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、03年度から新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出しており、17年度も継続してパブリシティ効果の算出を行なった。

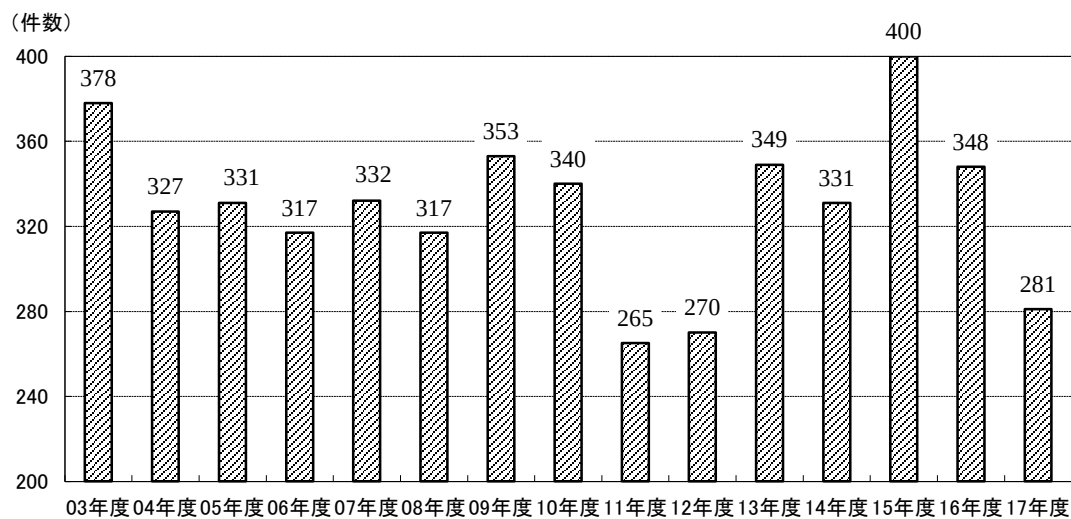
(1) 「北九州芸術劇場」をキーワードとした17年度の掲載記事の件数と内容

- 17年度についてみると、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は281件(図表4-2)である。
- 03年度は開館年度ということで話題性が高く、掲載記事の件数也多かった。04年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事がコンスタントに掲載されている。11年度は過去最少の掲載件数となったが、その要因は2011年3月11日に発生した東日本大震災を扱った記事が、長期間紙面を占めたことが考えられる(図表4-3)。

図表4-2 月ごとの掲載件数と累計(17年度)



図表4-3 年度ごとの新聞記事掲載件数の推移(03年度～17年度)



資料) 図表4-2、4-3ともに「日経テレコン」記事検索の結果より作成

- 新聞別に見ると、17年度で掲載が最も多いのは西日本新聞(114件)、次いで、朝日新聞(55件)、毎日新聞(45件)、読売新聞(31件)、日経新聞(5件)となっている。その他、九州各県をはじめとする地方新聞は31件となっている(図表4-4)。

図表4-4 新聞別件数一覧(03年度～17年度)

	西日本新聞	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞	日本経済新聞	その他	計
03年度	151	78	58	40	34	17	378
04年度	147	52	31	61	32	4	327
05年度	149	48	34	46	37	17	331
06年度	149	60	20	31	37	20	317
07年度	120	74	32	28	50	28	332
08年度	119	62	33	36	41	26	317
09年度	131	80	43	45	34	20	353
10年度	146	73	30	31	35	25	340
11年度	101	59	33	28	18	26	265
12年度	111	64	27	30	17	21	270
13年度	128	73	43	36	17	52	349
14年度	120	61	38	35	30	47	331
15年度	175	61	55	50	12	47	400
16年度	163	57	47	39	6	36	348
16年度	114	55	45	31	5	31	281

資料)「日経テレコン」記事検索の結果に基づく

- これら記事を、
 - ① 北九州芸術劇場の公演紹介・取材記事、劇評など
 - ② 北九州芸術劇場のPRキャンペーン、劇場主催事業の紹介記事
 - ③ 情報コーナーなどでの公演情報の提供等
 - ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事(会場名が「北九州芸術劇場」)
 - ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベントの情報提供(会場名が「北九州芸術劇場」)
 の5種類に分類し、北九州芸術劇場として記事性の高い①、②、および③のうち公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、160件であった(16年度:169件)。
- その内容を、「主催/提携・協力事業」、「学芸事業」、「貸館事業」、「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、59件、16件、62件、23件であった(図表4-5)。

(2) 広告掲載料をベースとした金額換算と評価

- これら160件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約1億5,300万円という結果となっている(図表4-6)。
- 03年度は開館、04年度は「とびうめ国文祭」で話題性が高く、掲載記事の件数・文字量が多かったため、換算金額も高くなった。
- 05年度は全国展開型の創造事業の公演数が多く、06年度は朝日舞台芸術賞グランプリを獲得し、全国紙の掲載件数が多かった。広告の単価は全国紙で高いため、05年度と06年度は全体の掲載件数は突出して多くはないが、換算金額が高いという結果になっている。

- 07年度以降は、コンスタントに劇場事業や関係する劇団の記事などが掲載されるようになっている。
- 17年度の掲載内容をみると、西日本新聞、朝日新聞(西部)、読売新聞(西部)での演劇や舞台に関する批評・紹介欄で、公演事業に関する記事が掲載されている。九州他県の地方紙でも紹介されており、北九州市域外での劇場事業の定着が新聞記事からうかがえる。
- 17年度は「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」、「ゴジゲン」、「九州男児劇」、「関数ドミノ」といった公演事業や、「10万年の寝言」、「どこをどうぶつる」、「シアターラボ」などの学芸事業に関する紹介記事も多い。
- 17年度は貸館事業に関する紹介記事が62件となっている。紹介が多かった内容は、林芙美子文学賞の表彰式、「年長者の祭典」における加藤一二三氏の講演などが挙げられる。
- 17年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約5,200万円であり、劇場事業のパブリシティ効果(約1億5,300万円)は補助金の規模を大幅に上回る成果を生み出していると言える。

図表4-5 新聞掲載記事の内容と件数(03年度～17年度)

	主催/提携 ・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	70	8	46	56	180
2004年度	54	5	43	61	163
2005年度	75	25	34	25	159
2006年度	88	17	35	23	163
2007年度	85	12	31	26	154
第1期 平均	74	13	38	38	164
2008年度	55	12	50	32	149
2009年度	86	11	57	23	177
2010年度	82	28	55	22	187
2011年度	41	8	42	15	106
2012年度	37	19	49	17	122
第2期 平均	60	16	51	22	148
2013年度	51	31	58	40	180
2014年度	65	28	40	25	158
2015年度	72	25	66	24	187
2016年度	60	16	79	14	169
2017年度	59	16	62	23	160
第3期 平均	61	23	61	25	171
累計	980	261	747	426	2,414

図表4-6 新聞掲載記事の内容と金額換算(03年度～17年度)

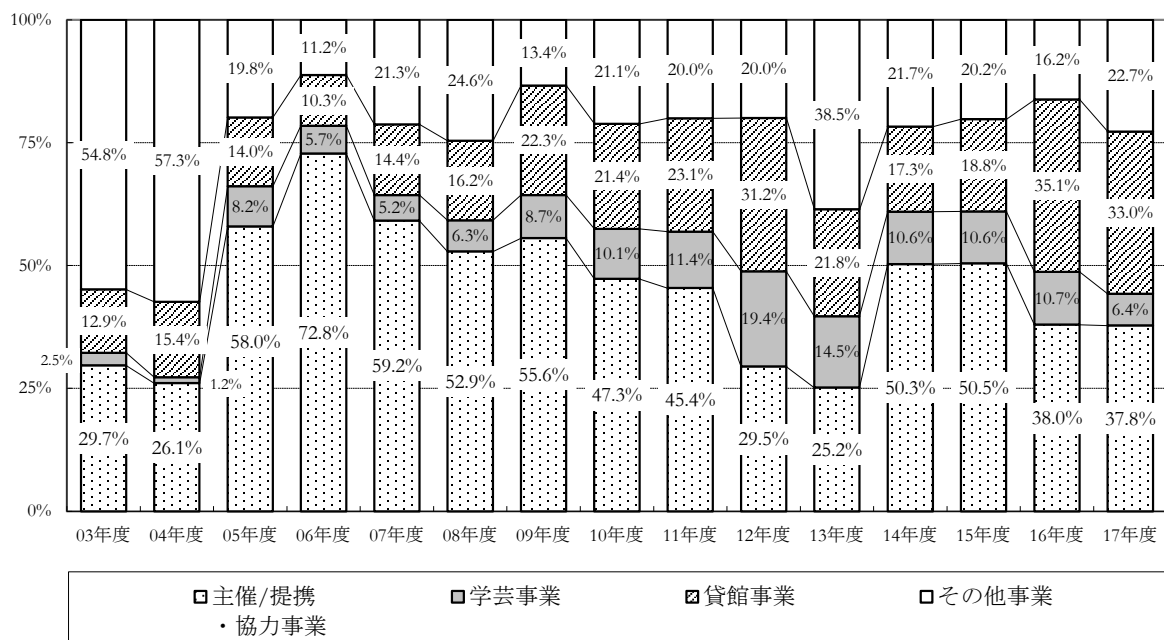
(金額: 千円)

	主催/提携 ・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	62,140	5,331	27,072	114,683	209,226
2004年度	46,211	2,141	27,235	101,577	177,164
2005年度	110,044	15,505	26,622	37,678	189,849
2006年度	160,243	12,451	22,741	24,680	220,115
2007年度	66,027	5,777	16,056	23,737	111,597
第1期 平均	88,933	8,241	23,945	60,471	181,590
2008年度	66,588	7,926	20,392	30,961	125,867
2009年度	65,542	10,316	26,293	15,755	117,906
2010年度	64,078	13,718	28,986	28,598	135,380
2011年度	42,162	10,621	21,443	18,563	92,789
2012年度	31,969	21,021	33,825	21,646	108,461
第2期 平均	54,068	12,720	26,188	23,105	116,081
2013年度	41,879	24,104	36,272	64,035	166,291
2014年度	104,207	22,050	35,890	44,928	207,075
2015年度	97,930	20,472	36,429	39,170	194,002
2016年度	56,447	15,910	52,070	24,061	148,488
2017年度	57,825	9,840	50,418	34,746	152,829
第3期 平均	71,658	18,475	42,216	41,388	173,737
累計	1,073,293	197,183	461,744	624,819	2,357,039

※ 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

- また、事業ごとの掲載割合を金額換算ベースで見た場合、09年度の時点で過半数の割合だった主催/提携・協力事業の割合が年々減少し、学芸事業、貸館事業、その他事業の割合が年々増加してきたが、14年度は主催/提携・協力事業の割合が13年度に比べて大幅に増加した。17年度は貸館事業の割合が開館以降で16年度に次いで高い割合となっている(図表4-7)。

図表4-7 事業ごとの掲載割合 [金額換算値ベース](03年度～17年度)



第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果

最後に、2003年度から17年度までの15ヶ年の北九州芸術劇場の事業評価結果をとりまとめた。07年度までは、初年度(2003年度)の調査研究で設定した事業評価の基本フレームで整理していたが、08年度に、(一財)地域創造の「公立ホール・公立劇場の評価指針」(2007年3月)の評価フレームに基づいて再整理し、今年度もそれに沿ってとりまとめを行った。

1. 評価フレームの考え方

「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレームは、「A.設置目的」、「B.管理運営」、「C.経営」という3つの戦略・評価軸を設定し、それぞれに評価大項目(戦略目標)を設定、さらに評価中項目(戦略)とそれを評価するための評価指標・基準を設定している。

図表5-1は、A、B、C、3つの戦略・評価軸の評価大項目を整理したものである。

図表5-1 「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレーム(評価軸と評価大項目)

戦略・評価軸		No	評価大項目
A	劇場の設置目的	A-0	劇場のミッション
		A-1	鑑賞系事業
		A-2	創造系事業
		A-3	普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など
		A-4	普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)
		A-5	市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)
		A-6	地域への貢献①(地域経済への波及効果など)
		A-7	地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップなど)
		A-8	広域施設としての役割発揮
B	管理運営	B-1	場の提供・支援(貸館)
		B-2	施設のホスピタリティ・サービス
		B-3	施設の維持管理
C	経営	C-1	経営体制
		C-2	リサーチ&マーケティング
		C-3	経営努力

- 17年度は、上記図表5-1の基本フレームに基づいて、03年度から17年度の15ヶ年で把握したデータや情報をあらためて整理した。

2. 評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果は、図表5-3に一覧表として整理し、そのポイントを以下に記述した。 ※割合(%)の記載は、小数点以下を四捨五入して掲載した(図表5-3も同様)。

A. 劇場の設置目的

A-0 ミッション 「創る」「育つ」「観る」「支える」

①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等

- 劇場では開館初年度から、「創る」「育つ」「観る」の3つの運営方針を設定している。開館10周年の節目を経過し、新たな一步を踏み出すため、4つめのキーワードとして、14年度から「支える」が加わった。
- 14年度から、4つの運営方針に基づき、北九州からの発信と地元演劇人の発掘、育成を意識した創造事業、舞台関係者の育成や子どもや学校、一般市民などを対象とした積極的な学芸事業、小劇場・現代演劇に多様なラインナップを揃えた公演事業、市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を展開し、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業が一体となった事業を実施している。
- 10年度に実施した座談会では「地域文化振興における北九州芸術劇場の役割」というテーマを設定したところ、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。
- 16年度に実施したグループインタビューでは「まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わり」をテーマに設定したところ、教育や福祉といった分野の団体からは、劇場との協働を通じた地域の人材育成が成果であるという見方が多く、地域経済の担い手である企業からは、組織文化の醸成や地域のイメージアップが成果だと捉えている。

②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)

- 観客の運営方針への支持率※は、「創る」「育つ」「観る」いずれについても、開館の03年度から継続して90%を超えている。

※「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

③劇場の来場者(利用者)数

- 北九州芸術劇場への年間来場者(利用者)数は、05年度以降、毎年27～28万人で推移しているが、17年度は約28万人となった。また、この15年間で利用者数は延べ418万人を超えた。17年4月1日現在の北九州市の人口(推計値)は約95万であり、すでに人口の4倍以上の利用者が来場したことになる。
- 開館以来、北九州劇術劇場を地域になくてはならない施設として定着させていくために積み重ねてきた事業や運営の成果が利用者数の安定にも表れてきており、今後も引き続き、5年後、10年後を見据えた長期的な事業の展開と継続が必要であろう。

A-1 鑑賞系事業 「観る」

「観る」: 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施

- 17年度も、「観る」(鑑賞事業)では、中劇場を中心とした小劇場・現代演劇、話題性・芸術性の高い現代舞踊など幅広いラインナップの公演が行われ、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場している。

②年間延べ観客数

- 17年度の公演事業については、16事業で75回の公演が行われた。入場者数は14,447人、

入場率は90%である。

- 創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、35事業、公演回数は174回。入場者数は29,671人、入場率は90%となっている。

③公演に対する観客の満足度

- 観客調査の結果から公演(主催／提携・協力事業)に対する観客の満足度をみると、開館年度(03年度)から継続して「(本日の)公演内容」への満足度の高さが顕著である。17年度も満足層の割合※は98%で、そのうち無回答を除いた「たいへん満足」の割合が76%と、観客からの高い評価を得ている。なお、この公演に対する観客の満足度には、次項の「創造系事業」も含まれる。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

- あわせて、「(本日の)公演のチケット料金」も満足層の割合は95%であり、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映されていると考えられる。

④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価

- 09年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、魅力的な作品を招聘しているという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。
- 09年度のグループインタビューで、九州圏域の劇場関係者・演劇人や首都圏の劇場関係者ともに、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合に連携や機能分担が重要になるだろうという点は共通認識であった。北九州芸術劇場としては、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。

A-2 創造系事業 「創る」

【創る】：北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。

①ミッションに基づいた創造系事業の実施

- 17年度も、全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な創造系事業が実施された。
- プロデュース公演シリーズ初の再演も行われた「彼の地」の新作、「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」を北九州(8回)、東京(3回)、豊橋(2回)で公演を行った。
- 入場率では「Re:北九州の記憶」で94%となっている。創造系事業全体の入場率が90%を超えており、市民からの支持の高さがうかがえる。
- 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、創造系事業を効果的に実施し、地域に根付かせていこうとする努力の成果がうかがえる。また、プロデュース作品の東京などでの公演によって、北九州芸術劇場の全国発信に貢献している。

②年間延べ観客数

- 17年度、「創る」では、5事業で45回の公演が行われ、入場者は3,641人、入場率は平均で92%と高い入場率となっている。

③創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果

- 10年度の座談会では、例えば劇場と美術館との共同制作や、伝統工芸を取り入れた衣装や舞台美術のデザインなど、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せ

られた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。

- 09年度の首都圏の劇場関係者によるグループインタビューでは、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、九州圏域の劇場関係者や演劇人も共通して北九州芸術劇場の次なる目標として期待しているのは、アジアとの国際交流や創造・発信への取り組みであった。

A-3 普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など

〔育つ〕:アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。

①ミッションに基づいた普及系事業の実施

- 「育つ」については、普及系事業を継続的に実施している。17年度は、初めて出会った仲間たちと一緒に2つの劇場体験コースの中で、劇場や演劇に触れる5日間のワークショップ「夏休み！子どもの劇場体験2017」といった、市民が舞台芸術に触れる機会や創造参加への機会の提供に取り組んでいる。
- 11年度からの「アーティスト往来プログラム」は、同じアーティストが「アウトリーチ」と「インリーチ」でアプローチの対象や内容を変化させることで、劇場と学校や地域との間に、より多様な関係を生み出そうとする意図がうかがえる。

②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数

- 17年度の主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は83回、参加延人数は1,634人。

③講座・ワークショップ参加者の満足度

- 15年度に実施したワークショップ参加者を対象としたアンケート調査によると、講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高く、参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度は94%(うち「たいへん満足」は64%)となっている。
- 「たいへん満足」の割合の高い項目は、劇場係員の対応(78%)、講座・ワークショップの講師(74%)、内容(66%)となっている。

④参加者が事業から得たもの(事業の効果)

- 15年度に実施したワークショップ参加者を対象としたグループインタビュー調査によると、ワークショップに参加したことが、表現の技術や活動をさらに向上させたり、活動の展開を広げたりするきっかけや意欲を持つことにつながっている。
- さらに、自分自身の価値観や生き方が大きく変わったり、参加者相互が家族のようにつながったりするような、人生や人間関係に少なからず影響を与えている意見も聞かれた。

A-4 普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)

①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容

- 17年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画第五弾「10万年の寝言」、北九州市立響ホールと連携し、一流の演奏家によるコンサートと楽しいトークを500円で提供する「ワンコインコンサート」、到津の森公園と連携で開催したガイドツアーとダンスワークショップ「どっちが動物園!？」等を行った。
- 「アーティスト往来プログラム」では、市内の小学校のほか、北九州市身体障害者福祉協会

アートセンターでのアウトリーチなど、教育・福祉関係での活動に取り組んだ。

②学校等と連携したプログラム数と参加人数

- 17年度に学校、福祉施設等との連携したアウトリーチなどの回数は44回、参加延人数は1,354人となっている。
- 16年度に実施したグループインタビューで、連携事業を行う高等学校の教員から「今年の3年生18名のうち『演劇関係のスタッフや専門の勉強をしたい』と言う生徒が、4、5人いて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事を始めて、学校とも地域ともつながっていくといい」という意見も聞かれた。

A-5 市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)

① ミッションに基づいた市民活動支援の実施

- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業を実施しており、17年度は、合唱物語「わたしの青い鳥2017」、「ダンスダイブウィーク」、「Re:北九州の記憶」の3事業で50回のワークショップやアウトリーチなどが実施された。受講延人数・入場者数の合計は1,098人。
- 合唱物語「わたしの青い鳥」は04年度から継続実施されている事業で、市民に定着していることがうかがえる。
- 10年度の座談会では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」との評価があった。

② 貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)

- 貸館利用者を対象とするアンケート調査で専門的・技術的サービスに関わる項目をみると、「技術スタッフの応対がよい」が99%、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」は100%と、満足層の割合は大変高い。関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」をみても、満足層の割合※は99%となっている。これらの項目では、「はい」という積極的な評価も高い。
- 劇場の専門的な技術サービスについては、利用者から高い信頼と評価を受けており、自由回答の書き込みも、それを裏付ける内容が多い(なお、09年度からテクニカルアドバイザーによるアドバイスの提供など、公演・講演に対する支援体制が強化された。)

A-6 地域への貢献①(地域経済などへの波及効果)

① 地域外からの来場者割合

- 観客アンケート結果をみると、07年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け(06年度:21%、07年度:31%、08年度:31%、09年度:33%、10年度:37%、11年度:34%、12年度:38%、13年度:44%、14年度:35%、15年度:40%、16年度:29%)、17年度は40%となっている。

②公演鑑賞に伴う消費行動

- 観客アンケートから鑑賞前後の消費行動をみると、17年度の飲食またはショッピングをした人の割合は50%。
- 飲食をしている割合は41%で平均金額は1,530円、ショッピングをしている割合は24%で平均金額は3,845円となっている。

※ 「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

② 経済波及効果

- 上記公演鑑賞に伴う消費行動も含めた17年度の経済波及効果を算出すると、最終需要は、劇場の管理運営が約6.6億円、主催事業が約2億円、主催事業の観客の消費支出が約1.7億円となっている。
- それらの経済波及効果は、約14.6億円である。
- また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約4.1～4.4億円、経済波及効果が約5.3～5.7億円である。
- 経済波及効果の誘発係数は、管理運営と主催事業（観客消費支出含む）で1.41、貸館を含めると1.38となっている。試算を始めた04年度以降、管理運営・主催事業の誘発係数は1.45～1.50で推移してきたが、産業連関表の更新を受けて誘発係数が低下したものの、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしていることが明らかとなっている。
- 雇用効果については、就業者ベースで136～139人、雇用者ベースで121～124人という結果となっている。

A-7 地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップ)

① シビックプライドの醸成

- 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り（シビックプライド）の一部となっていることは、10年度の座談会出席者の共通認識であった。その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。
- 16年度に実施したグループインタビューで、まちづくりを担う人材を、劇場が育てていくことを期待する意見が多く聞かれた。また、人材を含めた地元の資源を活用することや、資源をつなげるハブ（結節点）、あるいは発信拠点としての役割が、劇場に期待されている。

③ パブリシティ効果

- パブリシティ効果についてみると、北九州芸術劇場や劇場事業に関する17年度の記事掲載件数は160件。新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、17年度は約1億5,300万円となる。
- 17年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約5,200万円であり、劇場事業のパブリシティ効果は補助金の規模の約2.9倍の成果を生み出していると言える。

A-8 広域施設としての役割発揮

① 圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携

- 09年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、「困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする」といった意見が聞かれた。
- また、「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。
- 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。

② 当該文化施設の運営だけにとらわれない圏域全体の文化振興

- 北九州芸術劇場の事業や運営は福岡市にも波及している。「福岡のみならず九州圏域で、

今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要」との九州圏域の劇場・演劇関係者の意見が聞かれた。

- 今後の北九州芸術劇場あるいは(公財)北九州市芸術文化振興財団の長期的なビジョンには、地域版アーツカウンシルとしての役割や機能を視野に入れることが期待されるが、09年度のグループインタビュー調査では、九州圏域全体の舞台芸術環境を視野に入れたアーツカウンシルが求められていることが分かった。
- (公社)日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート(回答32件)によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。

B. 管理運営

B-1 場の提供・支援(貸館)[支える]

①ミッションに基づいた貸館事業の実施

- 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、14年度から「支える」として地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づけられている。

②貸館事業における入場者数

- 17年度の貸館の公演・講演事業数は228事業。計320回の公演・講演が実施され、入場者数は175,789人となっている。

③利用者の満足度

- 貸館利用者を対象とした利用者調査の結果では、劇場利用に関する総合的な満足度※は99%で、利用者のほぼ全員が満足している。また、今後の利用意向※も99%と高いことは、満足度の高さの現れといえよう。
- 具体的な項目をみても、スタッフの応対や説明などソフト面に対する満足度※は、「現在の開館時間は適当である」を除いて95%以上と非常に高い。また、「はい」という積極的な評価の割合も高い。
- 05年度(利用者調査開始年度)以降、項目ごとに満足度は上下しているが、常に高い満足度を維持するべく、利用者の苦情や要望に対する劇場スタッフの前向きな対応の成果がうかがえる。

B-2 施設のホスピタリティ・サービス

①公演や催し物情報に関する満足度

- 開館年度(03年度)に満足度が65%であった「公演情報の入手のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続いてきたが、17年度は89%で16年度から2ポイントの減少(06年度:79%、07年度:81%、08年度:86%、09年度:87%、10年度:85%、11年度:90%、12年度:89%、13年度:88%、14年度:88%、15年度:83%、16年度:91%)となっている。

②ホスピタリティに関する満足度

- 03年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、17年度は91%で16年度から1ポイントの減少(06年度:79%、07年度:82%、08年度:87%、09年度:88%、10年度:89%、11年度:90%、12年度:89%、13年度:89%、14年度:92%、15年度:89%、16年度:92%)となっている。

※ 満足度は「たいへん満足」+「まあ満足」の割合、利用意向は「はい」+「どちらかと言えば『はい』」の割合。無回答は除く。

- 満足度の上昇は、①公演や催し物情報に関する満足度と同様に、開館から15年が経過し、観客が劇場に慣れてきたことであろうが、案内表示の増設や既存サインの大型化など、劇場側の工夫によるところも大きいといえる。
- 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は03年度から88%の高い満足度が少しずつ上昇し、17年度は97%となっている。

③スタッフの対応や電話対応等に関する満足度

- 03年度から満足度の高かった「劇場係員の対応」は、継続して高い満足度を保っており、17年度も98%と満足層の割合は非常に高い。また、「電話予約・チケットカウンターの対応」の満足度も98%で、劇場の顧客対応は高い評価を受けている。今後も高い満足度の維持に向けた取り組みが望まれる。
- 「チケットの予約・購入のしやすさ」は、03年度は53%と満足度項目のうち最も低かったが、04年度に73%に上昇、その後年々満足度は上昇し、オンラインチケット購入システムを導入した11年度以降およそ90%の満足度を維持したが、15年度に79%と10ポイント減少し、16年度は91%、17年度は90%と持ち直している。

④飲食に関する満足度

- 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、07年度に80%に達し、17年度は86%となっている。

B-3 施設の維持管理

①施設の維持管理

- 貸館利用者を対象としたアンケート調査をみても、劇場の施設や設備などのハード面で高い満足度となっている。特に、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「舞台設備・機器が充実している」、「設備・機器などを安全に使用できた」については、「はい」への回答が90%以上と大変高い評価となっている。また、05年度（利用者調査開始年度）以降、多くの項目で満足度は向上しており、劇場スタッフの努力がうかがえる。

②稼働率

- 施設稼働率は、大ホールが81%、中劇場が72%、小劇場が85%である。
- 開館年の03年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移しており、2016年度の（一財）地域創造の悉皆調査結果（2014年9月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70%）と比較しても高い水準にある。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。

C. 経営

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

C-3 経営努力

①外部資金、チケット収入の割合

- 北九州芸術劇場の17年度の事業費は2億324万円。財源内訳をみると、チケット収入が全体の39%、市の補助金が26%、文化庁と（一財）地域創造、その他助成金による外部資金が35%となっている。

②事業収支からみた経営努力

- 事業収支面でも、開館以来培ってきた交渉力や事業の効率性の向上、交通費や宿泊費に関する積極的な経費削減(団体割引の適用等)の努力が行われていることが数字からうかがえる。
- 17年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約1,030万円の減収、補助金等収入は約3,748万円の減収となっており、事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。

3. 事業評価の結果から－今後の事業評価の方向性と検討課題

北九州芸術劇場の事業評価調査では、03年度の開館年度から図表5-2のと通りの調査を行ってきた。

図表5-2 北九州芸術劇場における実施調査

調査内容	03 年 度	04 年 度	05 年 度	06 年 度	07 年 度	08 年 度	09 年 度	10 年 度	11 年 度	12 年 度	13 年 度	14 年 度	15 年 度	16 年 度
【継続調査】														
劇場運営基礎データの収集・分析	—													→
観客調査(アンケート)	—													→
貸館利用者を対象としたアンケート調査(実施:05年度～、整理・分析:07年度)			—	—	—									→
経済波及効果の算出		—												→
パブリシティ効果の把握	—													→
【テーマ調査】														
専門家による座談会(開場から1年間の劇場運営の成果について)		○												
市民意識調査(アンケート)			○											
ワークショップ参加者を対象とした学芸調査(アンケート/グループインタビュー)		○												
学校を対象とした学芸調査(アンケート)					○									
(舞台芸術の公演による)劇場使用者へのグループインタビュー				○										
劇場スタッフへのグループインタビュー						○								
北九州芸術劇場の広域的役割と長期的ビジョンに関するグループインタビュー							○							
舞台芸術以外の分野から見た北九州芸術劇場の役割(座談会)								○						
北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化										○				
北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年											○			
舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場												○		
ワークショップ参加者を対象とした調査													○	
まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査														○

最後に、今後の事業評価を継続する上で、検討・留意すべきだと考えられる事項を、次の7点に整理した。

①継続調査

経年変化による劇場運営、事業に関する満足度やニーズの分析のためにも、上記5つの継続調査を引き続き実施し、データや情報を蓄積することが望まれる。

②地域や市民への効果を把握するための定性調査

また、劇場が地域や市民に与える波及効果や影響を把握するため、定性調査の実施も検討したい。近年、劇場と地域との連携がより強く求められる中、①観客(あるいはチケットクラブ会員)、②創造事業や市民参加事業に参加した市民、③地域(市民センターなど)でのアウトリーチ事業参加者などを対象としたグループインタビューや聞き取り調査を行い、劇場運営や事業に関する詳細な意見、成果を把握する機会が必要だと考えられる。また、2005年度の市民意識調査の実施から10年以上経過していることから、今後タイミングを見て、同様の市民調査の実施を検討する必要もある。

③劇場内部での事業評価の活用

2008年度の劇場スタッフへのグループインタビューからは、①この事業評価調査の結果も含めて、劇場内で蓄積しているデータを有効に活用していくこと、②評価結果について、係を越えた情報共有や振返りの機会を持つこと、が必要だという声が多かった。今後は、評価本来の目的である PDCA サイクル(Plan→Do→Check→Action)をより有効に機能させるためにも、事業評価調査の結果を現場での業務の振返りに有効活用するとともに、データの収集や整理にあたって、スタッフのより積極的な関わりを促していくことが重要だと考えられる。

④評価結果の公表と発信

北九州芸術劇場は、ホームページ上で劇場の運営方針を広く周知し、事業評価調査の報告書(本編)をホームページで公開するなど、市民へのアカウンタビリティに努めている。今後、評価結果も含め、劇場運営や事業の成果に関する市民への情報発信をより一層強化するとともに、市民からの意見を聴取するためのしくみづくりを検討していく必要があるだろう。また、開館10周年という節目にあたり、これだけの長期間の評価の蓄積は、全国の公立文化施設や文化政策にとっても意義深い取り組みだと言える。公共劇場や文化関係者の間でその成果を共有するためにも、より積極的な公表や発信が望まれる。

⑤次の戦略構築への活用

また、次の北九州芸術劇場の戦略構築のために、これまでの事業評価の結果を活用することが望まれる。2009年度のグループインタビュー調査、2010度の座談会では、これまでの劇場の事業や運営を高く評価するとともに、それらを継続するだけでなく、次の目標設定とそれに向けた取り組みの必要性を指摘する意見があった。開館当初に設定した目標が徐々に達成されつつあることを考えると、ミッションの再確認や見直し、それに基づいた事業の再検討も視野に入れた取り組みが期待される。

⑥事業評価の再構築

前述した「次の北九州芸術劇場の戦略」に基づく事業評価の再構築も視野に入りたい。戦略や目標を設定し直せば、その評価のあり方も再検討する必要がある。この数年間、劇場に対する観客や貸館利用者の評価は、多くの項目で高評価となっている一方で、批評的な

観点からの課題や新たな要望が見えにくくなっている点も否めない。また、観客や利用者以外の市民、舞台芸術以外の芸術分野、あるいは劇場周辺の地域を越えて、多様なステークホルダー(利害関係者)との関係を広げていくことが2010度の座談会でも期待されている。

また近年、文化政策や文化プログラムなどの事業評価の手法そのものが変化しており、評価の理論的なフレームワークとして用いられることの多いロジック・モデルの手法などを北九州芸術劇場の事業評価にも取り入れることも考えられる。その試行として、2012年度のテーマ調査では、10年間の事業評価の主要な項目を、結果(アウトプット)、短期的・中長期的な成果(アウトカム)、直接的・間接的な影響や効果(インパクト)に分けて整理した。それらも踏まえた上で、評価の視点、指標のあり方、分析手法などについて見直し、評価フレームを次の段階へと進化させることが望まれる。

⑦次の10年を見据えた総括

北九州芸術劇場は、2013年8月に開館10周年を迎えた。これまでの事業評価の結果を見ると、その間、北九州芸術劇場は、積極的な事業や運営を継続、進化させ、それが観客をはじめとした市民や地域からの評価に結びついてきたと言える。開館後数年間で減速する公共劇場が少なくない中、10年間、開館当初のコンセプトに基づいて一定水準の事業や運営を継続してきたこと自体、高く評価すべきであろう。14年度からは、開館10周年の節目を経過し、新たな一步を踏み出すため、開館以来の事業の基本方針である「創る」「育つ」「観る」の3つをキーワードに加えて「支える」が加わった。今後、4つの基本方針が相互に好循環を生み出しながら、次の10年を見据えた事業を展開していくことが期待される。

図表5-3 政策評価フレームに基づいた評価結果一覧

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～17年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

※事業評価の結果を、定量評価(事業実績データ、アンケート調査データ)とともに、定性評価(グループインタビュー等)の結果も含めて総合的に整理した。

※「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準を網羅することを目的とはせず、基本フレームを活用することにより、北九州芸術劇場の事業実績や運営の状況を、体系的に把握することを目的としている。

※したがって、「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準とはすべてが一致するものではない。また、段階評価(達成度合いを自己点検できる解説式のモデル指標)項目については、劇場内部の自己評価であることから本報告書では掲載対象外としている。

A:劇場の設置目的

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-0	[ミッション] 「創る」 「育つ」 「観る」 「支える」	①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等	- 劇場では、開館年度から「創る」「育つ」「観る」の3つを運営方針として設定、14年度から「支える」が加わった。 [専門家との座談会/10年度]では、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価している。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。 [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/16年度]では、教育や福祉の団体からは、劇場との協働を通じた地域の人材育成が成果だという見方が多く、地域経済の担い手である企業からは、組織文化の醸成や地域のイメージアップが成果だと捉えている。	3つの運営方針への支持率は、観客、市民、九州圏域や全国の劇場関係者からも高い。 14年度から運営方針に加わった「支える」に対しても支持率は高いが、新たな方針が加わったことによる成果の広がりが望まれる。	- 劇場内部での、事業評価結果を活用したPDCAサイクルの実現のための議論の場の設定、きっかけづくり。 - 観客調査の継続。 - 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 - 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
		②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)	- 運営方針への観客からの支持率は、「創る」「育つ」「観る」いずれも開館年(03年)度から90%以上。 ○17年度 創る:97%、育つ:97%、観る:99%、支える:97% [観客調査/17年度] - 一般市民からの支持率も、「創る」「育つ」「観る」いずれについても80%以上。 ○創る:81%、育つ:90%、観る:90% [市民調査/05年度] ※支持率は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。割合(%)は小数点以下を四捨五入して掲載。	事業評価データ等を活用し、係を超えた振返りの機会づくりが必要。	
		③事業や運営に対する自己評価や振返り、運営データの蓄積	業務の振返り、データを蓄積・活用して評価や業務にフィードバックしていくことが必要だという認識が高い。[劇場スタッフへのグルイン/08年度]		
		④市民の劇場の認知度や劇場への意見	- 市民の劇場の認知度(劇場があることを「知っている」と回答した割合)は84%、知っている場合の来場・利用率は44%、来場したことがない場合の今後の来場意向は78%。 [市民調査/05年度] - 劇場に来場経験を持つ市民を増やすこと、劇場の存在を肯定的に考えてくれる市民を増やすことは、劇場スタッフへのグルインでも、業務を超えた共通の問題意識。 [劇場スタッフへのグルイン/08年度]	運営方針に基づいた長期的な事業の継続により、地域に浸透。	
		⑤劇場の来場者(利用者)数	年間来場者(利用者)数は、05年度から09年度まで毎年27～28万人で推移。10年度は1年間で31万人に増加した。17年度は約28万人。開館からの15年間で延べ418万人が来場。	北九州市の人口(17年4月1日現在)は約95万人であり、すでに人口の4倍以上の利用者が来場。	
A-1	[鑑賞系事業] 「観る」 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供します	①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施	- 小劇場・現代演劇、ダンス・現代舞踊など幅広いラインナップの公演事業を実施。 - 多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場。 ○年齢層 29歳以下:22%、30歳代:14%、40歳代:22%、50歳代:22%、60歳以上:21% 平均年齢:44歳。[観客調査/17年度] ○北九州芸術劇場での鑑賞経験 今日が初めて:23%、1～2回:12%、3～5回:16%、6回以上:36% - 北九州市域外(北九州市内+北九州近隣地域を除く)からの観客は、13年度が過去最高の割合(44%)。 ○06年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%⇒13:44%⇒14:35%⇒15:40%⇒16:29%⇒17:40%	小劇場・現代演劇を中心に、幅広い事業構成で、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客を集客。	- 観客調査の継続。 - 観客の意識やニーズを詳細に把握するための調査の実施。 - 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②年間延べ観客数	17年度の公演事業は16事業、公演回数は75回、入場者数は14,447人である。入場率は90%。 - 創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、35事業、公演回数は174回、入場者数は29,671人である。入場率は90%。	公演事業全体で極めて高い入場率。「観る」に対する観客・市民の支持率、公演内容に関する観客の満足度も極めて高い。	
		③公演に対する観客の満足度	- 開館年から「公演内容」への満足度の高さが顕著。満足層の割合は98%。「公演のチケット料金」への満足度も高く、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映していると考えられる。 - 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。) ○公演内容 03年度:96%⇒04:96%⇒05:97%⇒06:97%⇒07:98%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:97%⇒11:98%⇒12:98%⇒13:97%⇒14:97%⇒15:98%⇒16:98%⇒17:98% ○公演のチケット料金 03年度:86%⇒04:88%⇒05:92%⇒06:90%⇒07:92%⇒08:93%⇒09:93%⇒10:91%⇒11:94%⇒12:94%⇒13:93%⇒14:94%⇒15:92%⇒16:94%⇒17:95%[観客調査/17年度] 「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感が生まれているとの評価があった。その信頼感によって、北九州以外の他の都市からの観客を北九州市に吸引しているとの意見があった。[専門家との座談会/10年度]	「観る」という方針では、福岡市と何らかの機能分担をした上で、「創る」、「育つ」、「支える」に重点を置いていくことも、将来のひとつの方向性だと考えられる。 - 公演事業の質に対する信頼感の形成と、他都市からの観客の吸引力。	
		④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価	- 公演事業での劇場利用者からも、劇場の運営方針や実施事業への支援の声、期待の声が大きい。特に、劇場スタッフの対応については、人間関係・信頼関係が作れる劇場であるとの評価が高い。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度] [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]でも、魅力的なものと呼んでいるという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。 [全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]では、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。	- 北九州市域外からの観客も増加しており、九州の鑑賞拠点として、劇場が認知・評価されている。中長期的な市域内と市域外との集客バランスの検討。 - 観客調査のアンケートにおける無回答の割合が増加している。	

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-2	[創造系事業] 「創る」 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していきます	①ミッションに基づいた創造系事業の実施	● 全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な事業が実施されている。 ● 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、効果的に事業を展開している。 ● 17年度はプロデュース作品「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」を北九州(8回)、東京(3回)、豊橋(2回)で公演を行った。	● 高い入場率を確保。市民に事業が定着していること、地域からの注目度の高さがうかがえる。 ● 「創る」に関する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ● 九州圏域や全国に視野を広げても、北九州芸術劇場の「創る」事業には大きな期待が寄せられている。 ● 今後の北九州芸術劇場の運営にとって、アジアとのつながりは重要な戦略の一つと考えられる。 ● 美術館との共同制作など、舞台芸術以外の分野との協働の模索。	● 観客調査の継続。 ● 創造系事業参加者の意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 ● 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②年間延べ観客数	● 17年度は、5事業で45回の公演が行われ、入場者は3,641人。入場率では平均で92%。 ● 「Re:北九州の記憶」で94%となっており、創造系事業全体の入場率が90%を超えている。		
		③創造系事業の公演に対する観客の満足度	● 鑑賞系事業③を参照		
		④創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果	● 北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから「劇団相互、あるいは北九州・福岡の連携が強まった」、「役者や劇団のレベルアップになった」と評価。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度] ● [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]でも、利用の自由度の高さやスタッフの専門性の高さが評価されている。 ● [専門家との座談会/10年度]では、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。 ● [全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]では、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。次なる目標としてアジアとの国際交流や創造・発信への取り組みが期待されている。		
A-3	「育つ」 アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指します [普及系事業①] 主に劇場内で実施するワークショップや講座など	①ミッションに基づいた普及系事業の実施	● 普及系事業を継続的に実施。17年度も、 ○初めて出会った仲間たちと一緒に2つの劇場体験コースの中で、劇場や演劇に触れる5日間のワークショップ「夏休み！子どもの劇場体験2017」 ○「アーティスト往来プログラム」として、多彩な講師を招いた「ワークショップ」、「アウトリーチ」などの多様なプログラムを実施。 ● 11年度からの「アーティスト往来プログラム」は、劇場と学校や地域との間に、より多様な関係を生み出そうとする意図がうかがえる。	● 「育つ」に対する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ● ワorkshopや講座参加者の事業に対する満足度は極めて高く、参加したことで鑑賞活動や日常生活の中に多様な効果が生まれている。 ● 学校との連携事業については、演劇を活用した事業が子どもたちの表現力やコミュニケーション力への効果に期待が高い。長期的な視点で、まず事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 ● 地域と連携した事業については、演劇を活用した事業が地域コミュニティに及ぼす効果など、長期的な視点で、事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。	● 事業参加者、関係する地域・施設等を対象とした意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 ● 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 ● 長期継続の学芸事業による定量的・定性的な成果を把握するための調査の検討。
		②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数	● 17年度は、主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は83回、参加延人数は1,634人。 ● 「アーティスト往来プログラム」や「ダンスダイブウィーク」など、地域と劇場との関係を積極的に開拓するような企画内容が多く見られる。		
		③講座・ワークショップ参加者の満足度	● 講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高い。[学芸調査・アンケート/15年度] ○参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度 満足層:94%、うち「たいへん満足」:64% ○「たいへん満足」の割合が高い項目 劇場係員の対応(78%)、講座・ワークショップの講師(74%)、内容(66%)		
		④参加者が事業から得たもの(事業の効果)ー講座・ワークショップ	● 講座やワークショップに参加したことで、参加者は次のような効果があったと感じている。[学芸調査・アンケート/15年度] 「人間関係に広がりが生まれた」(70%)、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」(53%)、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」(53%)、「舞台づくりや劇場について新たな発見があった」(52%)、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」(46%)など。 ● グループインタビューでも、人生や人間関係に少なからず影響を与えている意見も聞かれた。[学芸調査・グルイン/15年度]		
A-4	[普及系事業②] アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など	①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容	● 17年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画第五弾「10万年の寝言」、北九州市立響ホールと連携し、一流の演奏家によるコンサートと楽しいトークを500円で提供する「ワンコインコンサート」、到津の森公園と連携で開催したガイドツアーとダンスワークショップ「どっちが動物園！？」等を行った。 ● 17年度に実施した「アーティスト往来プログラム」では、市内の小学校のほか、北九州市身体障害者福祉協会アートセンターでのアウトリーチなど、教育・福祉関係での活動に取り組んだ。		
		②学校等と連携したプログラム数と参加者数	● 学校との連携事業への評価 [小学校を対象としたアンケート調査/07年度] ○事業経験者の約8割は、演劇を活用した事業が子どもたちに与える効果を実感。 ○具体的には、「自分の考えや気持ちを表現する力」(80%)、「豊かな感受性や想像力」(61%)、「人とコミュニケーションする力」(52%)については、効果を実感している先生が多い。 ○先生自身も「子どもたちそれぞれの個性や能力をより理解できるようになった」(72%)等の効果を実感。 ○事業に参加した先生では、今後の劇場との連携の意向も高い(連携したいと思う割合:83%)。 ● 17年度に実施した学校、福祉施設等との連携したアウトリーチなどの回数は44回、参加人数は1,354人となっている。 ● [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/16年度]では、連携事業を行う高等学校の教員から「今年の3年生18名のうち『演劇関係のスタッフや専門の勉強をしたい』と言う生徒が、4、5人いて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事を始めて、学校とも地域ともつながっていくといい」という意見も聞かれた。		

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-5	[市民文化活動支援] 市民参加型事業、貸館事業におけるアマチュア支援など	①ミッションに基づいた市民活動支援の実施	- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業やアウトリーチを実施。 17年度は、合唱物語合唱物語「わたしの青い鳥2017」、「ダンスダイブウィーク」、「Re:北九州の記憶」などの3事業で50回のワークショップやアウトリーチなどが実施された。受講延人数・入場者数の合計は1,098人。 - 合唱物語「わたしの青い鳥」は、04年度からの継続事業。 [専門家との座談会/10年度]では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」と高く評価。	- 市民参加型事業には継続事業が多く、市民からの支持がうかがえる。 - 貸館事業における専門的、技術的支援については、ほぼ100%の高い評価。	- 貸館調査の継続。 - 市民参加型事業、アマチュア支援に関する調査手法の検討。 - 開館以降継続してきた事業の参加者に対するインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
		②貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)	- 貸館利用者への専門的・技術的アドバイスについては、「技術スタッフの対応がよい」が99%、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」が100%の大変高い満足度。 - 関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」も99%の高い満足度。[貸館調査/17年度]		
A-6	[地域への貢献①] 地域経済などへの波及効果	①地域外からの来場者割合	06年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け、17年度は40%となっている。 ○地域外からの来場者割合 06年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%⇒13:44%⇒14:35%⇒15:40%⇒16:29%⇒17:40%[観客調査/17年度]	- 北九州市域外からの来場者が増加していることは、舞台芸術の鑑賞拠点としての北九州芸術劇場の認知度、評価が向上しているものと考えられる。 - 観劇に伴う観客の消費活動も活発。劇場の事業規模に応じた経済効果が発生している。 - 今後、集客のためにも、より劇場と地域(北九州の街、近隣商店街、大学等)との連携を深めるための、積極的な方策の検討が望まれる。	- 地域(地域経済)への波及効果の測定手法、評価項目の検討。 - 継続調査の実施、精度アップ(劇場管理運営費、事業費の振り分け、観客消費支出の精度アップ)。 - 所得増、雇用増、税収増の試算。 - 貸館事業に伴う経済波及効果の精度アップ(貸館事業者、貸館事業観客へのアンケート調査)。 - 開館以降の地域(地域経済)へのインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
		②公演鑑賞に伴う消費行動	- 鑑賞前後のショッピングの消費行動をみると、17年度の飲食・ショッピングをしている人の割合は50%。 - 飲食をしている場合の平均金額は1,530円、ショッピングの場合は3,845円。[観客調査/17年度]		
		③経済波及効果	17年度の経済波及効果を算出すると、 ○最終需要 劇場の管理運営:約6.6億円、主催事業:約2億円、主催事業の観客の消費支出:約1.7億円 (参考値)貸館事業に基づいた最終需要:約4.1～4.4億円 ※試算 ○経済波及効果 約14.6億円 (参考値)貸館事業に基づいた経済波及効果:約5.3～5.7億円 ※試算 - 経済波及効果の誘発係数は、 ○管理運営・主催事業・主催事業観客消費支出:1.41 ○貸館を含めた消費支出:1.38 04年度以降、運営管理・主催事業の誘発係数は、事業規模により1.45～1.50で推移してきたが、産業連関表の更新を受けて誘発係数が低下したものの、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしている。 - 雇用効果は、就業者ベースで136～139人、雇用者ベースで121～124人。		
A-7	[地域への貢献②] 地域アピール、ブランド力のアップ	①シビックプライドの醸成	- 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、10年度の座談会出席者の共通認識であった。 - その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。[専門家との座談会/10年度] [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/16年度]では、まちづくりを担う人材を、劇場が育てていくことを期待する意見が多く聞かれた。また、人材を含めた地元の資源を活用することや、資源をつなげるハブ(結節点)、あるいは発信拠点としての役割が、劇場に期待されている。	- 毎月コンスタントに掲載されていること、全国紙・地方紙でも事業が紹介されていることなど、劇場事業の定着と広がり进行评估。 - 新聞掲載記事の広告宣伝費への換算金額は、市の事業に対する補助金(約5,200万円)を大きく上回る規模であり、北九州芸術劇場の事業や運営が高いパブリシティ効果を生み出している。 - 北九州芸術劇場に関して、肯定的な意見が多いことは高く評価。一方、広い北九州市域の中で、劇場や劇場事業に関する情報をいかに市民に届けるかが検討課題。 - 北九州のシンボル、シビックプライドとしての評価の高まり。	- より精緻なパブリシティ効果の測定手法、および劇場の情報発信力を把握する評価手法の検討。 - 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 - 市民の劇場への意識・ニーズをより詳細に把握するための評価手法の検討。
		②パブリシティ効果	- 北九州芸術劇場や劇場事業に関する17年度の記事掲載件数は160件。 160件の新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、17年度は約1億5,300万円(16年度:約1億4,800万円)。 17年度では「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」、「ゴジゲン」、「九州男児劇」、「関数ドミノ」といった公演事業や、「10万年の寝言」、「どこをどうぶつる」、「シアターラボ」などの学芸事業に関する紹介記事も多い。		
		③劇場・ホール の存在を肯定的に考えている市民の割合	- 市民調査では、「これからの時代に必要な施設である」(46%)、「市の文化行政のシンボル」(35%)といった肯定的な意見への回答割合が高い。 - 劇場開設の効果として、鑑賞機会や日常生活の中で芸術文化に触れる機会が増えたとする市民が多い。 - 一方で、「情報が限られており、どんなことをやっているのかわかりにくい」という意見も多い(44%)。[市民調査/05年度] - 劇場スタッフのインタビューでは、広い北九州市の中でどのように地域に劇場や舞台芸術を浸透させていくのか、劇場を応援してくれる市民をどのように増やしていくのか、今後の検討課題としてあがっている。[劇場スタッフへのグルイン/08年度]		

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-8	〔広域施設としての役割発揮〕 圏域内の他施設の活動や文化振興に対する支援者の役割を果たします ＊「広域施設」とは主に都道府県立の公立ホール・公立劇場を想定	①圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携	● 舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする取り組みが生まれている。 ● 「シアターコラボ」「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」といった「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。〔九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度〕 ● 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。〔舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/14年度〕	● 今後、北九州芸術劇場が九州圏域に果たす役割には、より一層の期待が高まっている。 ● 「北九州モデル」としての成功を、他の地方自治体に発信・波及させながら、次なる目標を確立し、それに向かって挑んでいくことが必要。 ● 国や他の地方自治体（とくに九州圏域の県や市）との緩やかな連携も視野に入れて、地域版アーツカウンシルとしてのあるべき姿や北九州芸術劇場の位置づけを検討していくことが重要。	● 広域施設の役割を担うための「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
		②当該文化施設の運営だけにとられない圏域全体の文化振興	● 北九州芸術劇場の事業が、福岡市にも波及している。福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要である。〔九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度〕 ● 国のアーツカウンシルとは別に、地域版アーツカウンシルのようなものが北九州の文化振興ヴィジョンの中に入っているが、どのようにリアリティを感じさせるようにするかが大きな課題。〔全国の劇場関係者へのグルイン/09年度〕 ● 2003年に開館して以来、「創る」、「観る」、「育つ」という事業の考え方と、事業評価を行うことの二点において、北九州芸術劇場が公共劇場のスタンダードを形成してきたと言える。〔北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年/13年度〕 ● （公社）日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート（回答32件）によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。〔舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/14年度〕		

B:管理運営

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～17年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
B-1	「支える」 [場の提供・支援(貸館事業)]	①ミッションに基づいた貸館事業の実施	貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づける方向性。	- 総合的な満足度、今後の利用意向ともに100%近い割合であることは、利用者からの大きな評価。 - 貸館事業のソフトに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。	- 貸館調査の継続。 - 利用者の満足度に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②貸館における入場者数	17年度の貸館公演・講演は228事業。計320回の公演・講演が行われ、入場者数は175,789人。		
		③利用者の満足度	- 劇場利用に関する総合的な満足度は99%。今後の利用意向も99%と満足度はたいへん高い。 - ソフト面に関する12項目のうち、「開館時間が適当である」以外は、満足層の割合が95%以上。貸館事業におけるスタッフの応対への評価は高い。[貸館調査/17年度] 17年度では、16年度に比べて、「館内が清潔」、「劇場の広さ(客席数)がちょうどよい」、「搬入・搬出がやりやすい」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」、「設備・機器などを安全にしようできた」で「はい」への回答が増加している。		
B-2	[施設のホスピタリティ・サービス]	①公演や催し物情報に関する満足度	開館年度(03年度)に満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続いてきたが、17年度は89%で16年度から2ポイントの減少となっている。[観客調査/17年度] ○公演情報の入手のしやすさ 03年度:65%⇒04:73%⇒05:78%⇒06:79%⇒07:81%⇒08:86%⇒09:87%⇒10:85%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:88%⇒14:88%⇒15:83%⇒16:91%⇒17:89%	- 高い満足度は堅持し、低い満足度は大きく改善している。開館から10年が経過し、観客が劇場や鑑賞活動に慣れてきたこともあろうが、劇場側の工夫と努力が大きいと考えられる。 - 劇場のホスピタリティ・サービスに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。	- 観客調査の継続。 - 観客の意識・満足度・ニーズ把握に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②ホスピタリティに関する満足度	- 開館年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、17度は91%であった。 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は03年度から88%の高い満足度が少しずつ上昇し、17年度は97%となっている。[観客調査/17年度] ○案内表示 03年度:69%⇒04:74%⇒05:77%⇒06:79%⇒07:82%⇒08:87%⇒09:88%⇒10:89%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:89%⇒14:92%⇒15:89%⇒16:92%⇒17:91% ○デザイン・雰囲気 03年度:88%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:93%⇒07:94%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96%⇒11:97%⇒12:97%⇒13:96%⇒14:97%⇒15:95%⇒16:97%⇒16:97%		
		③スタッフの応対や電話応対等に関する満足度	「電話予約・チケットカウンターの応対」「劇場係員の応対」への満足度は大変高い。「劇場係員の応対」については、開館年度から90%以上の満足度を維持、17年度は98%であった。 - 開館年度(03年度)に満足度が低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、14年度には89%の満足度となっているが、15年度に79%に減少したが、16年度は91%、17年度は90%と持ち直している[観客調査/17年度] ○劇場係員の応対 03年度:92%⇒04:97%⇒05:98%⇒06:97%⇒07:97%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:98%⇒11:99%⇒12:99%⇒13:98%⇒14:97%⇒15:97%⇒16:98% ○電話・チケットカウンター 03年度:80%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:92%⇒07:93%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96%⇒11:97%⇒12:97%⇒13:95%⇒14:95%⇒15:95%⇒16:97%⇒17:98% ○チケットの予約購入 03年度:53%⇒04:73%⇒05:79%⇒06:80%⇒07:83%⇒08:90%⇒09:86%⇒10:84%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:89%⇒14:89%⇒15:79%⇒16:91%⇒17:90%		
		④飲食に関する満足度	劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、07年度に80%に達し、17年度は86%となっている。[観客調査/17年度] ○飲食サービス 03年度:73%⇒04:78%⇒05:79%⇒06:77%⇒07:80%⇒08:83%⇒09:86%⇒10:86%⇒11:88%⇒12:86%⇒13:85%⇒14:87%⇒15:87%⇒16:87%⇒17:86%		
B-3	[施設の維持管理]	①施設の維持管理	貸館調査でも、劇場の施設や設備などハード面で利用者からの満足度は大変高いが、搬入・搬出のしやすさについては複合施設でエレベーターを使用することから、他の項目に較べて満足度は低い。満足層の割合は次のとおり。[貸館調査/17年度] ○館内は清潔に保たれていた:100% ○劇場の広さ(客席数)がちょうどよい:97% ○舞台設備・機器は充実している:99% ○設備・機器などを安全に使用できた:99% ○ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい:100% ○搬入・搬出がやりやすい:99% ○楽屋など舞台裏の施設が使いやすい:100%	- 劇場利用者からの施設・設備の維持管理に関する評価は大変高く、今後も安心・安全な施設利用への取り組みが望まれる。 - スタッフからは、中長期の修繕計画が課題としてあげられている。	- 貸館調査の継続。 - 利用者の評価に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 - 施設の維持管理に関する詳細調査の検討。
		②稼働率	- 施設稼働率は、大ホールが81%、中劇場が72%、小劇場が85%である。 - 開館年の03年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移。全国平均(専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70%)と比較しても高い水準。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。		

C:経営

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～17年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
C-3	【経営努力】	①外部資金、チケット収入の割合	17年度事業費は約2億324万円。財源内訳は、チケット収入:約8,003万円(39%)、外部資金:約7,079万円(35%)、市の補助金:約5,242万円(26%)。 - チケット収入と外部資金の03年度からの比率をみると次のとおり。 ○チケット収入 03年度:54%⇒04:43%⇒05:37%⇒06:61%⇒07:52%⇒08:42%⇒09:65%⇒10:68%⇒11:53%⇒12:47%⇒13:52%⇒14:39%⇒15:59%⇒16:57%⇒17:39% ○外部資金 03年度:18%⇒04:20%⇒05:22%⇒06:14%⇒07:14%⇒08:15%⇒09:8%⇒10:15%⇒11:12%⇒12:13%⇒13:19%⇒14:22%⇒15:18%⇒16:14%⇒17:35%	チケット収入の割合の高さなど、劇場の営業努力、運営努力の成果として評価。	- 継続したデータ収集・分析の実施。 - 詳細調査の必要性の検討、実施。
		②事業収支からみた経営努力	17年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約1,030万円の減収、補助金等収入は約3,748万円の減収となっており、事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。		

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

北九州芸術劇場
事業評価調査
[資料編]



觀客調查結果

序 観客調査の実施要領

観客調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象: 2017年度に北九州芸術劇場で実施した主催事業および提携・協力事業公演32公演
- 配布・回収方法: 各公演の開演時に配布、終演時に回収(後日ファックス、郵送にて回収も受付)
- 実施時期: 2017年5月13日～2018年3月25日
- 有効回答数: 1,310件、回収率: 13.0%(配布数: 9,991件)
- 調査対象の公演名、会場、ジャンル、公演ごとの配布数、回収数等の詳細は、図表-資 I -1のとおりである。

図表-資 I -1 アンケート調査実施公演一覧

公 演 名	会 場	公演ジャンル	配布 日	配布 数	回収 数	回収率 (%)
ハムレット	大ホール	小劇場・現代演劇	5/13	1,233	101	8%
春のめざめ	中劇場	小劇場・現代演劇	6/4	648	67	10%
北九州芸術劇場プロデュース/市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥 2017」	中劇場	音楽劇	6/25	370	34	9%
平成 28 年度劇トツ優勝団体劇団公演 劇団ヒロシ軍 第 14 回本公演 十周年記念公演「誰かのための立ち位置」	小劇場	小劇場・現代演劇	7/15	83	22	27%
Mr.バンクの魔法のガラクタ	創造工房 ・稽古場	小劇場・現代演劇	7/15	51	3	6%
大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ 2017-海外編- 「アナのはじめての冒険」"One Morning I Left ..."	小劇場	小劇場・現代演劇	7/22	106	1	1%
子どものためのシェイクスピア「リア王」	中劇場	小劇場・現代演劇	7/28	317	39	12%
「とおのもののけやしき」	小劇場	小劇場・現代演劇	8/12	90	21	23%
親子のためのファミリー・ミュージカル 「ピノキオ～または白雪姫の悲劇」	中劇場	ミュージカル ・商業演劇	8/22	578	18	3%
MUM&GYPSY 10th Anniversary Tour 「クラゲノココロ モモノパノラマ ヒダリメノヒダ」 「＼＼＼＼かえりの合図、まてた食卓、そこ、きっと……」	小劇場	小劇場・現代演劇	9/2	114	16	14%
飛ぶ劇場 30th anniversary! 「生態系カズケン」	小劇場	小劇場・現代演劇	9/8	82	28	34%
DDW 井手茂太振付・演出作品 「ギミック」	小劇場	ダンス・現代舞踊	9/18	112	33	29%
DDW 即興公演 「ダンスと音楽、その瞬間・宇宙」	小劇場	ダンス・現代舞踊	9/23	81	2	2%
北九州芸術劇場ワンコインコンサート チリンとドロン〜歌とコントラバスのコンサート〜	小劇場	音楽劇	10/4	160	21	13%
「ロマン派症候群」	中劇場	小劇場・現代演劇	10/8	329	44	13%
関数ドミノ	中劇場	小劇場・現代演劇	10/21	579	64	11%
北九州芸術劇場＋市民共同創作劇 「Re：北九州の記憶」	小劇場	小劇場・現代演劇	10/28	78	12	15%
バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン 「LAST WORKーラスト・ワーク」	中劇場	ダンス・現代舞踊	10/31	382	36	9%
ゴジゲン 第 14 回公演「くれなずめ」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/11	70	7	10%
公共ホール現代ダンス活性化事業 田畑真希ダンス公演「Mockup Hurricane」	小劇場	ダンス・現代舞踊	11/19	74	4	5%
空晴 「遠くの花火」「もう一回の、乾杯。」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/25	60	12	20%
イキウメ「散歩する侵略者」	中劇場	小劇場・現代演劇	12/3	528	95	18%

公 演 名	会 場	公演ジャンル	配布 日	配布 数	回収 数	回収率 (%)
「ロッキー・ホラー・ショー」	大ホール	ミュージカル ・商業演劇	12/9	1,136	137	12%
穂の国とよはし芸術劇場 PLAT プロデュース 「荒れ野」	小劇場	小劇場・現代演劇	12/9	142	34	24%
ナイロン 100℃ 44th SESSION 「ちょっと、まってください」	中劇場	小劇場・現代演劇	12/16	445	66	15%
南河内万歳一座「びっくり仰天街」	小劇場	小劇場・現代演劇	12/16	96	18	19%
かがみのかなたはたなかのなかに	中劇場	小劇場・現代演劇	1/27	513	64	12%
北九州芸術劇場プロデュース 「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」	小劇場	小劇場・現代演劇	2/17	116	16	14%
アンチゴース	大ホール 舞台上	ミュージカル ・商業演劇	2/24	396	36	9%
北九州芸術劇場ワンコインコンサート カルテット・スピリタス サクソフォン四重奏コンサート	大ホール	音楽劇	3/7	519	136	26%
シアターラボ 2018 リーディング公演	創造工房 ・稽古場	小劇場・現代演劇	3/20	50	28	56%
山海塾「卵を立てることから一卵熱」 リ・クリエーション	中劇場	ダンス・現代舞踊	3/25	453	95	6%
計	—	—	—	9,991	1310	13%

(注) 配布数は、アンケートを配布する公演初日の入場者数と設定している。

(2) 調査項目

- 来場公演名、ジャンル(調査票の右肩に記載されている公演名から分類)
- 北九州芸術劇場での鑑賞活動(鑑賞した公演、公演に来た理由、情報入手経路)
- 公演内容や劇場サービスに対する満足度、総合満足度
- 運営方針に対する賛同
- 公演鑑賞前後の飲食やショッピング
- 日頃の芸術鑑賞活動(鑑賞頻度、北九州芸術劇場での鑑賞経験)
- 来場の妨げになっていること
- 基本属性(性別、年齢層、居住エリア、チケットクラブへの入会)

(3) 来場公演のジャンル、年齢の分類

①来場公演のジャンル

- 調査結果の集計にあたっては、ジャンルごとの傾向を把握するため、公演を「小劇場・現代演劇」、「音楽劇」、「ミュージカル・商業演劇」、「パフォーマンス」の4つのジャンルに分類した(例年では、「古典芸能(歌舞伎・能等)」、「パフォーマンス」を加えて集計しているが、2017年度は当該分野の事業が行われなかった)。また、2017年度の「音楽劇」には、「ワンコインコンサート」シリーズの2公演を含めて集計している。
- 調査対象32公演のジャンル分類は図表-資 I -1にも記しているとおり、
 - 小劇場・現代演劇:21公演 ※下記他ジャンルの13公演以外
 - 音楽劇:3公演…わたしの青い鳥2017／チリンとドロン～歌とコントラバスのコンサート／カルテット・スピリタス
 - ミュージカル・商業演劇:3公演…ピノキオ～または白雪姫の悲劇～／ロッキー・ホラー・ショー／アンチゴース

- ダンス・現代舞踊:5公演…井手茂太振付・演出作品「ギミック」／DDW 即興公演「ダンスと音楽、その瞬間・宇宙」／LAST WORKーラスト・ワーカー／Mockup Hurricane／山海塾「卵を立てることからー卵熱」リ・クリエーション

となっている。

※17年度のアンケート結果は、「小劇場・現代演劇」の観客が多いことに留意が必要であるが、劇場全体の公演プログラムとして「小劇場・現代演劇」が多いことを考えると、17年度の観客全体と回答者像に大きな乖離はないと考えられる。

②年齢層

- 実数で記載されている年齢については、年齢ごとの傾向を把握するため、「18歳未満」、「18～29歳」、「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「60歳以上」の6つの年齢層に分類した。

(4) 基本分析軸の設定

- アンケート調査結果の集計・分析にあたっては、鑑賞活動や満足度に関する傾向に顕著な差が出ると考えられる、「来場公演のジャンル」、「性別」、「年齢層」、「チケットクラブへの入会」、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」の5つを集計・分析の柱(基本分析軸)として設定した。
- なお、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」は、08年度までは「今日が初めて」「1～5回」「6回以上」の3分類としていたが、鑑賞経験の多い来場者が増えてきたことに伴い、09年度からは、「今日が初めて」「1～2回」「3～5回」「6～10回」「11回以上」の5分類としている。
- 基本分析軸の詳細は図表-資 I -2のとおりである。

図表-資 I -2 基本分析軸

基本分析軸	項目	回収数	占有率
全 体		1,310	—
来場公演の ジャンル n=1,310	小劇場・現代演劇	714	54.5%
	音楽劇	234	17.9%
	ミュージカル・商業演劇	191	14.6%
	古典芸能(歌舞伎・能等)	0	0.0%
	ダンス・現代舞踊	171	13.1%
	パフォーマンス	0	0.0%
性別 n=1,150	男性	227	19.7%
	女性	923	80.3%
年齢層 n=1,083	18歳未満	52	4.8%
	18～29歳	188	17.4%
	30歳代	150	13.9%
	40歳代	234	21.6%
	50歳代	236	21.8%
	60歳以上	223	20.6%
チケットクラブへの 入会 n=1,131	加入	286	25.3%
	未加入	845	74.7%
北九州芸術劇場 での鑑賞経験 n=1,139	今日が初めて	302	26.5%
	1～2回	157	13.8%
	3～5回	213	18.7%
	6～10回	173	15.2%
	11回以上	294	25.8%

(注1) 基本分析軸に無回答は含まない。

- (注2) 無回答の件数は、性別:160件、年齢層:227件、チケットクラブへの入会の有無:179件、北九州芸術劇場での鑑賞経験:171件である。「来場公演のジャンル」は、調査票にあらかじめ記載された公演名から分類するため、無回答はゼロである。

1 属性

(1) 性別	Q12
--------	-----

回答者の性別は、「男性」が19.7%、「女性」が80.3%と、「女性」の割合が高い。

[来場公演のジャンル別]

・いずれのジャンルでも「女性」の割合が高い。

[年齢別]

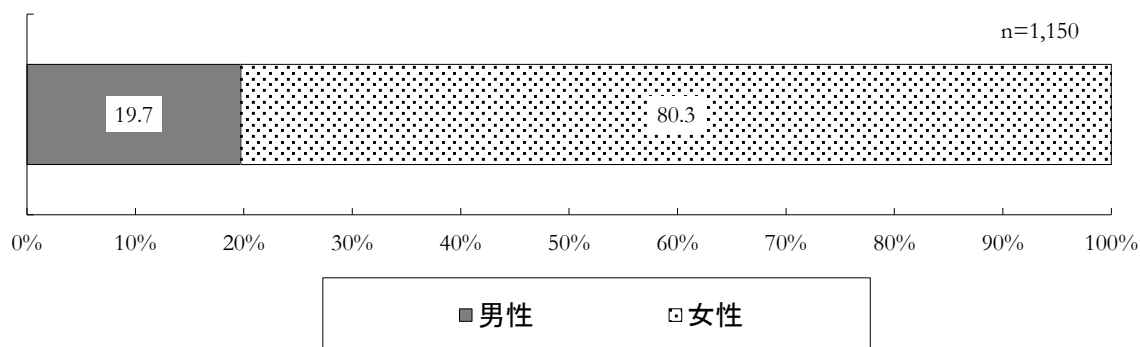
・いずれの年齢層でも「女性」の割合が高い。50歳で「男性」の割合が24.7%、60歳以上では26.6%と他の年齢層に比べて高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・鑑賞経験を問わず「女性」の割合が高い。6～10回では「男性」の割合が24.3%と他の鑑賞経験に比べて高い。

[過去調査と比較して]

・過去調査でも回答者の性別は「女性」の割合が高い。16年度が男性の割合が過去最高となっている。



(単位: %)

		調査数 (n)	Q12性別	
			男性	女性
全体		1150	19.7	80.3
ジャンル	小劇場・現代演劇	627	19.1	80.9
	音楽劇	202	29.2	70.8
	ミュージカル・商業演劇	175	9.1	90.9
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	146	21.9	78.1
	パフォーマンス	0	0.0	0.0
性別	男性	227	100.0	0.0
	女性	923	0.0	100.0
年齢層	18歳未満	52	15.4	84.6
	18～29歳	188	18.6	81.4
	30歳代	150	10.7	89.3
	40歳代	234	18.4	81.6
	50歳代	235	24.7	75.3
	60歳以上	222	26.6	73.4
チケットクラブ	加入	283	15.2	84.8
	未加入	832	21.2	78.8
鑑賞経験	今日が初めて	295	23.7	76.3
	1～2回	156	16.7	83.3
	3～5回	209	21.5	78.5
	6～10回	173	24.3	75.7
	11回以上	289	14.5	85.5

※n=1,150は、無回答(160件)を除く。

参考	16年度調査結果	1253	25.2	74.8
	15年度調査結果	1817	16.5	83.5
	14年度調査結果	1068	21.8	78.2
	13年度調査結果	1446	21.1	78.9
	12年度調査結果	1478	24.2	75.8
	11年度調査結果	1599	22.3	77.7
	10年度調査結果	2232	18.4	81.6
	09年度調査結果	1607	16.6	83.4
	08年度調査結果	1653	19.0	81.0
	07年度調査結果	2901	17.9	82.1
	06年度調査結果	2394	20.6	79.4
	05年度調査結果	2510	18.1	81.9
	04年度調査結果	4089	14.6	85.4
	03年度調査結果	3595	15.9	84.1

* 表中の網掛け部分は、各属性のうち無回答以外の最高の占率を表す(以下、いずれの表についても同様)。

回答者の平均年齢は44.3歳。「50歳代」が21.8%と最も割合が高い。「40歳代」が21.6%、「60歳以上」が20.6%、「18～29歳」が17.4%、「30歳代」が13.9%、「18歳未満」が4.8%と、幅広い年齢層の観客が来場している。

〔来場公演のジャンル別〕

・平均年齢が最も高いのは音楽劇の55.4歳、最も低いのはミュージカル・商業演劇の40.5歳となっている。

〔性別〕

・平均年齢は、男性が47.5歳、女性が43.7歳と、男性の平均年齢が高い。
・男性では「60歳以上」の割合が女性に比べて高く、女性では「30歳代」の割合が男性に比べて高い。

〔チケットクラブへの加入・未加入別〕

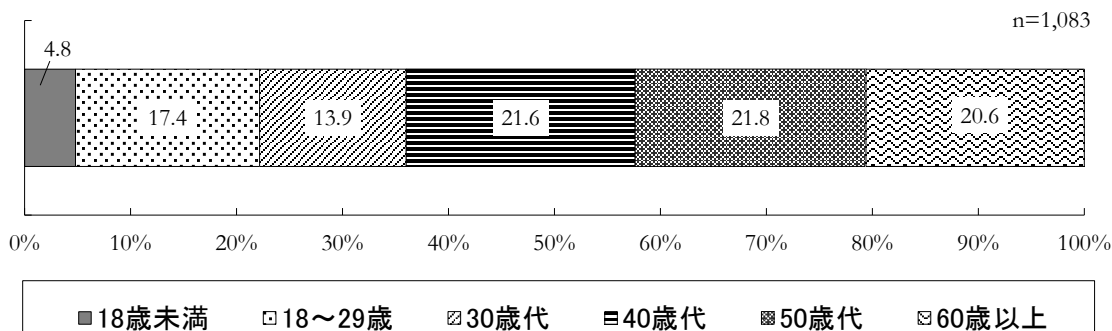
・加入の場合の平均年齢は46.7歳、未加入の場合は43.4歳と、加入の平均年齢が若干高い。

〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

・北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど概ね平均年齢が高い。
・北九州芸術劇場での鑑賞経験が2回以下の回答者では、「18～29歳」の割合が高い。

〔過去調査と比較して〕

・過去調査でも回答者の平均年齢は40歳台前半となっており、16年度は例年になく平均年齢が高かった。年々、最も高い割合の年齢層が上がっていたが、16年度がピークとなった。



(単位: %)

		調査数 (n)	Q13年齢層						平均年齢 (歳)
			18歳未 満	18～29 歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以 上	
全体		1083	4.8	17.4	13.9	21.6	21.8	20.6	44.3
ジャンル	小劇場・現代演劇	580	5.5	21.2	13.6	21.0	25.3	13.3	41.9
	音楽劇	196	1.0	7.1	9.7	16.8	12.2	53.1	55.4
	ミュージカル・商業演劇	169	6.5	18.9	16.6	28.4	18.3	11.2	40.5
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	138	5.1	13.8	17.4	22.5	24.6	16.7	43.3
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	219	3.7	16.0	7.3	19.6	26.5	26.9	47.5
	女性	862	5.1	17.7	15.5	22.2	20.5	18.9	43.7
年齢層	18歳未満	52	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.2
	18～29歳	188	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5
	30歳代	150	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	34.9
	40歳代	234	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	44.4
	50歳代	236	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	53.4
	60歳以上	223	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	66.4
チケット クラブ	加入	268	1.9	10.8	13.4	28.7	25.0	20.1	46.7
	未加入	786	5.9	19.6	14.2	19.5	21.1	19.7	43.4
鑑賞 経験	今日が初めて	287	5.9	31.0	16.0	19.5	14.3	13.2	38.3
	1～2回	153	8.5	24.2	15.0	19.0	20.3	13.1	40.0
	3～5回	200	4.5	13.5	16.5	18.5	18.5	28.5	47.0
	6～10回	166	3.0	9.0	11.4	21.1	32.5	22.9	48.2
	11回以上	256	2.0	6.6	11.3	28.1	27.0	25.0	49.4

※n=1083は、無回答(227件)を除く。

参 考	16年度調査結果	1176	4.3	8.2	12.9	19.4	22.1	33.0	50.3
	15年度調査結果	1746	3.3	13.9	16.3	22.7	25.0	18.8	45.6
	14年度調査結果	1004	6.1	11.1	16.3	27.5	22.2	16.8	44.8
	13年度調査結果	1386	3.6	18.2	22.4	25.4	16.7	13.6	41.9
	12年度調査結果	1398	3.2	16.7	21.0	24.2	20.4	14.4	42.9
	11年度調査結果	1529	5.8	15.0	23.9	26.7	17.1	11.6	41.4
	10年度調査結果	2162	5.1	19.1	27.3	21.3	15.3	11.9	40.2
	09年度調査結果	1546	3.5	15.1	28.7	22.1	17.5	13.1	42.0
	08年度調査結果	1586	3.9	16.2	23.3	20.9	19.7	15.9	42.9
	07年度調査結果	2818	4.7	18.0	23.0	19.3	16.4	18.5	42.7
	06年度調査結果	2302	5.8	15.6	22.3	19.3	18.0	19.1	43.4
	05年度調査結果	2363	2.8	19.6	22.7	17.6	18.0	18.6	43.4
	04年度調査結果	3867	4.9	17.1	23.4	20.4	17.5	16.7	42.3
	03年度調査結果	3470	3.1	15.1	21.4	16.9	19.9	23.6	45.5

回答者の居住エリアは、北九州市及び周辺地域が47.9%（「北九州市」：40.4%、北九州市周辺：7.6%）を占めるが、福岡市やその周辺をはじめ、九州各地、山口県等からの来場者は40.0%となっている。過去調査と比較すると、北九州市及び周辺以外からの来場者の割合は、07年度以降は3割以上が定着している。

福岡県以外の九州について具体的な県名をみると、大分県（51件）、熊本県（25件）、佐賀県（18件）、長崎県（14件）、宮崎県（9件）、鹿児島県（5件）等の記載がある。九州・山口以外では、広島県（19件）、東京都（5件）の回答もある。

〔来場公演のジャンル別〕

- ・ジャンルを問わず「北九州市」の占める割合が最も高く、特に「北九州市」の割合が高いのは、音楽劇（63.7%）となっている。
- ・ダンス・現代舞踊では、「福岡市+周辺」（24.6%）、「北九州市」（23.4%）からの割合が高い。

〔性別〕

- ・性別では、男女ともに「北九州市」の割合が高いものの、性別で大きな差はない。

〔年齢別〕

- ・「北九州市」の割合は、18歳未満と60歳以上で高く、それぞれ57.5%、60.5%となっている。
- ・18歳から40歳代と60歳以上では、「北九州市」に次いで「福岡市+周辺」からの来場者の割合も高い。

〔チケットクラブへの加入・未加入別〕

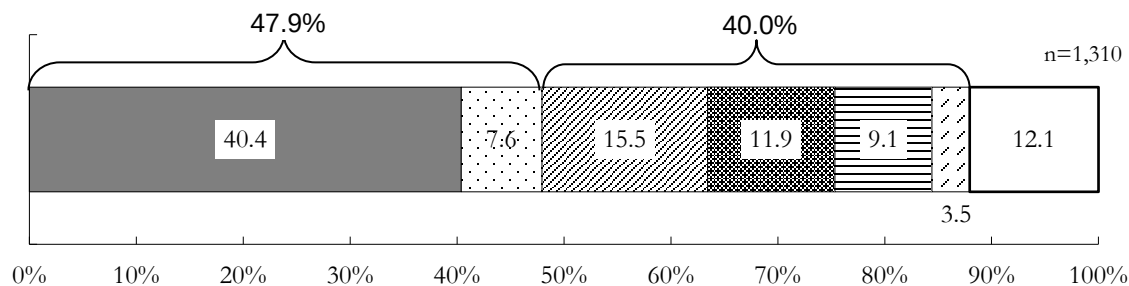
- ・加入、未加入ともに「北九州市」の割合が最も高く、大きな差はない。

〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

- ・11回以上の来場者は58.8%が「北九州市」の居住となっており、鑑賞経験が多いほど「北九州市」の割合が高い傾向となっている。市内に居住していること（＝劇場に来やすいこと）が鑑賞経験にも影響しているものと考えられる。

〔過去調査と比較して〕

- ・10年度までは「北九州市+周辺」からの来場割合が下降傾向、「北九州市+周辺以外のエリア」からの来場割合が上昇傾向にあり、13年度の43.6%が最も高い割合となっている。17年度は16年度に比べて「北九州市+周辺以外のエリア」からの来場割合が10%以上増加した。



■北九州市 □北九州市周辺 ▨福岡市+周辺 ▩左記以外の九州 ▪山口県 ▫その他 □無回答

(単位: %)

		調査数 (n)	Q11居住エリア						
			北九州市	北九州市 周辺	福岡市+ 周辺	北九州・ 福岡周辺 以外の九州	山口県	その他	無回答
	全体	1310	40.4	7.6	15.5	11.9	9.1	3.5	12.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	38.4	7.4	16.5	13.2	10.2	2.5	11.8
	音楽劇	234	63.7	6.4	4.3	4.3	7.3	0.4	13.7
	ミュージカル・商業演劇	191	34.6	8.9	17.3	13.1	9.9	7.3	8.9
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	23.4	8.2	24.6	15.8	5.8	7.6	14.6
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	42.3	7.5	20.3	17.2	7.0	4.8	0.9
	女性	923	46.4	8.9	16.9	12.2	11.1	3.8	0.8
年齢層	18歳未満	52	57.7	13.5	11.5	1.9	13.5	0.0	1.9
	18～29歳	188	36.2	12.2	21.8	16.5	5.3	6.9	1.1
	30歳代	150	42.0	6.0	19.3	18.0	11.3	3.3	0.0
	40歳代	234	39.3	8.5	19.7	17.1	9.8	5.1	0.4
	50歳代	236	44.9	8.1	14.0	15.3	11.4	5.1	1.3
	60歳以上	223	60.5	8.1	14.3	6.3	9.0	0.9	0.9
チケット クラブ	加入	286	48.3	5.2	21.0	11.9	11.9	1.0	0.7
	未加入	845	44.5	9.5	16.4	13.6	9.6	5.0	1.4
鑑賞経験	今日が初めて	302	25.2	11.6	19.5	23.8	8.3	9.3	2.3
	1～2回	157	45.2	10.8	15.3	11.5	12.1	4.5	0.6
	3～5回	213	49.8	8.5	16.4	12.7	8.9	2.3	1.4
	6～10回	173	53.8	9.2	18.5	9.8	6.4	1.7	0.6
	11回以上	294	58.8	3.7	16.3	5.8	14.3	0.3	0.7

北九州市 +周辺	北九州市 +周辺 以外のエ リア
47.9	40.0
45.8	42.4
70.1	16.2
43.5	47.6
0.0	0.0
31.6	53.8
0.0	0.0
49.8	49.3
55.3	44.0
71.2	26.9
48.4	50.5
48.0	52.0
47.9	51.7
53.0	45.8
68.6	30.5
53.5	45.8
54.0	44.6
36.8	60.9
56.1	43.3
58.2	40.4
63.0	36.4
62.6	36.7

参考	16年度調査結果	1392	53.3	7.5	11.4	7.3	7.5	2.8	10.3
	15年度調査結果	1989	41.7	8.5	15.2	12.8	8.2	4.1	9.6
	14年度調査結果	1146	48.7	9.5	14.0	9.7	8.6	2.6	6.9
	13年度調査結果	1569	40.5	7.8	17.7	13.2	9.8	2.9	8.2
	12年度調査結果	1599	45.7	8.8	16.3	9.7	8.9	2.9	7.8
	11年度調査結果	1688	49.9	10.1	12.7	10.1	9.7	1.8	5.7
	10年度調査結果	2379	45.4	11.1	13.5	12.1	9.0	2.9	6.2
	09年度調査結果	1692	50.7	11.1	14.0	9.6	7.7	1.9	5.0
	08年度調査結果	1732	52.9	11.5	12.0	7.6	10.0	1.5	4.4
	07年度調査結果	3033	52.6	11.7	11.8	9.3	8.0	2.1	4.4
	06年度調査結果	2766	61.9	12.5	8.4	4.6	7.1	1.3	4.2
	05年度調査結果	3073	60.7	11.3	11.5	4.3	8.1	1.4	2.7
	04年度調査結果	4708	63.3	8.4	10.2	8.5	6.9	1.0	1.7
	03年度調査結果	4078	60.5	7.5	7.8	-	-	11.6	7.7

60.8	28.9
50.2	40.2
58.2	34.9
48.2	43.6
54.4	37.8
60.1	34.2
56.4	37.4
61.8	33.2
64.5	31.1
64.3	31.2
74.4	21.4
72.0	25.3
71.7	26.6
68.0	19.4

チケットクラブに入会している割合は21.8%、入会していない割合は64.5%である。

[来場公演のジャンル別]

・チケットクラブに入会している割合(加入率)は、小劇場・現代演劇(26.8%)で高い。

[性別]

・加入率は、男性が18.9%、女性が26.0%と、女性の割合がやや高い。

[年齢別]

・加入率は、40歳代(32.9%)、50歳代(28.4%)で高い。

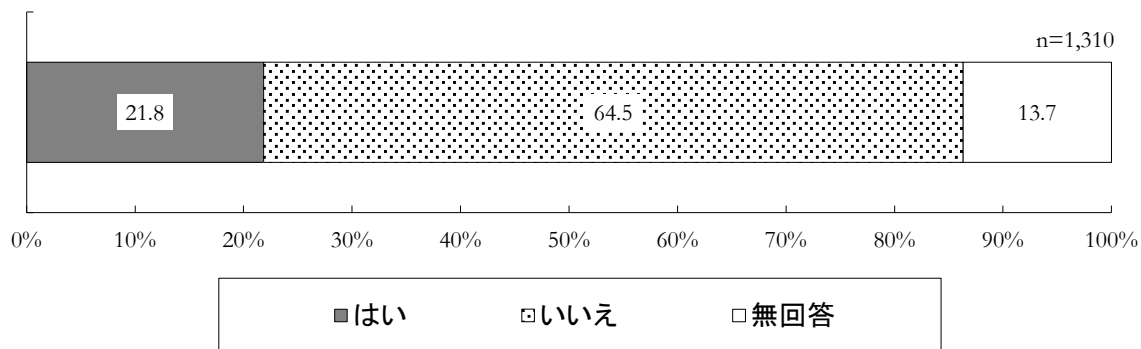
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど入会している割合は高く、特に、11回以上のグループの加入率の高さは54.1%となっている。

[過去調査と比較して]

・年度ごとに増減があり、おおよそ加入:20%前後、未加入:70%前後の割合で推移してきた。10年度以降、加入率は徐々に高まってきたが、16年度は15年度に比べて加入している割合が低くなった。

・加入率は03年度が最も高く(33.4%)、次いで14年度が2番目、15年度が3番目に高い割合となっている。



(単位: %)

（単位：％）

		調査数 (n)	Q9チケットクラブへの入会		
			はい	いいえ	無回答
全体		1310	21.8	64.5	13.7
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	26.8	59.8	13.4
	音楽劇	234	9.8	73.5	16.7
	ミュージカル・商業演劇	191	22.0	69.1	8.9
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	17.5	66.7	15.8
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	18.9	77.5	3.5
	女性	923	26.0	71.1	2.9
年齢層	18歳未満	52	9.6	88.5	1.9
	18～29歳	188	15.4	81.9	2.7
	30歳代	150	24.0	74.7	1.3
	40歳代	234	32.9	65.4	1.7
	50歳代	236	28.4	70.3	1.3
	60歳以上	223	24.2	69.5	6.3
チケットクラブ	加入	286	100.0	0.0	0.0
	未加入	845	0.0	100.0	0.0
鑑賞経験	今日が初めて	302	8.3	90.1	1.7
	1～2回	157	10.2	88.5	1.3
	3～5回	213	15.0	82.2	2.8
	6～10回	173	30.6	66.5	2.9
	11回以上	294	54.1	44.6	1.4

参考	16年度調査結果	939	12.6	48.6	38.9
	15年度調査結果	1989	24.9	64.5	10.6
	14年度調査結果	1146	25.2	65.6	9.2
	13年度調査結果	1569	23.3	66.7	10.0
	12年度調査結果	1599	24.8	66.0	9.2
	11年度調査結果	1688	22.7	68.8	8.5
	10年度調査結果	2379	19.0	73.1	7.9
	09年度調査結果	1692	22.5	70.7	6.9
	08年度調査結果	1732	18.7	73.8	7.5
	07年度調査結果	3033	20.3	73.6	6.1
	06年度調査結果	2766	23.1	70.6	6.3
	05年度調査結果	3073	24.0	71.0	4.9
	04年度調査結果	4708	23.1	73.4	3.4
	03年度調査結果	4078	33.4	57.3	9.3

(5) チケットクラブ会員ではない場合、今後の入会意向

Q9

現在チケットクラブ会員ではない場合、今後の入会意向のある割合は9.7%、ない割合は42.9%である。無回答の割合も47.4%と高い(入会の意向が明確ではない人は無回答の場合が多いと考えられる)。

[来場公演のジャンル別]

・今後の入会意向は、ミュージカル・商業演劇が高く(12.8%)、音楽劇で低い(6.2%)。

[性別]

・今後の入会意向は、性別で顕著な差は見当たらない。

[年齢別]

・入会意向は40歳代が高く(15.9%)、60歳以上は低い(6.5%)。

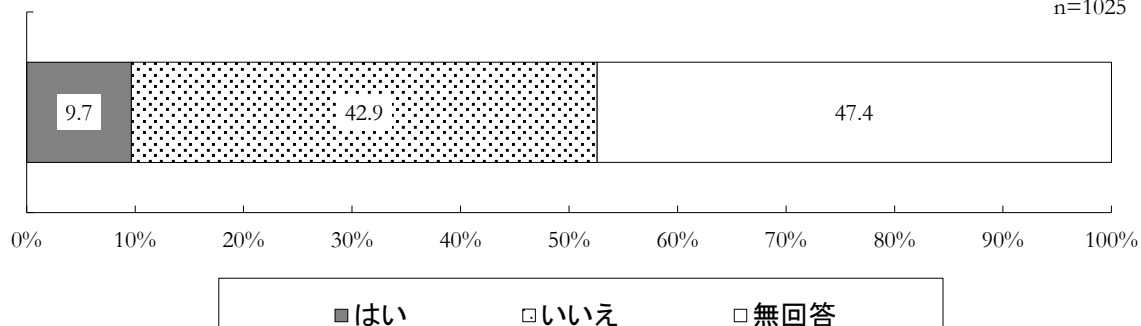
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・入会意向は、11回以上のグループで高くなっている(17.8%)。概ね鑑賞経験が多いほど高い傾向となっている。

[過去調査と比較して]

・07年度以降の入会意向が20%を下回る状況で、減少傾向が続いている。過去調査と比較して17年度は最も低い割合となっている。

n=1025



(単位: %)

（単位：％）

		全体	Q9-1今後の意向		
			はい	いいえ	無回答
全体		1025	9.7	42.9	47.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	523	10.5	42.8	46.7
	音楽劇	211	6.2	40.3	53.6
	ミュージカル・商業演劇	149	12.8	46.3	40.9
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	142	8.5	43.7	47.9
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	184	11.4	52.7	35.9
	女性	684	11.3	49.6	39.2
年齢層	18歳未満	47	14.9	57.4	27.7
	18～29歳	159	12.6	57.2	30.2
	30歳代	115	13.0	56.5	30.4
	40歳代	157	15.9	46.5	37.6
	50歳代	169	10.1	43.8	46.2
	60歳以上	169	6.5	49.1	44.4
チケットクラブ	加入	1	0.0	0.0	100.0
	未加入	845	61.8	52.1	36.2
鑑賞経験	今日が初めて	277	7.9	53.8	38.3
	1～2回	141	8.5	53.9	37.6
	3～5回	182	13.7	47.8	38.5
	6～10回	120	12.5	49.2	38.3
	11回以上	135	17.8	46.7	35.6

参考	16年度調査結果	1107	10.7	41.2	48.1
	15年度調査結果	1282	13.5	49.4	37.1
	14年度調査結果	752	16.0	50.1	33.9
	13年度調査結果	1046	16.8	51.4	31.7
	12年度調査結果	1055	14.7	51.3	34.0
	11年度調査結果	1161	15.3	52.9	31.8
	10年度調査結果	1738	14.7	52.0	33.3
	09年度調査結果	1196	17.4	50.5	32.1
	08年度調査結果	1278	18.4	47.6	34.0
	07年度調査結果	2232	17.3	48.3	34.4
	06年度調査結果	1954	25.3	46.4	28.2
	05年度調査結果	2183	20.5	45.1	34.4
	04年度調査結果	3458	30.3	40.3	29.4
	03年度調査結果	2337	37.5	30.1	32.4

* n=1025は、チケットクラブに入会していないと回答した人の数

2 本日の公演や劇場に関する意見

(1) 来場公演のジャンル

回答者が鑑賞した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が54.5%である。そのほかのジャンルについては、「音楽劇」(音楽含む)が17.9%、「ミュージカル・商業演劇」が14.6%、「ダンス・現代舞踊」が13.1%となっている。

※2017年度のアンケート配布32公演のうち、「小劇場・現代演劇」が21公演を占めていることから、全体の数字は、「小劇場・現代演劇」の影響が大きいことに留意が必要である。なお、2017度の「音楽劇」には、「ワンコインコンサート」シリーズを含めて集計している。

[性別]

・男性、女性ともに、「小劇場・現代演劇」の割合が最も高いが、やや女性の鑑賞割合が高い(男性:52.9%、女性:54.9%)。

[年齢別]

- ・60歳以上を除く年代で「小劇場・現代演劇」の割合が高いが、特に、18～29歳で高い。
- ・60歳以上では「音楽劇」の割合が46.6%と他の年齢層に比べて高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

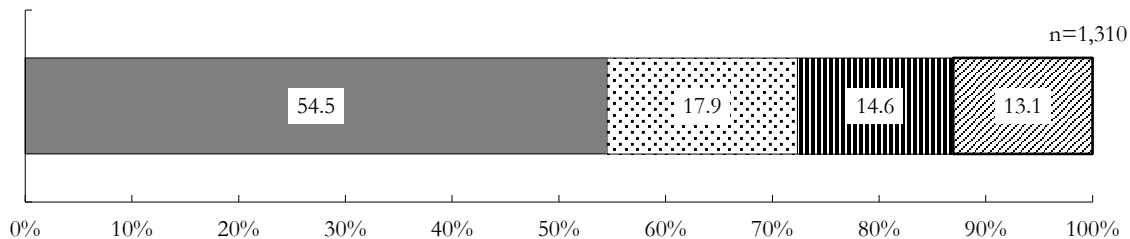
・加入・未加入ともに「小劇場・現代演劇」の割合が最も高く、加入の場合は66.8%を占めている。

[北九州芸術芸場での鑑賞経験別]

・すべて鑑賞経験の頻度も「小劇場・現代演劇」の割合が最も高くなっている。

[過去調査と比較して]

・過去調査と比較して、07年度以降、若干の増減はあるが「小劇場・現代演劇」の割合が増加しており、14年度が最も高くなっている。



■小劇場・現代演劇 □音楽劇 ▨ミュージカル・商業演劇 ▩ダンス・現代舞踊

(単位: %)

		調査数 (n)	ジャンル 小劇場・ 現代演劇	音楽劇	ミュージ カル・商 業演劇	古典芸能 (歌舞伎・能)	ダンス・ 現代舞踊	パフォー マンス
全体		1310	54.5	17.9	14.6	0.0	13.1	0.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	音楽劇	234	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	191	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	52.9	26.0	7.0	0.0	14.1	0.0
	女性	923	54.9	15.5	17.2	0.0	12.4	0.0
年齢層	18歳未満	52	61.5	3.8	21.2	0.0	13.5	0.0
	18～29歳	188	65.4	7.4	17.0	0.0	10.1	0.0
	30歳代	150	52.7	12.7	18.7	0.0	16.0	0.0
	40歳代	234	52.1	14.1	20.5	0.0	13.2	0.0
	50歳代	236	62.3	10.2	13.1	0.0	14.4	0.0
	60歳以上	223	34.5	46.6	8.5	0.0	10.3	0.0
チケット クラブ	加入	286	66.8	8.0	14.7	0.0	10.5	0.0
	未加入	845	50.5	20.4	15.6	0.0	13.5	0.0
鑑賞 経験	今日が初めて	302	51.7	14.6	23.2	0.0	10.6	0.0
	1～2回	157	55.4	15.3	18.5	0.0	10.8	0.0
	3～5回	213	50.2	23.5	12.7	0.0	13.6	0.0
	6～10回	173	49.1	19.7	10.4	0.0	20.8	0.0
	11回以上	294	62.9	16.3	10.5	0.0	10.2	0.0

参考	16年度調査結果	1392	47.1	35.5	0.0	0.0	16.3	1.1
	15年度調査結果	1989	71.5	14.7	3.0	0.0	10.7	0.0
	14年度調査結果	1146	88.3	6.3	0.0	0.0	5.4	0.0
	13年度調査結果	1569	78.3	4.3	0.0	0.0	17.3	0.0
	12年度調査結果	1599	79.4	3.6	9.3	0.0	3.2	4.5
	11年度調査結果	1688	76.1	4.1	0.0	8.1	7.3	4.3
	10年度調査結果	2379	70.5	7.2	16.1	4.4	1.7	0.0
	09年度調査結果	1692	70.3	5.3	10.1	5.7	4.1	4.5
	08年度調査結果	1732	43.8	22.1	24.0	5.5	3.6	0.9
	07年度調査結果	3033	26.9	3.8	44.0	16.7	4.6	3.1
	06年度調査結果	2766	35.8	4.5	33.3	22.2	3.3	1.0
	05年度調査結果	3073	27.4	3.0	33.3	16.1	8.9	6.7
	04年度調査結果	4708	45.1	—	24.1	22.0	3.0	—
	03年度調査結果	4078	21.2	6.4	34.7	23.5	2.2	—

↑
「その他のジャンル」

※03年度は、「クラシック音楽」ジャンルが設けられており、割合は10.9%であった。
※08年度以降、「その他のジャンル」は、他のジャンルに分類・統合している。

公演情報の入手経路については、「友人・知人から聞いた」が19.5%、「ホームページ・ブログ」が18.7%、「他の公演会場で配布されたチラシ」(15.4%)となっており、続いて「Facebook、TwitterなどのSNS」(13.4%)となっている。

「雑誌・タウン情報誌」名の具体的な書き込みをみると「シアターガイド」(4件)「リビング北九州」(4件)「サンデー」(3件)などの地域情報誌(紙)名の記載もある。

「その他」の具体的な書き込みをみると、「情報誌『Q』」への回答が多い(30件)。そのほか、チケットぴあ、ファンクラブからの案内、互助会の斡旋などの回答がある。また、幼稚園、学校、職場からの紹介なども多く、情報の入手経路は多様である。

※15年度から、14年度以前の調査で使用していた選択肢「インターネット・ホームページ」を「ホームページ・ブログ」と「Facebook、TwitterなどのSNS」の2つに分け、「ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭」を削除した。

[来場公演のジャンル別]

- ・公演情報の入手経路は、ジャンルによって特徴があり、
 - ・小劇場・現代演劇:「ホームページ、ブログ」(20.6%)
 - ・音楽劇:「友人・知人から聞いた」(20.1%)
 - ・ミュージカル・商業演劇:「ホームページ、ブログ」(21.5%)
 - ・ダンス・現代舞踊:「ホームページ、ブログ」(23.4%)
- の割合が最も高い。

[年齢別]

- ・公演情報の入手経路は、年齢による特徴も顕著で、18～29歳では「Facebook、TwitterなどのSNS」、50歳代は「他の公演会場で配布されたチラシ」、60歳以上は「友人・知人から聞いた」、それ以外の世代は「ホームページ、ブログ」が最も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

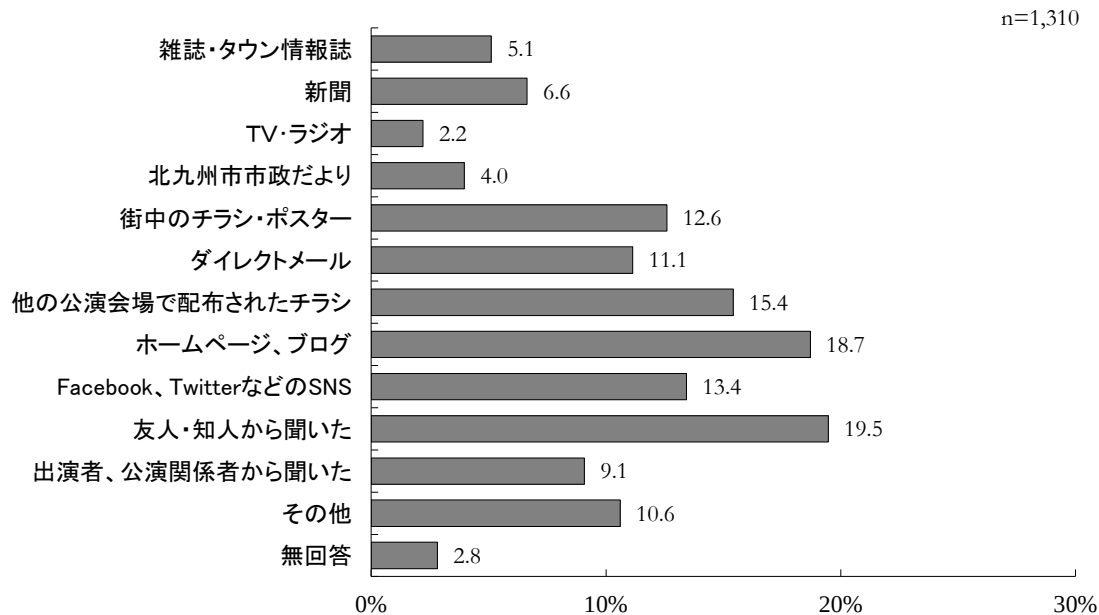
- ・加入している場合、「ホームページ・ブログ」が31.8%で最も高く、次いで「他の公演会場で配布されたチラシ」が30.8%と高い割合を占める。これら2項目の割合の高さは、未加入と比べて顕著である。
- ・一方、未加入の場合は、「友人・知人から聞いた」が23.1%と最も高く、次いで「ホームページ、ブログ」(15.9%)となっている。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・北九州芸術劇場での鑑賞経験が2回までの回答者では「友人・知人から聞いた」の割合が最も高く、3回から10回までは「ホームページ、ブログ」、11回以上は「他の公演で配布されたチラシ」の割合が最も高い。
- ・鑑賞経験が多くなるほど、「他の公演会場で配布されたチラシ」と「ダイレクトメール」の割合は多くなる傾向にある。

[過去調査と比較して]

- ・10年度は初めて「インターネット・ホームページ」が最も高い割合となったが、11年度以降は「友人・知人から聞いた」と最上位が年によって入れ替わっている。16年度は初めて「他の公演会場で配布されたチラシ」が最も高い割合となった。
- ・一方、年度によって増減はあるが、「新聞」の割合が06年度をピーク(18.7%)として減少、17年度はこれまでで最も低くなった(6.6%)。「ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭」も06年度(6.3%)から減少傾向にある(14年度:2.9%)。



(単位: %)

(単位: %)															
		調査数 (n)	Q1公演情報の入手経路												無回答
			雑誌・タウン情報誌	新聞	TV・ラジオ	北九州市市政だより	街中のチラシ・ポスター	ダイレクトメール	他の公演会場で配布されたチラシ	ホームページ、ブログ	Facebook、TwitterなどのSNS	友人・知人から聞いた	出演者、公演関係者から聞いた	その他	
ジャンル	全体	1310	5.1	6.6	2.2	4.0	12.6	11.1	15.4	18.7	13.4	19.5	9.1	10.6	2.8
	小劇場・現代演劇	714	5.3	4.9	1.7	2.2	11.6	12.3	16.0	20.6	15.8	19.7	8.8	11.8	2.5
	音楽劇	234	3.8	13.2	0.4	14.1	19.2	9.0	16.2	7.3	3.4	20.1	10.7	7.3	1.7
	ミュージカル・商業演劇	191	6.8	2.6	7.9	0.5	8.4	6.8	16.8	21.5	13.6	19.4	4.7	11.0	6.8
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	4.1	9.4	0.6	1.2	12.3	14.0	10.5	23.4	17.0	17.5	12.9	9.9	1.2
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	6.2	5.7	0.9	4.8	18.1	9.3	16.7	22.5	7.5	24.7	9.7	9.3	1.8
	女性	923	5.3	6.6	2.3	4.0	11.8	11.4	16.6	19.4	15.2	17.3	8.6	11.3	2.5
年齢層	18歳未満	52	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5	1.9	21.2	26.9	25.0	25.0	13.5	13.5	1.9
	18～29歳	188	2.1	1.1	2.7	1.1	14.4	1.6	9.0	20.7	28.2	23.4	15.4	9.0	2.1
	30歳代	150	4.7	1.3	4.0	3.3	13.3	6.0	12.7	28.0	20.7	14.7	6.7	12.0	1.3
	40歳代	234	3.4	4.3	1.3	2.6	10.7	15.8	14.1	25.6	12.4	19.7	8.1	13.7	3.0
	50歳代	236	11.0	6.4	2.1	3.8	9.3	14.4	22.5	20.8	7.2	18.2	6.4	11.4	0.8
	60歳以上	223	6.7	18.8	0.9	10.3	14.3	14.8	16.6	6.3	2.2	20.2	6.7	8.1	3.6
チケット利用	加入	286	8.7	1.7	0.7	1.7	11.5	23.8	30.8	31.8	12.2	7.0	5.9	17.8	2.8
	未加入	845	4.3	7.8	2.5	4.7	13.5	6.9	11.7	15.9	14.1	23.1	9.6	8.5	1.9
鑑賞経験	今日が初めて	302	3.6	6.3	4.0	2.3	8.9	2.3	5.3	15.9	17.9	31.8	8.9	10.6	1.7
	1～2回	157	5.1	4.5	1.9	5.1	12.7	2.5	7.0	9.6	13.4	28.0	16.6	10.2	1.3
	3～5回	213	7.5	12.7	0.9	4.7	15.5	7.5	11.7	18.3	12.7	14.1	7.0	5.6	3.3
	6～10回	173	2.9	5.2	1.2	5.8	14.5	17.9	18.5	29.5	11.0	12.7	7.5	12.7	2.9
	11回以上	294	7.8	3.4	1.0	4.4	14.3	22.8	36.1	24.8	11.6	9.5	6.8	13.6	2.0

※15年度は、14年度以前の調査で使用していた選択肢「インターネット・ホームページ」を「ホームページ・ブログ」と「Facebook、TwitterなどのSNS」の2つに分け、「びあ・ローソンなどプレイガイドの店頭」を削除した。

平成10年度から平成24年度間の調査結果の推移															
		調査数 (n)	雑誌・タ ウン情報 誌	新聞	TV・ラジ オ	北九州市 市政だよ り	街中のチ ラシ・ポス ター	ダイレク トメール	他の公演 会場で配 布された チラシ	ホーム ページ、 ブログ	Faceboo k、 Twitterな どのSNS	友人・知 人から聞 いた	出演者、 公演関係 者から聞 いた	その他	無回答
参 考	16年度調査結果	1392	4.7	12.7	2.7	5.5	13.8	12.5	20.5	15.1	7.6	18.3	9.8	6.4	2.7
	15年度調査結果	1989	4.6	9.7	5.5	2.6	11.0	12.2	15.0	21.9	7.5	20.3	7.5	8.8	3.3
		調査数 (n)	雑誌・タ ウン情報 誌	新聞	テレビ・ラ ジオ	北九州市 市政だよ り	街中のチ ラシ・ポス ター	ダイレク トメール	他の公演 会場で配 布された チラシ	インター ネット・ ホーム ページ	友人・知 人から聞 いた	出演者、 公演関係 者から聞 いた	びあ・ ローソン などプレイ ガイドの店 頭	その他	無回答
	14年度調査結果	1146	4.9	8.6	3.3	2.8	13.1	14.4	18.0	20.9	21.6	12.7	2.9	8.7	4.4
	13年度調査結果	1569	5.9	10.3	3.5	2.7	9.8	14.9	13.1	27.1	21.0	7.1	4.3	7.6	3.6
	12年度調査結果	1599	6.0	9.1	2.8	2.4	12.1	14.8	15.4	22.0	22.0	9.3	3.3	7.5	5.4
	11年度調査結果	1688	3.7	10.2	1.4	2.8	10.5	17.9	17.1	20.8	23.5	8.4	3.6	9.1	3.9
	10年度調査結果	2379	5.3	10.3	4.4	4.1	11.4	14.8	13.1	22.4	21.9	7.2	4.2	7.1	4.6
	09年度調査結果	1692	6.0	11.2	3.5	4.0	12.1	16.1	16.0	16.3	20.3	8.7	4.0	8.9	5.2
	08年度調査結果	1732	7.1	14.5	2.6	4.2	10.2	17.1	13.1	13.3	23.2	9.4	4.0	10.1	3.5
	07年度調査結果	3033	7.2	15.9	4.9	5.9	9.8	13.1	12.5	16.5	22.8	6.1	5.7	10.2	2.4
	06年度調査結果	2766	6.6	18.7	5.7	11.7	11.4	16.6	11.4	12.0	21.6	4.6	6.3	9.2	2.4
	05年度調査結果	3073	6.3	17.5	5.0	7.8	11.5	19.0	13.2	10.7	24.2	6.2	4.8	9.7	1.3
	04年度調査結果	4708	7.1	15.6	3.5	9.8	12.1	19.5	13.7	9.5	23.1	5.7	5.4	11.4	1.6
03年度調査結果	4078	9.7	17.2	9.7	18.5	15.5	14.9	12.5	6.8	21.9	3.2	5.7	9.5	1.7	

公演に来た理由については、「出演者が好きだから」が54.1%、「公演内容が面白そうだったから」が53.7%となっている。

「その他」の具体的な内容をみると、「前回行ってよかったから」「招待券をいただきました」「映画が面白かったから」という回答が複数見られる。

そのほか、出演者のファンや演出家への興味など、来場の理由は多様である。

〔来場公演のジャンル別〕

- ・公演に来た理由は、ジャンルによって特徴があり、
 - ・小劇場・現代演劇:「出演者等が好きだから」(61.8%)
 - ・音楽劇:「公演内容が面白そうだったから」(57.3%)
 - ・ミュージカル・商業演劇:「出演者等が好きだから」(66.5%)
 - ・ダンス・現代舞踊:「出演者等が好きだから」(57.3%)
- の割合が最も高い。

〔性別〕

- ・男性は「公演内容が面白そうだったから」、女性は「出演者等が好きだから」の割合が最も高い。
- ・男性に比べて女性の割合が特に高いのは、「出演者等が好きだから」(58.5%)と「劇場が近かったから」(16.6%)。

〔年齢別〕

- ・18歳未満と60歳以上では「公演内容が面白そうだったから」の割合が最も高い。
- ・18歳から50歳代までは「出演者等が好きだから」の割合が最も高い。

〔チケットクラブへの加入・未加入別〕

- ・加入では「出演者等が好きだから」の割合が最も高く、未加入では「公演内容が面白そうだったから」の割合が最も高い。

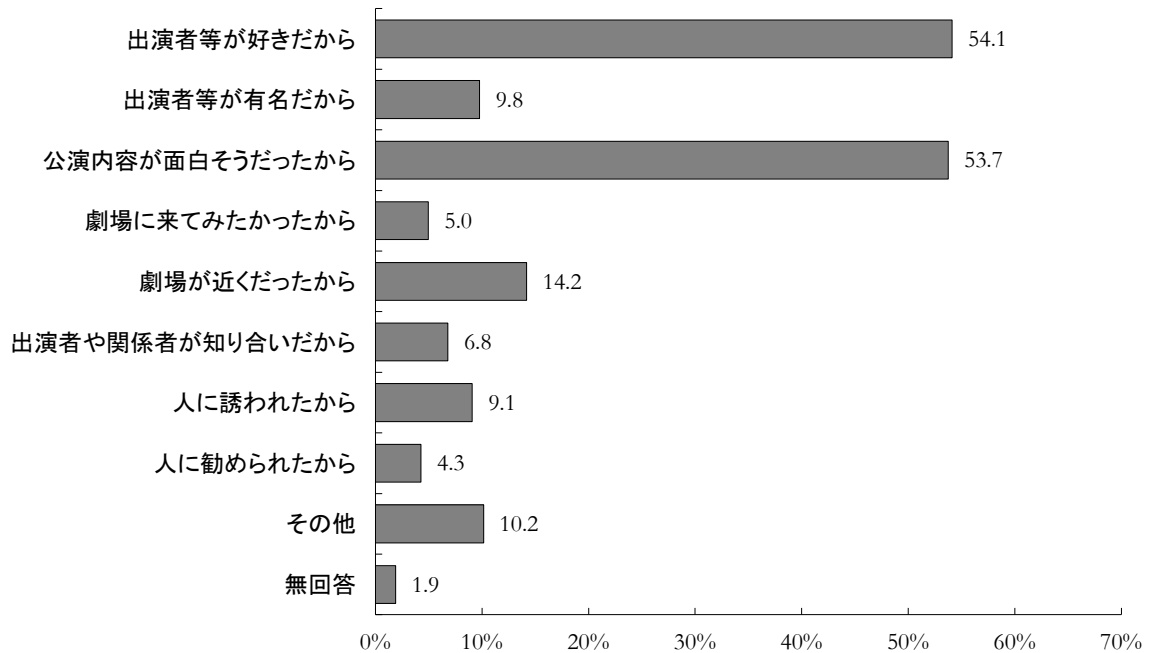
〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

- ・3～5回と11回以上の鑑賞経験では「公演内容が面白そうだったから」の割合が最も高く、それ以外の鑑賞経験では「出演者等が好きだから」の割合が高くなっている。鑑賞経験が少ないほど概ね「人に誘われたから」の割合は高くなっている。

〔過去調査と比較して〕

- ・過去調査と比較して、「公演内容が面白そうだったから」が「出演者が好きだから」を上回ったのは03年度と14年度の2回となっている。
- ・15年度は「出演者等が好きだから」が過去最高の割合となった。

n=1,310



(単位: %)

		調査数 (n)	Q2公演に来た理由									
			出演者等 が好きだ から	出演者等 が有名だ から	公演内容 が面白そ うだった から	劇場に來 てみたか ったから	劇場が近 くだった から	出演者や 関係者が 知り合い だから	人に誘わ れたから	人に勧め られたか ら	その他	無回答
全体		1310	54.1	9.8	53.7	5.0	14.2	6.8	9.1	4.3	10.2	1.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	61.8	11.2	51.8	5.3	15.7	6.0	9.1	4.1	7.6	1.4
	音楽劇	234	18.4	3.8	57.3	5.6	11.5	10.3	12.4	5.1	17.1	2.6
	ミュージカル・商業演劇	191	66.5	11.5	63.9	5.2	19.9	0.5	7.3	3.7	10.5	4.7
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	57.3	9.9	45.6	2.3	5.3	12.3	6.4	4.7	11.1	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	42.7	8.8	44.1	7.0	6.6	14.1	11.9	8.4	7.5	2.2
	女性	923	58.5	10.4	57.0	4.6	16.6	4.8	8.3	3.0	10.6	1.3
年齢層	18歳未満	52	42.3	13.5	50.0	3.8	17.3	7.7	15.4	7.7	9.6	1.9
	18～29歳	188	58.0	11.7	44.7	10.6	14.9	10.1	10.1	6.4	5.9	2.7
	30歳代	150	63.3	8.7	56.0	2.0	17.3	4.0	6.0	4.0	12.7	0.0
	40歳代	234	65.4	9.4	56.4	4.7	13.2	6.0	9.4	3.4	10.3	0.9
	50歳代	236	61.0	9.7	56.8	5.1	13.6	6.4	8.1	3.4	8.5	0.4
	60歳以上	223	33.6	10.3	57.4	3.6	13.5	6.7	11.7	3.6	14.8	2.2
チケット クラブ	加入	286	71.7	10.8	62.9	2.1	19.9	2.8	2.1	1.7	6.6	1.0
	未加入	845	50.4	10.1	52.1	6.2	13.4	7.7	11.1	5.0	11.5	1.2
鑑賞 経験	今日が初めて	302	53.6	9.6	46.4	12.6	10.3	8.3	14.2	7.0	13.2	0.7
	1～2回	157	49.0	9.6	44.6	3.8	12.1	9.6	12.7	5.7	7.0	1.3
	3～5回	213	53.1	11.7	63.4	3.8	15.0	3.8	8.0	2.8	9.4	1.9
	6～10回	173	56.1	9.2	51.4	2.3	17.9	6.9	7.5	4.6	10.4	1.7
	11回以上	294	60.9	10.5	64.3	0.7	18.4	5.4	3.1	1.4	8.8	1.4

参考	16年度調査結果	1392	50.1	13.1	47.8	3.8	13.0	8.4	9.3	2.9	3.1	3.4
	15年度調査結果	1989	62.7	10.3	45.4	4.2	15.8	4.5	10.4	3.4	3.1	2.6
	14年度調査結果	1146	44.7	9.8	51.9	10.7	18.2	11.9	10.4	5.7	4.9	5.4
	13年度調査結果	1569	59.0	10.3	46.7	8.3	18.2	6.1	10.2	3.8	5.4	4.1
	12年度調査結果	1599	50.1	10.2	49.0	7.6	18.3	8.0	11.9	3.1	5.4	5.6
	11年度調査結果	1688	51.7	8.3	50.7	9.0	20.7	7.2	12.1	5.8	4.7	4.0
	10年度調査結果	2379	60.4	10.9	43.5	7.8	20.7	5.0	12.0	3.5	5.7	4.7
	09年度調査結果	1692	56.4	11.0	47.5	8.3	19.7	7.1	13.1	4.1	5.1	4.7
	08年度調査結果	1732	52.9	10.2	49.2	8.0	19.6	8.9	13.7	4.0	10.9	3.2
	07年度調査結果	3033	55.7	11.9	46.0	5.5	12.8	5.1	14.0	4.0	10.7	2.3
	06年度調査結果	2766	55.2	13.3	49.1	6.8	13.7	4.6	13.1	3.6	9.6	2.7
	05年度調査結果	3073	51.8	14.2	48.5	7.7	13.3	5.5	14.4	4.1	11.3	1.3
	04年度調査結果	4708	51.0	13.3	49.6	7.9	15.8	4.8	13.0	4.1	12.1	1.3
	03年度調査結果	4078	51.8	19.1	55.9	28.8	15.0	2.4	10.8	2.7	13.3	0.6

公演前後に飲食やショッピングをしている割合は50.4%である。飲食をしている場合の平均金額は1,529.6円、ショッピングをしている場合の平均金額は3,845.0円となっており、昨年度と比較すると飲食平均額、ショッピング平均額ともに減少している。

〔来場公演のジャンル別〕

・飲食・ショッピングの割合はミュージカル・商業演劇が高い。飲食をしている場合の平均額は小劇場・現代演劇での来場者が高く、ショッピングをしている場合の平均金額では、ミュージカル・商業演劇が高い。

〔性別〕

・飲食やショッピングをしている割合は、男性が48.5%、女性が58.7%と女性の方が高い。飲食の平均金額では男性が女性を上回っている。

〔年齢別〕

・飲食やショッピングをしている割合では40歳代が高く、飲食とショッピングの平均金額では60歳以上が最も高い。

〔チケットクラブへの加入・未加入別〕

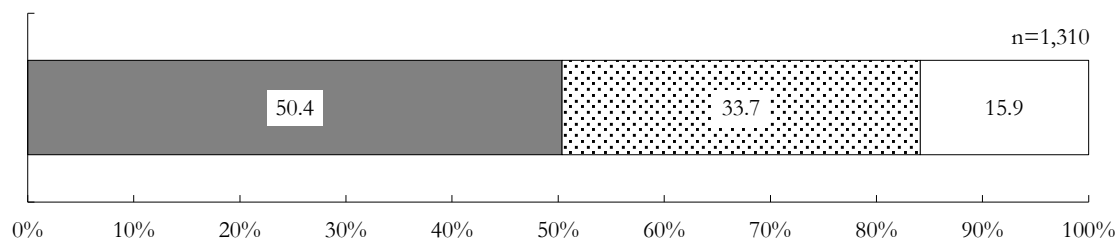
・飲食やショッピングをしている割合は、チケットクラブの加入者が61.2%、未加入者は55.1%で、加入が未加入を上回っている。ショッピングの平均金額では、未加入が加入を上回っている。

〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

・飲食やショッピングをしている割合は、11回以上が高いが、飲食をしている場合の平均額は最も低い。

〔過去調査と比較して〕

・過去調査と比較して、年によって増減はあるものの、飲食やショッピングをしている割合は概ね減少傾向にあり、16年度の割合は過去最低となっている。飲食やショッピングの平均金額は、年度によってかなりの増減が見られるが、17年度はショッピングの平均金額が過去最低となっている。



■はい □いいえ □無回答

			(単位: %)		
		調査数 (n)	Q6公演前後の飲食・ショッピング*		
			はい	いいえ	無回答
全体		1310	50.4	33.7	15.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	48.6	36.8	14.6
	音楽劇	234	47.9	30.8	21.4
	ミュージカル・商業演劇	191	59.7	28.8	11.5
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	50.9	30.4	18.7
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	48.5	46.3	5.3
	女性	923	58.7	35.3	6.0
年齢層	18歳未満	52	50.0	48.1	1.9
	18～29歳	188	46.3	49.5	4.3
	30歳代	150	61.3	34.7	4.0
	40歳代	234	63.7	34.2	2.1
	50歳代	236	63.1	31.8	5.1
	60歳以上	223	50.7	38.6	10.8
チケットクラブ	加入	286	61.2	33.9	4.9
	未加入	845	55.1	39.9	5.0
鑑賞経験	今日が初めて	302	58.3	37.1	4.6
	1～2回	157	54.1	43.3	2.5
	3～5回	213	47.9	43.2	8.9
	6～10回	173	66.5	30.1	3.5
	11回以上	294	55.8	38.8	5.4

		(単位: 円)	
		飲食をして いる場合 の平均金 額 (n=533)	ショッピングを している場 合の平均 金額 (n=316)
全体		1529.6	3845.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	1576.4	3940.4
	音楽劇	1450.8	4045.7
	ミュージカル・商業演劇	1543.6	4046.8
	古典芸能(歌舞伎・能)		
	ダンス・現代舞踊	1430.4	2868.1
	パフォーマンス		
	パフォーマンス		
性別	男性	1637.6	2808.1
	女性	1506.7	3986.6
年齢層	18歳未満	1315.5	1938.4
	18～29歳	1247.0	3602.4
	30歳代	1392.8	2355.3
	40歳代	1865.8	3086.1
	50歳代	1491.1	4056.4
	60歳以上	1559.0	4824.0
チケット クラブ	加入	1691.4	3451.2
	未加入	1485.3	3892.4
鑑賞 経験	今日が初めて	1481.9	4509.3
	1～2回	1693.8	4019.0
	3～5回	1510.1	3769.2
	6～10回	1613.5	3231.6
	11回以上	1442.0	3645.6

参考	16年度調査結果	1392	47.8	36.4	15.7
	15年度調査結果	1989	52.0	36.2	11.8
	14年度調査結果	1146	49.7	39.2	11.2
	13年度調査結果	1569	50.8	36.8	12.4
	12年度調査結果	1599	52.7	36.0	11.3
	11年度調査結果	1688	55.7	35.0	9.2
	10年度調査結果	2379	57.8	32.1	10.2
	09年度調査結果	1692	58.9	31.8	9.3
	08年度調査結果	1732	58.6	33.1	8.3
	07年度調査結果	3033	60.5	30.8	8.7
	06年度調査結果	2766	60.3	31.2	8.5
	05年度調査結果	3073	60.7	31.5	7.8
	04年度調査結果	4708	63.3	32.2	4.5
	03年度調査結果	4078	70.5	27.3	2.1

1530.6	4042.3
1679.4	4917.8
1731.2	6098.2
1480.7	5434.2
1509.2	5027.1
1490.7	4909.0
1585.0	4610.3
1510.7	4649.3
1614.1	5503.3
1829.8	5753.9
1856.6	5724.6
1687.5	6658.4
4061.7	
4582.9	

* 03年度、04年度は、「飲食やショッピング」として一つの質問項目で尋ねているため、04年度以前の数字と、05年度以降の数字の比較には留意が必要である。

公演や劇場に対する9項目の満足度を満足層(※)の割合でみると、「劇場ロビーの飲食サービス」、「公演情報の入手のしやすさ」以外の7項目で満足層の割合が90%以上を占めており、「本日の公演内容」、「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場係員の応対」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の4項目は95%を超えている。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

「たいへん満足」と回答した割合が高い(5割以上)のは、「本日の公演内容」(61.5%)、「劇場係員の応対」(55.0%)の2項目である。

「本日の公演内容」については、ジャンル、性別、年齢層、鑑賞経験を問わず、満足層の割合と「たいへん満足」の割合はいずれも高い(ただし年齢層では、18歳未満と60歳以上では「無回答」の割合も高い)。ジャンル別では、ミュージカル・商業演劇が他と比べて「たいへん満足」の割合が高い。

過去調査結果と比べて、多少の年度の変化はあるものの多くの項目が「たいへん満足」への回答割合も上昇傾向で、「本日の公演のチケット料金」、「公演情報の入手のしやすさ」以外の7項目では、それぞれの項目で「たいへん満足」が03年度調査以来最も高い割合となっている。

[来場公演のジャンル別]

・ジャンルで顕著な差は見られない。

[性別]

・男性、女性で顕著な差は見られない。

[年齢別]

・「劇場ロビーの飲食サービス」については、30歳代と40歳代の満足層の割合が低い。
・満足層の割合、「たいへん満足」の割合ともに、年齢層が高いほど低くなり、この傾向は「劇場の入口や案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」のハードに関する2項目で顕著である。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・未加入に比べて加入の方が、「劇場ロビーの飲食サービス」の不満足層の割合が高い。

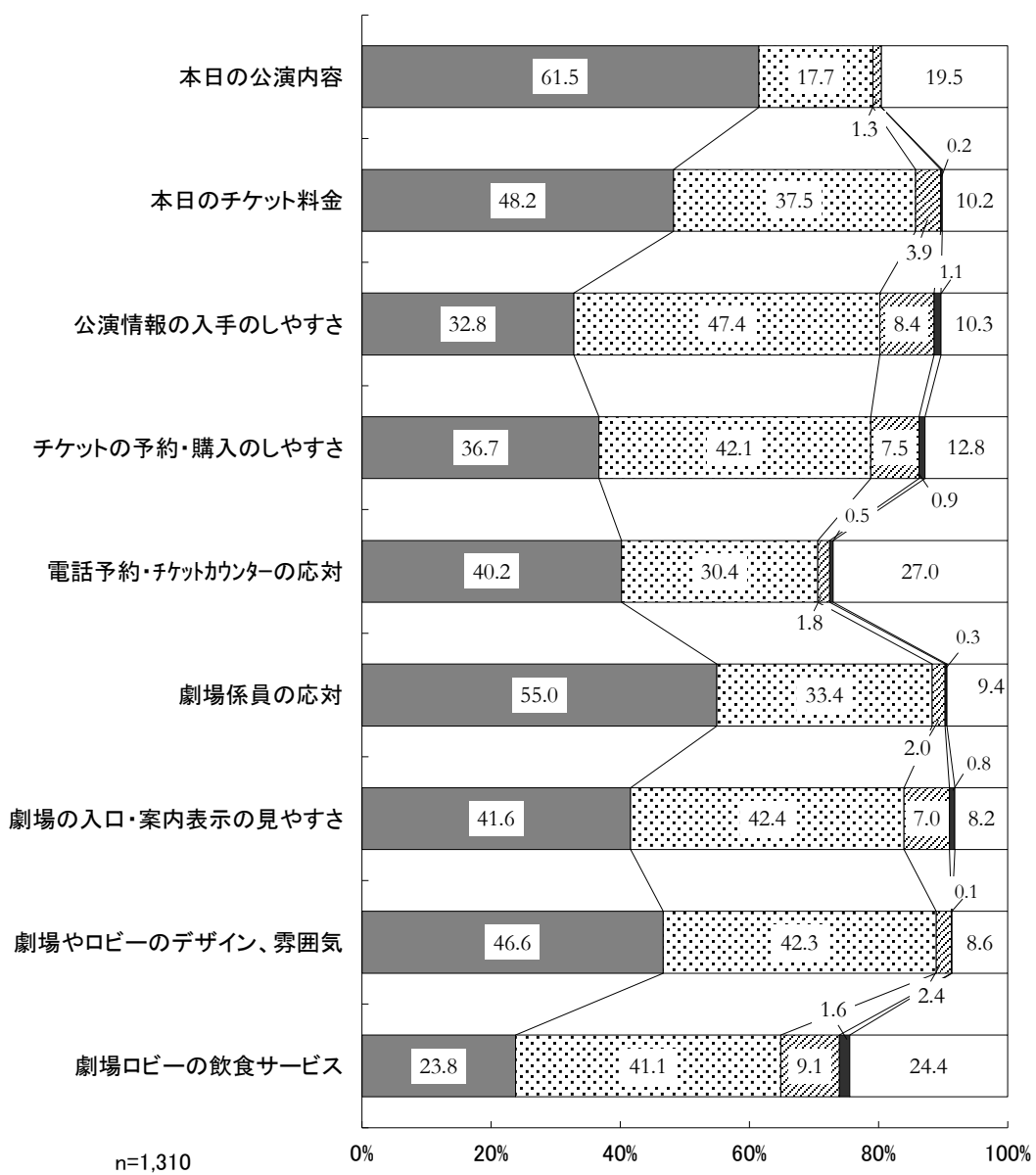
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・鑑賞頻度で、満足度に顕著な差はみられない。

[過去調査と比較して]

・項目全般について、17年度も高い満足度を維持しており、満足層の割合としては「本日の公演内容」(98.4%)、「公演チケットの料金」(95.4%)、「電話予約・チケットカウンターの応対」(97.5%)、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」(97.3%)で過去最高となっている。

※無回答の割合が20%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場ロビーの飲食サービス」の3項目である。「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場ロビーの飲食サービス」については、サービスを利用したことがない人が無回答になっていると考えられる。



■たいへん満足 □まあ満足 ▨少し不満足 ■まったく不満足 □無回答

* 満足層は、「たいへん満足」+「まあ満足」の計、無回答を除く。

【本日の公演内容】

		Q3-1本日の公演内容						「無回答」を除いた割合					(単位: %)	
		全体	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
全体		1310	61.5	17.7	1.3	0.0	19.5	1054	76.4	22.0	1.6	0.0	98.4	1.6
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	59.0	19.2	1.7	0.0	20.2	570	73.9	24.0	2.1	0.0	97.9	2.1
	音楽劇	234	53.4	21.4	1.7	0.0	23.5	179	69.8	27.9	2.2	0.0	97.8	2.2
	ミュージカル・商業演劇	191	77.0	9.4	0.5	0.0	13.1	166	88.6	10.8	0.6	0.0	99.4	0.6
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	65.5	15.8	0.0	0.0	18.7	139	80.6	19.4	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	性別	227	56.4	26.4	2.2	0.0	15.0	193	66.3	31.1	2.6	0.0	97.4	2.6
性別	女性	923	63.3	15.2	1.1	0.0	20.5	734	79.6	19.1	1.4	0.0	98.6	1.4
	年齢層	52	63.5	9.6	0.0	0.0	26.9	38	86.8	13.2	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～29歳	188	72.9	12.2	1.1	0.0	13.8	162	84.6	14.2	1.2	0.0	98.8	1.2
	30歳代	150	70.0	19.3	1.3	0.0	9.3	136	77.2	21.3	1.5	0.0	98.5	1.5
	40歳代	234	69.7	14.5	0.9	0.0	15.0	199	81.9	17.1	1.0	0.0	99.0	1.0
	50歳代	236	55.9	25.4	2.1	0.0	16.5	197	67.0	30.5	2.5	0.0	97.5	2.5
	60歳以上	223	46.6	17.5	1.3	0.0	34.5	146	71.2	26.7	2.1	0.0	97.9	2.1
チケットクラブ	加入	286	63.3	16.8	1.4	0.0	18.5	233	77.7	20.6	1.7	0.0	98.3	1.7
	未加入	845	61.4	18.2	1.3	0.0	19.1	684	75.9	22.5	1.6	0.0	98.4	1.6
鑑賞経験	今日が初めて	302	66.9	16.2	1.3	0.0	15.6	255	79.2	19.2	1.6	0.0	98.4	1.6
	1～2回	157	67.5	16.6	0.0	0.0	15.9	132	80.3	19.7	0.0	0.0	100.0	0.0
	3～5回	213	54.5	23.0	1.4	0.0	21.1	168	69.0	29.2	1.8	0.0	98.2	1.8
	6～10回	173	64.7	13.3	1.7	0.0	20.2	138	81.2	16.7	2.2	0.0	97.8	2.2
	11回以上	294	56.5	18.7	1.7	0.0	23.1	226	73.5	24.3	2.2	0.0	97.8	2.2
参考	16年度調査結果	1392	57.5	18.0	1.1	0.2	23.1	1070	74.9	23.4	1.5	0.3	98.2	1.8
	15年度調査結果	1989	60.6	17.6	1.5	0.1	20.2	1587	75.9	22.1	1.9	0.1	98.0	2.0
	14年度調査結果	1146	52.5	24.9	1.8	0.3	20.5	911	66.1	31.3	2.3	0.3	97.4	2.6
	13年度調査結果	1569	57.7	19.9	1.7	0.4	20.3	1251	72.4	24.9	2.2	0.5	97.4	2.6
	12年度調査結果	1599	53.0	21.9	1.1	0.3	23.8	1219	69.5	28.7	1.5	0.3	98.2	1.8
	11年度調査結果	1688	56.6	19.4	1.5	0.4	22.0	1316	72.6	24.9	2.0	0.5	97.6	2.4
	10年度調査結果	2379	54.6	21.6	1.7	0.3	21.7	1862	69.8	27.7	2.1	0.4	97.4	2.6
	09年度調査結果	1692	50.9	23.0	1.4	0.1	24.5	1277	67.4	30.5	1.9	0.2	98.0	2.0
	08年度調査結果	1732	51.5	25.8	2.0	0.2	20.6	1376	64.8	32.4	2.5	0.3	97.2	2.8
	07年度調査結果	3033	56.2	24.6	1.8	0.2	17.2	2510	67.9	29.7	2.2	0.2	97.6	2.4
	06年度調査結果	2766	54.2	26.4	2.2	0.2	17.1	2294	65.3	31.8	2.7	0.2	97.1	2.9
	05年度調査結果	3073	52.1	26.2	2.1	0.4	19.2	2483	64.5	32.5	2.6	0.4	97.0	3.0
	04年度調査結果	4708	53.0	26.8	2.8	0.3	17.1	3905	63.9	32.3	3.4	0.4	96.2	3.8
	03年度調査結果	4078	49.8	29.7	3.2	0.4	16.8	3392	59.9	35.7	3.9	0.5	95.6	4.4

* 満足層は、「たいへん満足」+「まあ満足」の計、不満足層は、「少し不満足」+「まったく不満足」の計。無回答を除く。以下同様。

** 小数点第2以下の四捨五入により、表中の無回答を除く「たいへん満足」+「まあ満足」の割合は満足層の割合と、「少し不満足」+「まったく不満足」の割合は不満足層の割合と、必ずしも一致しない。

【本日の公演のチケット料金】

		全体	Q3-2本日の公演のチケット料金				
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
	全体	1310	48.2	37.5	3.9	0.2	10.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	41.9	43.4	4.3	0.4	9.9
	音楽劇	234	64.5	23.1	1.3	0.0	11.1
	ミュージカル・商業演劇	191	42.9	41.4	6.8	0.0	8.9
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	58.5	28.1	2.3	0.0	11.1
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	45.8	41.0	5.3	0.0	7.9
	女性	923	48.6	37.3	3.8	0.2	10.1
年齢層	18歳未満	52	55.8	26.9	3.8	1.9	11.5
	18～29歳	188	62.8	29.3	1.6	0.0	6.4
	30歳代	150	51.3	40.0	2.0	0.0	6.7
	40歳代	234	45.7	40.6	5.6	0.4	7.7
	50歳代	236	41.5	47.0	6.4	0.0	5.1
	60歳以上	223	45.3	32.3	4.0	0.0	18.4
チケットクラブ	加入	286	47.9	40.2	2.1	0.0	9.8
	未加入	845	48.4	37.8	4.7	0.2	8.9
鑑賞経験	今日が初めて	302	53.3	35.1	3.6	0.3	7.6
	1～2回	157	51.0	31.2	7.0	0.6	10.2
	3～5回	213	44.6	43.2	4.7	0.0	7.5
	6～10回	173	47.4	38.2	3.5	0.0	11.0
	11回以上	294	45.9	40.5	2.7	0.0	10.9

「無回答」を除いた割合					
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	
1177	53.7	41.7	4.3	0.3	
643	46.5	48.2	4.8	0.5	
208	72.6	26.0	1.4	0.0	
174	47.1	45.4	7.5	0.0	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
152	65.8	31.6	2.6	0.0	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
209	49.8	44.5	5.7	0.0	
830	54.1	41.4	4.2	0.2	
46	63.0	30.4	4.3	2.2	
176	67.0	31.3	1.7	0.0	
140	55.0	42.9	2.1	0.0	
216	49.5	44.0	6.0	0.5	
224	43.8	49.6	6.7	0.0	
182	55.5	39.6	4.9	0.0	
258	53.1	44.6	2.3	0.0	
770	53.1	41.4	5.2	0.3	
279	57.7	38.0	3.9	0.4	
141	56.7	34.8	7.8	0.7	
197	48.2	46.7	5.1	0.0	
154	53.2	42.9	3.9	0.0	
262	51.5	45.4	3.1	0.0	

(単位: %)

満足層	不満足層
95.4	4.6
94.7	5.3
98.6	1.4
92.5	7.5
0.0	0.0
97.4	2.6
0.0	0.0
94.3	5.7
95.5	4.5
93.5	6.5
98.3	1.7
97.9	2.1
93.5	6.5
93.3	6.7
95.1	4.9
97.7	2.3
94.5	5.5
95.7	4.3
91.5	8.5
94.9	5.1
96.1	3.9
96.9	3.1

参考	16年度調査結果	1392	48.7	33.7	5.1	0.5	12.0
	15年度調査結果	1989	39.8	40.9	5.9	0.7	12.8
	14年度調査結果	1146	36.4	47.6	4.8	0.5	10.6
	13年度調査結果	1569	35.6	46.6	5.7	0.7	11.3
	12年度調査結果	1599	35.1	47.0	5.4	0.3	12.3
	11年度調査結果	1688	34.4	47.5	5.1	0.4	12.7
	10年度調査結果	2379	29.0	51.3	7.6	0.4	11.7
	09年度調査結果	1692	30.4	49.8	6.2	0.3	13.3
	08年度調査結果	1732	34.6	47.6	5.9	0.4	11.4
	07年度調査結果	3033	30.9	49.1	6.8	0.4	12.8
	06年度調査結果	2766	24.5	54.9	8.5	0.3	11.7
	05年度調査結果	3073	29.8	49.7	6.1	0.4	13.9
	04年度調査結果	4708	27.0	52.4	10.3	0.6	9.6
	03年度調査結果	4078	21.7	53.4	11.6	0.7	12.5

1225	55.3	38.3	5.8	0.6
1735	45.6	46.9	6.8	0.7
1024	40.7	53.3	5.4	0.6
1391	40.2	52.6	6.5	0.8
1402	40.0	53.6	6.1	0.3
1474	39.3	54.4	5.8	0.4
2101	32.9	58.1	8.6	0.5
1467	35.0	57.5	7.2	0.3
1534	39.1	53.7	6.7	0.5
2646	35.4	56.3	7.8	0.5
2442	27.8	62.2	9.7	0.4
2645	34.7	57.8	7.1	0.5
4255	29.9	58.0	11.4	0.7
3567	24.8	61.1	13.3	0.8

93.6	6.4
92.4	7.6
94.0	6.0
92.7	7.3
93.6	6.4
93.8	6.2
91.0	9.0
92.5	7.5
92.8	7.2
91.7	8.3
90.0	10.0
92.4	7.6
87.9	12.1
85.9	14.1

【公演情報の入手のしやすさ】

		全体	Q3-3公演情報の入手のしやすさ				
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
	全体	1310	32.8	47.4	8.4	1.1	10.3
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	29.7	50.1	9.9	1.4	8.8
	音楽劇	234	38.9	38.5	5.6	0.9	16.2
	ミュージカル・商業演劇	191	33.0	47.6	9.4	1.0	8.9
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	37.4	48.0	4.7	0.0	9.9
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	30.0	49.3	10.1	0.4	10.1
	女性	923	33.2	48.4	8.1	1.3	9.0
年齢層	18歳未満	52	46.2	44.2	1.9	0.0	7.7
	18～29歳	188	38.3	45.2	10.1	1.1	5.3
	30歳代	150	30.7	54.0	10.0	2.7	2.7
	40歳代	234	36.8	47.4	9.8	0.9	5.1
	50歳代	236	28.4	53.8	8.9	1.7	7.2
	60歳以上	223	26.9	43.9	7.2	0.4	21.5
チケットクラブ	加入	286	34.3	50.0	8.4	0.7	6.6
	未加入	845	31.8	49.3	8.3	1.3	9.2
鑑賞経験	今日が初めて	302	34.1	44.7	12.6	1.3	7.3
	1～2回	157	32.5	43.9	12.1	2.5	8.9
	3～5回	213	27.2	53.5	9.9	0.9	8.5
	6～10回	173	29.5	52.0	5.2	0.6	12.7
	11回以上	294	36.1	50.7	4.1	0.7	8.5

「無回答」を除いた割合					
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	
1175	36.6	52.9	9.4	1.2	
651	32.6	55.0	10.9	1.5	
196	46.4	45.9	6.6	1.0	
174	36.2	52.3	10.3	1.1	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
154	41.6	53.2	5.2	0.0	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
204	33.3	54.9	11.3	0.5	
840	36.4	53.2	8.9	1.4	
48	50.0	47.9	2.1	0.0	
178	40.4	47.8	10.7	1.1	
146	31.5	55.5	10.3	2.7	
222	38.7	50.0	10.4	0.9	
219	30.6	58.0	9.6	1.8	
175	34.3	56.0	9.1	0.6	
267	36.7	53.6	9.0	0.7	
767	35.1	54.4	9.1	1.4	
280	36.8	48.2	13.6	1.4	
143	35.7	48.3	13.3	2.8	
195	29.7	58.5	10.8	1.0	
151	33.8	59.6	6.0	0.7	
269	39.4	55.4	4.5	0.7	

(単位: %)

満足層	不満足層
89.4	10.6
87.6	12.4
92.3	7.7
88.5	11.5
0.0	0.0
94.8	5.2
0.0	0.0
88.2	11.8
89.6	10.4
97.9	2.1
88.2	11.8
87.0	13.0
88.7	11.3
90.3	9.7
90.3	9.7
89.4	10.6
85.0	15.0
83.9	16.1
88.2	11.8
93.4	6.6
94.8	5.2

参考	16年度調査結果	1392	32.7	46.0	7.4	0.8	13.1
	15年度調査結果	1989	28.6	43.3	12.7	1.9	13.5
	14年度調査結果	1146	32.0	46.8	10.2	0.5	10.5
	13年度調査結果	1569	28.9	49.5	9.2	1.6	10.8
	12年度調査結果	1599	26.8	51.9	8.9	0.6	11.8
	11年度調査結果	1688	28.5	51.4	8.3	0.7	11.1
	10年度調査結果	2379	24.9	50.0	11.9	1.0	12.1
	09年度調査結果	1692	23.0	52.9	10.5	1.2	12.4
	08年度調査結果	1732	25.8	49.5	10.5	1.6	12.7
	07年度調査結果	3033	19.5	48.4	14.7	1.5	15.9
	06年度調査結果	2766	17.3	50.4	16.0	2.1	14.2
	05年度調査結果	3073	15.2	49.0	16.7	2.0	17.2
	04年度調査結果	4708	14.2	49.3	20.2	3.0	13.3
	03年度調査結果	4078	12.0	43.8	22.6	7.5	14.1

1210	37.6	53.0	8.5	0.9
1721	33.1	50.1	14.7	2.1
1026	35.8	52.2	11.4	0.6
1399	32.5	55.5	10.3	1.8
1411	30.3	58.8	10.1	0.7
1500	32.1	57.8	9.3	0.8
2091	28.4	56.9	13.6	1.1
1483	26.2	60.4	12.0	1.4
1512	29.5	56.7	12.0	1.8
2550	23.1	57.6	17.5	1.8
2373	20.1	58.7	18.7	2.4
2544	18.3	59.2	20.1	2.4
4081	16.4	56.8	23.3	3.4
3505	14.0	50.9	26.3	8.7

90.6	9.4
83.1	16.9
88.0	12.0
87.9	12.1
89.2	10.8
89.9	10.1
85.3	14.7
86.6	13.4
86.2	13.8
80.7	19.3
78.9	21.1
77.5	22.5
73.3	26.7
64.9	35.1

【チケットの予約・購入のしやすさ】

		全体	Q3-4チケットの予約・購入のしやすさ			
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
	全体	1310	36.7	42.1	7.5	0.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	35.2	43.4	8.8	1.1
	音楽劇	234	35.9	37.6	5.6	1.3
	ミュージカル・商業演劇	191	34.0	47.6	6.8	0.5
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	47.4	36.3	5.3	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	31.7	47.6	7.0	1.3
	女性	923	37.4	42.3	8.1	1.0
年齢層	18歳未満	52	57.7	25.0	1.9	5.8
	18～29歳	188	49.5	37.2	5.3	0.5
	30歳代	150	36.7	51.3	7.3	1.3
	40歳代	234	37.6	44.0	8.1	0.9
	50歳代	236	28.0	48.7	11.9	1.3
	60歳以上	223	28.7	39.9	8.1	0.4
チケットクラブ	加入	286	39.2	44.8	8.4	1.0
	未加入	845	35.7	43.2	7.8	1.1
鑑賞経験	今日が初めて	302	37.4	42.7	10.3	1.0
	1～2回	157	35.0	41.4	10.2	0.0
	3～5回	213	31.5	44.6	8.0	0.9
	6～10回	173	37.6	44.5	5.8	1.2
	11回以上	294	39.1	43.9	6.5	1.4

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1142	42.1	48.2	8.6	1.1
632	39.7	49.1	10.0	1.3
188	44.7	46.8	6.9	1.6
170	38.2	53.5	7.6	0.6
0	0.0	0.0	0.0	0.0
152	53.3	40.8	5.9	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
199	36.2	54.3	8.0	1.5
819	42.1	47.6	9.2	1.1
47	63.8	27.7	2.1	6.4
174	53.4	40.2	5.7	0.6
145	37.9	53.1	7.6	1.4
212	41.5	48.6	9.0	0.9
212	31.1	54.2	13.2	1.4
172	37.2	51.7	10.5	0.6
267	41.9	47.9	9.0	1.1
742	40.7	49.2	8.9	1.2
276	40.9	46.7	11.2	1.1
136	40.4	47.8	11.8	0.0
181	37.0	52.5	9.4	1.1
154	42.2	50.0	6.5	1.3
267	43.1	48.3	7.1	1.5

(単位: %)

満足層	不満足層
90.4	9.6
88.8	11.2
91.5	8.5
91.8	8.2
0.0	0.0
94.1	5.9
0.0	0.0
90.5	9.5
89.7	10.3
91.5	8.5
93.7	6.3
91.0	9.0
90.1	9.9
85.4	14.6
89.0	11.0
89.9	10.1
89.9	10.1
87.7	12.3
88.2	11.8
89.5	10.5
92.2	7.8
91.4	8.6

参考	16年度調査結果	1392	33.5	42.3	6.9	0.8
	15年度調査結果	1989	28.1	38.3	13.2	4.0
	14年度調査結果	1146	32.2	45.5	8.2	1.5
	13年度調査結果	1569	32.1	44.9	7.3	2.4
	12年度調査結果	1599	28.0	48.1	8.1	1.4
	11年度調査結果	1688	30.5	46.6	7.4	1.2
	10年度調査結果	2379	23.5	47.2	11.7	2.0
	09年度調査結果	1692	24.1	48.6	10.9	1.4
	08年度調査結果	1732	25.9	49.9	7.2	1.3
	07年度調査結果	3033	21.5	47.1	12.0	1.8
	06年度調査結果	2766	18.7	47.9	13.7	2.7
	05年度調査結果	3073	17.0	47.8	14.4	2.6
	04年度調査結果	4708	14.4	47.6	19.1	4.0
	03年度調査結果	4078	9.7	35.2	24.9	14.8

1163	40.2	50.6	8.3	0.9
1664	33.6	45.8	15.8	4.8
1001	36.9	52.0	9.4	1.7
1361	37.0	51.8	8.4	2.7
1368	32.7	56.2	9.4	1.6
1446	35.6	54.4	8.6	1.4
2007	27.8	56.0	13.9	2.3
1436	28.3	57.2	12.8	1.6
1459	30.7	59.2	8.5	1.6
2501	26.1	57.1	14.6	2.2
2293	22.5	57.8	16.5	3.2
2514	20.8	58.4	17.6	3.1
4010	17.0	55.9	22.4	4.7
3449	11.5	41.6	29.4	17.5

90.8	9.2
79.4	20.6
88.9	11.1
88.8	11.2
89.0	11.0
90.0	10.0
83.8	16.2
85.6	14.4
89.9	10.1
83.2	16.8
80.3	19.7
79.2	20.8
72.9	27.1
53.1	46.9

【(北九州芸術劇場の)電話予約・チケットカウンターの応対】

		全体	Q3-5電話予約・チケットカウンターの応対			
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
	全体	1310	40.2	30.4	1.8	0.5
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	38.8	31.7	2.4	0.7
	音楽劇	234	41.0	28.2	1.7	0.4
	ミュージカル・商業演劇	191	38.2	28.8	1.0	0.5
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	47.4	29.8	0.6	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	33.9	36.6	1.8	0.0
	女性	923	41.7	29.9	2.2	0.8
年齢層	18歳未満	52	67.3	21.2	0.0	3.8
	18～29歳	188	51.6	27.7	2.7	0.5
	30歳代	150	40.7	30.7	2.0	0.7
	40歳代	234	40.2	29.9	1.3	0.4
	50歳代	236	35.6	38.6	2.1	0.4
	60歳以上	223	33.6	30.5	1.8	0.4
チケットクラブ	加入	286	46.5	35.0	2.1	0.0
	未加入	845	38.3	30.2	2.1	0.8
鑑賞経験	今日が初めて	302	40.7	28.8	2.6	0.7
	1～2回	157	42.7	28.0	2.5	1.3
	3～5回	213	33.8	33.3	1.9	0.9
	6～10回	173	42.8	30.6	1.7	0.0
	11回以上	294	41.2	35.0	1.7	0.3

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
956	55.1	41.6	2.5	0.7
525	52.8	43.0	3.2	1.0
167	57.5	39.5	2.4	0.6
131	55.7	42.0	1.5	0.8
0	0.0	0.0	0.0	0.0
133	60.9	38.3	0.8	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
164	47.0	50.6	2.4	0.0
688	56.0	40.1	2.9	1.0
48	72.9	22.9	0.0	4.2
155	62.6	33.5	3.2	0.6
111	55.0	41.4	2.7	0.9
168	56.0	41.7	1.8	0.6
181	46.4	50.3	2.8	0.6
148	50.7	45.9	2.7	0.7
239	55.6	41.8	2.5	0.0
604	53.6	42.2	3.0	1.2
220	55.9	39.5	3.6	0.9
117	57.3	37.6	3.4	1.7
149	48.3	47.7	2.7	1.3
130	56.9	40.8	2.3	0.0
230	52.6	44.8	2.2	0.4

(単位: %)

満足層	不満足層
97.5	2.5
97.4	2.6
98.6	1.4
96.5	3.5
0.0	0.0
97.4	2.6
0.0	0.0
98.5	1.5
97.2	2.8
98.0	2.0
97.7	2.3
97.3	2.7
96.4	3.6
99.5	0.5
96.2	3.8
96.6	3.4
97.7	2.3
95.0	5.0
98.6	1.4
100.0	0.0
99.4	0.6
96.6	3.4

参考	16年度調査結果	1392	37.4	33.0	2.3	0.1
	15年度調査結果	1989	33.1	36.0	2.6	0.8
	14年度調査結果	1146	31.8	36.0	3.1	0.3
	13年度調査結果	1569	32.5	34.7	2.6	0.7
	12年度調査結果	1599	32.7	36.8	1.7	0.3
	11年度調査結果	1688	30.6	38.4	2.1	0.2
	10年度調査結果	2379	26.2	38.8	2.6	0.5
	09年度調査結果	1692	27.9	38.5	2.8	0.3
	08年度調査結果	1732	26.6	38.6	3.2	0.5
	07年度調査結果	3033	26.9	41.9	4.1	1.1
	06年度調査結果	2766	24.4	45.8	5.0	1.0
	05年度調査結果	3073	25.3	43.5	4.6	1.0
	04年度調査結果	4708	22.4	46.4	5.8	1.3
	03年度調査結果	4078	14.1	46.3	10.3	5.0

1014	51.4	45.4	3.2	0.1
1440	45.7	49.7	3.5	1.0
816	44.6	50.6	4.3	0.5
1106	46.1	49.2	3.7	1.0
1142	45.8	51.5	2.4	0.4
1205	42.9	53.9	2.9	0.3
1619	38.5	57.0	3.8	0.7
1176	40.1	55.4	4.0	0.4
1194	38.6	56.0	4.6	0.8
2242	36.4	56.7	5.5	1.4
2106	32.0	60.1	6.5	1.4
2283	34.0	58.6	6.1	1.3
3573	29.5	61.2	7.6	1.7
3090	18.7	61.2	13.6	6.5

96.7	3.3
95.4	4.6
95.2	4.8
95.3	4.7
97.3	2.7
96.8	3.2
95.6	4.4
95.6	4.4
94.6	5.4
93.1	6.9
92.1	7.9
92.6	7.4
90.7	9.3
79.8	20.2

【劇場係員の応対】

		全体	Q3-6劇場係員の応対				
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
	全体	1310	55.0	33.4	2.0	0.3	9.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	52.8	36.3	2.1	0.3	8.5
	音楽劇	234	59.4	28.2	0.9	0.4	11.1
	ミュージカル・商業演劇	191	56.0	31.4	2.6	0.5	9.4
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	56.7	30.4	2.3	0.0	10.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	50.2	39.2	0.9	0.4	9.3
	女性	923	56.2	33.0	2.3	0.3	8.1
年齢層	18歳未満	52	76.9	15.4	0.0	1.9	5.8
	18～29歳	188	68.6	23.4	2.1	0.0	5.9
	30歳代	150	64.0	32.0	2.0	0.7	1.3
	40歳代	234	60.3	32.1	3.4	0.0	4.3
	50歳代	236	44.9	46.6	0.4	0.0	8.1
	60歳以上	223	43.0	36.3	2.2	0.9	17.5
チケットクラブ	加入	286	54.9	35.0	2.8	0.3	7.0
	未加入	845	55.3	34.6	1.8	0.4	8.0
鑑賞経験	今日が初めて	302	55.3	33.4	4.3	0.3	6.6
	1～2回	157	59.2	31.8	0.6	0.6	7.6
	3～5回	213	52.6	39.9	0.0	0.0	7.5
	6～10回	173	57.2	32.9	0.6	0.0	9.2
	11回以上	294	53.1	35.0	2.4	0.7	8.8

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1187	60.7	36.8	2.2	0.3
653	57.7	39.7	2.3	0.3
208	66.8	31.7	1.0	0.5
173	61.8	34.7	2.9	0.6
0	0.0	0.0	0.0	0.0
153	63.4	34.0	2.6	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
206	55.3	43.2	1.0	0.5
848	61.2	36.0	2.5	0.4
49	81.6	16.3	0.0	2.0
177	72.9	24.9	2.3	0.0
148	64.9	32.4	2.0	0.7
224	62.9	33.5	3.6	0.0
217	48.8	50.7	0.5	0.0
184	52.2	44.0	2.7	1.1
266	59.0	37.6	3.0	0.4
777	60.1	37.6	1.9	0.4
282	59.2	35.8	4.6	0.4
145	64.1	34.5	0.7	0.7
197	56.9	43.1	0.0	0.0
157	63.1	36.3	0.6	0.0
268	58.2	38.4	2.6	0.7

(単位: %)

満足層	不満足層
97.5	2.5
97.4	2.6
98.6	1.4
96.5	3.5
0.0	0.0
97.4	2.6
0.0	0.0
98.5	1.5
97.2	2.8
98.0	2.0
97.7	2.3
97.3	2.7
96.4	3.6
99.5	0.5
96.2	3.8
96.6	3.4
97.7	2.3
95.0	5.0
98.6	1.4
100.0	0.0
99.4	0.6
96.6	3.4

参考	16年度調査結果	1392	51.1	36.3	1.8	0.1	10.7
	15年度調査結果	1989	46.5	39.8	2.4	0.5	10.9
	14年度調査結果	1146	48.5	41.0	2.1	0.3	8.0
	13年度調査結果	1569	50.2	38.6	1.6	0.4	9.1
	12年度調査結果	1599	49.1	39.9	1.3	0.1	9.7
	11年度調査結果	1688	48.0	42.5	0.8	0.2	8.4
	10年度調査結果	2379	47.5	41.7	1.6	0.1	9.1
	09年度調査結果	1692	44.1	43.5	1.7	0.2	10.5
	08年度調査結果	1732	46.5	40.6	2.3	0.6	10.0
	07年度調査結果	3033	46.5	41.7	2.4	0.5	9.0
	06年度調査結果	2766	43.6	44.6	2.8	0.4	8.6
	05年度調査結果	3073	44.7	42.8	1.7	0.4	10.4
	04年度調査結果	4708	44.1	46.2	2.2	0.3	7.2
	03年度調査結果	4078	26.7	54.2	6.0	1.1	12.1

1243	57.3	40.6	2.0	0.1
1772	52.2	44.6	2.7	0.5
1054	52.8	44.6	2.3	0.4
1426	55.3	42.5	1.8	0.5
1444	54.4	44.2	1.4	0.1
1546	52.4	46.4	0.9	0.3
2162	52.3	45.8	1.8	0.1
1514	49.3	48.6	1.8	0.3
1558	51.7	45.1	2.6	0.6
2761	51.1	45.8	2.6	0.5
2527	47.7	48.8	3.1	0.4
2752	49.9	47.7	1.9	0.4
4371	47.5	49.8	2.4	0.3
3585	30.3	61.6	6.8	1.3

97.9	2.1
96.8	3.2
97.3	2.7
97.8	2.2
98.5	1.5
98.8	1.2
98.1	1.9
97.9	2.1
96.8	3.2
96.9	3.1
96.5	3.5
97.7	2.3
97.3	2.7
91.9	8.1

【劇場の入口・案内表示のわかりやすさ】

		全体	Q3-7劇場の入口・案内表示のわかりやすさ				
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
	全体	1310	41.6	42.4	7.0	0.8	8.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	39.9	43.1	8.5	0.8	7.6
	音楽劇	234	44.4	41.9	3.0	0.9	9.8
	ミュージカル・商業演劇	191	42.9	41.9	8.9	0.0	6.3
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	43.3	40.4	4.1	1.8	10.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	37.0	48.5	6.6	0.9	7.0
	女性	923	43.3	41.8	6.9	0.8	7.2
年齢層	18歳未満	52	65.4	25.0	3.8	0.0	5.8
	18～29歳	188	57.4	28.2	8.5	0.5	5.3
	30歳代	150	48.7	45.3	4.7	0.7	0.7
	40歳代	234	47.4	41.9	6.8	0.0	3.8
	50歳代	236	34.3	51.3	6.8	1.7	5.9
	60歳以上	223	28.3	46.6	8.1	1.3	15.7
チケットクラブ	加入	286	40.2	47.9	6.3	0.0	5.6
	未加入	845	43.3	41.5	7.1	1.2	6.9
鑑賞経験	今日が初めて	302	43.4	40.7	9.9	1.0	5.0
	1～2回	157	43.9	39.5	9.6	0.6	6.4
	3～5回	213	41.8	44.6	5.2	0.9	7.5
	6～10回	173	43.4	43.4	5.2	0.0	8.1
	11回以上	294	40.1	46.9	4.1	1.4	7.5

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1203	45.3	46.1	7.6	0.9
660	43.2	46.7	9.2	0.9
211	49.3	46.4	3.3	0.9
179	45.8	44.7	9.5	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
153	48.4	45.1	4.6	2.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
211	39.8	52.1	7.1	0.9
857	46.7	45.0	7.5	0.8
49	69.4	26.5	4.1	0.0
178	60.7	29.8	9.0	0.6
149	49.0	45.6	4.7	0.7
225	49.3	43.6	7.1	0.0
222	36.5	54.5	7.2	1.8
188	33.5	55.3	9.6	1.6
270	42.6	50.7	6.7	0.0
787	46.5	44.6	7.6	1.3
287	45.6	42.9	10.5	1.0
147	46.9	42.2	10.2	0.7
197	45.2	48.2	5.6	1.0
159	47.2	47.2	5.7	0.0
272	43.4	50.7	4.4	1.5

(単位: %)

91.4	8.6
89.8	10.2
95.7	4.3
90.5	9.5
0.0	0.0
93.5	6.5
0.0	0.0
91.9	8.1
91.7	8.3
95.9	4.1
90.4	9.6
94.6	5.4
92.9	7.1
91.0	9.0
88.8	11.2
93.3	6.7
91.1	8.9
88.5	11.5
89.1	10.9
93.4	6.6
94.3	5.7
94.1	5.9

参考	16年度調査結果	1392	39.5	42.3	6.7	0.9	10.6
	15年度調査結果	1989	35.3	44.0	8.7	1.3	10.7
	14年度調査結果	1146	37.1	47.5	6.5	0.8	8.2
	13年度調査結果	1569	37.0	43.7	8.7	1.8	8.9
	12年度調査結果	1599	34.8	45.8	9.1	0.8	9.6
	11年度調査結果	1688	36.2	46.7	7.6	1.2	8.2
	10年度調査結果	2379	34.9	45.8	9.6	0.9	8.8
	09年度調査結果	1692	30.4	48.9	9.1	1.7	9.9
	08年度調査結果	1732	31.5	47.7	9.5	1.8	9.5
	07年度調査結果	3033	28.4	46.3	13.8	2.8	8.7
	06年度調査結果	2766	24.6	47.1	16.4	3.0	8.8
	05年度調査結果	3073	24.2	45.0	17.5	3.7	9.6
	04年度調査結果	4708	22.3	46.6	20.3	4.1	6.6
	03年度調査結果	4078	17.4	44.3	22.1	5.5	10.7

1244	44.2	47.3	7.5	1.0
1777	39.6	49.2	9.8	1.4
1052	40.4	51.7	7.0	0.9
1430	40.6	47.9	9.5	2.0
1445	38.5	50.7	10.0	0.8
1549	39.4	50.9	8.3	1.4
2169	38.3	50.2	10.6	1.0
1524	33.7	54.3	10.1	1.9
1568	34.8	52.7	10.5	2.0
2768	31.1	50.7	15.1	3.0
2522	27.0	51.7	18.0	3.3
2778	26.8	49.8	19.4	4.1
4396	23.9	49.9	21.7	4.4
3643	19.5	49.6	24.7	6.2

91.6	8.4
88.8	11.2
92.1	7.9
88.5	11.5
89.1	10.9
90.4	9.6
88.5	11.5
87.4	12.6
81.8	18.2
78.7	21.3
76.6	23.4
73.9	26.1
69.1	30.9

【劇場やロビーのデザイン、雰囲気】

		Q3-8劇場やロビーのデザイン、雰囲気						「無回答」を除いた割合					(単位: %)	
		全体	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
ジャンル	全体	1310	46.6	42.3	2.4	0.1	8.6	1197	51.0	46.3	2.6	0.1	97.3	2.7
	小劇場・現代演劇	714	45.2	44.0	2.7	0.1	8.0	657	49.2	47.8	2.9	0.2	97.0	3.0
	音楽劇	234	47.9	39.3	2.6	0.0	10.3	210	53.3	43.8	2.9	0.0	97.1	2.9
	ミュージカル・商業演劇	191	51.3	40.3	0.5	0.0	7.9	176	55.7	43.8	0.6	0.0	99.4	0.6
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	45.6	41.5	2.9	0.0	9.9	154	50.6	46.1	3.2	0.0	96.8	3.2
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	41.9	46.7	3.1	0.4	7.9	209	45.5	50.7	3.3	0.5	96.2	3.8
	女性	923	48.5	41.9	2.2	0.0	7.4	855	52.4	45.3	2.3	0.0	97.7	2.3
年齢層	18歳未満	52	69.2	25.0	0.0	0.0	5.8	49	73.5	26.5	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～29歳	188	63.8	29.3	1.6	0.0	5.3	178	67.4	30.9	1.7	0.0	98.3	1.7
	30歳代	150	54.7	42.0	2.7	0.0	0.7	149	55.0	42.3	2.7	0.0	97.3	2.7
	40歳代	234	55.6	38.0	2.6	0.0	3.8	225	57.8	39.6	2.7	0.0	97.3	2.7
	50歳代	236	36.0	56.4	2.1	0.0	5.5	223	38.1	59.6	2.2	0.0	97.8	2.2
	60歳以上	223	29.6	49.3	3.1	0.4	17.5	184	35.9	59.8	3.8	0.5	95.7	4.3
チケットクラブ	加入	286	44.4	47.2	2.1	0.0	6.3	268	47.4	50.4	2.2	0.0	97.8	2.2
	未加入	845	48.8	41.5	2.5	0.1	7.1	785	52.5	44.7	2.7	0.1	97.2	2.8
鑑賞経験	今日が初めて	302	49.0	42.7	2.3	0.3	5.6	285	51.9	45.3	2.5	0.4	97.2	2.8
	1～2回	157	51.6	40.1	2.5	0.0	5.7	148	54.7	42.6	2.7	0.0	97.3	2.7
	3～5回	213	46.9	42.7	3.3	0.0	7.0	198	50.5	46.0	3.5	0.0	96.5	3.5
	6～10回	173	48.6	41.6	1.7	0.0	8.1	159	52.8	45.3	1.9	0.0	98.1	1.9
	11回以上	294	43.5	45.6	2.0	0.0	8.8	268	47.8	50.0	2.2	0.0	97.8	2.2

参考	16年度調査結果	1392	43.5	42.0	2.6	0.1	11.9	1227	49.3	47.6	2.9	0.2	96.9	3.1
	15年度調査結果	1989	40.5	44.4	3.5	0.6	11.1	1769	45.5	49.9	3.9	0.7	95.4	4.6
	14年度調査結果	1146	40.3	47.9	3.0	0.3	8.6	1048	44.1	52.4	3.2	0.3	96.5	3.5
	13年度調査結果	1569	44.7	42.4	3.2	0.6	9.1	1426	49.2	46.6	3.5	0.6	95.9	4.1
	12年度調査結果	1599	40.7	46.5	2.6	0.2	10.1	1437	45.2	51.7	2.9	0.2	96.9	3.1
	11年度調査結果	1688	43.5	44.7	2.7	0.4	8.8	1540	47.7	49.0	3.0	0.4	96.6	3.4
	10年度調査結果	2379	42.2	45.3	3.4	0.3	8.8	2169	46.2	49.7	3.8	0.3	95.9	4.1
	09年度調査結果	1692	39.7	46.4	3.4	0.3	10.2	1519	44.2	51.7	3.8	0.3	95.9	4.1
	08年度調査結果	1732	38.3	46.6	4.3	0.6	10.2	1555	42.6	51.9	4.8	0.6	94.5	5.5
	07年度調査結果	3033	36.2	48.7	4.5	0.7	9.9	2733	40.2	54.1	5.0	0.8	94.3	5.7
	06年度調査結果	2766	31.9	52.3	5.5	0.5	9.7	2497	35.3	58.0	6.1	0.6	93.3	6.7
	05年度調査結果	3073	31.4	51.3	5.5	0.7	11.0	2735	35.3	57.6	6.2	0.8	92.9	7.1
	04年度調査結果	4708	31.4	52.6	7.3	1.0	7.6	4348	34.0	57.0	7.9	1.1	91.0	9.0
	03年度調査結果	4078	26.5	51.7	9.1	1.2	11.5	3608	30.0	58.5	10.3	1.3	88.4	11.6

【劇場ロビーの飲食サービス】

		Q3-9劇場ロビーの飲食サービス						「無回答」を除いた割合					(単位: %)	
		全体	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
ジャンル	全体	1310	23.8	41.1	9.1	1.6	24.4	990	31.5	54.3	12.0	2.1	85.9	14.1
	小劇場・現代演劇	714	22.0	41.3	10.4	1.8	24.5	539	29.1	54.7	13.7	2.4	83.9	16.1
	音楽劇	234	26.9	40.2	5.1	2.1	25.6	174	36.2	54.0	6.9	2.9	90.2	9.8
	ミュージカル・商業演劇	191	28.3	45.0	6.8	1.0	18.8	155	34.8	55.5	8.4	1.3	90.3	9.7
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	22.2	36.8	11.7	0.6	28.7	122	31.1	51.6	16.4	0.8	82.8	17.2
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	15.0	48.5	9.3	1.8	25.6	169	20.1	65.1	12.4	2.4	85.2	14.8
	女性	923	25.0	40.7	9.4	1.5	23.3	708	32.6	53.1	12.3	2.0	85.7	14.3
年齢層	18歳未満	52	50.0	32.7	3.8	1.9	11.5	46	56.5	37.0	4.3	2.2	93.5	6.5
	18～29歳	188	36.2	42.6	4.3	1.6	15.4	159	42.8	50.3	5.0	1.9	93.1	6.9
	30歳代	150	24.0	43.3	14.0	1.3	17.3	124	29.0	52.4	16.9	1.6	81.5	18.5
	40歳代	234	23.9	39.7	13.7	1.7	20.9	185	30.3	50.3	17.3	2.2	80.5	19.5
	50歳代	236	19.1	47.5	11.4	1.3	20.8	187	24.1	59.9	14.4	1.6	84.0	16.0
	60歳以上	223	11.7	41.7	4.9	1.3	40.4	133	19.5	69.9	8.3	2.3	89.5	10.5
チケットクラブ	加入	286	21.3	44.8	12.6	1.7	19.6	230	26.5	55.7	15.7	2.2	82.2	17.8
	未加入	845	24.0	41.4	8.5	1.4	24.6	637	31.9	54.9	11.3	1.9	86.8	13.2
鑑賞経験	今日が初めて	302	25.2	42.7	8.6	1.7	21.9	236	32.2	54.7	11.0	2.1	86.9	13.1
	1～2回	157	26.8	47.1	6.4	0.6	19.1	127	33.1	58.3	7.9	0.8	91.3	8.7
	3～5回	213	23.5	41.8	11.7	0.5	22.5	165	30.3	53.9	15.2	0.6	84.2	15.8
	6～10回	173	20.8	40.5	10.4	2.9	25.4	129	27.9	54.3	14.0	3.9	82.2	17.8
	11回以上	294	20.1	41.2	9.9	1.7	27.2	214	27.6	56.5	13.6	2.3	84.1	15.9

参考	16年度調査結果	1392	20.0	42.1	8.8	0.6	28.5	995	27.9	58.9	12.3	0.9	86.8	13.2
	15年度調査結果	1989	19.6	45.0	8.8	1.2	25.5	1482	26.2	60.4	11.8	1.6	86.6	13.4
	14年度調査結果	1146	17.1	44.4	8.2	1.0	29.3	810	24.2	62.8	11.6	1.4	87.0	13.0
	13年度調査結果	1569	17.3	41.1	9.2	1.2	31.2	1080	25.2	59.7	13.3	1.8	84.9	15.1
	12年度調査結果	1599	16.3	45.2	9.2	1.3	28.1	1149	22.6	62.8	12.8	1.7	85.5	14.5
	11年度調査結果	1688	17.8	44.8	8.1	0.7	28.5	1207	24.9	62.7	11.4	1.0	87.7	12.3
	10年度調査結果	2379	15.8	48.4	9.5	1.4	25.0	1784	21.0	64.5	12.6	1.8	85.5	14.5
	09年度調査結果	1692	14.8	47.6	9.5	0.8	27.3	1230	20.4	65.4	13.1	1.1	85.9	14.1
	08年度調査結果	1732	14.4	47.1	11.2	1.5	25.8	1285	19.5	63.4	15.1	2.0	82.9	17.1
	07年度調査結果	3033	15.5	48.4	14.3	1.6	20.2	2421	19.4	60.6	18.0	2.0	80.0	20.0
	06年度調査結果	2766	11.4	51.0	16.7	1.9	19.1	2239	14.0	63.0	20.7	2.3	77.0	23.0
	05年度調査結果	3073	12.6	49.2	14.6	1.7	22.0	2398	16.1	63.0	18.8	2.1	79.1	20.9
	04年度調査結果	4708	11.6	52.1	16.1	2.3	17.8	3868	14.1	63.4	19.6	2.8	77.6	22.4
	03年度調査結果	4078	9.5	46.3	17.5	2.9	23.7	3112	12.5	60.7	22.9	3.9	73.2	26.8

劇場に対する総合的な意見(満足度)については、満足層が98.2%、「たいへん満足」の割合は37.9%である。過去調査結果を通じて、満足層の割合は17年度は12年度と同率の過去最高で、「たいへん満足」の割合は37.9%で、これも過去最高となっている。

[来場公演のジャンル別]

・「たいへん満足」の割合は、ミュージカル・商業演劇が高い(41.9%)。

[性別]

・満足度では、男女で顕著な差はない。

[年齢別]

・18～29歳の年齢層で「たいへん満足」の割合が高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

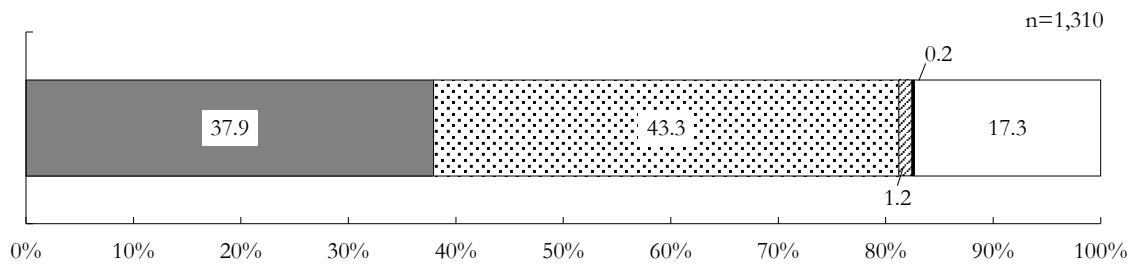
・満足度では、加入・未加入で顕著な差はない。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・満足度では、鑑賞頻度で顕著な差はない。

[過去調査と比較して]

・過去調査結果を通じて、満足層の割合は12年度の98.2%まで上昇し続け、その後も高い割合を維持しており、17年度は12年度と同率で過去最高の割合となっている。



■たいへん満足 □まあ満足 ▨少し不満足 ■まったく不満足 □無回答

		Q4総合的な満足度					「無回答」を除いた割合					(単位: %)		
		全体	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
ジャンル	全体	1310	37.9	43.3	1.2	0.2	17.3	1083	45.9	52.4	1.5	0.3	98.2	1.8
	小劇場・現代演劇	714	38.2	43.6	1.5	0.4	16.2	598	45.7	52.0	1.8	0.5	97.7	2.3
	音楽劇	234	33.8	45.7	0.9	0.0	19.7	188	42.0	56.9	1.1	0.0	98.9	1.1
	ミュージカル・商業演劇	191	41.9	41.9	1.6	0.0	14.7	163	49.1	49.1	1.8	0.0	98.2	1.8
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	38.0	40.4	0.0	0.0	21.6	134	48.5	51.5	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	37.9	44.5	1.3	0.0	16.3	190	45.3	53.2	1.6	0.0	98.4	1.6
	女性	923	39.0	44.3	1.1	0.2	15.4	781	46.1	52.4	1.3	0.3	98.5	1.5
年齢層	18歳未満	52	51.9	19.2	0.0	1.9	0.0	38	71.1	26.3	0.0	2.6	97.4	2.6
	18～29歳	188	59.0	27.7	1.6	0.0	0.0	166	66.9	31.3	1.8	0.0	98.2	1.8
	30歳代	150	45.3	43.3	1.3	0.0	0.0	135	50.4	48.1	1.5	0.0	98.5	1.5
	40歳代	234	40.6	46.2	1.7	0.0	0.0	207	45.9	52.2	1.9	0.0	98.1	1.9
	50歳代	236	30.9	53.8	1.3	0.4	0.0	204	35.8	62.3	1.5	0.5	98.0	2.0
	60歳以上	223	25.1	52.0	0.4	0.0	0.0	173	32.4	67.1	0.6	0.0	99.4	0.6
チケットクラブ	加入	286	39.5	44.8	1.0	0.0	14.7	244	46.3	52.5	1.2	0.0	98.8	1.2
	未加入	845	38.5	44.5	1.4	0.2	15.4	715	45.5	52.6	1.7	0.3	98.0	2.0
鑑賞経験	今日が初めて	302	40.1	42.7	2.0	0.0	15.2	256	47.3	50.4	2.3	0.0	97.7	2.3
	1～2回	157	40.1	43.9	0.6	0.6	14.6	134	47.0	51.5	0.7	0.7	98.5	1.5
	3～5回	213	36.2	48.4	0.5	0.5	14.6	182	42.3	56.6	0.5	0.5	98.9	1.1
	6～10回	173	42.2	43.4	1.7	0.0	12.7	151	48.3	49.7	2.0	0.0	98.0	2.0
	11回以上	294	37.1	43.5	1.4	0.0	18.0	241	45.2	53.1	1.7	0.0	98.3	1.7
参考	16年度調査結果	1392	33.8	46.4	1.7	0.1	18.1	1140	41.2	56.7	2.0	0.1	97.9	2.1
	15年度調査結果	1989	34.2	47.7	2.0	0.2	15.9	1673	40.6	56.7	2.4	0.2	97.4	2.6
	14年度調査結果	1146	35.3	44.6	2.3	0.6	17.2	949	42.7	53.8	2.7	0.7	96.5	3.5
	13年度調査結果	1569	34.9	46.5	1.7	0.5	16.4	1311	41.7	55.7	2.0	0.6	97.4	2.6
	12年度調査結果	1599	31.3	48.4	1.4	0.1	18.8	1299	38.6	59.6	1.8	0.1	98.2	1.8
	11年度調査結果	1688	33.4	47.9	2.2	0.4	16.2	1415	39.9	57.1	2.6	0.4	97.0	3.0
	10年度調査結果	2379	33.2	47.9	2.3	0.2	16.4	1989	39.8	57.3	2.7	0.3	97.0	3.0
	09年度調査結果	1692	31.3	49.3	2.4	0.1	16.9	1406	37.6	59.4	2.9	0.1	97.0	3.0
	08年度調査結果	1732	30.7	53.0	2.9	0.4	13.0	1507	35.3	60.9	3.3	0.5	96.2	3.8
	07年度調査結果	3033	25.4	55.6	4.4	0.3	14.3	2600	29.6	64.9	5.1	0.4	94.5	5.5
	06年度調査結果	2766	21.0	59.5	4.6	0.3	14.6	2362	24.6	69.6	5.3	0.4	94.3	5.7
	05年度調査結果	3073	20.1	58.0	5.7	0.6	15.6	2594	23.8	68.7	6.8	0.7	92.6	7.4
	04年度調査結果	4708	19.2	60.9	6.2	0.7	13.1	4092	22.0	70.0	7.2	0.8	92.1	7.9
	03年度調査結果	4078	19.7	57.5	6.5	0.5	15.8	3434	23.4	68.2	7.7	0.6	91.6	8.4

「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」(※)いずれも、賛同者の割合(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答は除く)は95%以上と、高い賛同を得ている。特に、「観る」については、賛同する人の割合は98.8%、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合も77.6%と高い割合を占める。

※2014年度から運営方針のキーワードに「支える」が加わった。

[来場公演のジャンル別]

- ・「観る」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が7割以上(無回答を除いた回答)と高い。とくにミュージカル・商業演劇では「ぜひやってほしい」が91.3%となっている。
- ・「創る」、「育つ」、「支える」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が最も高い割合となっている。

[性別]

- ・賛同する割合では、男女で顕著な差はないが、「ぜひやってほしい」の割合は、「観る」、「育つ」については女性で、「創る」、「支える」については男性で高い。

[年齢別]

- ・「観る」:いずれの年代でも「ぜひやってほしい」の割合が7割以上(無回答を除いた回答)と高い。
- ・「創る」、「育つ」、「支える」:29歳以下の世代で「ぜひやってほしい」への割合が7割以上(無回答を除いた回答)と高い。
- ・「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」:いずれも60歳以上で無回答の割合が高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

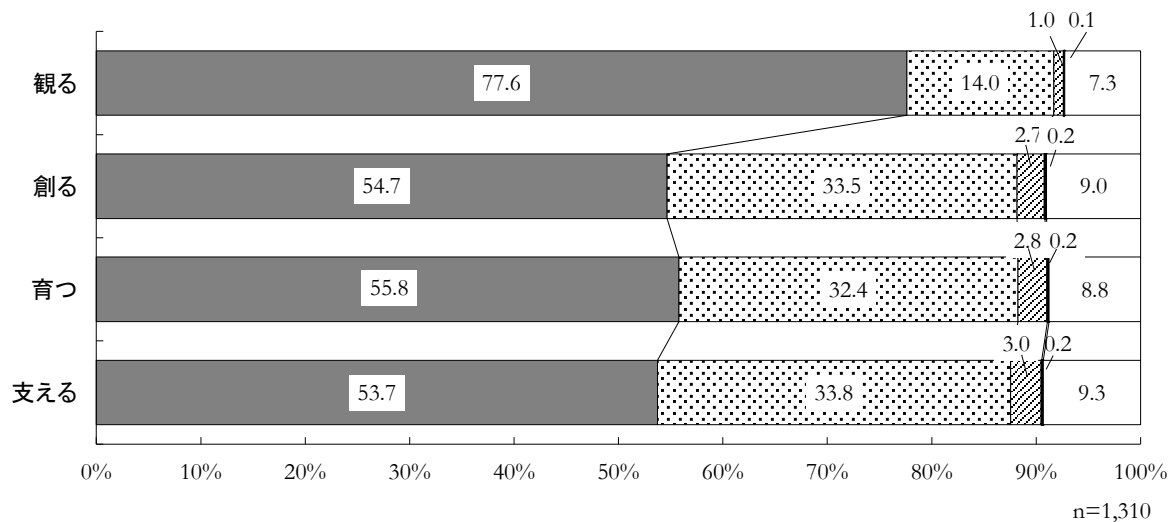
- ・加入・未加入で顕著な差はないが、「観る」については加入の割合が高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・鑑賞頻度で顕著な傾向はみられない。

[過去調査と比較して]

- ・過去調査結果を通じて、「観る」への賛同は極めて高い割合を維持している。
- ・一方、「創る」と「育つ」は、「観る」に比べて賛同の割合は低いものの、一定の割合を維持しており、17年度は「育つ」に賛同する割合が96.7%過去最高となっている。



■ぜひやってほしい □まあやってほしい ▨あまりやる必要はない ■まったくやる必要はない □無回答

【観る】

		全体	Q5-1運営方針: 観る					「無回答」を除いた割合					(単位: %)	
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	回答数	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	賛同する割合	賛同しない割合
ジャンル	全体	1310	77.6	14.0	1.0	0.1	7.3	1215	83.7	15.1	1.1	0.1	98.8	1.2
	小劇場・現代演劇	714	80.5	12.9	1.0	0.0	5.6	674	85.3	13.6	1.0	0.0	99.0	1.0
	音楽劇	234	65.8	24.4	1.3	0.0	8.5	214	72.0	26.6	1.4	0.0	98.6	1.4
	ミュージカル・商業演劇	191	82.2	7.3	0.0	0.5	9.9	172	91.3	8.1	0.0	0.6	99.4	0.6
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	76.6	12.3	1.8	0.0	9.4	155	84.5	13.5	1.9	0.0	98.1	1.9
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	74.4	19.4	1.8	0.0	4.4	217	77.9	20.3	1.8	0.0	98.2	1.8
	女性	923	81.3	12.5	1.0	0.1	5.2	875	85.7	13.1	1.0	0.1	98.9	1.1
年齢層	18歳未満	52	78.8	7.7	3.8	0.0	9.6	47	87.2	8.5	4.3	0.0	95.7	4.3
	18～29歳	188	83.0	12.2	1.1	0.0	3.7	181	86.2	12.7	1.1	0.0	98.9	1.1
	30歳代	150	83.3	14.0	1.3	0.7	0.7	149	83.9	14.1	1.3	0.7	98.0	2.0
	40歳代	234	85.9	9.8	0.4	0.0	3.8	225	89.3	10.2	0.4	0.0	99.6	0.4
	50歳代	236	82.6	15.7	0.4	0.0	1.3	233	83.7	15.9	0.4	0.0	99.6	0.4
	60歳以上	223	69.5	17.5	1.8	0.0	11.2	198	78.3	19.7	2.0	0.0	98.0	2.0
チケットクラブ	加入	286	90.2	7.7	0.7	0.0	1.4	282	91.5	7.8	0.7	0.0	99.3	0.7
	未加入	845	76.8	16.2	1.1	0.1	5.8	796	81.5	17.2	1.1	0.1	98.7	1.3
鑑賞経験	今日が初めて	302	78.5	13.9	1.0	0.3	6.3	283	83.7	14.8	1.1	0.4	98.6	1.4
	1～2回	157	79.6	14.6	1.3	0.0	4.5	150	83.3	15.3	1.3	0.0	98.7	1.3
	3～5回	213	80.8	13.1	0.5	0.0	5.6	201	85.6	13.9	0.5	0.0	99.5	0.5
	6～10回	173	83.8	11.0	0.6	0.0	4.6	165	87.9	11.5	0.6	0.0	99.4	0.6
	11回以上	294	78.2	16.0	1.7	0.0	4.1	282	81.6	16.7	1.8	0.0	98.2	1.8
参考	16年度調査結果	1392	74.6	16.6	0.9	0.1	7.8	1284	80.9	18.0	1.0	0.1	98.9	1.1
	15年度調査結果	1989	78.7	13.0	0.9	0.1	7.4	1842	85.0	14.0	0.9	0.1	99.0	1.0
	14年度調査結果	1146	76.0	15.5	1.4	0.1	7.0	1066	81.7	16.7	1.5	0.1	98.4	1.6
	13年度調査結果	1569	79.3	12.6	1.0	0.1	7.0	1459	85.3	13.5	1.0	0.1	98.8	1.2
	12年度調査結果	1599	77.5	13.7	0.8	0.0	7.9	1472	84.2	14.9	0.9	0.0	99.1	0.9
	11年度調査結果	1688	77.7	14.5	0.8	0.2	6.9	1571	83.5	15.5	0.8	0.2	99.0	1.0
	10年度調査結果	2379	79.5	12.7	0.7	0.1	7.1	2211	85.5	13.6	0.8	0.1	99.1	0.9
	09年度調査結果	1692	80.4	12.5	0.5	0.1	6.5	1582	86.0	13.3	0.6	0.1	99.4	0.6
	08年度調査結果	1732	80.5	11.8	0.5	0.1	7.0	1611	86.6	12.7	0.6	0.1	99.3	0.7
	07年度調査結果	3033	79.8	13.1	0.5	0.3	6.4	2840	85.2	13.9	0.5	0.3	99.2	0.8
	06年度調査結果	2766	80.5	12.3	0.9	0.3	5.9	2602	85.6	13.1	0.9	0.3	98.7	1.3
	05年度調査結果	3073	82.2	11.3	0.6	0.1	5.8	2894	87.2	12.0	0.6	0.1	99.3	0.7
	04年度調査結果	4708	83.3	12.1	0.6	0.1	3.9	4523	86.7	12.6	0.6	0.1	99.2	0.8
	03年度調査結果	4078	81.8	9.8	0.7	0.1	7.7	3764	88.6	10.6	0.7	0.1	99.2	0.8

* 賛同する割合は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の計、

不満足層は、「あまりやる必要はない」+「まったくやる必要はない」の計。無回答を除く。以下同様。

** 小数点第2以下の四捨五入により、表中の無回答を除く「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合は賛同する割合と「まあやってほしい」+「まったくやる必要はない」の割合は賛同しない割合と、必ずしも必ずしも一致しない。

【創る】

		調査数 (n)	Q5-2運営方針:創る				
			ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い	無回答
ジャンル	全体	1310	54.7	33.5	2.7	0.2	9.0
	小劇場・現代演劇	714	56.6	34.0	2.7	0.0	6.7
	音楽劇	234	47.4	38.0	2.1	0.4	12.0
	ミュージカル・商業演劇	191	49.7	33.0	4.2	0.5	12.6
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	62.0	25.7	1.8	0.0	10.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	58.1	34.4	2.2	0.4	4.8
	女性	923	54.8	35.4	2.7	0.1	6.9
年齢層	18歳未満	52	76.9	11.5	1.9	0.0	9.6
	18～29歳	188	70.7	24.5	0.5	0.0	4.3
	30歳代	150	56.0	38.7	4.0	0.7	0.7
	40歳代	234	54.7	38.9	2.6	0.0	3.8
	50歳代	236	55.1	37.7	3.8	0.0	3.4
	60歳以上	223	40.4	41.3	2.7	0.4	15.2
チケット クラブ	加入	286	56.6	38.8	1.4	0.0	3.1
	未加入	845	55.5	34.3	2.7	0.2	7.2
鑑賞 経験	今日が初めて	302	56.6	33.1	2.3	0.3	7.6
	1～2回	157	58.6	33.1	2.5	0.0	5.7
	3～5回	213	54.9	35.2	2.8	0.0	7.0
	6～10回	173	52.6	37.6	2.9	0.6	6.4
	11回以上	294	55.1	36.7	2.4	0.0	5.8

「無回答」を除いた割合					
回答数	ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い	
1192	60.1	36.8	2.9	0.2	
666	60.7	36.5	2.9	0.0	
206	53.9	43.2	2.4	0.5	
167	56.9	37.7	4.8	0.6	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
153	69.3	28.8	2.0	0.0	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
216	61.1	36.1	2.3	0.5	
859	58.9	38.1	2.9	0.1	
47	85.1	12.8	2.1	0.0	
180	73.9	25.6	0.6	0.0	
149	56.4	38.9	4.0	0.7	
225	56.9	40.4	2.7	0.0	
228	57.0	39.0	3.9	0.0	
189	47.6	48.7	3.2	0.5	
277	58.5	40.1	1.4	0.0	
784	59.8	37.0	2.9	0.3	
279	61.3	35.8	2.5	0.4	
148	62.2	35.1	2.7	0.0	
198	59.1	37.9	3.0	0.0	
162	56.2	40.1	3.1	0.6	
277	58.5	39.0	2.5	0.0	

(単位: %)

賛同す る割合	賛同し ない割 合
96.9	3.1
97.1	2.9
97.1	2.9
94.6	5.4
0.0	0.0
98.0	2.0
0.0	0.0
97.2	2.8
97.0	3.0
97.9	2.1
99.4	0.6
95.3	4.7
97.3	2.7
96.1	3.9
96.3	3.7
98.6	1.4
96.8	3.2
97.1	2.9
97.3	2.7
97.0	3.0
96.3	3.7
97.5	2.5

参考	16年度調査結果	1392	49.0	35.3	4.0	0.5	11.1
	15年度調査結果	1989	49.5	35.8	3.8	0.3	10.6
	14年度調査結果	1146	56.0	31.6	2.9	0.3	9.2
	13年度調査結果	1569	51.6	34.5	3.8	0.1	9.9
	12年度調査結果	1599	51.8	34.7	3.3	0.3	9.9
	11年度調査結果	1688	53.6	34.4	3.8	0.2	8.1
	10年度調査結果	2379	48.7	37.7	4.0	0.4	9.2
	09年度調査結果	1692	50.1	36.8	3.7	0.3	9.1
	08年度調査結果	1732	47.9	37.3	4.4	0.5	9.8
	07年度調査結果	3033	49.0	36.5	5.1	0.6	8.8
	06年度調査結果	2766	47.3	38.9	5.0	0.6	8.2
	05年度調査結果	3073	48.6	36.8	5.2	0.3	9.1
	04年度調査結果	4708	48.3	39.5	5.4	0.7	6.2
	03年度調査結果	4078	45.0	37.8	4.5	0.4	12.3

1237	55.1	39.8	4.5	0.6
1779	55.4	40.0	4.3	0.3
1041	61.7	34.8	3.2	0.4
1413	57.3	38.3	4.2	0.1
1440	57.6	38.5	3.6	0.3
1552	58.2	37.4	4.1	0.3
2160	53.7	41.5	4.4	0.5
1538	55.1	40.5	4.1	0.3
1562	53.1	41.4	4.9	0.6
2765	53.8	40.0	5.6	0.6
2540	51.5	42.4	5.5	0.6
2794	53.4	40.5	5.7	0.4
4418	51.5	42.1	5.7	0.7
3575	51.3	43.1	5.2	0.4

(単位: %)

賛同す る割合	賛同し ない割 合
96.7	3.3
96.7	3.3
97.1	2.9
95.2	4.8
0.0	0.0
98.1	1.9
0.0	0.0
95.4	4.6
97.0	3.0
97.9	2.1
97.8	2.2
95.3	4.7
96.9	3.1
96.1	3.9
96.3	3.7
97.5	2.5
96.4	3.6
96.4	3.6
97.3	2.7
95.5	4.5
95.7	4.3
97.8	2.2

【育つ】

		調査数 (n)	Q5-3運営方針:育つ				
			ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い	無回答
ジャンル	全体	1310	55.8	32.4	2.8	0.2	8.8
	小劇場・現代演劇	714	55.3	34.9	2.8	0.3	6.7
	音楽劇	234	51.7	34.2	2.6	0.0	11.5
	ミュージカル・商業演劇	191	51.8	31.9	4.2	0.0	12.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	67.8	20.5	1.8	0.0	9.9
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	55.9	34.8	4.0	0.4	4.8
	女性	923	56.0	34.3	2.8	0.0	6.8
年齢層	18歳未満	52	69.2	19.2	1.9	0.0	9.6
	18～29歳	188	71.3	22.9	2.1	0.0	3.7
	30歳代	150	57.3	36.7	4.7	0.0	1.3
	40歳代	234	51.7	41.5	3.0	0.0	3.8
	50歳代	236	55.9	37.3	3.4	0.4	3.0
	60歳以上	223	42.6	39.5	3.1	0.0	14.8
チケット クラブ	加入	286	55.6	38.8	2.1	0.3	3.1
	未加入	845	56.8	32.9	3.3	0.0	7.0
鑑賞 経験	今日が初めて	302	57.6	31.5	3.3	0.0	7.6
	1～2回	157	52.9	38.9	2.5	0.0	5.7
	3～5回	213	60.1	28.6	4.2	0.0	7.0
	6～10回	173	52.0	37.6	3.5	0.6	6.4
	11回以上	294	55.8	36.7	2.0	0.0	5.4

「無回答」を除いた割合					
回答数	ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い	
1195	61.2	35.6	3.1	0.2	
666	59.3	37.4	3.0	0.3	
207	58.5	38.6	2.9	0.0	
168	58.9	36.3	4.8	0.0	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
154	75.3	22.7	1.9	0.0	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
216	58.8	36.6	4.2	0.5	
860	60.1	36.9	3.0	0.0	
47	76.6	21.3	2.1	0.0	
181	74.0	23.8	2.2	0.0	
148	58.1	37.2	4.7	0.0	
225	53.8	43.1	3.1	0.0	
229	57.6	38.4	3.5	0.4	
190	50.0	46.3	3.7	0.0	
277	57.4	40.1	2.2	0.4	
786	61.1	35.4	3.6	0.0	
279	62.4	34.1	3.6	0.0	
148	56.1	41.2	2.7	0.0	
198	64.6	30.8	4.5	0.0	
162	55.6	40.1	3.7	0.6	
278	59.0	38.8	2.2	0.0	

参考	16年度調査結果	1392	48.7	35.7	3.7	0.3	11.6
	15年度調査結果	1989	50.2	35.5	3.7	0.2	10.4
	14年度調査結果	1146	53.8	32.9	3.7	0.5	9.2
	13年度調査結果	1569	45.6	39.4	4.3	0.6	10.1
	12年度調査結果	1599	48.5	36.5	3.8	0.8	10.5
	11年度調査結果	1688	51.3	35.6	4.3	0.5	8.4
	10年度調査結果	2379	46.4	38.8	4.9	0.5	9.4
	09年度調査結果	1692	47.8	37.3	5.1	0.6	9.2
	08年度調査結果	1732	48.0	35.9	5.6	0.8	9.8
	07年度調査結果	3033	47.2	37.4	5.8	0.7	8.9
	06年度調査結果	2766	47.7	37.6	5.6	0.6	8.5
	05年度調査結果	3073	48.6	36.1	5.7	0.4	9.3
	04年度調査結果	4708	50.3	36.8	5.6	0.6	6.8
	03年度調査結果	4078	45.8	35.6	5.4	0.7	12.6

1230	55.1	40.4	4.1	0.3
1782	56.1	39.6	4.1	0.2
1041	59.2	36.2	4.0	0.6
1411	50.7	43.8	4.7	0.7
1431	54.2	40.8	4.2	0.8
1547	56.0	38.8	4.7	0.5
2155	51.2	42.8	5.4	0.6
1537	52.6	41.1	5.7	0.7
1563	53.2	39.7	6.2	0.9
2763	51.8	41.0	6.4	0.7
2531	52.1	41.1	6.1	0.7
2788	53.5	39.8	6.2	0.5
4387	53.9	39.5	6.0	0.6
3564	52.4	40.7	6.2	0.8

95.5	4.5
95.7	4.3
95.4	4.6
94.5	5.5
95.0	5.0
94.8	5.2
94.0	6.0
93.7	6.3
92.9	7.1
92.9	7.1
93.2	6.8
93.3	6.7
93.4	6.6
93.1	6.9

【支える】

		調査数 (n)	Q5-4運営方針:支える				
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答
	全体	1310	53.7	33.8	3.0	0.2	9.3
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	54.1	35.3	3.2	0.3	7.1
	音楽劇	234	51.3	33.8	3.0	0.0	12.0
	ミュージカル・商業演劇	191	48.7	35.1	3.7	0.0	12.6
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	61.4	26.3	1.2	0.0	11.1
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	57.3	32.2	4.4	0.4	5.7
	女性	923	53.1	36.7	3.0	0.0	7.2
年齢層	18歳未満	52	75.0	13.5	1.9	0.0	9.6
	18～29歳	188	70.7	23.4	1.6	0.0	4.3
	30歳代	150	50.0	42.0	6.0	0.0	2.0
	40歳代	234	48.7	44.4	3.0	0.0	3.8
	50歳代	236	53.4	38.6	4.7	0.4	3.0
	60歳以上	223	44.4	37.7	2.2	0.0	15.7
チケットクラブ	加入	286	51.7	42.3	1.7	0.3	3.8
	未加入	845	55.3	33.5	3.8	0.0	7.5
鑑賞経験	今日が初めて	302	54.0	33.8	4.0	0.0	8.3
	1～2回	157	53.5	36.9	4.5	0.0	5.1
	3～5回	213	57.7	31.9	2.3	0.0	8.0
	6～10回	173	54.3	35.8	2.9	0.6	6.4
	11回以上	294	51.7	39.8	2.4	0.0	6.1
参考	16年度調査結果	1392	50.4	35.9	2.6	0.2	10.8
	15年度調査結果	1989	49.9	36.6	2.8	0.2	10.5

「無回答」を除いた割合				
回答数	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない
1188	59.3	37.3	3.3	0.2
663	58.2	38.0	3.5	0.3
206	58.3	38.3	3.4	0.0
167	55.7	40.1	4.2	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
152	69.1	29.6	1.3	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
214	60.7	34.1	4.7	0.5
857	57.2	39.6	3.3	0.0
47	83.0	14.9	2.1	0.0
180	73.9	24.4	1.7	0.0
147	51.0	42.9	6.1	0.0
225	50.7	46.2	3.1	0.0
229	55.0	39.7	4.8	0.4
188	52.7	44.7	2.7	0.0
275	53.8	44.0	1.8	0.4
782	59.7	36.2	4.1	0.0
277	58.8	36.8	4.3	0.0
149	56.4	38.9	4.7	0.0
196	62.8	34.7	2.6	0.0
162	58.0	38.3	3.1	0.6
276	55.1	42.4	2.5	0.0

(単位: %)	
賛同する割合	賛同しない割合
96.5	3.5
96.2	3.8
96.6	3.4
95.8	4.2
0.0	0.0
98.7	1.3
0.0	0.0
94.9	5.1
96.7	3.3
97.9	2.1
98.3	1.7
93.9	6.1
96.9	3.1
94.8	5.2
97.3	2.7
97.8	2.2
95.9	4.1
95.7	4.3
95.3	4.7
97.4	2.6
96.3	3.7
97.5	2.5
96.9	3.1
96.6	3.4

3 日頃の鑑賞活動

コンサートや演劇に出かける頻度については、「年に3～4回程度」(20.5%)と最も割合が高く、次いで「年に1～2回程度」が18.2%、「年に5～9回程度」(15.3%)と続いており、月に1回以上出かける割合は24.6%となっている。日頃コンサートや演劇に出かける人は多く、回答者の鑑賞頻度は多様である。

〔来場公演のジャンル別〕

・小劇場では、月1回以上出かける割合が28.4%とジャンル中で最も高い。

〔性別〕

- ・男性、女性ともに「年に3～4回程度」の割合が最も高い。
- ・月1回以上出かける割合をみると、男性は32.6%、女性は26.0%と、男性の割合が高い。

〔年齢別〕

- ・18～29歳では「年に1～2回程度」の割合が最も高い。
- ・月1回以上の割合が最も高いのは50歳代(31.4%)で、月1回以上の割合が最も低いのは18～29歳(23.9%)となっている

〔チケットクラブへの加入・未加入別〕

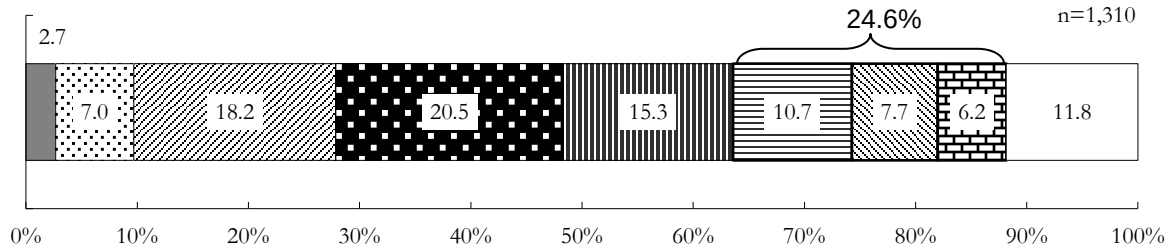
・加入の場合は「年に5～9回程度」(23.4%)、未加入の場合は「年に3～4回」(24.1%)の割合が最も高い。また加入の場合は「月に1回以上」の割合が45.5%を占めており、未加入(22.0%)に比べて日頃からコンサートや演劇に出かける頻度が高いことがわかる。

〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

- ・北九州芸術劇場での鑑賞頻度が高いほど、日頃コンサートや演劇に出かける頻度も高く、その傾向は顕著である。
- ・北九州芸術劇場で11回以上の鑑賞経験がある場合、月1回以上コンサートや演劇に出かける割合は53.4%を占める。
- ・北九州芸術劇場での鑑賞が初めてのグループと1～2回のグループでは「年に1～2回程度」の割合が最も高い。

〔過去調査と比較して〕

- ・過去調査結果と比較すると、11年度では月1回以上の割合が過去最高の割合となった。



■ 今日が初めて □ ほとんど行かない ▨ 年に1～2回程度 ■ 年に3～4回程度 ▩ 年に5～9回程度
 ▨ 月に1回程度 □ 月に2回程度 ▨ 月に3回以上 □ 無回答

(単位: %)												
		調査数 (n)	Q7コンサートや演劇に出かける頻度								月1回以上の割合	
			今日が初めて	ほとんど行かない	年に1～2回程度	年に3～4回程度	年に5～9回程度	月に1回程度	月に2回程度	月に3回以上		無回答
ジャンル	全体	1310	2.7	7.0	18.2	20.5	15.3	10.7	7.7	6.2	11.8	24.6
	小劇場・現代演劇	714	2.9	6.6	16.2	19.2	14.3	10.8	9.2	8.4	12.3	28.4
	音楽劇	234	3.4	9.4	22.2	18.4	14.5	11.1	5.1	3.0	12.8	19.2
	ミュージカル・商業演劇	191	3.1	6.3	18.3	23.0	20.4	11.5	5.8	5.2	6.3	22.5
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	0.0	6.4	20.5	25.7	14.6	8.8	7.0	2.3	14.6	18.1
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	性別	男性	227	5.3	9.3	16.7	19.8	15.4	16.7	6.6	9.3	0.9
	女性	923	2.3	7.5	21.5	23.8	17.9	10.5	9.1	6.4	1.1	26.0
年齢層	18歳未満	52	7.7	13.5	19.2	21.2	11.5	9.6	3.8	11.5	1.9	25.0
	18～29歳	188	5.9	12.8	20.2	19.7	16.0	12.2	8.5	3.2	1.6	23.9
	30歳代	150	2.7	10.0	22.7	25.3	14.0	8.7	8.0	8.7	0.0	25.3
	40歳代	234	1.3	8.1	20.9	23.5	19.2	13.7	8.1	4.7	0.4	26.5
	50歳代	236	3.0	5.1	16.9	24.2	18.6	15.3	8.9	7.2	0.8	31.4
	60歳以上	223	0.9	4.9	25.1	23.3	19.7	9.9	8.5	6.7	0.9	25.1
チケットクラブ	加入	286	0.7	1.0	9.4	19.6	23.4	14.7	17.1	13.6	0.3	45.5
	未加入	845	3.9	10.4	23.9	24.1	15.0	11.5	5.9	4.6	0.6	22.0
鑑賞経験	今日が初めて	302	9.3	19.5	22.8	22.2	11.9	6.3	4.0	3.3	0.7	13.6
	1～2回	157	4.5	14.6	28.7	26.1	10.8	8.9	3.8	1.9	0.6	14.6
	3～5回	213	0.0	3.8	27.2	28.2	16.0	15.0	5.6	3.8	0.5	24.4
	6～10回	173	0.0	1.2	23.1	33.5	16.8	15.0	7.5	2.9	0.0	25.4
	11回以上	294	0.0	0.0	6.8	11.9	27.2	15.6	19.4	18.4	0.7	53.4
参考	16年度調査結果	1392	2.4	5.5	20.1	22.6	13.9	12.2	6.7	6.0	10.5	24.9
	15年度調査結果	1989	2.5	5.4	23.3	22.0	16.2	11.3	6.0	3.8	9.5	20.9
	14年度調査結果	1146	3.4	5.9	20.8	22.8	14.1	10.8	8.2	6.8	7.2	25.8
	13年度調査結果	1569	3.2	6.2	20.5	22.6	15.2	11.2	6.9	5.7	8.4	23.8
	12年度調査結果	1599	3.4	6.0	18.6	19.2	16.1	13.4	8.4	6.4	8.4	28.3
	11年度調査結果	1688	3.1	5.6	18.2	22.5	15.7	12.9	9.2	6.7	6.1	28.8
	10年度調査結果	2379	3.6	7.1	23.7	22.6	15.2	11.0	5.9	4.0	7.0	20.8
	09年度調査結果	1692	2.5	5.7	22.1	22.4	16.0	12.5	7.9	4.8	6.0	25.2
	08年度調査結果	1732	2.8	5.8	22.0	23.0	16.7	12.2	7.4	4.6	5.5	24.2
	07年度調査結果	3033	4.2	5.9	24.5	21.9	16.4	11.7	6.7	3.4	5.3	21.9
	06年度調査結果	2766	3.7	5.0	23.2	24.9	18.1	10.0	5.9	3.7	5.5	19.5
	05年度調査結果	3073	3.0	5.6	21.2	25.6	18.6	11.1	6.2	4.8	3.8	22.1
	04年度調査結果	4708	2.7	4.9	20.6	24.7	19.4	12.6	7.8	4.6	2.6	25.0
	03年度調査結果	4078	2.7	4.5	22.4	24.1	18.9	11.5	7.1	4.4	4.5	23.0

北九州芸術劇場での鑑賞経験は、「今日が初めて」が23.1%と最も高い。次いで、「11回以上」(22.4%)、「3～5回」(16.3%)、「6～10回」(13.2%)、「1～2回」(12.0%)と、大きな偏りがなく分布している。初めてからリピーターまで、幅広い層が来場している。

[来場公演のジャンル別]

・いずれのジャンルも、初めてからリピーターまで幅広い観客層となっているが、小劇場・現代演劇は「11回以上」の割合が最も高く、ミュージカル・商業演劇は、「今日が初めて」の割合が最も高い。

[性別]

・男性は「今日が初めて」が最も多く、女性は「11回以上」の割合が最も高い。

[年齢別]

・30歳代までのグループは「今日が初めて」の割合が最も高く、40歳代以上のグループは「11回以上」の割合が最も高い。

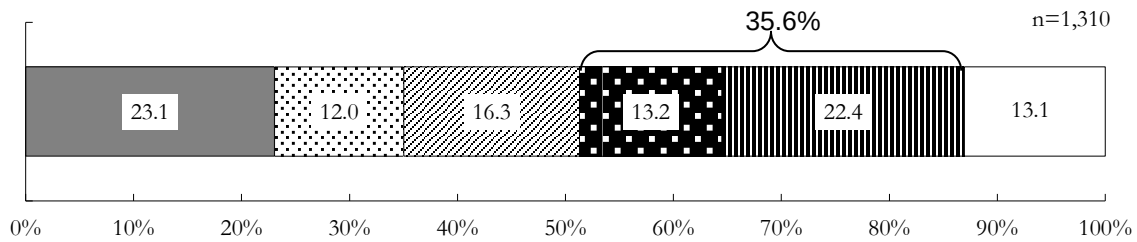
・40歳代で6回以上の割合が最も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・加入の場合は「11回以上」が55.6%と顕著に高く、6回以上の割合も74.1%となっている。一方、未加入の場合は「今日が初めて」が32.2%と最も高く、6回以上来場している割合は29.1%となっている。

[過去調査と比較して]

・6回以上の割合は、08年度までの調査では増加傾向で08～09年度は30%を超えていたものの、10年度は29.4%と減少し、11～13年度は、再び6回以上の割合が30%を超えた。6回以上の割合は14年度で39.9%と過去最高となっている。



■ 今日が初めて □ 1～2回 ▨ 3～5回 ■ 6～10回 ▤ 11回以上 □ 無回答

(単位: %)

		調査数 (n)	Q8北九州芸術劇場での鑑賞経験						6回以上の割合
			今日が初めて	1～2回	3～5回	6～10回	11回以上	無回答	
全体		1310	23.1	12.0	16.3	13.2	22.4	13.1	35.6
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	21.8	12.2	15.0	11.9	25.9	13.2	37.8
	音楽劇	234	18.8	10.3	21.4	14.5	20.5	14.5	35.0
	ミュージカル・商業演劇	191	36.6	15.2	14.1	9.4	16.2	8.4	25.7
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	18.7	9.9	17.0	21.1	17.5	15.8	38.6
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	227	30.8	11.5	19.8	18.5	18.5	0.9	37.0
	女性	923	24.4	14.1	17.8	14.2	26.8	2.8	41.0
年齢層	18歳未満	52	32.7	25.0	17.3	9.6	9.6	5.8	19.2
	18～29歳	188	47.3	19.7	14.4	8.0	9.0	1.6	17.0
	30歳代	150	30.7	15.3	22.0	12.7	19.3	0.0	32.0
	40歳代	234	23.9	12.4	15.8	15.0	30.8	2.1	45.7
	50歳代	236	17.4	13.1	15.7	22.9	29.2	1.7	52.1
	60歳以上	223	17.0	9.0	25.6	17.0	28.7	2.7	45.7
チケットクラブ	加入	286	8.7	5.6	11.2	18.5	55.6	0.3	74.1
	未加入	845	32.2	16.4	20.7	13.6	15.5	1.5	29.1
鑑賞経験	今日が初めて	302	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1～2回	157	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3～5回	213	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6～10回	173	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	11回以上	294	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
参考	16年度調査結果	1392	16.2	13.8	20.3	15.4	23.1	11.2	38.4
	15年度調査結果	1989	28.2	12.9	18.7	12.4	18.0	9.8	30.3
	14年度調査結果	1146	18.8	13.7	19.8	16.3	23.6	7.8	39.9
	13年度調査結果	1569	22.9	14.1	20.2	15.4	18.2	9.1	33.7
	12年度調査結果	1599	22.4	13.8	18.1	15.5	21.0	9.2	36.5
	11年度調査結果	1688	20.5	12.9	20.3	15.3	23.9	7.2	39.2
	10年度調査結果	2379	29.1	13.5	21.0	12.9	16.6	7.0	29.4
	09年度調査結果	1692	21.7	15.1	23.8	15.4	17.7	6.3	33.1
	08年度調査結果	1732	22.9	15.9	21.7	17.1	16.1	6.4	33.2
	07年度調査結果	3033	32.8	15.2	21.4	12.7	12.4	5.4	25.2
	06年度調査結果	2766	28.7	16.8	25.2	12.5	11.4	5.4	23.9
	05年度調査結果	3073	30.8	17.1	25.7	12.3	10.4	3.7	22.7
	04年度調査結果	4708	33.1	20.9	25.2	11.6	6.4	2.7	18.0
	03年度調査結果	4078	—	—	—	—	—	—	—

来場の妨げになっていること(※)は、「会場が遠い」(28.3%)、「チケット代金が高い」(27.3%)、「開催時間が間に合わない」(21.2%)、「見たい作品が少ない」(20.2%)、「仕事や勉強で忙しい」(18.7%)となっている。

※2015年度から設問を加えた。

[来場公演のジャンル別]

・音楽劇では「チケット代金が高い」が最も高い割合となっており、その他のジャンルは「会場が遠い」が最も高い。

[性別]

・男性、女性ともに「会場が遠い」が最も高い。

[年齢別]

・18歳未満のグループで「仕事や勉強で忙しい」の割合が最も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・加入では「チケット代金が高い」が最も高く、未加入では「会場が遠い」最も高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・北九州芸術劇場での鑑賞経験の3回以上のグループでは「チケット代金が高い」の割合が最も高く、2回以下のグループでは「会場が遠い」の割合が最も高い。

Q10

(単位: %)

単位：%

		調査数 (n)	Q10来場の妨げになっていること										無回答
			見たい作品が少ない	いつ何をやっているか情報がない	チケット代金が高い	会場が遠い	開催時間が間に合わない	周りに一緒に見に行く人がいない	仕事や勉強で忙しい	子どもや家族がいて出かけられない	その他	特に妨げは感じない	
全体		1310	20.2	13.3	27.3	28.3	21.2	4.9	18.7	6.4	2.0	11.7	14.7
ジャンル	小劇場・現代演劇	714	20.0	12.3	27.2	28.9	21.6	5.0	18.9	5.5	2.8	11.2	15.5
	音楽劇	234	16.2	16.7	24.4	15.8	20.1	4.7	14.1	9.8	1.7	16.7	20.9
	ミュージカル・商業演劇	191	23.6	13.1	35.1	39.3	22.0	4.7	16.2	3.7	1.0	9.4	11.5
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	171	22.2	12.9	22.8	31.0	20.5	4.7	26.9	8.8	0.0	9.4	5.8
性別	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	227	22.9	18.5	26.4	30.4	22.5	4.8	19.8	4.4	1.3	16.7	4.0
年齢層	女性	923	22.6	14.2	31.9	32.3	24.6	5.7	21.5	8.0	2.5	12.4	5.4
	18歳未満	52	15.4	7.7	23.1	26.9	13.5	3.8	38.5	0.0	1.9	13.5	9.6
	18～29歳	188	16.5	19.7	31.9	39.9	22.3	11.7	28.7	1.6	1.1	11.2	2.7
	30歳代	150	27.3	19.3	30.7	36.0	26.0	4.0	18.0	16.7	2.0	9.3	1.3
	40歳代	234	28.2	15.0	33.8	31.6	27.8	6.0	25.2	14.5	4.3	8.5	0.9
	50歳代	236	25.0	11.9	31.8	32.2	28.4	3.8	19.5	5.1	1.7	12.3	7.2
チケットクラブ	60歳以上	223	21.5	14.3	26.9	25.6	17.0	4.0	10.3	3.6	2.7	22.4	8.5
	加入	286	26.6	8.0	36.4	30.8	30.1	1.7	23.1	6.3	2.4	10.8	5.2
鑑賞経験	未加入	845	21.9	17.4	29.1	32.3	21.7	7.0	21.1	7.5	2.2	13.8	4.9
	今日が初めて	302	18.5	21.5	26.5	40.1	19.5	5.3	18.2	5.6	2.3	12.6	4.3
	1～2回	157	25.5	20.4	24.8	36.9	17.2	15.3	20.4	10.2	1.3	11.5	3.8
	3～5回	213	24.4	16.0	36.6	34.3	20.2	5.6	20.2	7.0	0.9	12.7	3.8
	6～10回	173	31.8	11.0	32.9	24.3	28.9	3.5	22.5	8.1	4.6	12.7	4.6
	11回以上	294	19.4	6.8	32.3	24.1	31.3	2.0	24.5	7.1	2.0	15.0	8.2
参考	16年度調査結果	1392	16.0	12.8	32.9	19.3	22.1	4.4	16.9	5.7	1.9	14.2	14.9
	15年度調査結果	1989	18.6	14.8	32.6	25.7	19.3	4.7	19.4	5.0	2.8	12.3	13.1

参考 | 調査票

北九州芸術劇場 自主事業公演アンケート		公演名 (〇〇〇〇)
お帰りの際にロビー備え付けの回収箱にお入れいただくか、後日、 郵送（下記住所宛）もしくはファックスにてご返送ください。		FAX 送付先： 093-562-2633
北九州芸術劇場 アンケート係 〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-111 TEL: 093-562-2620		
本日は、北九州芸術劇場の公演にご来場いただき、誠にありがとうございます。皆様の声を今後の事業に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。		
すべての設問にご回答いただいた方々の中から抽選で、△△△△△の招待券をペアで5組・10名の方に差し上げます。 なお、当選者の発表は当選通知の発送にかえさせていただきます。		

Q 1
今日の公演は何でお知りになりましたか。(〇はいくつでも)

- 1 雑誌・タウン情報誌 (誌名: _____)
2 新聞 (紙名: _____)
- 3 TV・ラジオ
4 北九州市 市政だより
- 5 街中のチラシ・ポスター
6 ダイレクトメール
- 7 他の公演会場で配布されたチラシ
8 インターネット・ホームページ
- 9 友人・知人から聞いた
10 出演者、公演関係者から聞いた
- 11 ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭
12 その他 (具体的に _____)

Q 2
今日の公演に来られた主な理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)

- 1 出演者、出演団体が好きだから
2 出演者、出演団体が有名だから
- 3 公演内容が面白そうだったから
4 劇場に来てみたかったから
- 5 劇場が近くだったから
6 出演者や関係者が知り合いだから
- 7 人に誘われたから
8 人に薦められたから
- 9 その他 (具体的に _____)

Q 3
今日の公演や北九州芸術劇場についてあなたのご意見をお聞かせください。(〇は各項目ひとつずつ)

	1 たいへん 満足	2 まあ 満足	3 少し 不満足	4 まったく 不満足
(記入見本)	1	②	3	4
本日の公演内容	1	2	3	4
本日の公演のチケット料金	1	2	3	4
公演情報の入手のしやすさ	1	2	3	4
チケットの予約・購入のしやすさ	1	2	3	4
(北九州芸術劇場の) 電話予約やチケットカウンターでの対応	1	2	3	4
劇場係員の対応	1	2	3	4
劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ	1	2	3	4
劇場やロビーのデザイン、雰囲気	1	2	3	4
劇場ロビーの飲食サービス	1	2	3	4

Q 4
総合的にみて北九州芸術劇場に対するあなたのご意見をお聞かせください。(〇はひとつ)

- 1 たいへん満足している 2 まあ満足している 3 あまり満足していない 4 まったく満足していない

Q 5
北九州芸術劇場は次のような方針で運営しています。あなたのご意見をお聞かせください。

(〇は各項目ひとつだけ)

		1 ぜひやっ てほしい	2 まあやっ てほしい	3 あまり やる必要 はない	4 まったく やる必要 がない
観る	東京、大阪など舞台芸術の先進都市からエンターテイン ト性や芸術性の高い‘旬’の舞台作品を招きます	1	2	3	4
創る	劇場のオリジナル・プロデュースで本格的な舞台作品を創り ます	1	2	3	4
育つ	アーティストを小・中学校のクラスに派遣するなどの活動を通 じて、地域に舞台芸術を愛する人が根づく土壌を作ります	1	2	3	4
支える	市民の文化活動の支援や、地元劇団等の創作活動の支援を行 います	1	2	3	4

Q 6 今日の公演前に飲食やショッピングをされましたか。また公演後される予定ですか。(○はひとつ)

- 1 はい 2 いいえ
「1 はい」とお答えになった方へ。だいたいいくらぐらい
お使いになりましたか。あるいはお使いになる予定ですか。
飲食とショッピングの別にご記入ください。

飲食 円ぐらい

ショッピング 円ぐらい

Q 7 日頃、コンサートや演劇などの公演にどのくらいの頻度でお出かけになっていますか。(○はひとつだけ)

- 1 今日が初めて 2 ほとんど行かない 3 年に1～2回程度 4 年に3～4回程度
5 年に5～9回程度 6 月に1回程度 7 月に2回程度 8 月に3回以上

Q 8 では、今までに北九州芸術劇場で何回ぐらい公演をご覧になりましたか。(○はひとつ)

- 1 今日が初めて 2 1～2回 3 3～5回 4 6～10回 5 11回以上

Q 9 あなたは北九州芸術劇場のチケットクラブ会員ですか。(○はひとつ)

- 1 はい 2 いいえ (→今後入会をお考えですか 1 はい 2 いいえ)

Q 10 普段、興味をお持ちのジャンルに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 小劇場・現代演劇 2 有名俳優の演劇(「博多座」の公演など)
3 能・狂言・文楽・歌舞伎等 4 ミュージカル(四季含む)・宝塚歌劇
5 バレエ 6 モダンダンス、現代舞踊等
7 クラシック音楽・オペラ 8 寄席・演芸・お笑い・独演会など
9 ポップス・ロック 10 ジャズ・フュージョン
11 映画 12 美術 13 その他(具体的に)

Q 11 お住まいのエリアをお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 北九州市 2 北九州市周辺(直方市、田川市、行橋市、中間市、宗像市、福津市、宮若市、遠賀郡等)
3 福岡市 4 福岡市周辺(筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、古賀市、糸島市、糟屋郡等)
5 上記以外の福岡県内(具体的に) 6 福岡県以外の九州(具体的に)
7 下関市 8 下関市以外の山口県(具体的に)
9 その他(具体的に)

Q 12 ご性別をお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 男性 2 女性

Q 13 ご年齢をお答えください。

ご年齢 歳

Q 14 最後に、今後、北九州芸術劇場で観てみたいアーティスト、劇団、作品、あるいは北九州芸術劇場へのご要望などについて自由にご記入ください。

※本日の座席番号 階 列 番

お名前とご連絡先のご記入をお願いします。(招待券の抽選への参加にはご記入が必要です。ご記入頂いた情報は、招待券の抽選・発送と劇場及び演劇関係者からのご案内の目的以外には一切使いません)

■お名前 (フリガナ)

■ご住所 〒

■Tel ■E-mail

今後、北九州市芸術文化振興財団が主催する公演のご案内をお送りする場合がありますが、よろしいですか。

- 1 すでに届いている 2 はい(郵送で・E-mailで・両方で) 3 いいえ

ご協力ありがとうございました。劇場スタッフ一同、またのご来場を心よりお待ちしております。

II

貸館利用者
調査結果

序 利用者調査の実施要領

貸館利用者調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象:2017年度の貸館利用者(大ホール、中劇場、小劇場)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 配布件数:228件
- 回答数(回収率):155件(68.0%)

(2) 集計・分析にあたっての留意事項

- 貸館利用者調査(「施設利用に関するアンケート調査」)は、2005年度から北九州芸術劇場が独自に開始し、2006年度からは北九州市の方針により、北九州芸術劇場、響ホール、門司市民会館、若松市民会館、八幡市民会館の5館で共通の調査票を用いた調査を実施することとなった。
- 調査票は、2005年度に北九州芸術劇場で実施した調査票に基づき、2006年度から5館共通の調査票を再設計している。そのため、共通の項目が多い一方、統合できない項目もある。
- 2009年度から、満足度項目のうち、運営・応対面に関する項目を若干変更している。また、「Q4:劇場を利用したきっかけ」を新たに設けている。

(3) 調査項目

- 劇場の使いごちに対する総合的な満足度
- 劇場の施設に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 劇場の運営や応対に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 施設を利用する際重視すること
- うち最も重視すること、2番目に重視すること
- 劇場を利用したきっかけ
- その他自由回答

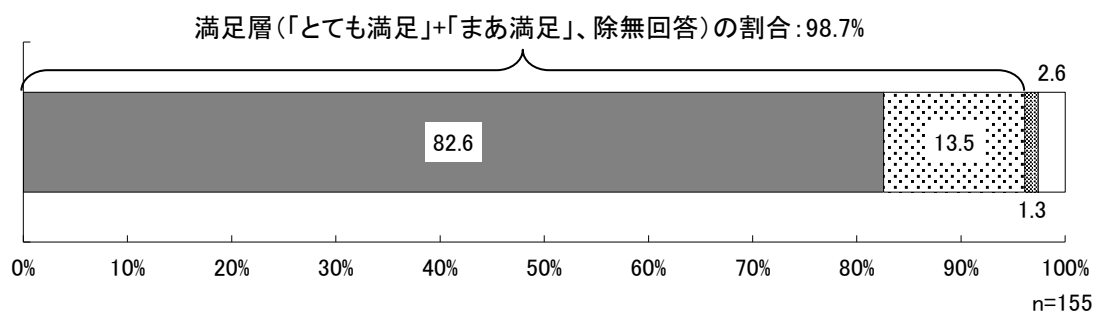
利用者調査結果

(1) 劇場の使いごちに関する総合的な満足度

Q1

北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足している」が82.6%(128件)、「まあ満足している」が13.5%(21件)であり、無回答を除いた満足層の割合は98.7%(149件)である。劇場利用者の満足度は大変高い。

経年変化でみると、09年度以降で「とても満足している」回答の割合が、15年度に次いで2番目に高い割合となっている。



■とても満足している □まあ満足している ■あまり満足していない ▨まったく満足していない □無回答

	調査数	Q1 使いごちに関する総合的な意見				
		とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない	無回答
17年度	155 100.0	128 82.6	21 13.5	2 1.3	0 0.0	4 2.6
16年度	171 100.0	139 81.3	27 15.8	2 1.2	0 0.0	3 1.8
15年度	170 100.0	142 83.5	22 12.9	1 0.6	0 0.0	5 2.9
14年度	135 100.0	101 74.8	27 20.0	1 0.7	0 0.0	6 4.4
13年度	152 100.0	115 75.7	33 21.7	1 0.7	0 0.0	3 2.0
12年度	165 100.0	131 79.4	29 17.6	1 0.6	0 0.0	4 2.4
11年度	163 100.0	120 73.6	36 22.1	1 0.6	0 0.0	6 3.7
10年度	145 100.0	102 70.3	39 26.9	0 0.0	1 0.7	3 2.1
09年度	149 100.0	113 75.8	31 20.8	2 1.3	0 0.0	3 2.0

満足層

149
98.7

※ 回答母数が少ないので、回答件数と%を併記する。

※ 表の上段は件数、下段は%である。また、網掛け部分は、最も回答が多い項目である。

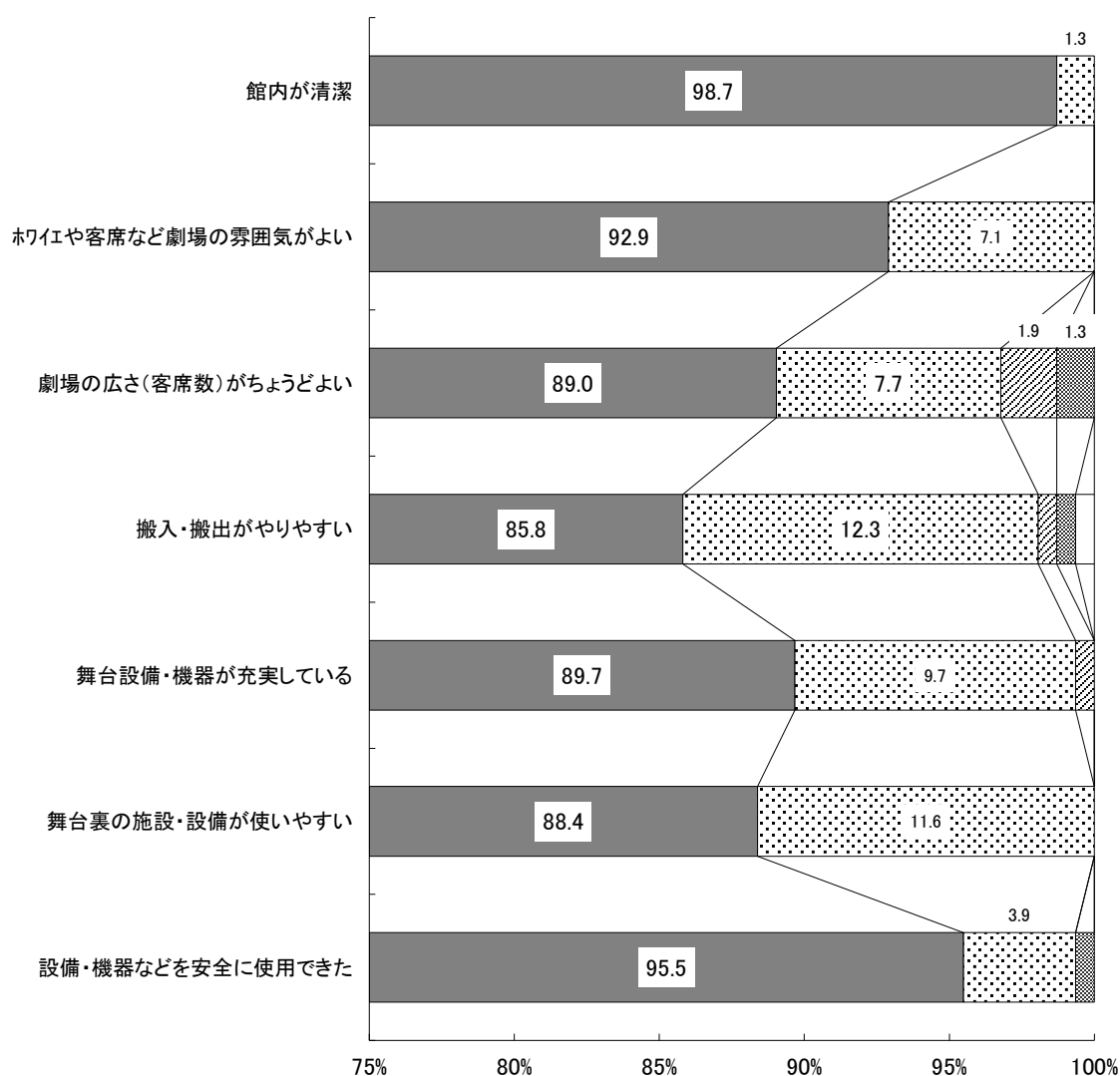
※ 集計表には、参考として09年度～15年度の各年度の数字を掲載している。

劇場の施設に関する7項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「設備・機器など安全に使用できた」の3項目で100%となっており、他の4項目は、95%以上となっている。

「はい」の割合をみると、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「設備・機器などを安全に使用できた」の3項目は、「はい」の割合が90%以上となっており、施設に関する評価は大変高い。とくに、「館内が清潔」での「はい」の割合が98.7%で、09年度以降で最も高い割合となっている。

開館以来、他の項目に比べると「はい」への回答割合が低い「搬入・搬出がやりやすい」だが、09年度以降で最も高い割合(85.8%)となっている。

「はい」への回答割合を昨年度と比較すると「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」と「舞台裏の施設・設備が充実している」の2項目は低くなっているが、その他の5項目は高くなっている。

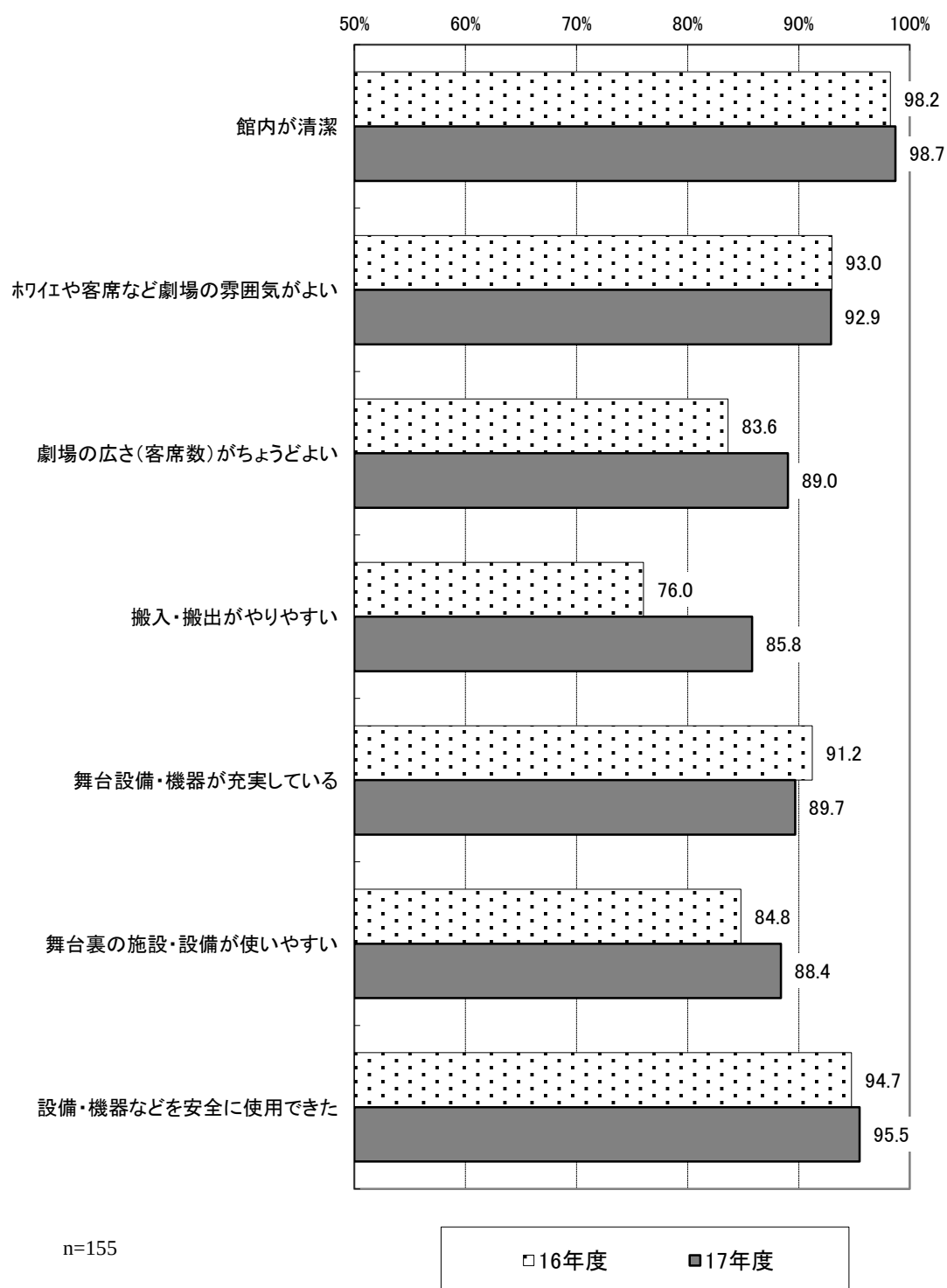


n=155

※グラフの見やすさを優先するため、1.0%未満の数値は省略している。

■「はい」 □「どちらかといえば『はい』」 ▨「どちらかといえば『いいえ』」 ▩「『いいえ』」 □無回答

【「はい」の割合比較 16年度・17年度】



【館内が清潔】

	調査数	Q2-施設① 館内が清潔				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	153 98.7	2 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
16年度	171 100.0	168 98.2	3 1.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
15年度	170 100.0	166 97.6	3 1.8	0 0.0	0 0.0	1 0.6
14年度	135 100.0	132 97.8	3 2.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	148 97.4	4 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
12年度	165 100.0	161 97.6	4 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
11年度	163 100.0	159 97.5	4 2.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
10年度	145 100.0	142 97.9	3 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
09年度	149 100.0	143 96.0	6 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層

155
100.0

※ 満足層は、「はい」+「どちらかといえば『はい』」の割合。無回答を除く。

【ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい】

	調査数	Q2-施設② ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	144 92.9	11 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
16年度	171 100.0	159 93.0	10 5.8	1 0.6	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	164 96.5	5 2.9	0 0.0	0 0.0	1 0.6
14年度	135 100.0	130 96.3	4 3.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	142 93.4	9 5.9	1 0.7	0 0.0	0 0.0
12年度	165 100.0	160 97.0	5 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
11年度	163 100.0	152 93.3	11 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
10年度	145 100.0	140 96.6	5 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
09年度	149 100.0	141 94.6	7 4.7	1 0.7	0 0.0	0 0.0

満足層

155
100.0

【劇場の広さ(客席数)がちょうどよい】

	調査数	Q2-施設③ 劇場の広さ(客席数)がちょうどよい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	138 89.0	12 7.7	3 1.9	2 1.3	0 0.0
16年度	171 100.0	143 83.6	25 14.6	3 1.8	0 0.0	0 0.0
15年度	170 100.0	147 86.5	18 10.6	3 1.8	1 0.6	1 0.6
14年度	135 100.0	116 85.9	13 9.6	1 0.7	4 3.0	1 0.7
13年度	152 100.0	132 86.8	14 9.2	5 3.3	1 0.7	0 0.0
12年度	165 100.0	144 87.3	17 10.3	2 1.2	1 0.6	1 0.6
11年度	163 100.0	128 78.5	26 16.0	6 3.7	3 1.8	0 0.0
10年度	145 100.0	119 82.1	18 12.4	3 2.1	4 2.8	1 0.7
09年度	149 100.0	131 87.9	16 10.7	1 0.7	1 0.7	0 0.0

満足層

150
96.8

【搬入・搬出がやりやすい】

	調査数	Q2-施設④ 搬入・搬出がやりやすい				無回答
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	
17年度	155 100.0	133 85.8	19 12.3	1 0.6	1 0.6	1 0.6
16年度	171 100.0	130 76.0	32 18.7	7 4.1	0 0.0	2 1.2
15年度	170 100.0	133 78.2	30 17.6	5 2.9	2 1.2	0 0.0
14年度	135 100.0	104 77.0	20 14.8	7 5.2	1 0.7	3 2.2
13年度	152 100.0	110 72.4	37 24.3	4 2.6	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	126 76.4	29 17.6	6 3.6	1 0.6	3 1.8
11年度	163 100.0	126 77.3	24 14.7	8 4.9	2 1.2	3 1.8
10年度	145 100.0	100 69.0	32 22.1	9 6.2	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	111 74.5	23 15.4	9 6.0	3 2.0	3 2.0

満足層

152
98.7

【舞台設備・機器が充実している】

	調査数	Q2-施設⑤ 舞台設備・機器が充実している				無回答
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	
17年度	155 100.0	139 89.7	15 9.7	1 0.6	0 0.0	0 0.0
16年度	171 100.0	156 91.2	12 7.0	2 1.2	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	162 95.3	8 4.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
14年度	135 100.0	125 92.6	6 4.4	2 1.5	0 0.0	2 1.5
13年度	152 100.0	140 92.1	11 7.2	0 0.0	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	150 90.9	13 7.9	0 0.0	0 0.0	2 1.2
11年度	163 100.0	151 92.6	11 6.7	0 0.0	0 0.0	1 0.6
10年度	145 100.0	128 88.3	15 10.3	0 0.0	0 0.0	2 1.4
09年度	149 100.0	144 96.6	3 2.0	1 0.7	0 0.0	1 0.7

満足層

154
99.4

【舞台裏の施設・設備が使いやすい】

	調査数	Q2-施設⑥ 舞台裏の施設・設備が使いやすい				無回答
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	
17年度	155 100.0	137 88.4	18 11.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
16年度	171 100.0	145 84.8	21 12.3	4 2.3	1 0.6	0 0.0
15年度	170 100.0	154 90.6	13 7.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6
14年度	135 100.0	125 92.6	7 5.2	2 1.5	1 0.7	0 0.0
13年度	152 100.0	133 87.5	16 10.5	2 1.3	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	144 87.3	15 9.1	5 3.0	0 0.0	1 0.6
11年度	163 100.0	135 82.8	21 12.9	4 2.5	1 0.6	2 1.2
10年度	145 100.0	119 82.1	22 15.2	0 0.0	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	121 81.2	22 14.8	4 2.7	0 0.0	2 1.3

満足層

155
100.0

【設備・機器などを安全に使用できた】

	調査数	Q2-施設⑦ 設備・機器などを安全に使用できた				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	148 95.5	6 3.9	0 0.0	1 0.6	0 0.0
16年度	171 100.0	162 94.7	7 4.1	0 0.0	0 0.0	2 1.2
15年度	170 100.0	167 98.2	2 1.2	0 0.0	1 0.6	0 0.0
14年度	135 100.0	127 94.1	7 5.2	0 0.0	0 0.0	1 0.7
13年度	152 100.0	142 93.4	8 5.3	0 0.0	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	156 94.5	6 3.6	0 0.0	0 0.0	3 1.8
11年度	163 100.0	153 93.9	8 4.9	1 0.6	0 0.0	1 0.6
10年度	145 100	134 92.4	9 6.2	0 0.0	0 0.0	2 1.4
09年度	149 100.0	142 95.3	7 4.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層
154 99.4

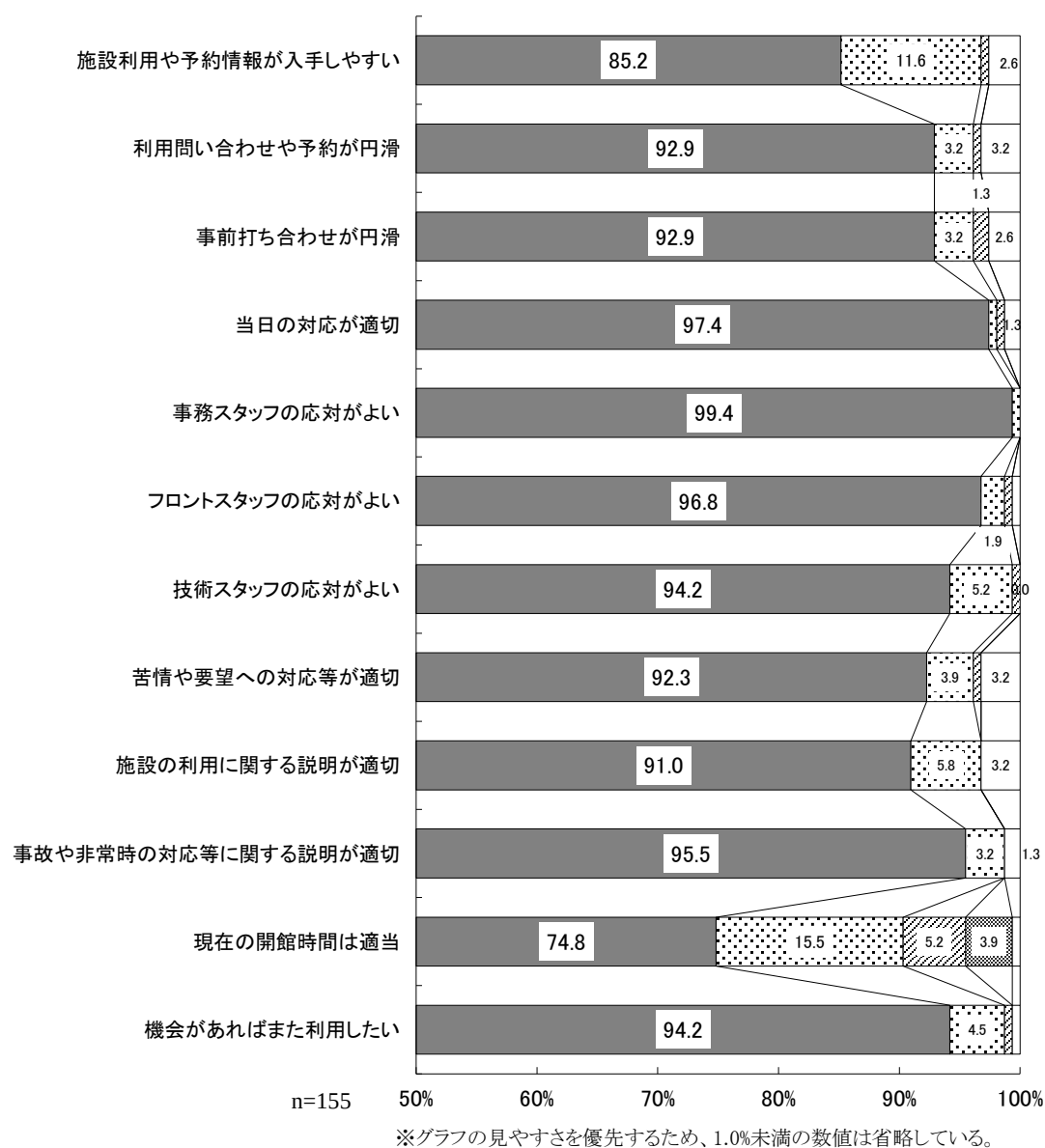
劇場の運営や対応に関する12項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「現在の開館時間は適当」以外の11項目で98%以上となっている。「事務スタッフの対応がよい」、「施設の利用に関する説明が適切」、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」については、肯定的な評価が100%と高い評価となっている。

特に、当日の対応や事務スタッフ、フロントスタッフ、事故や非常時の対応等に関する説明に関する項目に「はい」の回答が多い。

「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると、「どちらかといえば『いいえ』」(5.2%・8件)、「いいえ」(3.9%・6件)の回答が多くなっている。

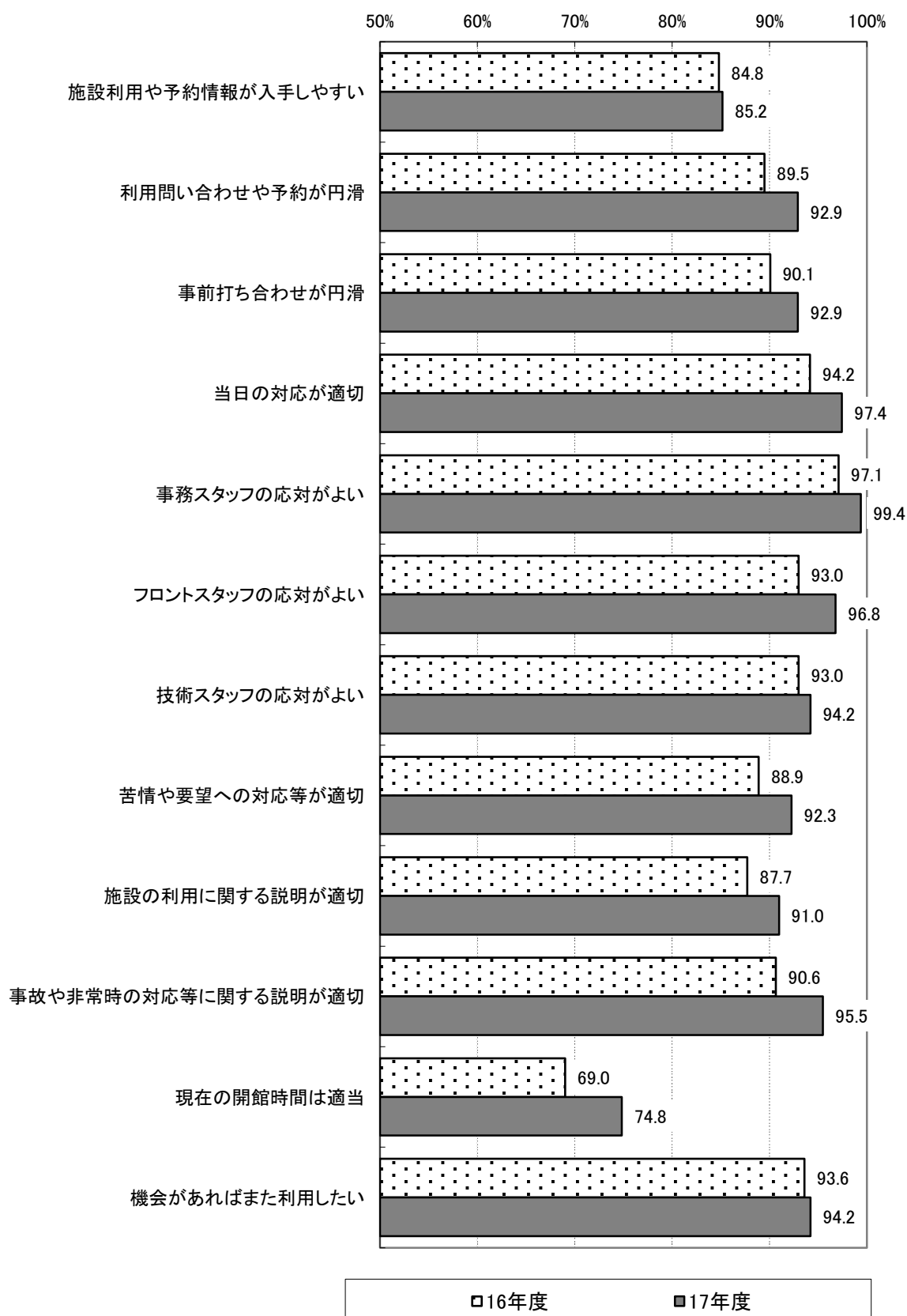
今後の利用への意向は、「機会があればまた利用したい」に対して「はい」と回答した割合が94.2%(146件)となっている。

17年度は、「技術スタッフの対応がよい」の1項目では16年度に比べて「はい」への回答率が若干低下し、それ以外の項目は「はい」への回答率は向上している。特に「現在の開館時間は適当」の「はい」への回答が09年度以降で最も高い割合(74.8%)となっている。



■「はい」 □どちらかといえば「はい」 ▨どちらかといえば「いいえ」 ▩「いいえ」 □無回答

【「はい」の割合比較 16年度・17年度】



【施設利用や予約情報が入手しやすい】

	調査数	Q2-運営・対応① 施設利用や予約情報が入手しやすい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	132 85.2	18 11.6	1 0.6	0 0.0	4 2.6
16年度	171 100.0	145 84.8	19 11.1	3 1.8	0 0.0	4 2.3
15年度	170 100.0	152 89.4	14 8.2	1 0.6	0 0.0	3 1.8
14年度	135 100.0	120 88.9	9 6.7	0 0.0	0 0.0	6 4.4
13年度	152 100.0	138 90.8	12 7.9	0 0.0	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	146 88.5	15 9.1	1 0.6	0 0.0	3 1.8
11年度	163 100.0	132 81.0	23 14.1	3 1.8	0 0.0	5 3.1
10年度	145 100.0	112 77.2	26 17.9	0 0.0	1 0.7	6 4.1
09年度	149 100.0	131 87.9	17 11.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0

満足層

150
99.3

【利用問い合わせや予約が円滑】

	調査数	Q2-運営・対応② 利用問い合わせや予約が円滑				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	144 92.9	5 3.2	1 0.6	0 0.0	5 3.2
16年度	171 100.0	153 89.5	12 7.0	0 0.0	0 0.0	6 3.5
15年度	170 100.0	158 92.9	8 4.7	0 0.0	0 0.0	4 2.4
14年度	135 100.0	125 92.6	5 3.7	0 0.0	0 0.0	5 3.7
13年度	152 100.0	138 90.8	11 7.2	0 0.0	0 0.0	3 2.0
12年度	165 100.0	155 93.9	4 2.4	1 0.6	0 0.0	5 3.0
11年度	163 100.0	140 85.9	13 8.0	4 2.5	0 0.0	6 3.7
10年度	145 100.0	122 84.1	13 9.0	1 0.7	2 1.4	7 4.8
09年度	149 100.0	136 91.3	10 6.7	1 0.7	0 0.0	2 1.3

満足層

149
99.3

【事前打ち合わせが円滑】

	調査数	Q2-運営・対応③ 事前打ち合わせが円滑				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	144 92.9	5 3.2	2 1.3	0 0.0	4 2.6
16年度	171 100.0	154 90.1	10 5.8	3 1.8	0 0.0	4 2.3
15年度	170 100.0	162 95.3	6 3.5	0 0.0	1 0.6	1 0.6
14年度	135 100.0	125 92.6	2 1.5	3 2.2	0 0.0	5 3.7
13年度	152 100.0	137 90.1	8 5.3	3 2.0	1 0.7	3 2.0
12年度	165 100.0	150 90.9	9 5.5	1 0.6	1 0.6	4 2.4
11年度	163 100.0	145 89.0	11 6.7	2 1.2	1 0.6	4 2.5
10年度	145 100.0	120 82.8	18 12.4	2 1.4	3 2.1	2 1.4
09年度	149 100.0	129 86.6	13 8.7	5 3.4	0 0.0	2 1.3

満足層

149
98.7

【当日の対応が適切】

	調査数	Q2-運営・対応④ 当日の対応が適切				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	151 97.4	1 0.6	1 0.6	0 0.0	2 1.3
16年度	171 100.0	161 94.2	7 4.1	0 0.0	0 0.0	3 1.8
15年度	170 100.0	166 97.6	3 1.8	0 0.0	0 0.0	1 0.6
14年度	135 100.0	131 97.0	4 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	144 94.7	5 3.3	1 0.7	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	156 94.5	6 3.6	0 0.0	1 0.6	2 1.2
11年度	163 100.0	149 91.4	9 5.5	2 1.2	0 0.0	3 1.8
10年度	145 100.0	135 93.1	7 4.8	0 0.0	2 1.4	1 0.7
09年度	149 100.0	138 92.6	10 6.7	0 0.0	0 0.0	1 0.7

満足層

152
99.3

【事務スタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑤ 事務スタッフの対応がよい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	154 99.4	1 0.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
16年度	171 100.0	166 97.1	4 2.3	0 0.0	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	165 97.1	4 2.4	0 0.0	0 0.0	1 0.6
14年度	135 100.0	132 97.8	3 2.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	144 94.7	6 3.9	0 0.0	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	156 94.5	7 4.2	0 0.0	0 0.0	2 1.2
11年度	163 100.0	153 93.9	7 4.3	1 0.6	0 0.0	2 1.2
10年度	145 100.0	137 94.5	6 4.1	0 0.0	2 1.4	0 0.0
09年度	149 100.0	143 96.0	5 3.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0

満足層

155
100.0

【フロントスタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑥ フロントスタッフの対応がよい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	150 96.8	3 1.9	1 0.6	0 0.0	1 0.6
16年度	171 100.0	159 93.0	10 5.8	1 0.6	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	162 95.3	6 3.5	0 0.0	0 0.0	2 1.2
14年度	135 100.0	132 97.8	2 1.5	1 0.7	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	146 96.1	5 3.3	0 0.0	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	156 94.5	6 3.6	0 0.0	0 0.0	3 1.8
11年度	163 100.0	147 90.2	11 6.7	0 0.0	0 0.0	5 3.1
10年度	145 100.0	132 91.0	11 7.6	0 0.0	2 1.4	0 0.0
09年度	149 100.0	136 91.3	8 5.4	2 1.3	0 0.0	3 2.0

満足層

153
99.4

【技術スタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑦ 技術スタッフの対応がよい				
		「はい」	どちらかといえ ば「はい」	どちらかといえ ば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	146 94.2	8 5.2	1 0.6	0 0.0	0 0.0
16年度	171 100.0	159 93.0	8 4.7	0 0.0	2 1.2	2 1.2
15年度	170 100.0	157 92.4	8 4.7	2 1.2	0 0.0	3 1.8
14年度	135 100.0	130 96.3	3 2.2	0 0.0	0 0.0	2 1.5
13年度	152 100.0	144 94.7	6 3.9	0 0.0	1 0.7	1 0.7
12年度	165 100.0	153 92.7	8 4.8	0 0.0	1 0.6	3 1.8
11年度	163 100.0	145 89.0	13 8.0	1 0.6	0 0.0	4 2.5
10年度	145 100.0	127 87.6	10 6.9	1 0.7	2 1.4	5 3.4
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	0 0.0	0 0.0	1 0.7

満足層

154
99.4

【苦情や要望への対応等が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑧ 苦情や要望への対応等が適切				
		「はい」	どちらかといえ ば「はい」	どちらかといえ ば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	143 92.3	6 3.9	1 0.6	0 0.0	5 3.2
16年度	171 100.0	152 88.9	16 9.4	2 1.2	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	156 91.8	11 6.5	0 0.0	0 0.0	3 1.8
14年度	135 100.0	127 94.1	3 2.2	1 0.7	0 0.0	4 3.0
13年度	152 100.0	140 92.1	8 5.3	1 0.7	0 0.0	3 2.0
12年度	165 100.0	155 93.9	5 3.0	1 0.6	0 0.0	4 2.4
11年度	163 100.0	143 87.7	13 8.0	1 0.6	0 0.0	6 3.7
10年度	145 100.0	128 88.3	13 9.0	0 0.0	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	131 87.9	14 9.4	1 0.7	0 0.0	3 2.0

満足層

149
99.3

【施設の利用に関する説明が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑨ 施設の利用に関する説明が適切				
		「はい」	どちらかといえ ば「はい」	どちらかといえ ば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	141 91.0	9 5.8	0 0.0	0 0.0	5 3.2
16年度	171 100.0	150 87.7	15 8.8	2 1.2	0 0.0	4 2.3
15年度	170 100.0	160 94.1	5 2.9	0 0.0	0 0.0	5 2.9
14年度	135 100.0	120 88.9	6 4.4	1 0.7	1 0.7	7 5.2
13年度	152 100.0	139 91.4	9 5.9	0 0.0	0 0.0	4 2.6
12年度	165 100.0	152 92.1	7 4.2	0 0.0	0 0.0	6 3.6
11年度	163 100.0	144 88.3	10 6.1	2 1.2	0 0.0	7 4.3
10年度	145 100.0	120 82.8	16 11.0	4 2.8	0 0.0	5 3.4
09年度	149 100.0	128 85.9	17 11.4	2 1.3	0 0.0	2 1.3

満足層

150
100.0

【事故や非常時の対応等に対する説明が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑩ 事故や非常時の対応等に対する説明が適切				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	148 95.5	5 3.2	0 0.0	0 0.0	2 1.3
16年度	171 100.0	155 90.6	14 8.2	0 0.0	0 0.0	2 1.2
15年度	170 100.0	166 97.6	2 1.2	0 0.0	0 0.0	2 1.2
14年度	135 100.0	128 94.8	5 3.7	0 0.0	0 0.0	2 1.5
13年度	152 100.0	141 92.8	9 5.9	0 0.0	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	154 93.3	6 3.6	1 0.6	0 0.0	4 2.4
11年度	163 100.0	143 87.7	13 8.0	4 2.5	0 0.0	3 1.8
10年度	145 100.0	124 85.5	16 11.0	1 0.7	0 0.0	4 2.8
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	0 0.0	0 0.0	1 0.7

満足層

153
100.0

【現在の開館時間は適当】

	調査数	Q2-運営・対応⑪ 現在の開館時間は適当				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	116 74.8	24 15.5	8 5.2	6 3.9	1 0.6
16年度	171 100.0	118 69.0	37 21.6	9 5.3	5 2.9	2 1.2
15年度	170 100.0	126 74.1	28 16.5	11 6.5	3 1.8	2 1.2
14年度	135 100.0	97 71.9	24 17.8	8 5.9	5 3.7	1 0.7
13年度	152 100.0	98 64.5	34 22.4	13 8.6	5 3.3	2 1.3
12年度	165 100.0	115 69.7	29 17.6	9 5.5	5 3.0	7 4.2
11年度	163 100.0	101 62.0	32 19.6	21 12.9	6 3.7	3 1.8
10年度	145 100.0	86 59.3	28 19.3	21 14.5	7 4.8	3 2.1
09年度	149 100.0	86 57.7	37 24.8	16 10.7	7 4.7	3 2.0

満足層

140
90.9

【機会があればまた利用したい】

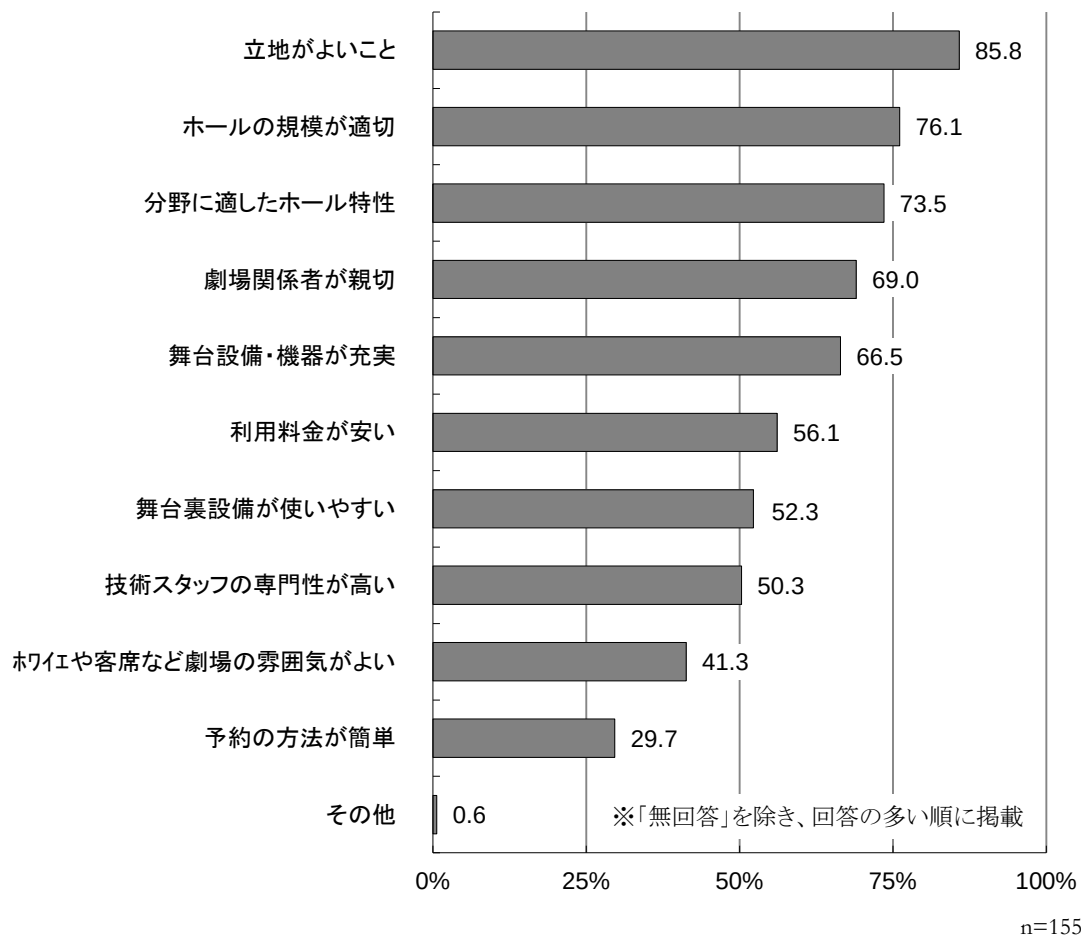
	調査数	Q2 機会があればまた利用したい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
17年度	155 100.0	146 94.2	7 4.5	1 0.6	0 0.0	1 0.6
16年度	171 100.0	160 93.6	9 5.3	1 0.6	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	156 91.8	12 7.1	1 0.6	0 0.0	1 0.6
14年度	135 100.0	126 93.3	7 5.2	1 0.7	0 0.0	1 0.7
13年度	152 100.0	140 92.1	11 7.2	0 0.0	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	155 93.9	6 3.6	2 1.2	0 0.0	2 1.2
11年度	163 100.0	148 90.8	10 6.1	2 1.2	0 0.0	3 1.8
10年度	145 100	120 82.8	17 11.7	1 0.7	2 1.4	5 3.4
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0

満足層

153
99.4

(4) 施設を利用する際、重視すること	Q3
---------------------	----

施設を利用する際重視することとして最も回答が多いのは、「立地がよいこと」(85.8%・133件)、「ホールの規模が適切」(76.1%・118件)となっている。次いで、「分野に適したホール特性」が70%台、「劇場関係者が親切」と「舞台設備・機器が充実」が60%台となっている。「舞台設備・機器が充実」は、09年度では59.7%で徐々に低下傾向にあったが、17年度で66.5%と前年度比で16.2%も向上し、最も高い割合となっている。



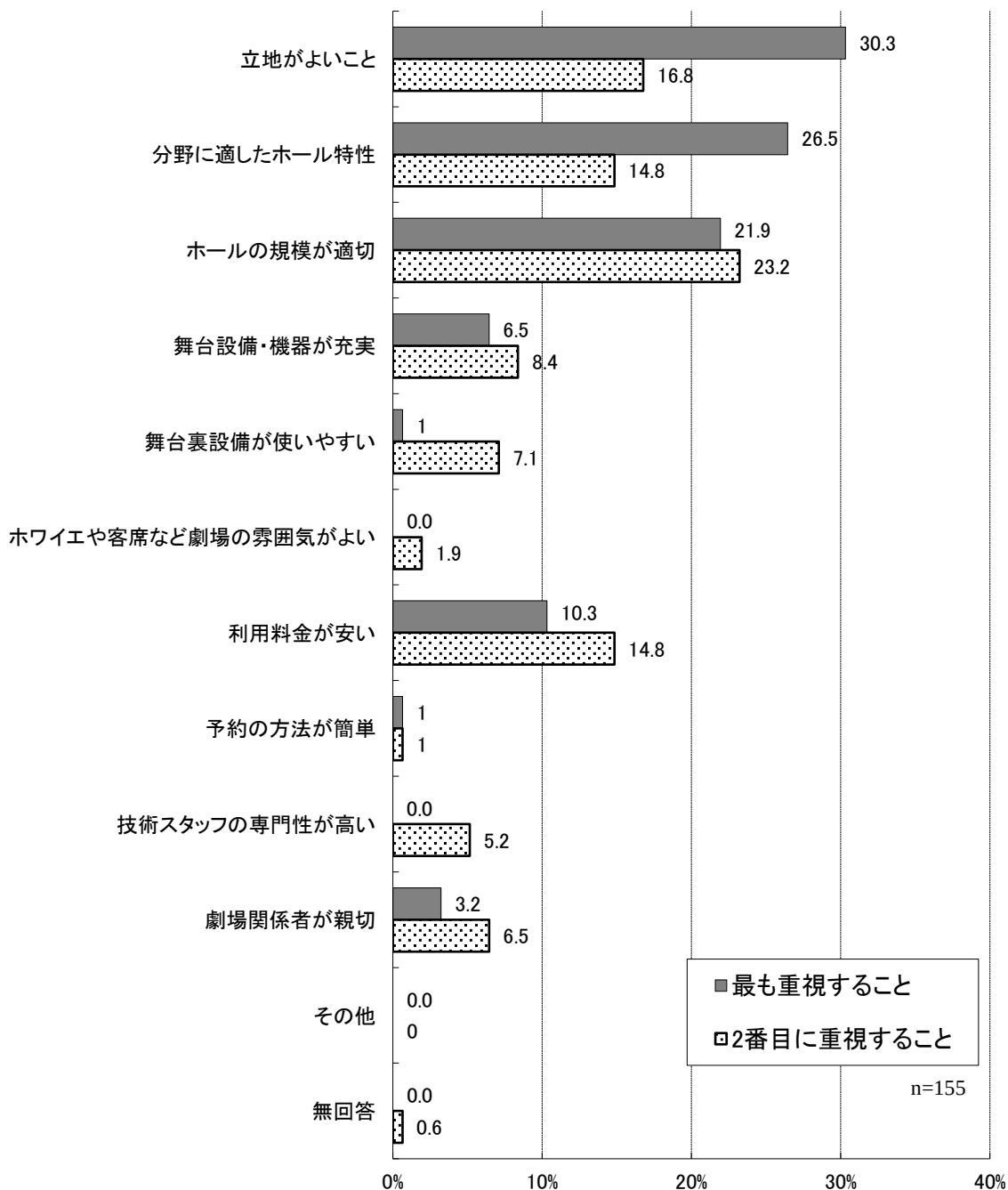
		Q3 施設利用の際、重視すること											
	調査数	立地が よいこと	分野に 適した ホール 特性	ホール の規模 が適切	舞台設 備・機 器が充 実	舞台裏 設備が 使いや すい	劇場の 雰囲気 がよい	利用料 金が安 い	予約の 方法が 簡単	技術ス タッフ の専門 性が高 い	劇場関 係者が 親切	その他	無回答
17年度	155	133	114	118	103	81	64	87	46	78	107	1	1
	100.0	85.8	73.5	76.1	66.5	52.3	41.3	56.1	29.7	50.3	69.0	0.6	0.6
16年度	171	144	109	145	86	70	62	81	26	62	93	7	1
	100.0	84.2	63.7	84.8	50.3	40.9	36.3	47.4	15.2	36.3	54.4	4.1	0.6
15年度	170	143	110	137	88	65	52	91	30	68	90	4	4
	100.0	84.1	64.7	80.6	51.8	38.2	30.6	53.5	17.6	40.0	52.9	2.4	2.4
14年度	135	115	81	105	76	53	52	74	30	56	85	2	2
	100.0	85.2	60.0	77.8	56.3	39.3	38.5	54.8	22.2	41.5	63.0	1.5	1.5
13年度	152	132	83	117	76	64	47	85	31	60	88	8	1
	100.0	86.8	54.6	77.0	50.0	42.1	30.9	55.9	20.4	39.5	57.9	5.3	0.7
12年度	165	140	115	138	99	74	70	87	27	64	98	6	1
	100.0	84.8	69.7	83.6	60.0	44.8	42.4	52.7	16.4	38.8	59.4	3.6	0.6
11年度	163	139	95	130	91	68	73	79	28	55	85	6	2
	100.0	85.3	58.3	79.8	55.8	41.7	44.8	48.5	17.2	33.7	52.1	3.7	1.2
10年度	145	120	71	110	76	48	42	78	26	52	68	2	3
	100.0	82.8	49.0	75.9	52.4	33.1	29.0	53.8	17.9	35.9	46.9	1.4	2.1
09年度	149	129	89	127	89	51	54	84	32	60	87	0	1
	100.0	86.6	59.7	85.2	59.7	34.2	36.2	56.4	21.5	40.3	58.4	0.0	0.7

(4) 施設を利用する際、最も重視すること・2番目に重視すること

Q3

施設を利用する際に最も重視することは「立地が良いこと」(30.3%・47件)が最も多く、次いで「分野に適したホール特性」(26.5%・41件)、「ホールの規模が適切」(21.9%・34件)と続いている。

2番目に重視することは、「ホールの規模が適切」(23.2%・36件)が最も多く、次いで「立地が良いこと」(16.8%・26件)、「利用料金が安い」と「分野に適したホール特性」(14.8%・23件)となっている。「ホールの規模が適切」と「利用料金が安い」は、最も重視する割合よりも2番目に重視する割合が高い。



※ Q3・SQ1は回答が一つ(シングル・アンサー)のため、本来であれば棒グラフでの表示が適当であるが、選択肢の数が多いため、見やすさから棒グラフを用いた。

【最も重視すること】

	調査数	Q3 SQ1-① 最も重視すること											
		立地が よいこと	分野に 適した ホール 特性	ホール の規模 が適切	舞台設 備・機 器が充 実	楽屋等 舞台裏 設備が 使いや すい	劇場の 雰囲気 がよい	利用料 金が安 い	予約の 方法が 簡単	技術ス タッフの 専門性 が高い	劇場関 係者が 親切	その他	無回答
17年度	155 100.0	47 30.3	41 26.5	34 21.9	10 6.5	1 0.6	0 0.0	16 10.3	1 0.6	0 0.0	5 3.2	0 0.0	0 0.0
16年度	171 100.0	44 25.7	41 24.0	49 28.7	8 4.7	3 1.8	2 1.2	15 8.8	0 0.0	1 0.6	4 2.3	3 1.8	1 0.6
15年度	170 100.0	42 24.7	45 26.5	45 26.5	5 2.9	0 0.0	2 1.2	18 10.6	0 0.0	1 0.6	5 2.9	2 1.2	5 2.9
14年度	135 100.0	43 31.9	35 25.9	31 23.0	6 4.4	0 0.0	2 1.5	9 6.7	0 0.0	1 0.7	6 4.4	0 0.0	2 1.5
13年度	152 100.0	45 29.6	40 26.3	41 27.0	2 1.3	1 0.7	1 0.7	10 6.6	0 0.0	1 0.7	5 3.3	4 2.6	2 1.3
12年度	165 100.0	49 29.7	48 29.1	42 25.5	6 3.6	0 0.0	1 0.6	8 4.8	0 0.0	3 1.8	6 3.6	0 0.0	2 1.2
11年度	163 100.0	46 28.2	37 22.7	44 27.0	8 4.9	1 0.6	1 0.6	12 7.4	0 0.0	2 1.2	7 4.3	2 1.2	3 1.8
10年度	145 100.0	46 31.7	30 20.7	42 29.0	7 4.8	1 0.7	1 0.7	10 6.9	0 0.0	0 0.0	4 2.8	1 0.7	3 2.1
09年度	149 100.0	38 25.5	34 22.8	51 34.2	4 2.7	0 0.0	2 1.3	11 7.4	0 0.0	2 1.3	5 3.4	1 0.7	1 0.7

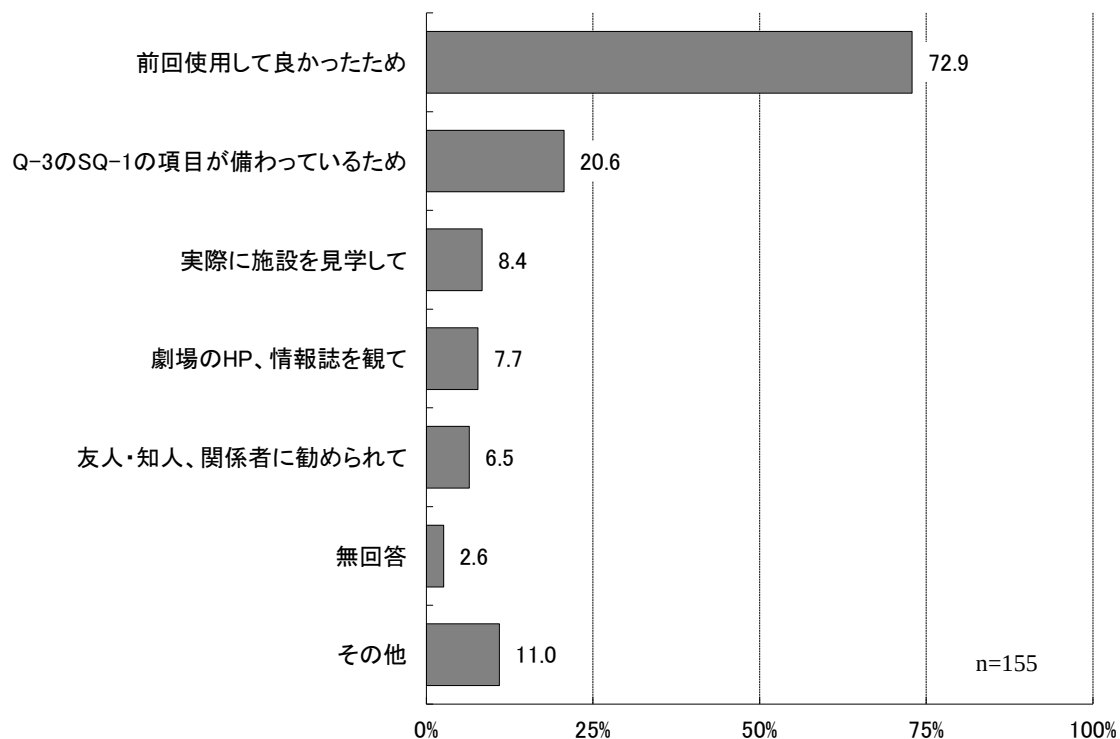
【2番目に重視すること】

	調査数	Q3 SQ1-② 2番目に重視すること											無回答
		立地が よいこと	分野に 適した ホール 特性	ホール の規模 が適切	舞台設 備・機 器が充 実	舞台裏 設備が 使いや すい	劇場の 雰囲気 がよい	利用料 金が安 い	予約の 方法が 簡単	技術ス タッフの 専門性 が高い	劇場関 係者が 親切	その他	
17年度	155 100.0	26 16.8	23 14.8	36 23.2	13 8.4	11 7.1	3 1.9	23 14.8	1 0.6	8 5.2	10 6.5	0 0.0	1 0.6
16年度	171 100.0	37 21.6	21 12.3	44 25.7	12 7.0	5 2.9	2 1.2	21 12.3	0 0.0	10 5.8	16 9.4	1 0.6	2 1.2
15年度	170 100.0	34 20.0	19 11.2	40 23.5	19 11.2	3 1.8	5 2.9	26 15.3	0 0.0	9 5.3	8 4.7	0 0.0	7 4.1
14年度	135 100.0	23 17.0	19 14.1	35 25.9	9 6.7	6 4.4	3 2.2	21 15.6	0 0.0	7 5.2	7 5.2	0 0.0	5 3.7
13年度	152 100.0	29 19.1	17 11.2	34 22.4	16 10.5	2 1.3	5 3.3	30 19.7	1 0.7	5 3.3	8 5.3	2 1.3	3 2.0
12年度	165 100.0	31 18.8	16 9.7	39 23.6	16 9.7	9 5.5	9 5.5	24 14.5	0 0.0	7 4.2	10 6.1	0 0.0	4 2.4
11年度	163 100.0	39 23.9	16 9.8	33 20.2	17 10.4	6 3.7	8 4.9	30 18.4	0 0.0	4 2.5	6 3.7	0 0.0	4 2.5
10年度	145 100.0	31 21.4	13 9.0	28 19.3	12 8.3	5 3.4	5 3.4	23 15.9	1 0.7	5 3.4	14 9.7	1 0.7	7 4.8
09年度	149 100.0	44 29.5	17 11.4	33 22.1	21 14.1	2 1.3	4 2.7	13 8.7	2 1.3	6 4.0	6 4.0	0 0.0	1 0.7

(5) 劇場を利用したきっかけ

Q4

劇場を利用したきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、72.9%(113件)を占めている。劇場への満足度が高いこと、そのため、リピーターの利用が多いことがうかがえる。次いで、「Q-3のSQ-1の項目が備わっているため」(20.6%・32件)となっており、「立地がよいこと」や「ホールの規模が適切」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっていると考えられる。



	調査数	Q4 劇場を利用したきっかけ						
		劇場のHP、情報誌を観て	友人・知人、関係者に勧められて	実際に施設を見学して	前回使用して良かったため	Q-3のSQ-1の項目	その他	無回答
17年度	155 100.0	12 7.7	10 6.5	13 8.4	113 72.9	32 20.6	17 11.0	4 2.6
16年度	171 100.0	21 12.3	14 8.2	22 12.9	116 67.8	29 17.0	12 7.0	5 2.9
15年度	170 100.0	18 10.6	14 8.2	13 7.6	121 71.2	31 18.2	9 5.3	10 5.9
14年度	135 100.0	10 7.4	13 9.6	10 7.4	99 73.3	32 23.7	10 7.4	5 3.7
13年度	152 100.0	16 10.5	22 14.5	17 11.2	109 71.7	35 23.0	15 9.9	2 1.3
12年度	165 100.0	24 14.5	14 8.5	24 14.5	116 70.3	43 26.1	6 3.6	4 2.4
11年度	163 100.0	21 12.9	20 12.3	20 12.3	100 61.3	37 22.7	10 6.1	9 5.5
10年度	145 100.0	23 15.9	17 11.7	18 12.4	85 58.6	28 19.3	8 5.5	9 6.2
09年度	149 100.0	18 12.1	24 16.1	23 15.4	85 57.0	45 30.2	10 6.7	2 1.3

参考 | 利用者調査 調査票

施設利用に関するアンケート調査（ホール用）

このたびは、北九州芸術劇場をご利用いただきありがとうございます。皆様の声を今後の運営に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、本アンケートへの個別のご回答内容が公表されることはありませんので、忌憚ないご意見をお聞かせください。

ご回答は後日ファックスでも受け付けております。

（北九州芸術劇場） TEL093-562-2655/ FAX 093-562-2588

Q-1 今回ご利用されて、北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的なご意見はいかがですか。

（○は1つ）

1. とても満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. まったく満足していない

（「まったく満足していない」とご回答された方へ） 具体的なお意見をお聞かせください

Q-2 本日ご利用されての北九州芸術劇場に関するご意見をお聞かせください。それぞれの項目について、「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえば、いいえ」、「いいえ」の4つの回答から、あなたのお考えに一番近いものに○をつけてください。（○は各項目1つずつ）

（施設について）

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
1 館内は清潔に保たれていましたか。	1	2	3	4	
2 ホワイエや客席など雰囲気 がよかったですか。	1	2	3	4	
3 広さ（客席数等）はちょうどよ かったですか。	1	2	3	4	
4 搬入・搬出がやりやすかつ たですか。	1	2	3	4	

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
5 舞台設備・機器は充実して いましたか。	1	2	3	4	
6 楽屋、休憩室など舞台裏の 施設・設備が使いやすかつ たですか。	1	2	3	4	
7 設備・機器を使用する際、 安全に使用できましたか。	1	2	3	4	

(運営・対応について)

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
1 施設利用や予約に関する情報 は入手しやすかったですか。	1	2	3	4	
2 利用問い合わせや予約・受 付は円滑でしたか。	1	2	3	4	
3 事前打合わせは円滑でし たか。	1	2	3	4	
4 当日の対応は適切でした か。	1	2	3	4	
5 事務スタッフの対応はよか ったですか。	1	2	3	4	
6 フロントスタッフの対応は よかったですか。	1	2	3	4	
7 技術スタッフの対応はよか ったですか（技術的な助言 や援助は適切でしたか）。	1	2	3	4	
8 苦情や要望への対応は適切 でしたか。	1	2	3	4	
9 設備、料金、使用時間等施 設の利用に関する説明は適 切でしたか。	1	2	3	4	
10 事故防止や非常時の対応等 に関する説明は適切でした か。	1	2	3	4	
11 現在の開館時間（午前10 時～午後10時）は適当で あると思いますか。	1	2	3	4	
12 次回利用する機会があれ ば、また利用したいと思いますか。	1	2	3	4	

Q-3 施設を利用する際、重視することは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 立地がよいこと
2. 公演分野に適したホール特性（残響、舞台の広さ等）をもっていること
3. ホールの規模（客席数）が適切であること
4. 舞台設備・機器が充実していること
5. 楽屋など舞台裏の設備が使いやすいこと
6. ホワイエや客席などの雰囲気がいよいこと
7. 利用料金が安いこと
8. 予約の方法が簡単なこと
9. 技術スタッフの専門性が高いこと
10. スタッフが親切なこと
11. その他（具体的に：_____）

SQ-1 上記10項目の中で、最も重視すること、2番目に重視することは何ですか。

最も重視
すること

2番目に重視
すること

Q-4 北九州芸術劇場をご利用いただいたきっかけ及び理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 劇場のホームページ、情報誌（チラシなどを含む）を見て
2. 友人・知人、その他関係者に勧められて
3. 実際に施設を見学して
4. 前回使用して良かったため
5. 上記Q-3のSQ-1の項目が備わっているため
6. その他（具体的に：_____）

Q-5 北九州芸術劇場を利用するに当たって、良かったと感じた点、今後改善すべきだと感じた点について、ご意見をお聞かせください。

また、ご利用回数が2回以上の方で前回のご利用と比べ良くなったと感じた点、改善されていないと感じた点についても、ご意見をお聞かせください。

◎ 差し支えなければ、ご記入ください。

①貴団体名（個人の場合はお名前）	
②ご記入者の所属・ご担当業務	
③ご利用日時	年 月 日（ ）～ 月 日（ ）
④ご利用施設	大ホール・中劇場・小劇場
④北九州芸術劇場の利用回数	1. 初めて 2. 2回目 3. 3回以上 （いずれか1つに〇）

ご協力ありがとうございました。

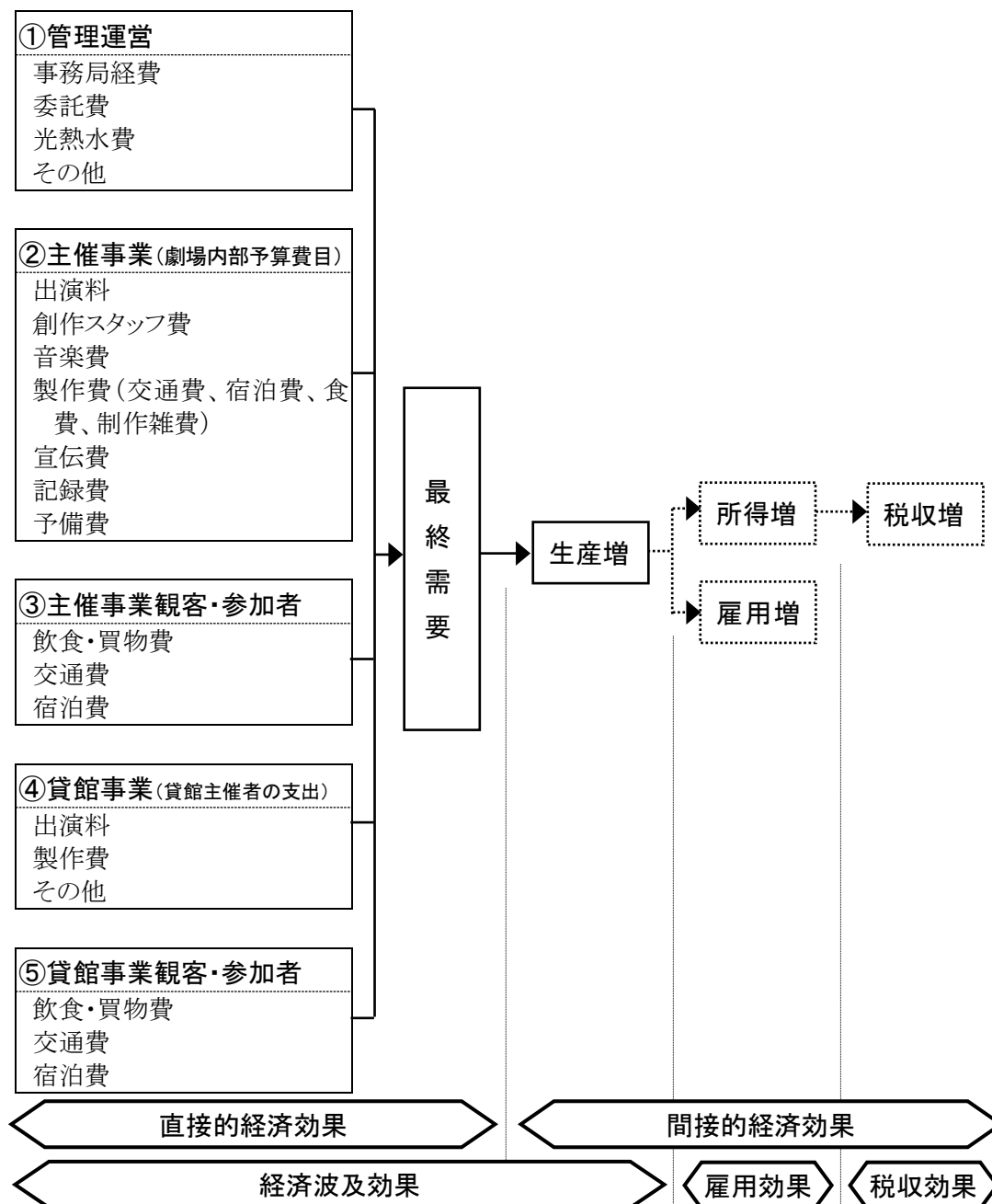
III

經濟波及效果

1. 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果の基本構造

- 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果としては、図表-資Ⅲ-1に整理したように5種類の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらからもたらされる所得増、雇用増、税収増などが考えられる。
- 経済波及効果としてどこまでを含めるかについては、ケースバイケースであるが、今回の調査でも、基礎的な経済波及効果として、産業連関表に基づいた生産増に加え、福岡県の雇用表を用いて雇用効果まで試算することとした。

図表-資Ⅲ-1 北九州芸術劇場における経済波及効果の基本構造



- 前記の5種類の支出は、劇場の運営や事業に伴うもの(①、②、④)と、観客の消費支出に伴うもの(③、⑤)に分けられるが、経済波及効果も、それぞれ、劇場の運営や事業の実施に伴う波及効果、観客の消費支出に伴う波及効果、に分けられる。

- 産業連関表に基づいて、経済波及効果を把握するためには、運営や事業に伴う支出、観客の消費支出を、産業連関表の産業分類に分類し直す必要がある。
- 産業連関表の部門別の定義や範囲と、劇場の支出内容、観客の消費支出の内容を照らし合わせて、図表-資Ⅲ-2の対応表を作成した。

図表-資Ⅲ-2 産業連関表(平成23年度・37部門)と劇場における支出費目の関係

産業部門名	劇場運営・事業に伴う最終需要				
	管理運営	主催事業	主催事業観客	貸館事業	貸館事業観客
1 農林水産業					
2 鉱業					
3 飲食料品					
4 繊維製品					
5 パルプ・紙・木製品					
6 化学製品					
7 石油・石炭製品					
8 プラスチック・ゴム					
9 窯業・土石製品					
10 鉄鋼					
11 非鉄金属					
12 金属製品					
13 はん用機械					
14 生産用機械					
15 業務用機械					
16 電子部品					
17 電気機械					
18 情報・通信機器					
19 輸送機械					
20 その他の製造工業製品	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷
21 建設					
22 電力・ガス・熱供給	光熱費 (電力・ガス)				
23 水道	上下水道費				
24 廃棄物処理	廃棄物処理	廃棄物処理		廃棄物処理	
25 商業	物品購入 (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)
26 金融・保険	保険料	保険料		保険料	
27 不動産					
28 運輸・郵便	旅費・交通費 輸送費・郵便	旅費・交通費 輸送費・郵便	旅費・交通費	旅費・交通費 輸送費・郵便	旅費・交通費
29 情報通信	通信費	通信費	通信費	通信費	通信費
30 公務					
31 教育・研究					
32 医療・福祉					
33 その他の非営利団体サービス					
34 対事業所サービス	広告(TV・ラジオ、新聞・雑誌等)、事務用品賃貸、委託(清掃・警備、舞台技術スタッフ)	広告(TV・ラジオ、新聞・雑誌等)、委託(公演、舞台技術スタッフ・フロントスタッフ)		広告(TV・ラジオ、新聞・雑誌等)	
35 対個人サービス	飲食(飲食店)宿泊費(旅館)	出演者・講師等飲食(飲食店)宿泊費(旅館)	飲食(飲食店)宿泊費(旅館)	劇団等(興行団)飲食(飲食店)宿泊費(旅館)	飲食(飲食店)宿泊費(旅館)
36 事務用品	事務用品	事務用品		事務用品	
37 分類不明					

注) 括弧内は産業連関表における産業分類名

2. 劇場運営に伴う最終需要と観客の消費支出

(1) 管理運営に伴う最終需要

- まず、北九州芸術劇場の管理運営に伴う支出を、費目別に整理したものが下表である。舞台技術スタッフの委託料など、対事業所サービス部門への支出が最も大きく、次いで、電力・ガス・熱供給部門への支出が大きいことがわかる。

図表-資Ⅲ-3 管理運営に伴う支出額

産業分類項目	財団支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
20 その他の製造工業製品	印刷製本費	1,248	200	1,448	
22 電力・ガス・熱供給	光熱水量費	170,060	0	170,060	電気・ガス
23 水道	光熱水量費	8,792	0	8,792	
25 商業	消耗品費	43	0	43	
26 金融・保険	保険料	7,819	645	8,465	
28 運輸・郵便	旅費交通費	968	116	1,084	交通費
	通信運搬費	309	0	309	宅配便
29 情報通信	雑費・通信運搬費・支払負担金	2,621	2,452	5,073	電話等
34 対事業所サービス	広告宣伝費	8,433	1,344	9,776	
	委託費(舞台技術)	95,505	0	95,505	
	支払負担金(警備)	23,239	0	23,239	
	支払負担金(清掃)	37,274	0	37,274	
	その他	218,949	69,326	288,275	
35 対個人サービス	ケータリング費	29	168	196	
	旅費交通費	0	19	19	宿泊費
36 事務用品	消耗品費他	5,653	144	5,797	
計		580,942	74,413	655,355	

- なお、北九州市外への支出については、北九州市の産業連関表を活用することは不適切であるため、支出額は北九州市内と市外に分けて算出した(以降の項目も同様)。
- 北九州芸術劇場の管理運営に伴う最終需要は約6億5,536万円で、うち88.6%(約5億8,094万円)が市内への支出となっている。

(2) 主催事業における最終需要

- 同様に、北九州芸術劇場の主催事業の実施に伴う支出を費目別に整理したものが、図表-資Ⅲ-4である。
- 主催事業では、スタッフ経費などの対事業所サービス、北九州までの交通費などの運輸、出演料などの対個人サービスへの支出が大きい。対個人サービスでは、委託費(約1,170万円)が最も大きく、次いで、諸謝金(約961万円)、北九州市に滞在する出演者や関係者の招聘旅費交通費(約825万円)、出演者などにかかるケータリング費(約308万円)、などとあわせると、約3,580万円が使われた計算となる。
- 主催事業の実施に伴う最終需要額は、約2億324万円、うち30.2%(約6,145万円)が市内への支出となっている。

図表-資Ⅲ-4 主催事業の実施に伴う支出額

産業分類項目		財団支出費目	金額(千円)			備考
			北九州市内	市外	合計	
20	その他の製造工業製品	印刷製本費	6,169	937	7,105	チラシ・ポスター
22	電力・ガス・熱供給	光熱水量費	0	0	0	
24	廃棄物処理	廃棄物処理	0	154	154	
26	金融・保険	保険料	237	0	237	
28	運輸・郵便	招聘旅費交通費・旅費交通費	8,726	5,426	14,151	交通費
		委託費	1,032	7,045	8,077	運搬
		通信運搬費	138	0	138	宅配便
29	情報通信	通信運搬費	2,747	0	2,747	電話等
34	対事業所サービス	委託費(舞台技術スタッフ・フロントスタッフ)	20,819	904	21,723	
		委託費(公演料・出演料・講師料)	338	97,823	98,161	
		委託費(調律費)	49	194	243	ピアノ調律
		委託費(広告宣伝)	663	178	841	
		委託費(デザイン費)	2,103	178	2,281	
		その他	4,236	6,449	10,686	
35	対個人サービス	委託費(委託・出演料)	1,869	9,827	11,696	
		諸謝金(講師・スタッフ謝金)	4,337	5,273	9,610	
		委託費(撮影・映像編集)	556	2,355	2,910	
		宿泊・招聘旅費交通費・旅費交通費	5,563	2,688	8,252	宿泊費
		ケータリング費	932	2,142	3,075	食費
		その他	45	207	252	
37	事務用品	消耗品費・消耗什器備品費	887	11	899	委託費・その他
計			61,446	141,792	203,238	

(3) 主催事業の観客の消費支出

- 次に、主催事業の観客の消費支出の試算を行った(図表-資Ⅲ-5)。
- 17年度の観客アンケートの調査結果を見ると、回答者数全体の1,310人のうち、50.4%の人が公演の前後に飲食もしくはショッピングをしたと回答しており、これを飲食、ショッピングの別に整理すると、飲食金額の回答者数533人から、飲食をした人の割合は40.7%、一人あたりの平均金額は1,530円となっている。また、ショッピング金額の回答者数316人から、ショッピングした人の割合は24.1%、一人あたりの平均金額は3,845円となっている。観劇前後の消費行動としては、飲食をする人の割合の方が高いが、消費単価はショッピングが飲食の約2.5倍となっている。
- 主催事業のうち、創造事業、公演事業、提携事業、舞台芸術フェスティバルなどの北九州市内(北九州芸術劇場)での公演の入場者(17年度の公演事業の入場者数の計2万9,671人と北九州芸術劇場以外の入場者数1,026人の差)は2万8,645人であることから、観劇に伴う飲食の支出額は約1,783万円、ショッピングの支出額は約2,657万円、計約4,439万円と推計される。なお、17年度は、16年度に比べてショッピングと飲食の平均単価が減少したことから、北九州市内での観客消費支出は減少している(16年度:約5,420万円)。
- 同様に、北九州市以外での公演についても、北九州芸術劇場プロデュース「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」の東京・豊橋公演(1,026人)が同様の支出をしたと仮定すると、飲食の支

出額は約64万円、ショッピングの支出額は約95万円、計1,590万円と推計される。北九州市以外の観客数が増加したことから、観客の消費支出も増加している(16年度:約87万円)。

図表-資Ⅲ-5 観劇前後の消費行動と消費支出

	飲食	ショッピング
アンケートでの金額の回答者数 (人)	533	316
消費行動の割合	40.7%	24.1%
一人あたりの平均金額 (円)	1,529.6	3,845.0

	観客数 (人)	合計支出額(千円)		
		飲食	ショッピング	合計
北九州市内での公演	28,645	17,827	26,568	44,395
北九州市外での公演	1,026	639	952	1,590
合計	29,671	18,466	27,520	45,985

注) 上記の表中の数値は、実数に基づく計算結果を転載したものである。消費行動の割合と一人あたりの平均金額は小数点第2位以下を四捨五入しているため、表中の数値を再計算したものと、合計支出額が異なる箇所がある(以下、いずれの表にも共通)。

- 交通費については、同じく観客アンケート調査の居住地のデータから、平均的な往復の交通費を設定し、推計を行った。その際の前提条件は昨年度調査と同様、以下のとおりとした。
 - 北九州市内の居住者の交通費については、バス・JR とともに片道300円と想定し、九州内の居住者の交通費については、居住地別に最寄り駅から小倉駅までの JR 運賃(特急利用、新幹線利用なし)で試算した。
 - その他の地域には、広島、東京・千葉・神奈川、大阪・兵庫・神戸(03年度調査)などの回答があったため、大阪から新幹線利用と想定した。
 - 片道が2時間を超える場合は、宿泊を伴うこととし、一人当たり、宿泊費6,000円、宿泊に伴う飲食費3,000円を支出したものと想定した。
 - 劇場までの交通手段として、相当数の観客が自家用車を利用していると思われる(03年度調査では約33%)が、すべて JR・バス利用と想定した。
- 北九州芸術劇場以外で開催した公演の観客の交通費については、往復1,000円と想定した。
- なお、学芸事業の参加者の消費行動は、観劇客とは異なると思われるため、この分析には含めなかった。
- 以上の結果、主催事業の観客の消費支出額は、図表-資Ⅲ-6のとおり、合計で約1億8,507万円と推計される。

図表-資Ⅲ-6 主催事業の観客の消費支出額

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
25 商業	ショッピング(公演前後)	26,568	952	27,520	
28 運輸・郵便	旅費・交通費	12,282	84,138	96,420	
35 対個人サービス	食費(公演前後)	17,827	639	18,466	
	宿泊費	21,648	0	21,648	
	食費(宿泊に伴う)	10,824	0	10,824	
合計		89,149	89,149	174,877	

(4) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う最終需要(参考値)

- 貸館事業の場合も、劇場の主催事業と同様、主催者の様々な支出が経済波及効果を生み出すものと考えられる。貸館事業の事業主催者の支出額については、アンケート調査等で把握する必要があるが、該当する調査を実施していないため、便宜的に、貸館事業の1公演(講演含む)当たりの支出額について、主催公演の20%、30%という二つのケースを想定し、それらがすべて北九州市内での支出だったと仮定して、参考値を試算することとした。
- 17年度の貸館事業の公演等の年間延べ回数320件から、同一主催者・同一内容の利用で複数回の公演等を行ったものを1回として計上すると、228回の利用があった。そこから試算した結果は、下表のとおりであり、貸館事業の1公演当たりの支出額が主催公演の20%のケースで約5,326万円、30%のケースで約7,989万円となった。
- この試算は、貸館事業の実際の支出額に基づいていないため、最終需要額はあくまでも参考値である点に留意が必要である。

図表-資Ⅲ-7 貸館事業に伴う最終需要(参考値)

	金額(千円)			備考
	北九州市内	市外	合計	
1公演あたりの支出が主催公演の20%の場合	53,262	0	53,262	
1公演あたりの支出が主催公演の30%の場合	79,893	0	79,893	

(5) 貸館事業(市主催・共催含む)の観客の消費支出

- 貸館事業の観客についてはアンケート調査の対象外だったため、主催事業の観客のデータを援用して、消費支出を試算した。試算の結果、貸館事業における観客の消費支出の金額は、約3億5,542万円であった(図表-資Ⅲ-8)。試算の前提条件は以下のとおりである。
 - 主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアから集客したり、同じような消費活動を行ったりしているとは考えにくい。ため、貸館入場者の消費支出については、飲食、ショッピングをした割合、一人当たりの単価とも、主催公演の80%と仮定した。
 - 貸館入場者の交通費については、80%が北九州市内、20%が北九州市周辺に居住しているものと想定した。
 - 17年度の貸館(市主催・共催含む)の総入場者数は、175,789人とした。

図表-資Ⅲ-8 貸館事業の観客の消費支出額(参考値)

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
25 商業	ショッピング(公演前後)	130,435	0	130,435	
28 運輸	旅費・交通費	87,521	0	87,521	
35 対個人サービス	食費(公演前後)	137,467	0	137,467	
合計		355,422	0	355,422	

3. 経済波及効果の計算結果

- 以上の最終需要および消費支出に基づき、北九州市内の支出に伴う経済波及効果は、「平成23年度北九州市産業連関表」を使って、北九州市外への支出に伴う経済波及効果は、「平成23年度全国産業連関表」を使って計算した。
- なお支出額は2017年度の金額であるが、物価変動にともなうデフレート計算は行っていない。

(1) 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

- まず、管理運営に伴う経済波及効果(図表-資Ⅲ-9)は、北九州市内が約7億5,177万円、北九州市外が約1億2,446万円、合計が約8億7,624万円で、それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.29、1.67、1.34である。
- また、主催事業に伴う経済波及効果は、北九州市内が約8,013万円、北九州市外が約2億3,900万円、合計が約3億1,914万円で、それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.30、1.69、1.57である。
- 劇場の管理運営や主催事業に伴う経済波及効果の合計は約11億9,537万円で、生産誘発係数は1.39である。

図表-資Ⅲ-9 管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

	管理運営			主催事業			合計
	北九州市内	北九州市外	計	北九州市内	北九州市外	計	
最終需要(支出額)	580,942	74,413	655,355	61,446	141,792	203,238	858,592
農林水産業	25	91	115	52	1,142	1,194	1,310
鉱業	1,202	32	1,234	6	97	104	1,337
飲食品	26	79	105	376	2,968	3,344	3,449
繊維製品	81	127	208	12	256	268	476
パルプ・紙・木製品	1,678	965	2,643	398	1,800	2,198	4,840
化学製品	22	1,026	1,048	4	1,988	1,992	3,040
石油・石炭製品	-149	784	635	-14	3,017	3,004	3,639
プラスチック・ゴム	2,085	1,434	3,519	303	2,477	2,779	6,298
窯業・土石製品	440	282	722	48	515	563	1,285
鉄鋼	344	1,361	1,705	38	2,303	2,340	4,046
非鉄金属	162	349	511	29	590	620	1,131
金属製品	632	384	1,017	95	780	875	1,892
はん用機械	138	718	857	10	1,112	1,122	1,979
生産用機械	877	941	1,818	67	1,445	1,512	3,331
業務用機械	187	463	649	17	724	740	1,390
電子部品	-108	1,131	1,023	-9	1,741	1,732	2,755
電気機械	696	679	1,375	55	1,062	1,117	2,492
情報・通信機器	3	78	81	0	125	126	207
輸送機械	1,688	3,719	5,407	150	6,069	6,218	11,625
その他の製造工業製品	6,320	1,329	7,649	6,807	2,838	9,646	17,295
建設	6,794	607	7,401	350	1,387	1,736	9,137
電力・ガス・熱供給	192,585	1,184	193,769	1,014	2,912	3,926	197,695
水道	9,668	171	9,839	153	605	757	10,596
廃棄物処理	800	104	904	104	652	756	1,659
商業	10,407	3,244	13,651	1,880	7,612	9,492	23,143
金融・保険	16,342	2,106	18,448	1,037	2,822	3,859	22,307
不動産	4,354	1,308	5,661	769	2,742	3,511	9,172
運輸・郵便	13,948	2,682	16,631	12,432	19,010	31,442	48,073
情報通信	20,073	10,412	30,485	4,491	12,470	16,961	47,446
公務	1,206	207	1,414	117	364	481	1,895
教育・研究	2,865	1,012	3,877	292	1,661	1,953	5,829
医療・福祉	37	12	49	8	32	40	89
その他の非営利団体サービス	1,031	231	1,263	116	462	578	1,841
対事業所サービス	442,857	83,521	526,378	33,846	128,058	161,904	688,281
対個人サービス	708	450	1,158	13,549	23,202	36,751	37,910
事務用品	6,750	324	7,075	1,041	360	1,401	8,475
分類不明	4,998	914	5,913	485	1,606	2,092	8,004
合計	751,772	124,464	876,236	80,130	239,004	319,135	1,195,370
生産誘発係数	1.29	1.67	1.34	1.30	1.69	1.57	1.39

注)各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致しない箇所がある。

(2) 主催事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果

- 次に、主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果(図表-資Ⅲ-10)をみると、北九州市内が約1億1,519万円、北九州市外が約1億4,965万円、合計が約2億6,484万円である。それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.29、1.75、1.51となっている。

図表-資Ⅲ-10 主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果

	(千円)		
	主催公演の観客		
	北九州市内	北九州市外	計
最終需要(支出額)	89,149	85,728	174,877
農林水産業	184	95	279
鉱業	17	216	233
飲食料品	1,410	133	1,544
繊維製品	22	123	145
パルプ・紙・木製品	239	1,015	1,254
化学製品	4	550	554
石油・石炭製品	-20	9,867	9,848
プラスチック・ゴム	188	807	994
窯業・土石製品	53	194	247
鉄鋼	37	955	992
非鉄金属	14	180	195
金属製品	161	419	580
はん用機械	2	170	172
生産用機械	12	176	188
業務用機械	9	97	106
電子部品	-2	240	238
電気機械	16	212	227
情報・通信機器	0	34	34
輸送機械	50	2,917	2,967
その他の製造工業製品	529	562	1,091
建設	658	1,765	2,423
電力・ガス・熱供給	2,675	1,681	4,356
水道	416	531	947
廃棄物処理	314	363	677
商業	29,814	4,957	34,772
金融・保険	1,199	2,698	3,897
不動産	1,788	2,596	4,385
運輸・郵便	15,848	94,866	110,714
情報通信	1,600	3,147	4,747
公務	134	230	364
教育・研究	233	680	912
医療・福祉	9	88	98
その他の非営利団体サービス	189	193	382
対事業所サービス	5,553	14,876	20,429
対個人サービス	51,011	788	51,800
事務用品	261	221	482
分類不明	557	1,012	1,570
合計	115,187	149,654	264,841
生産誘発係数	1.29	1.75	1.51

注) 各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの小計、合計と一致しない箇所がある。

(3) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う経済波及効果(参考値)

- 次に、貸館主催者の最終需要(事業支出)、ならびに貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果は図表-資料Ⅲ-11のとおりで、1公演・講演当たりの事業費が主催公演の20%の場合、経済波及効果は約6,844万円、30%の場合は約1億266万円で、生産誘発係数はともに1.29である。
- また、貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果は、約4億6,347万円、生産誘発係数は1.30である。
- なお、貸館事業の場合は、公演や講演の事業支出、観客の消費支出とも、全額が北九州市内への支出と想定した。

図表-資Ⅲ-11 貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出に伴う経済波及効果(参考値)

	貸館公演・講演事業		観客の消費支出
	ケース①	ケース②	
最終需要(支出額)	53,262	79,893	355,422
農林水産業	37	55	328
鉱業	5	7	51
飲食料品	265	398	2,466
繊維製品	10	15	81
パルプ・紙・木製品	181	272	924
化学製品	3	4	9
石油・石炭製品	-9	-13	-154
プラスチック・ゴム	222	333	777
窯業・土石製品	38	56	171
鉄鋼	30	45	167
非鉄金属	18	27	51
金属製品	65	98	602
はん用機械	12	18	11
生産用機械	80	120	59
業務用機械	17	26	33
電子部品	-10	-15	-8
電気機械	64	96	77
情報・通信機器	0	0	1
輸送機械	165	248	389
その他の製造工業製品	2,310	3,464	1,809
建設	263	394	3,128
電力・ガス・熱供給	767	1,150	8,385
水道	111	167	1,221
廃棄物処理	112	169	790
商業	1,341	2,011	139,959
金融・保険	728	1,092	6,225
不動産	586	879	8,240
運輸・郵便	7,424	11,136	158,046
情報通信	2,369	3,554	6,433
公務	112	168	671
教育・研究	218	327	1,103
医療・福祉	5	8	59
その他の非営利団体サービス	103	155	549
対事業所サービス	40,394	60,591	28,043
対個人サービス	9,571	14,357	88,937
事務用品	369	553	1,055
分類不明	465	697	2,783
合計	68,443	102,664	463,472
生産誘発係数	1.29	1.29	1.30

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

注) 各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致していない。

(4) 雇用効果

- ここまでの計算結果に基づき、福岡県産業連関表の雇用表を用いて、北九州市内の雇用効果を試算した。
- 具体的には、先に計算した北九州芸術劇場の管理運営、主催事業、主催公演の観客の消費支出、貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出、それぞれに伴う北九州市内の生産額と、福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて雇用効果を計算した。その結果は、図表-資Ⅲ-12に示したとおりである。
- 貸館の事業費が主催公演の20%と想定した場合(①)、就業者数(労働量)で約136人、雇用者数(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で121人、同じく30%と想定した場合(②)、就業者数(労働量)で約139人、雇用者数(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で124人の労働誘発効果、雇用効果があったという結果となった。

- 分野別にみると、対事業所サービス、対個人サービス、商業の分野での雇用効果が大きい。

図表-資Ⅲ-12 北九州芸術劇場の雇用効果(人)

	ケース①		ケース②	
	就業者数	雇用者数	就業者数	雇用者数
その他の製造工業製品	1	1	1	1
建設	1	1	1	1
電力・ガス・熱供給	3	3	3	3
商業	20	18	20	18
金融・保険	1	1	1	1
運輸・郵便	16	15	16	15
情報通信	1	1	1	1
対事業所サービス	64	57	66	59
対個人サービス	29	24	30	25
合計	136	121	139	124

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

(4) まとめ

- ここまでの経済波及効果の分析結果を整理すると、図表-資Ⅲ-13のとおりとなる。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う最終需要は、観客の消費支出によるものも含め、約10億3,300万円で、そのうち、70.8%にあたる約7億3,200万円が、北九州市内での最終需要となっている。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う経済波及効果は、観客の消費支出によるものも含め、約14億6,000万円で、そのうち64.9%にあたる約9億4,700万円が北九州市内での経済波及効果となっている。
- 生産誘発係数は、全体で1.41、北九州市内で1.29である。
- また、参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみと想定)は、約5億3,200万円～5億6,600万円で、生産誘発係数は1.39である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約19億9,200万円～20億2,600万円で、北九州市内に限ってみると、約14億7,900万円～15億1,300万円となっている。これは、16年度に比べて総合計と北九州市内の両方で減少している(16年度は、総合計:約23億1,600万円～23億8,600万円、北九州市内:約16億7,200万円～17億4,300万円)。誘発係数は16年度から減少して1.38となっている。
- また、北九州市内の雇用効果は、就業者ベースで約136～139人、雇用者ベースで約121～124人である。

注) 上記数字は、試算結果の計算値を転載したものである。図表-資Ⅲ-13の各データは百万円未満を四捨五入しているため、表中に掲載している数値を再計算したものと、合計値やパーセンテージが一致しない場合がある。

図表-資Ⅲ-13 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果(17年度)

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	⇒ 6億5,500万円 (5億8,100万円)	⇒ 8億7,600万円 (7億5,200万円)	1.34 (1.29)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	⇒ 2億300万円 (6,100万円)	⇒ 3億1,900万円 (8,000万円)	1.57 (1.30)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	⇒ 1億7,500万円 (8,900万円)	⇒ 2億6,500万円 (1億1,500万円)	1.51 (1.29)
	小計	⇒ 10億3,300万円 (7億3,200万円)	⇒ 14億6,000万円 (9億4,700万円)	1.41 (1.29)
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	⇒ 5,300万円 ～8,000万円	⇒ 6,800万円 ～1億300万円	1.29
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	⇒ 3億5,500万円	⇒ 4億6,300万円	1.30
	小計(参考値)	⇒ 4億900万円 ～4億3,500万円	⇒ 5億3,200万円 ～5億6,600万円	1.39
	合計(参考値)	⇒ 14億4,200万円 ～14億6,900万円 (11億4,000万円 ～11億6,700万円)	⇒ 19億9,200万円 ～20億2,600万円 (14億7,900万円 ～15億1,300万円)	1.38 (1.30)
		雇用効果		
		(北九州市内)		
		136～139人(就業者ベース)		
		121～124人(雇用者ベース)		

注) 下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。
各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と合わない箇所がある。

- なお、事業評価調査における2010年度から2016年度までの経済波及効果の試算は、平成17(2005)年産業連関表を使用していた。今回、2017年度の事業評価で平成23(2011)年産業連関表を使用した結果、前年度に比べて経済波及効果と誘発係数はともに減少している。
- 2017年度の最終需要に対して平成17(2005)年産業連関表を使った試算によると、経済波及効果の総合計は約21億100万円～21億3,800万円となっており、前年度に比べて減少しているものの、誘発係数は前年度と同じく1.46となっている。
- このことから、2017年度の経済波及効果の減少は、最終需要において前年度から減少したことに加えて、産業連関表の更新が要因の一つとして考えられる。

北九州芸術劇場事業評価調査(その15) 報告書

調査・発行 | 公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11
tel. 093-562-2655 fax. 093-562-2588

調査委託 | 株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室
〒100-0073 千代田区九段北4-1-7
tel. 03-3512-1883 fax. 03-5211-1084

発行日 | 2019年3月

©(公財)北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
(株)ニッセイ基礎研究所
無断転載・複写を禁じます。

